



serena.com

SERENA[®]

PVCS[®] VERSION MANAGER[™] 8.1.4

ユーザガイド

Serena が著作権を所有する機密情報



Copyright © 1985-2007 Serena Software, Inc. All rights reserved.

本マニュアルとここで説明されているソフトウェアは、ライセンス下で提供されており、ライセンスの条件に従ってのみ使用またはコピーすることが許可されています。ライセンスで許可されていない限り、本書のいかなる部分も、Serena の文書による事前許可なく、いかなる形式または電子的、機械的記録方法で、複写、保存システムへの保管、転送することはできません。複製されたドキュメントには、全部または一部であるかにかかわらず、この著作権の記述すべてが、変更されることなく含まれていなければなりません。

このドキュメントには Serena Software が所有する機密情報が含まれており、Serena Software による明示的な許可なしに内容の複製や配布を行うことは禁じられています。

このドキュメントの内容は、情報提供のみを目的としており、予告なしに変更される可能性があり、Serena による確約と解釈されるべきものではありません。Serena は、本書のエラーまたは不正確性についていかなる責任も義務も負うことはありません。

商標

Serena, TeamTrack, StarTool, PVCS, Collage, Comparex, Dimensions, RTM, Change Governance および ChangeMan は、Serena Software, Inc. の登録商標です。Serena ロゴ、Professional, Version Manager, Builder, Meritage, Command Center, Composer, Reviewer, Mariner および Mover は、Serena Software, Inc. の商標です。

その他のすべての製品または企業名は、識別する目的でのみ使用されており、それぞれの所有者の商標である場合があります。

米国政府の権利

米国政府、その機関、および手段用またはそれらに代わって、本同意書のライセンスによって取得されたすべてのソフトウェア製品は、FAR によって定義されている「商用ソフトウェア」です。米国政府による使用、複製、公開は、ソフトウェアを取得したライセンスによる制限の対象となります。製造元：Serena Software, Inc., 2755 Campus Drive, San Mateo, CA 94403

部品番号：MA-VMUSER-J04

発行日：2007 年 3 月

目次

	Version Manager について	9
	表記上の規則	9
	マニュアルの使用方法	10
	技術サポートへのお問い合わせ	10
パート 1	Version Manager の基本操作	11
第 1 章	Version Manager の基礎	13
	Version Manager の利点	14
	クロスプラットフォーム開発	14
	プロジェクト指向バージョン管理のサポート	14
	Version Manager の用語	15
	プロジェクト用語	15
	プロジェクトコンフィグレーション用語	15
	Version Manager の概念	16
	プロジェクトデータベース	16
	プロジェクトとサブプロジェクト	16
	作業ファイル	16
	バージョン管理ファイル	16
	アーカイブ	16
	リビジョン	16
	ワークスペース	17
	ユーザ	17
	管理者	17
	バージョンラベル	17
	デフォルトバージョン	17
	プロモーショングループ	17
	プロモーションモデル	17
	ブランチ	18
	ベースライン	18
	イベントトリガ	18
	アクセスコントロールデータベース	18
	アクセスリスト	18
	コンフィグレーションオプション	18
	コンフィグレーションファイル	19
	Version Manager タスク	20
	ユーザタスクと管理者タスクの分類	20
	基本的なワークフロー	21
	ワークフロータスク	21
	高度なタスク	23
	オンラインヘルプの使用方法	24
	ヘルプへのアクセス	24
	ヘルプのウィンドウ	24

	ヘルプトピックの印刷	27
	ユーザシナリオの使用法	28
	シナリオの背景情報	29
パート 2	Version Manager デスクトップクライアントの使用	31
第 2 章	プロジェクトデータベース、プロジェクトおよびバージョン管理 ファイルのタスク	33
	アイテムの選択	34
	複数のプロジェクトまたはフォルダの選択	34
	アイテムの表示と非表示	36
	アイテム名の変更	36
	アイテムのコピー	37
	バージョン管理ファイルのコピー	38
	プロジェクトのコピー	39
	プロジェクトデータベースのコピー	45
	5.3/6.0 フォルダのコピー	48
	5.3/6.0 プロジェクトのコピー	51
	5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー	58
	アイテムの移動	63
	メニューバーによるアイテムの移動	63
	ドラッグアンドドロップによるアイテムの移動	64
	アイテムの削除	64
	バージョン管理ファイルの復元	65
	不要なアーカイブファイルの削除について	65
	表示のフィルタ	66
	ファイルの再帰的な表示	67
	ロック設定者によるフィルタ	68
	ワイルドカードファイル名によるフィルタ	69
	バージョンラベルによるフィルタ	70
	プロモーショングループによるフィルタ	71
	2 つのバージョンラベル間の比較によるフィルタ	73
	2 つのプロモーショングループの比較によるフィルタ	75
	バージョンラベルとプロモーショングループの比較によるフィルタ	77
	全バージョン管理ファイルの表示 (フィルタなし)	78
	プロパティの確認	79
第 3 章	プロジェクトデータベースの操作	81
	プロジェクトデータベースについて	82
	新規プロジェクトデータベースについて	82
	プロジェクトデータベースのオープン	82
	プロジェクトデータベースへのログイン	84
	プロジェクトデータベースを閉じる	84
	シナリオ：既存のプロジェクトデータベースを開いてログインする	85

第 4 章	Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの操作	87
	5.3/6.0 プロジェクトルートについて	88
	5.3/6.0 プロジェクトルートのオープン	89
	5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー	91
	5.3/6.0 プロジェクトルートのクローズ	91
	シナリオ：Version Manager で 5.3/6.0 プロジェクトルートを開く	92
第 5 章	作業ファイルの追加	95
	作業ファイルの追加について	96
	プロジェクトデータベース / プロジェクトへの作業ファイルの追加	96
	5.3/6.0 プロジェクトへの作業ファイルの追加	99
	アーカイブのインポート	104
	プロジェクトデータベース、プロジェクトおよびサブプロジェクトへの アーカイブのインポート	104
	5.3/6.0 プロジェクトへのアーカイブのインポート	106
	シナリオ：既存の作業ファイル構造を模倣したプロジェクトを作成する	108
第 6 章	プロジェクトの操作	111
	プロジェクトについて	112
	プロジェクトの作成	112
	サブプロジェクトの作成	114
	プロジェクト名の変更	114
	プロジェクトの削除	115
	シナリオ：サブプロジェクトを作成して作業ファイルを追加する	115
第 7 章	ワークスペースの操作	117
	ワークスペースについて	118
	パブリックワークスペースとプライベートワークスペース	119
	ルートワークスペースについて	119
	ワークスペースの階層	120
	ワークスペース設定の継承	120
	作業ファイルの場所の決定	123
	ワークスペースの作成	126
	ワークスペースの設定	127
	ワークスペース設定の変更	128
	ワークスペース名の変更	130
	ワークスペースの削除	131
	シナリオ：デフォルトワークスペースに影響を与えずにカスタムワークスペースを 定義する	133
	シナリオ：個人的なワークスペースを定義する	134

第 8 章	ユーザ設定	135
	作業ファイルの場所の設定	136
	アプリケーションログの使用	137
	[Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)] ダイアログボックスの非表示	138
	確認ダイアログボックスの非表示	140
	サブプロジェクトをプロジェクト操作に追加	140
	フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定	142
	チェックイン/チェックアウトオプションの定義	142
	ダイアログボックスの表示設定	144
	デフォルトエディタの設定	145
	シナリオ：個人用のユーザ設定を定義する	148
第 9 章	リビジョンのチェックアウト	149
	チェックアウトについて	150
	デフォルトのチェックアウトオプション	150
	リビジョンのチェックアウト	151
	デフォルトのチェックアウトオプションの変更	152
	シナリオ：プロジェクトファイルをチェックアウトし、編集する	156
第 10 章	リビジョンの取得	159
	取得とチェックアウト	160
	デフォルトの取得オプション	160
	リビジョンの取得	161
	デフォルト取得オプションのオーバーライド	161
	シナリオ：プロジェクトファイルの読み取り専用コピーをチェックアウトする	164
第 11 章	リビジョンの操作	165
	リビジョンについて	166
	デフォルトバージョンの定義	166
	リビジョンの表示	168
	リビジョンの編集	169
	変更の説明の追加/変更	171
	リビジョンの削除	171
第 12 章	作業ファイルのチェックイン	173
	チェックインについて	174
	デフォルトのチェックインオプション	174
	作業ファイルのチェックイン	175
	デフォルトのチェックインオプションの変更	176

	シナリオ：一連のプロジェクトフォルをチェックインする	178
第 13 章	ロックの使用	181
	リビジョンのロック	182
	リビジョンのロック解除	185
	多重ロック	187
	シナリオ：ほかのユーザによるファイルの変更を防ぐ	188
第 14 章	バージョンラベルの使用	189
	バージョンラベルについて	190
	固定ラベルと浮動ラベル	190
	デフォルトオプションの適用	191
	バージョンラベルの割り当て	191
	デフォルト以外のバージョンラベルオプションの使用	192
	作業ファイルのチェックイン時と追加時のバージョンラベルの割り当て	193
	バージョンラベル名の変更	193
	バージョンラベルの再割り当て	194
	既存のバージョンラベルの移動	194
	バージョンラベルプロパティの変更	195
	デフォルトバージョンの指定	197
	バージョンラベルの削除	197
	シナリオ：バージョンラベルの再割り当て、名前変更、および削除を行う	198
パート 3	Version Manager デスクトップクライアントを使った高度なタスク	201
第 15 章	リビジョンのブランチ作成	204
	ブランチについて	205
	ブランチ番号	205
	ブランチの作成	206
	ブランチが作成される場合	206
	チップ以外のリビジョンのチェックイン	206
	ブランチの強制	208
	多重ロックリビジョンのチェックイン	210
	自動ブランチの設定	212
	シナリオ：開発のメインラインを中断させずにバグを修正する	212
第 16 章	ファイルの比較	213
	ファイルの比較について	214
	Windows 版でのカラムマスクの設定	214
	相違点の表示	215
	相違点の解釈	216
	相違点の例	217

第 17 章	ファイルのマージ	219
	マージについて	220
	マージの用語と定義	220
	マージプロセス	221
	ベースファイルの選択	221
	Windows 版でのカラムマスクの設定	222
	Windows または UNIX でのファイルのマージ	222
	Windows 版での相違点の解釈	226
	プレースホルダ	227
	競合	228
	UNIX 版での相違点の解釈	229
	プレースホルダ	229
	Windows 版でのファイル間の競合の解決	230
	UNIX 版でのファイル間の競合の解決	230
	シナリオ：ブランチリビジョンを比較してトランクにマージする	231
第 18 章	リビジョンのプロモート	235
	プロモーショングループについて	236
	プロモーショングループに割り当てられたリビジョンのチェック アウト	236
	プロモーションのプロセス	237
	リビジョンへのプロモーショングループの割り当て	239
	リビジョンの次のプロモーショングループへのプロモート	240
	プロモーショングループの変更	241
	プロモーショングループの削除	242
	シナリオ：一連のファイルをプロモートする	243
	シナリオ：追加作業のため、リビジョンを Development にデモートする	244
第 19 章	レポートの使用	245
	レポートについて	246
	レポートの表示	246
	レポートオプションの設定	246
	HTML レポート書式のカスタマイズ	248
	ジャーナルレポートについて	249
	ジャーナルレポートの生成	249
	ジャーナルレポートの読み方	252
	履歴レポートについて	252
	履歴レポートの生成	254
	履歴レポートの読み方	256
	索引	257


Version Manager について

ソフトウェアの開発方法に革命をもたらす、用途の広い強力なバージョン管理システム、Serena PVCS Version Manager を選択いただき、ありがとうございます。Version Manager では、個々のファイルに対する変更の保存や追跡から、開発サイクル全体の管理および監視に至るまでのすべてのレベルにおいて、ソフトウェア開発プロジェクトを編成、管理、および保護することができます。

このマニュアルの内容	このマニュアルでは、Version Manager の基本タスクおよび高度なタスクの概念と、Version Manager デスクトップクライアントを使用してタスクを実行する方法を説明します。
詳細情報	Version Manager のマニュアル類、Version Manager の操作方法の概要、およびオンラインヘルプの使用法については、『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』を参照してください。
対応バージョン	このマニュアルの内容は、Serena PVCS Version Manager バージョン 8.1.4 以降を対象としています。この版によって、このマニュアルの旧版は廃版となります。

表記上の規則

オンラインマニュアルおよびオンラインヘルプでは、以下の表記上の規則を使用しています。これらの表記上の規則は、ドキュメントを利用しやすくするためのものです。さまざまな製品コンポーネントやホストオペレーティングシステムで使用されている標準的な表記上の規則を否定したり、変更したりするものではありません。

表記例	意味
大文字	使用できるキーまたはキーの組み合わせを示します。たとえば、「ENTER キーを押します」などと表記されます。
モノスペース	構文例、ユーザ指定が可能な値、システムから返される結果値などを表します。
モノスペース斜体	ユーザが特定の値を指定する箇所を表します (例: <i>, filename</i>)。
モノスペース太字	構文例の中のコマンドおよびコマンドオプションの名前を表します。また、実行されたコマンドの結果も表します。
縦線 ()	メニューとそれに関連付けられたコマンドを区切ります。たとえば、[File (ファイル)] [Copy (コピー)] は、[File (ファイル)] メニューの [Copy (コピー)] を選択することを意味します。また、コマンド構文でどちらか一方を選択する必要のある情報を区切ります。
中かっこ { }	コマンド構文で、いずれか 1 つを選択する項目のリストを囲みます。各項目間は縦線で区切られます。たとえば、{ <i>version from_ver*to_ver</i> } と示されます。
角括弧 []	指定が必須ではないオプションの項目を示します。たとえば、SELECT [DISTINCT] の「DISTINCT」は省略可能なキーワードです。
...	コマンドの単一インスタンスで複数回使用できるコマンド引数を示します。
	クリックするショートカットアイコンを示します。ショートカットアイコンは余白に置かれます。

マニュアルの使用方法

Serena® PVCS® Version Manager™ のマニュアルは、Adobe Portable Document Format (PDF) を使用します。PDF ファイルを表示するには、www.adobe.com から無料で入手可能な Adobe® Reader® を使用してください。



注：フルバージョンの Reader をダウンロードします。ベーシックバージョンには、検索機能が含まれていません。

このセクションでは、Reader の主な機能のいくつかを説明します。詳細は、Adobe Reader のオンラインヘルプシステムを参照してください。

PDF マニュアルには、以下の機能が含まれています。

- しおり：すべてのマニュアルにはしおりが設定されており、これを使って特定のトピックにすばやく簡単にジャンプすることができます。デフォルトでは、各オンラインマニュアル画面の左側にしおりが表示されます。
- リンク：マニュアル内の相互参照リンクによって、マウスをクリックするだけで、そのマニュアルのほかのセクションやほかのマニュアルにジャンプすることができます。これらのリンクは青色で表示されます。
- 印刷：マニュアルを表示しているときに、現在のページ、複数ページ、マニュアル全体を印刷できます。
- 高度な検索：Adobe Reader のバージョン 6 から、指定したディレクトリ内の複数の PDF ファイルを検索できる、高度な検索機能が含まれるようになりました。次の手順を参照してください。

複数の PDF 文書を一度に検索するには、次の手順を実行します (Adobe Reader バージョン 6 以降が必要です)。

- 1 Adobe Reader で、[Edit (編集)] - [Search (検索)] を選択します (または CTRL+F を押します)。
- 2 テキストボックスに、検索する言葉や文章を入力します。
- 3 〈All PDF Documents in (すべての PDF 文書)〉オプションを選択し、検索するフォルダを参照して選択します。
- 4 オプションで、〈Whole words only (完全に一致する語のみ)〉や 〈Case-Sensitive (大文字と小文字を区別)〉などの追加検索オプションを 1 つ以上選択します。
- 5 【Search (検索)】ボタンをクリックします。



注：より強力な追加検索オプションを有効にするには、Reader のウィンドウの右下隅にある 〈Use Advanced Search Options (高度な検索オプションを使用)〉リンクをクリックします。(リンクに 〈Use Basic Search Options (基本的な検索オプションを使用)〉と表示されている場合は、高度な検索オプションはすでに有効になっています。) 詳細については、Adobe Reader のオンラインヘルプを参照してください。

技術サポートへのお問い合わせ

ユーザ登録が完了すると、<http://support.serena.com/> にログインできます。

パート 1

Version Manager の基本操作

第 1 章

Version Manager の基礎

Version Manager の利点	14
Version Manager の用語	15
Version Manager の概念	16
Version Manager タスク	20
オンラインヘルプの使用方法	24
ユーザシナリオの使用方法	28
シナリオの背景情報	29

Version Manager の利点

Serena PVCS Version Manager は、企業内のソフトウェア資産を体系化し、管理、保護するための業界標準ツールです。Version Manager は、セキュリティの高いアクセスと完全な追跡調査によって、規模や分散環境にかかわらず、チームによる並行開発を管理します。共通タスクの自動化やコード再使用の促進、および変更の見逃しや上書き、コンテンツエラーによる問題の排除によって、最終完成品の品質を高め、企業全体にわたるチーム開発の生産性を向上させます。

Version Manager により、以下を実現することができます。

- ソフトウェア資産の体系化。複数のリビジョンを通じて変更を文書化および制御することによってエラーをなくし、コードの再利用性を高め、チーム開発のための構造化された効率的なアプローチを実現します。
- 開発のワークフローの管理および強化。共通のタスクを自動化し、変更を追跡し、並行開発を可能にします。プロモーショングループを使用すると、ソフトウェアが開発の次の段階に進むタイミングを制御できます。
- ソフトウェア資産の保護。ユーザアクセスの制御、および完全な追跡調査を提供しながら、プロジェクトコード、オブジェクト、およびドキュメンテーションのすべてを格納し、アーカイブに保管します。
- ニーズに応じた拡張。1 人のチームから数千人規模のチームまで、あらゆるサイズのチームをサポートします。チームのメンバーは同じ建物内にいても、世界中に散らばっていてもかまいません。

クロスプラットフォーム開発

クロスプラットフォーム開発の調整

Version Manager は、全プロジェクト間に連続性を与えながら、複数のオペレーティングシステム、プラットフォーム、および環境で動作します。

Version Manager では、バージョン管理を使用して、1 つのプラットフォーム上、または別のプラットフォーム間のプロジェクトファイルに対する変更を管理できます。たとえば、Windows 環境で作成したリビジョンに UNIX 環境からアクセスして変更し、この新しいリビジョンを、両プラットフォームで使用できるよう格納できます。

プロジェクト指向バージョン管理のサポート

Version Manager では、プロジェクトとサブプロジェクトがサポートされます。そのため、ファイルやフォルダを整理するディレクトリ構造を反映させることができます。

Version Manager 環境は、すべてのファイルをバージョン管理下に置きながら、Windows または UNIX のオペレーティングシステムウィンドウから直接作業しているように設定することができます。

Version Manager の用語

このバージョンの Version Manager を使用すると、デスクトップクライアントにいくつかの新しい機能や概念が追加されていることに気付くはずですが、新しい用語もありますが、オペレーティングシステムの使用法や Version Manager 6.0 での作業方法など、すでに理解されている機能と共通するものが数多くあります。

プロジェクト用語

Version Manager では、プロジェクトデータベース、プロジェクト、および実際の作業ディレクトリ構造を反映できるサブプロジェクトを使用して、バージョン管理ファイルを整理します。以下の表は、Version Manager プロジェクト用語と、オペレーティングシステム、または Version Manager の旧バージョンで使用されている概念との対応を示したものです。

Version Manager の用語	対応する Version Manager 5.3/6.0 の用語	対応する OS の概念
プロジェクトデータベース	プロジェクトルート	ドライブまたはボリューム
プロジェクト	プロジェクト	ディレクトリまたはフォルダ
サブプロジェクト (複数レベル)	フォルダ (1 レベルのみ)	サブディレクトリまたはサブフォルダ (複数レベル)
バージョン管理ファイル	バージョン管理ファイル	ファイルまたは作業ファイル

プロジェクトコンフィグレーション用語

新しいプロジェクト設定機能のいくつかは、以下の表に示すように、Version Manager の以前のバージョンで登場した概念に相当します。

Version Manager の用語	対応する Version Manager 5.3/6.0 の用語	説明
プロジェクトデータベース	マスタープロジェクト	設定は、マスタープロジェクトからではなく、プロジェクトデータベースから継承されるようになりました。新バージョンには、マスタープロジェクトは存在しません。
作業ファイルの場所	作業ファイルディレクトリ	Version Manager にチェックインまたはチェックアウトされるファイルの場所を定義します。

Version Manager の概念

以下の概念は、Version Manager のさまざまな部分がお互いにどのように作用するかを理解するのに役立ちます。

プロジェクトデータベース

「プロジェクトデータベース」は、プロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理ファイルの階層的な集まりです。プロジェクトデータベースは、それに含まれるプロジェクトおよびサブプロジェクトすべてに共通の設定を定義します。ユーザは各プロジェクトデータベースに定義されます。

プロジェクトとサブプロジェクト

「プロジェクト」は、サブプロジェクトおよびバージョン管理ファイルを論理的にグループ化したものです。「サブプロジェクト」は、ほかのプロジェクトに含まれているプロジェクトです。プロジェクトデータベースは、そのプロジェクトデータベースに含まれている各プロジェクトおよびサブプロジェクトのコンフィグレーション値を定義します。ただし、このコンフィグレーションオプションは、プロジェクトおよびサブプロジェクトのコンフィグレーションファイルを使用することにより上書きすることができます（マスターコンフィグレーションファイルでオプションが禁止されていない場合）。また、プロジェクトおよびサブプロジェクトの単位でユーザを定義することもできます。

作業ファイル

「作業ファイル」は、新しいリビジョンまたはアーカイブを作成するために Version Manager にチェックインするすべてのファイルを指します。リビジョンをチェックアウトすると、Version Manager はそれを作業ファイルの場所に作業ファイルとして格納します。

バージョン管理ファイル

「バージョン管理ファイル」は、ソース管理下にあるファイルとそれに関連付けられたリビジョンです。バージョン管理ファイルには、リビジョンが物理的に保存されるアーカイブの名前と場所の情報が保持されます。したがって、バージョン管理ファイルのリビジョンにアクセスするたびに、これらの情報を指定する必要がありません。バージョン管理ファイルには、作業ファイルの場所も保存されます。

アーカイブ

「アーカイブ」は、バージョン管理ファイルの変更履歴を格納した Version Manager ファイルです。バージョン管理ファイルの履歴には、変更についての説明、変更者、変更日時があります。1 つのバージョン管理ファイルにつき 1 つのアーカイブがあります。アーカイブには、バージョンラベルとプロモーショングループに関する情報も保存されます。

リビジョン

「リビジョン」は、バージョン管理ファイルの 1 つのインスタンスであり、再作成が可能です。作業ファイルをチェックインするとき、その作業ファイルに対する変更がリビジョンとしてアーカイブに保存されます。リビジョンをチェックアウトすると、指定した作業ファイルの場所に作業ファイルが作成されます。

ワークスペース

「ワークスペース」は、プロジェクトデータベースに定義された作業設定の集まりです。プロジェクトデータベース内のすべてのプロジェクトおよびバージョン管理ファイルの作業設定が含まれています。これには、プロジェクトデータベース内のプロジェクトおよびアーカイブの作業設定も含まれます。

ユーザ

「ユーザ」は、Version Manager の基本タスクおよび上級タスクを実行する人です。タスクには、プロジェクトの作成、作業ファイルの追加やチェックイン、リビジョンのチェックアウト、バージョンラベルの追加、リビジョンのプロモートなどがあります。

管理者

「管理者」は、Version Manager の管理タスクを実行する人です。管理タスクには、プロジェクトデータベースの作成および保守、コントロールデータベースへのアクセス、イベントトリガのセットアップ、レポートの生成などがあります。

バージョンラベル

「バージョンラベル」は、バージョン管理ファイルの特定のリビジョンを識別するために使用するラベルです。バージョンラベルを使用すれば、「アプリケーションのベータ版開発で使ったすべてのリビジョン」など、同種のリビジョンを効率的にチェックアウトし、プロモートすることができます。

デフォルトバージョン

「デフォルトバージョン」は通常、バージョン管理ファイルの最新のリビジョンです。ただし、プロジェクトのコンフィグレーションファイルまたはワークスペースで、任意のバージョンラベルをデフォルトバージョンとして定義することができます。

プロモーショングループ

「プロモーショングループ」は、プロモーションモデルの 1 つのフェーズで、アプリケーション開発サイクルの節目を示します。一般的なプロモーショングループには、開発、品質保証、本番環境などがあります。

プロモーションモデル

「プロモーションモデル」は、プロモーショングループを階層化したもので、ソフトウェアアプリケーションの開発プロセスのすべての節目を表します。プロモーションモデルにより、進行中の開発作業はプロモーションモデルのもっとも低いレベル（たとえば、開発プロモーショングループ）に位置づけられます。プロモーションモデルを作成すると、そのモデルのプロモーショングループにリビジョンが関連付けられます。その後、チェックイン、チェックアウトなどの操作をプロモーショングループに基づいて実行できます。

ブランチ

「ブランチ」は、トランクのリビジョンまたは別のブランチから分岐した 1 つ以上のリビジョンからなる、開発の別のラインです。ブランチを利用すると、ブランチ元のリビジョンの開発を続行しながら、ファイルの別のバリエーションを開発できます。

ベースライン

「ベースライン」は、既存プロジェクトのスナップショットを、開発の特定のポイントで作成するプロセスです。ベースラインを作成するには、プロジェクト全体を、バージョンラベルまたはプロモーショングループを基にして新しい作業領域に取り出します。

バージョンラベルまたはプロモーショングループの基準と一致しないリビジョンは、ベースラインにコピーされません。ベースラインのファイル（変更されないようにしておく必要があります）は、開発が継続される期間全体にわたって、参照ソースの役割を果たします。

イベントトリガ

「イベントトリガ」は、特定の Version Manager イベントに反応してアクションを実行するメカニズムです。Version Manager がイベントを検出すると、そのイベント用に設定されたイベントトリガが実行されます。イベントトリガはコンフィグレーションファイルで定義されます。

アクセスコントロールデータベース

「アクセスコントロールデータベース」は、プロジェクトでアクションを実行する権限を持つユーザを定義します。アクセスコントロールデータベースはプロジェクトデータベースに関連付けられます。ただし、アクセスコントロールデータベースをプロジェクトデータベース内の個々のプロジェクトに関連付け、各プロジェクトにアクセスコントロールを適用することもできます。アクセスコントロールデータベースはオプションで使用できます。

アクセスリスト

「アクセスリスト」は、アーカイブにアクションを実行できる権限のある個々のユーザまたはユーザグループを定義します。各アーカイブには、それぞれ 1 つのアクセスリストが関連付けられます。アーカイブにアクセスリストを定義する前に、アクセスコントロールデータベースを定義する必要があります。アクセスリストは、アクセスコントロールデータベースで定義されているユーザのサブセットです。

コンフィグレーションオプション

「コンフィグレーションオプション」は、Version Manager の機能を管理する設定です。たとえば、チェックインした後に作業ファイルを削除するかどうか、複数のロックを許可するかどうかなどを設定します。コンフィグレーションオプションは、コンフィグレーションファイルで設定します。

コンフィグレーションファイル

コンフィグレーションオプションは、「コンフィグレーションファイル」に格納されます。Version Manager デスクトップクライアントでは、2 種類のコンフィグレーションファイルを使用します。

- マスターコンフィグレーションファイル：プロジェクトデータベースおよびその全プロジェクトのコンフィグレーションオプションが含まれています。マスターコンフィグレーションファイルは、プロジェクトデータベースを作成するたびに、自動的に作成されます。
- プロジェクトコンフィグレーションファイル：コンフィグレーションオプションがマスターコンフィグレーションファイルで禁止されている場合を除きマスターコンフィグレーションファイルの設定を上書きする、プロジェクトのコンフィグレーションオプションが含まれています。個々のプロジェクトにコンフィグレーションファイルを関連付ける必要はありません。マスターコンフィグレーションファイルの設定を使用できます。

Version Manager タスク

Version Manager のユーザは次の 2 種類に分類できます。

- 管理者：ユーザが Version Manager を効率的に使用してソースファイルを管理できるよう、組織の中で、Version Manager をセットアップおよび設定する責任者。管理者のタスクについての詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- ユーザ：ユーザは基本的に、作業ファイルを管理するために毎日 Version Manager を使用します。ユーザは、次の 2 種類に分けられます。
 - プロジェクトリーダー：プロジェクトの作成、バージョンラベルの割り当て、リビジョンのプロモート、製品のビルドなどに関する責任者。
 - プロジェクトチームメンバー：作業ファイルの編集、リビジョンの管理、製品のビルドおよびテストなどの担当者。

組織内で Version Manager をどのように使用するかは、組織の規模や組織内の開発プロセスによって異なります。

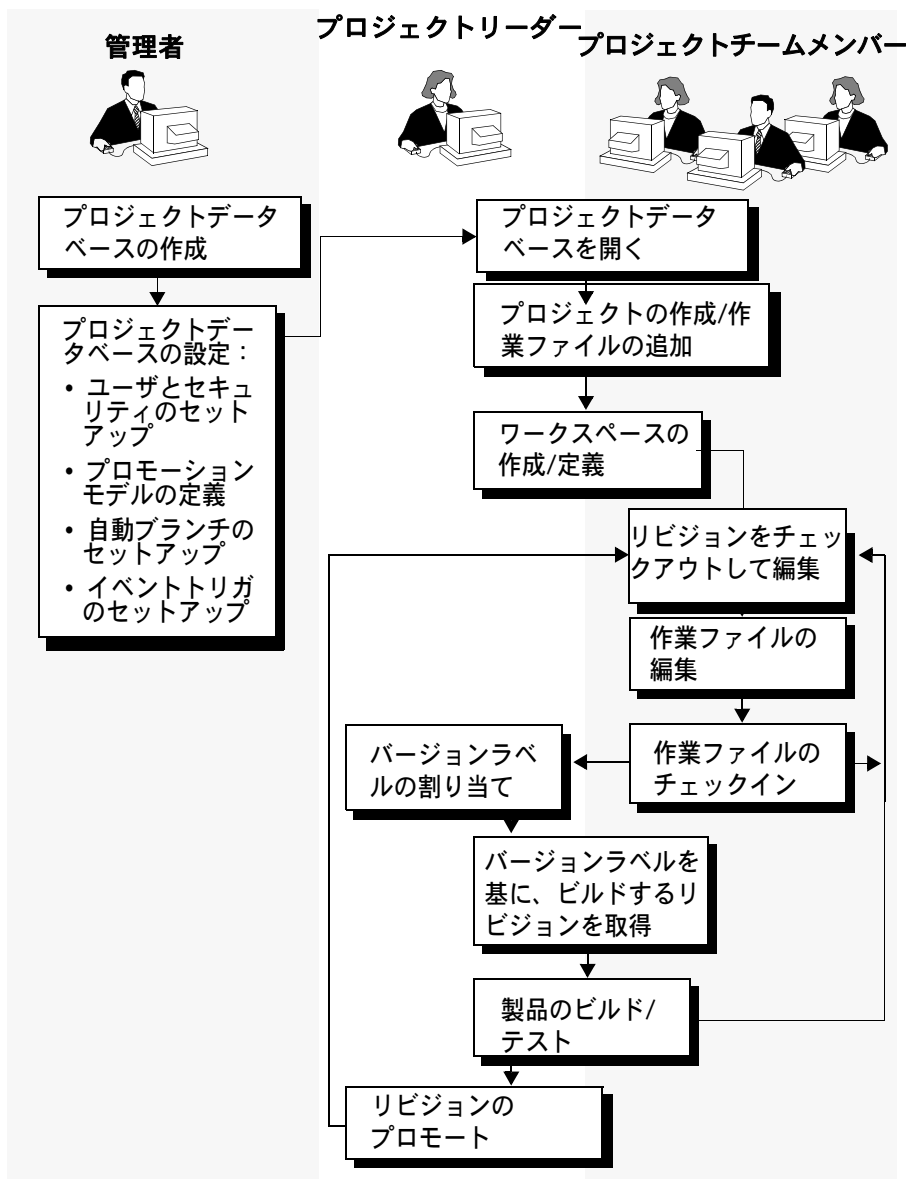
ユーザタスクと管理者タスクの分類

Version Manager タスクには、ユーザタスクと管理者タスクの 2 種類があります。

タスク	User (ユーザ)	管理者
プロジェクトデータベースの作成		■
アクセスコントロールデータベースの作成		■
プロジェクトデータベース/プロジェクトの設定		■
プロモーションモデルの作成		■
プロジェクトの作成	■	■
作業ファイルの追加	■	■
ワークスペースの作成	■	■
リビジョンのチェックアウト	■	
リビジョンのチェックイン	■	
リビジョンのラベル作成	■	■
リビジョンのロック/ロック解除	■	
リビジョンのブランチおよびマージ	■	
リビジョンのプロモート	■	■
レポートの生成	■	■

基本的なワークフロー

次の図に、管理者、プロジェクトリーダーおよびプロジェクトチームメンバーが行う基本的な Version Manager タスクの一部を示します。



ワークフロータスク

- プロジェクトデータベースを開く。プロジェクトを作成するには、プロジェクトデータベースを開く必要があります。プロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理ファイルは、プロジェクトデータベースに含まれています。ほとんどの場合、プロジェクトデータベースのセットアップおよび設定は管理者が行います。プロジェクトデータベースが作成されると、プロジェクトの作成を開始できます。

詳細は、[81 ページの『プロジェクトデータベースの操作』](#)を参照してください。

- プロジェクトの作成/作業ファイルの追加。ディレクトリ構造に整理された作業ファイルがすでにある場合は、作業ファイル構造全体を Version Manager に追加するだけでプロジェクトを作成できます。プロジェクトはディレクトリと同じ名前で作成され、ディレクトリ内の作業ファイルはそのプロジェクトに追加されます。ディレクトリにサブディレクトリがある場合は、関連の作業ファイルを含んだサブプロジェクトも作成されます。

詳細は、95 ページの『作業ファイルの追加』を参照してください。

- ワークスペースの作成/定義。プロジェクトリーダーは、プロジェクトのパブリックワークスペースを定義して、プロジェクトチームメンバーが必要なプロジェクトおよび作業ファイルにアクセスできるようにします。プロジェクトチームメンバーは、プライベートなワークスペースを定義して、ローカルで作業ができるようにします。

詳細は、117 ページの『ワークスペースの操作』を参照してください。

- リビジョンをチェックアウトして編集。Version Manager に作業ファイルが追加されると、プロジェクトチームメンバーはリビジョンをチェックアウトして編集できます。リビジョンをチェックアウトすると、そのファイルが変更作業中であることがほかのユーザにわかるよう、バージョン管理ファイルがロックされます。

詳細は、149 ページの『リビジョンのチェックアウト』を参照してください。

- 作業ファイルの編集。リビジョンをチェックアウトして適切なエディタで作業ファイルを開くと、作業ファイルを編集できます。〈File (ファイル)〉表示部でバージョン管理ファイルをダブルクリックし、[Edit (編集)] を選択する (または、バージョン管理ファイルを選択して [Edit (編集)] - [Edit File (ファイルの編集)] を選択する) と、リビジョンに関連付けられたアプリケーションが起動し、書き込み可能な作業ファイルのコピーが表示されます。

詳細は、165 ページの『リビジョンの操作』を参照してください。

- 作業ファイルのチェックイン。作業ファイルの状態を保存するには、作業ファイルをチェックインします。チェックインすると、作業ファイルは最新リビジョンとしてアーカイブに保存され、バージョン管理ファイルのロックは解除されます。

詳細は、173 ページの『作業ファイルのチェックイン』を参照してください。

- バージョンラベルの割り当て。アーカイブ内の特定のリビジョンを識別するには、リビジョンにバージョンラベルを割り当てます。バージョンラベルは、リビジョンのグループをチェックアウトしたり、プロモートしたりするのに便利です。

詳細は、189 ページの『バージョンラベルの使用』を参照してください。

- バージョンラベルを基にリビジョンを取得する。バージョンラベルが割り当てられると、プロジェクトリーダーは、(バージョンラベルを指定することによって) 最新リビジョンのコピーを取得して、製品のビルドを開始できます。プロジェクトチームメンバーは、リビジョンを取得して、テストしたり、ファイルを実際にチェックアウトしたりする前にそれが本当に必要かどうかを確認することができます。

詳細は、159 ページの『リビジョンの取得』を参照してください。

- 製品のビルド/テスト。適切なリビジョンがコピーされると、プロジェクトリーダーは製品のビルドを開始できます。製品がビルドされると、プロジェクトチームメンバーはそれをテストできます。

- リビジョンをプロモートする。プロジェクトリーダーは、プロジェクトにプロモーションモデルがセットアップされている場合、節目に達すると、次のプロモーショングループにリビジョンをプロモートして次の開発段階を開始することができます。プロジェクトは、プロモーションモデルの最上位レベルに達したときに終了します。

詳細は、235 ページの『リビジョンのプロモート』を参照してください。

高度なタスク

開発プロセスにおいて、Version Manager の別の機能をワークフローに組み込まなくてはならない場合があります。

- プロモーショングループの使用。適切に定義された開発プロセスがある場合は、プロモーショングループを使用します。プロモーショングループは、ソースコードの開発を、設計の段階から最終リリースまで管理します。

プロモーショングループを使用するには、プロジェクトがプロモーションモデルとともにセットアップされている必要があります。プロモーションモデルについての詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

詳細は、[235 ページの『リビジョンのプロモート』](#)を参照してください。

- ブランチを作成する。特定のリビジョンから並行開発を行うには、ブランチを作成します。これは、バグ修正の際など、開発のメインラインに当面は反映させない変更をテストする場合に便利です。

詳細は、[204 ページの『リビジョンのブランチ作成』](#)を参照してください。

- リビジョンを比較する。リビジョンを比較して、ファイル間の違いを調べます。Version Manager では、デスクトップクライアントでファイルを並べて比較できます。

詳細は、[213 ページの『ファイルの比較』](#)を参照してください。

- リビジョンをマージする。〈Show Merge (マージの表示)〉オプションを使用すると、ファイルを出力ファイルにマージできます。このオプションは、ブランチの変更をメインラインにマージする場合に便利です。

詳細は、[219 ページの『ファイルのマージ』](#)を参照してください。

- レポートの作成。Version Manager プロジェクトの管理を容易にするために、レポートを作成することができます。ジャーナルレポートは、特定のアーカイブからリビジョンがチェックアウトされたタイミングや、バージョンラベルが割り当てられたタイミングなど、アーカイブの処理に関する情報を提供します。履歴レポートは、開発プロセスの監視、アーカイブ履歴の表示、およびアーカイブ属性の確認に使用できるアーカイブ情報を提供します。

詳細は、[245 ページの『レポートの使用』](#)を参照してください。

オンラインヘルプの使用方法

オンラインヘルプシステムでは、Version Manager の使用手順および概念のわかりやすい情報を提供します。これは、HTML ベースのヘルプシステムで、Windows 上では、デフォルトのHTMLブラウザを使用して開かれます。

Linux および UNIX 上では、Version Manager でブラウザの場所を指定する必要があります。詳細は、『Version Manager インストールガイド』を参照してください。



注：ヘルプの機能の一部は、古いバージョンのブラウザではサポートされません。ブラウザの条件については、『Version Manager インストールガイド』を参照してください。

ヘルプへのアクセス

オンラインヘルプには、以下の方法でアクセスします。

- メニューバーから：[Help (ヘルプ)] - [Help Topics (トピックの検索)] を選択します。
- ダイアログボックスから：ダイアログボックス内の【Help (ヘルプ)】をクリックすると、そのダイアログボックスについてのヘルプ項目が表示されます。
- フィールドから：F1 キーを押すと、選択されているフィールドについてのヘルプが表示されます。
- メインウィンドウから：F1 キーを押すと、ヘルプシステムが表示されます。

ヘルプのウィンドウ

オンラインヘルプは次の図のように表示されます。ただし、使用しているブラウザによって表示が若干異なります。



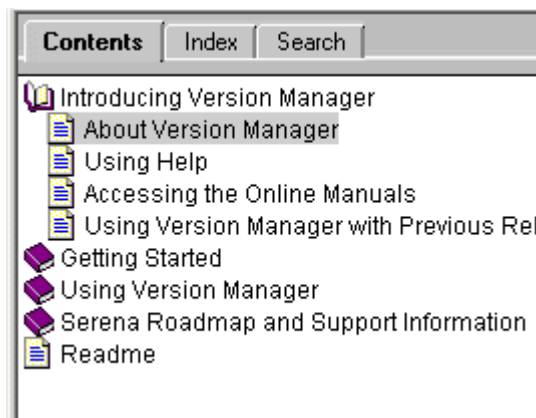
左側はナビゲーション表示部で、3つのタブ（[Contents（目次）]、[Index（キーワード）]、[Search（検索）]）がついています。この表示部で選択されたトピックが、右側のトピック表示部に表示されます。

ナビゲーション表示部の表示 / 非表示

各ダイアログボックスの【Help（ヘルプ）】をクリックしてヘルプを表示させたときは、そのダイアログボックスに関するヘルプトピックが表示されますが、ナビゲーション表示部は表示されません。ナビゲーション表示部を表示するには、トピックの最上部にある〈Show Navigation（ナビゲーションの表示）〉リンクをクリックしてください。ナビゲーション表示部を非表示にするには、〈Hide Navigation（ナビゲーションの非表示）〉リンクをクリックします。

目次の使用

[目次（Contents）] タブは、HTMLブラウザの左側のフレームに表示されます。



目次では、以下を実行できます。

- ヘルプトピックを選択すると、トピック表示部に表示されます。
- 標準の Windows ナビゲーションキーを使用できます。折りたたまれたアイテムを選択して右矢印キーを押すと、アイテムが展開されます。展開されたアイテムを選択して左矢印キーを押すと、アイテムが折りたたまれます。

キーワードの使用

[Index（キーワード）] タブは、HTMLブラウザの左側のフレームに表示されます。

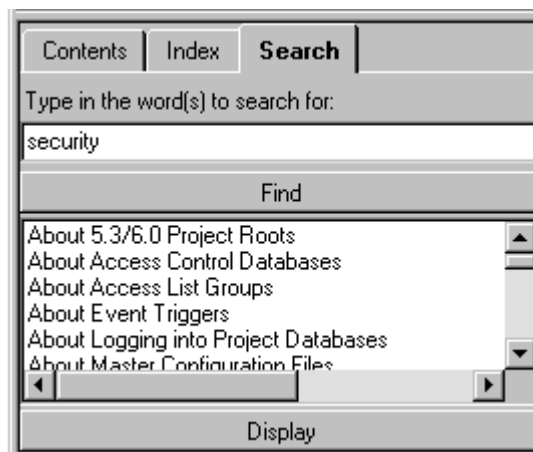


単語や語句を見つけるには

- 1 〈Type in the keyword to find (キーワードを入力してください)〉ボックスに単語や語句を入力します。入力するにつれ、キーワードのリストがスクロールし、もっともあてはまる項目が表示されます。
- 2 選択したキーワードに関連付けられているトピックを表示させるには、項目をダブルクリックするか、【Display (表示)】をクリックします。
- 3 以下のいずれかの結果となります。
 - キーワードに 1 つのトピックのみが関連付けられている場合は、トピック表示部にそのトピックが表示されます。
 - キーワードに複数のトピックが関連付けられている場合は、それらのトピックを表示したダイアログボックスが現れます。トピックを 1 つ選択して、ダブルクリックしてください。トピック表示部にそのトピックが表示されます。

検索の使用

検索機能により、ヘルプシステム全体から単語を検索することができます。この機能を使用するには、[Search (検索)] タブをクリックします。[Search (検索)] タブがHTMLブラウザの左側に表示されます。



単語や語句を検索するには

- 1 〈Type in the word(s) to search for (探したい語句を入力してください)〉ボックスに単語を入力し、【Find (検索開始)】をクリックします。検索機能により、全ヘルプトピックが検索され、入力した単語を含むトピックのタイトルのリストが表示されます。
- 2 トピックを表示させるには、リスト内のトピックタイトルをダブルクリックするか、選択して【Display (表示)】をクリックします。トピック表示部にそのトピックが表示されます。

以下のブール演算子を使用して、検索を定義することができます。

検索方法	入力	検索されるトピック
複数の単語	単語1 AND単語2	単語 1 と単語 2 の両方を含むトピック 注：複数の単語を入力すると、AND が指定されたものと想定され、「単語 1 単語 2」という文字列を含むトピックだけでなく、入力した単語を含むすべてのトピックが検索されます。
複数の単語のいずれか	単語 1 OR 単語 2	「単語1」、「単語 2」の両方またはいずれかを含む
ある単語は含むが、別の単語は除く	探す単語 NOT 除く単語	「検索する単語」を含み、「除外する単語」を含まない

ヘルプトピックの印刷

ヘルプトピックを印刷するには、使用している HTML ブラウザの印刷機能を使用します。



注：トピックを印刷するには、[Print (印刷)] を選択する前にトピックの選択が必要な場合があります。選択しておらず、直前にナビゲーション表示部をクリックしている場合は、目次が印刷される場合があります。

ユーザシナリオの使用方法

『Serena PVCS Version Manager ユーザガイド』には、プロジェクトチームが Version Manager を使用してどのようにソース管理を実現するかを示したユーザシナリオが含まれています。これらのシナリオは、本ガイド全般に配置され、時間を追って構成および関連付けされています。このシナリオ全体で、実際の Version Manager の導入と作業のワークフローを説明します。



ユーザシナリオは、見つけやすい書式で記載されています。章の最後に置かれ、左のシナリオのマークが付けられています。この絵を頼りにマニュアルをめくると、ユーザシナリオが簡単に見つけられます。

シナリオは、以下のような方法で使します。

- 最初にすべてのシナリオを連続して読み、全機能についてのイントロダクションとしてシナリオを使します。
- 興味のある機能についての詳しい説明として個々のシナリオを使します。
- 特定の機能群を使用するための手段として 1 つ以上のシナリオを読みます。そのためには、それらの機能について記述した各セクションを読み、その記述を参考にしてその機能を使します。

シナリオの背景情報



ファンシステム社は、コンピュータゲームを設計する大手のソフトウェア会社です。阿部さんは、ファンシステム社で全ゲームの開発を監督するシニアプロジェクトリーダーです。現在、Chess および Bridge という 2 つのゲームの開発が終盤を迎えようとしています。両ゲームのソースコードは、Version Manager 5.3 のバージョン管理下にあります。開発者たちは、さらに、Checkers および Solitaire という 2 つのコンピュータゲームの開発を開始しました。ファンシステム社では、Version Manager を最新バージョンに移行する予定であるため、Checkers と Solitaire のコードは、バージョン管理環境にはまだ置かれていません。

最新バージョンの Version Manager への移行の準備として、システム管理者の井上さんは、全ゲームプロジェクトを階層的に組織するプロジェクトデータベースを設定しました。そして、2 つのチーム用に、ユーザ名、パスワード、プロジェクト権限などの適切なセキュリティを定義しました。また、並行開発を単純化および自動化するブランチ機能やマージ機能も設定しました。ファンシステム社では、新しいバージョンの Version Manager でプロモーションモデルを使用して、システム開発のライフサイクルを開発チームに導入することになっています。自動ブランチやマージの設定、およびシステム開発のライフサイクルをサポートするプロモーションモデルの定義についての詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

更新に対する阿部さんの目標は、開発への影響をなるべく少なくすることです。ファイルへのアクセス、ファイルの編集および表示、バージョン管理環境への変更ファイルのチェックインなど、毎日行う基本的な作業は、わかりやすく簡単に実行できなければなりません。一方、バージョンラベルの使用、ブランチ、マージ、次のシステム開発段階へのファイルのプロモートなど、あまり使用しない高度なタスクは、習熟するまでに多少時間がかかると予測しています。しかし、上級の開発者たちがこのプロセスを理解した後は、これらのタスクが Version Manager で簡単にできるようになると見込んでいます。

パート 2

Version Manager デスクトップクライアントの使用

プロジェクトデータベース、プロジェクトおよびバージョン管理ファイルのタスク	33
プロジェクトデータベースの操作	81
Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの操作	87
作業ファイルの追加	95
プロジェクトの操作	111
ワークスペースの操作	117
ユーザ設定	135
リビジョンのチェックアウト	149
リビジョンの取得	159
リビジョンの操作	165
作業ファイルのチェックイン	173
ロックの使用	181
バージョンラベルの使用	189

第 2 章

プロジェクトデータベース、プロジェクトおよびバージョン管理ファイルのタスク

アイテムの選択	34
アイテム名の変更	36
アイテムのコピー	37
アイテムの移動	63
アイテムの削除	64
バージョン管理ファイルの復元	65
不要なアーカイブファイルの削除について	65
表示のフィルタ	66
プロパティの確認	79

アイテムの選択

Version Manager デスクトップクライアントのアイテムはすべて選択できます。どのアイテムに対しても、チェックイン、取得、チェックアウト、ロック、ロック解除、バージョンラベルの割り当てなどのアクションを実行できます。

選択するアイテム	アクションが実行される対象
プロジェクトデータベース	プロジェクトデータベースに含まれるすべてのアイテム（プロジェクトおよびサブプロジェクトのファイルを含む）
プロジェクト	1 つのプロジェクトまたは選択された複数プロジェクトに含まれるすべてのアイテム（サブプロジェクトのファイルを含む）
フォルダ	Version Manager 5.3/6.0 のフォルダおよびそれに含まれるアイテム、または選択された複数のフォルダおよびそれに含まれるアイテム
バージョン管理ファイル	選択した 1 つまたは複数のバージョン管理ファイル
リビジョン	選択した 1 つまたは複数のリビジョン
バージョンラベル	選択した 1 つまたは複数のバージョンラベル
プロモーショングループ	選択した 1 つまたは複数のプロモーショングループ

複数のプロジェクトまたはフォルダの選択

Version Manager は、プロジェクトデータベースでの複数プロジェクトの選択、および 5.3/6.0 プロジェクトでの複数のフォルダの選択をサポートしています。同じプロジェクトまたはプロジェクトデータベースの下にある場合は、プロジェクト表示部で複数のプロジェクトまたはフォルダを選択することができます。5.3/6.0 プロジェクトルートでは、複数のプロジェクトを選択することはできません。

複数のプロジェクトまたはフォルダを選択するには、隣接するアイテムを選択する場合は SHIFT キーを押しながらアイテムをクリックし、隣接しないアイテムを選択する場合は CTRL キーを押しながらアイテムをクリックします。

複数のプロジェクトまたはフォルダを選択すると、選択した各アイテムに含まれるすべてのファイルがファイル表示部に表示されます。プロジェクトまたはフォルダ名を示すヘッダ行が、ファイルを含むプロジェクトまたはフォルダごとに表示され、その下にそこに含まれるファイルが表示されます。再帰ファイルフィルタを有効にすると（[View（表示）] - [Filter（フィルタ）] - [Recursive（再帰）]）、サブプロジェクトとそのファイルがすべて表示されます。

ファイル表示部では、作業の対象となるファイルのうち、特定のファイルのみを選択することができます。この場合は、選択するファイルが同じプロジェクトまたはフォルダの下にある必要はありません。

実行可能なアクション

複数のプロジェクトまたはフォルダを選択した場合、以下のアクションを実行できます。

- チェックイン
- 取得
- チェックアウト
- ロック / ロック解除
- バージョンラベルの割り当て、削除、名前変更

- プロモーショングループのプロモート、割り当て、変更、削除
- 移動
- コピー
- 削除
- アーカイブへ属性
- ワークスペースの設定
- 作業ファイルの場所の設定
- 履歴レポートの表示
- ジャーナルレポートの表示



注：複数のプロジェクトまたはフォルダを選択し、ドラッグアンドドロップでアクションを実行することはできません。上記の作業を実行するには、メニュー、コンテキストメニュー、ツールバーボタン、またはショートカットのいずれかを使用する必要があります。たとえば、複数プロジェクトからリビジョンをチェックインするには、メニューの [Actions (アクション)] - [Check In (チェックイン)] の選択、コンテキストメニューの [Check In (チェックイン)] の選択、ツールバーの [Check In (チェックイン)] アイコンのクリック、または CTRL+I (ショートカットキー) のいずれかを行わなければなりません。

アクセスコントロールデータベースの権限

複数のプロジェクトまたはフォルダを選択したときは、アクセスコントロールデータベースでの権限にかかわらず、すべてのメニュー項目が有効となります。選択されたすべてのアイテムに対して、選択されたアクションを実行しようとし、選択されたアイテムの中にそのアクションが許可されていないものがあつた場合は、エラーメッセージが表示され、残りのアイテムに対する処理が続行されます。

プロモーショングループ

プロモーショングループの使用が可能なアクション (チェックアウトやチェックインなど) を実行する場合は、選択されたプロジェクトやフォルダを含むプロジェクトデータベースまたはプロジェクト (親プロジェクトデータベースまたは親プロジェクト) で定義されているプロモーションモデルのプロモーショングループがダイアログボックス内に表示されます。実行しようとするアクションを定義するときに、プロジェクトのプロモーションモデルでは使用できないプロモーショングループを選択した場合は、エラーメッセージが表示され、残りのアイテムに対する処理が続行されます。

作業ファイルの場所

作業ファイルの場所を使用するアクション (チェックアウトやチェックインなど) を実行する場合は、選択されたプロジェクトやフォルダを含むプロジェクトデータベースまたはプロジェクトの作業ファイルの場所が、ダイアログボックス内に表示されます。ただし、選択したプロジェクトまたはフォルダの絶対的な作業ファイルの場所は、親プロジェクトデータベースまたはプロジェクトの作業ファイルの場所に変更されることはありません。

作業ファイルの場所が絶対パスでない場合は、親プロジェクトデータベースまたは親プロジェクトの作業ファイルの場所に、選択された各プロジェクトまたはフォルダの相対パスを追加したものが表示されます。プロジェクトまたはフォルダ名は、親の絶対的な作業フォルダの場所に追加され、そのプロジェクトまたはフォルダの作業フォルダの場所が決定されます。

たとえば、親プロジェクトデータベースの作業ファイルの場所が `c:\producta\work` で、選択されたプロジェクトの名前が `proj1`、`proj2`、および `proj3` である場合は、それらのプロジェクトの作業ファイルの場所はそれぞれ、`c:\producta\work\proj1`、`c:\producta\work\proj2`、`c:\producta\work\proj3` となります。

アイテムの表示と非表示

プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトに、ネストされたプロジェクトがある場合は、名前の前にプラス記号（ \oplus ）が表示されます。アイテムの内容を表示するには、プラス記号をクリックします。

プロジェクトデータベース、プロジェクト、または、サブプロジェクトの内容を非表示にするには、名前の前のマイナス記号（ \ominus ）をクリックします。

アイテム名の変更

プロジェクト/サブ
プロジェクトの名前
を変更する

プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトの名前を変更できます。プロジェクトやサブプロジェクトの名前を変更すると、新規プロジェクト名に一致する新規作業ファイルディレクトリが作成されます。プロジェクトやサブプロジェクトの名前を変更したら、ファイルのチェックアウト、コピー、およびチェックインは、すべて新規作業ファイルの場所から行います。作業ファイルの場所は、[Rename (名前の変更)] ダイアログボックスの〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉フィールドに表示されます。

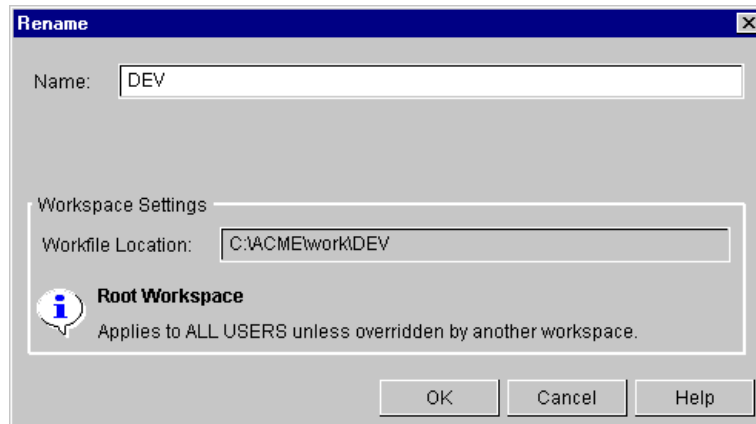
プロジェクトまたはサブプロジェクトの名前の変更中に、別のユーザがバージョン管理ファイルをチェックアウトした場合でも、Version Manager では、その作業ファイルの元の場所が保持されます。このファイルをチェックインすると、〈Check In From (チェックインするファイル)〉フィールドには、ファイルの元のチェックアウト先であるパスが表示されます。このファイルは、元の作業ファイルの場所にチェックインするか、新しい作業ファイルの場所を使用することができます。

プロジェクトデー
タベースの名前を変更
する

プロジェクトデータベース名を変更すると、名前だけが変更されます。新規アーカイブや作業ファイルの場所を指定する必要はありません。

プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトの名前を変更するには

- 1 名前を変更するアイテムを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Rename (名前の変更)] を選択します。[Rename (名前の変更)] ダイアログボックスが表示されます。



注：[Rename (名前の変更)] ダイアログボックスは、選択したアイテムによって内容が異なります。

- 3 アイテムの新しい名前を入力して、【OK】をクリックします。アイテムは該当する表示部に新しい名前で表示されます。

アイテムのコピー

バージョン管理ファイル、プロジェクト、5.3/6.0 プロジェクトルート、5.3/6.0 プロジェクトフォルダ、およびプロジェクトデータベースは、コピーすることができます。プロジェクト、フォルダ、バージョン管理ファイルをコピーするには、メニューバーを使用するか、またはドラッグアンドドロップします。プロジェクトデータベースをコピーするには、メニューバーを使用する必要があります。

下の表は、コピーできるアイテムのリストです。

コピー可能なアイテム		コピー先				
		5.3/6.0			新フォーマット	
		プロジェクトルート	プロジェクト	フォルダ	プロジェクトデータベース	プロジェクト
5.3/6.0	プロジェクトルート				新規データベース	
	プロジェクト				✓	✓
	フォルダ		✓		✓	✓
	バージョン管理ファイル			✓	✓	✓

コピー可能なアイテム		コピー先				
		5.3/6.0			新フォーマット	
		プロジェクト ルート	プロジェ クト	フォルダ	プロジェクト データベース	プロジェ クト
新フォー マット	プロジェクト データベース				新規データ ベース	
	プロジェクト				✓	✓
	バージョン管理 ファイル				✓	✓

バージョン管理ファイルのコピー

同じバージョン管理ファイルを、2 つ以上のプロジェクトまたはプロジェクトデータベースで必要とする場合は、バージョン管理ファイルをコピーします。バージョン管理ファイルをコピーすると、ファイルは新しい場所にコピーされますが、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照します。

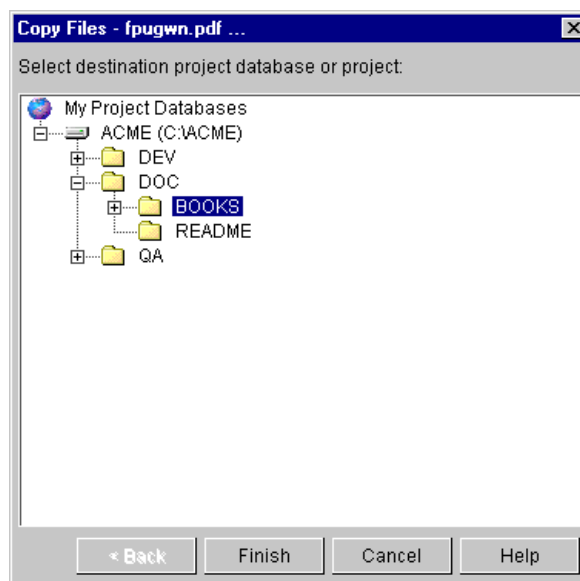
バージョン管理ファイルは、開いているどのプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにもコピーできます。また、5.3/6.0 バージョン管理ファイルは、どの 5.3/6.0 フォルダにもコピーできます。ただし、新フォーマットのバージョン管理ファイルを、5.3/6.0 のプロジェクトルート、プロジェクト、またはフォルダにコピーすることはできません。

メニューバーによるバージョン管理ファイルのコピー

メニューバーの使用

メニューバーを使用してバージョン管理ファイルをコピーするには

- 1 コピーするバージョン管理ファイルを選択します。
- 2 [Edit (編集)] - [Copy (コピー)] を選択します。[Copy Files (コピーファイル)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 コピー先のプロジェクト、プロジェクトデータベース、または 5.3 フォルダを選択し、【Finish (終了)】をクリックします。

ドラッグアンドドロップによるバージョン管理ファイルのコピー

ドラッグアンドドロップを使う

バージョン管理ファイルをファイル表示部からプロジェクト表示部にドラッグアンドドロップして、コピーすることもできます。

ドラッグアンドドロップによりバージョン管理ファイルをコピーするには

バージョン管理ファイルのコピー先	手順
同じプロジェクトデータベースのプロジェクト	1 コピーするバージョン管理ファイルをファイル表示部で選択します。
	2 CTRL キーを押しながら、バージョン管理ファイルを適切なプロジェクトまたはサブプロジェクトにドラッグします。
別のプロジェクトデータベースのプロジェクト	1 コピーするバージョン管理ファイルをファイル表示部で選択します。
	2 バージョン管理ファイルを適切なプロジェクトまたはサブプロジェクトにドラッグします。

プロジェクトのコピー

Version Manager のプロジェクトをコピーすると、異なるプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにプロジェクトがコピーされます。プロジェクトのコピーでは、以下を行うことができます。

- 全サブプロジェクトをコピーするか、またはプロジェクトのみをコピーします。
- アーカイブを新規アーカイブの場所にコピーする、または既存のアーカイブの場所を使用します。
- 既存のコンフィグレーションファイルを新しいプロジェクトの場所にコピーするか、既存のコンフィグレーションファイルを使用するか、または新規コンフィグレーションファイルを作成します。
- 既存のアクセスコントロールデータベースを新しいプロジェクトの場所にコピーするか、既存のアクセスコントロールデータベースを使用するか、または新規アクセスコントロールデータベースを作成します。

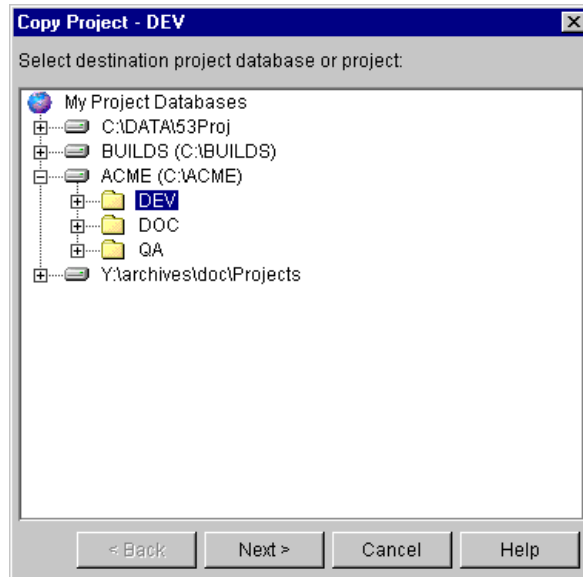


注：プロジェクトをコピーすると、プロジェクトのワークスペース設定は保持されません。

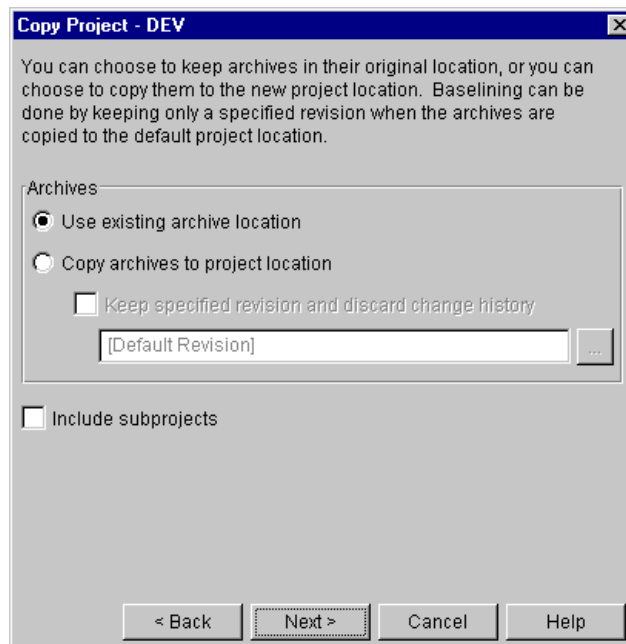
メニューバーによるプロジェクトのコピー

メニューバーの使用 メニューバーを使用してプロジェクトをコピーするには

- 1 コピーするプロジェクトを選択します。
- 2 [Edit (編集)] – [Copy (コピー)] を選択します。[Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 コピー先のプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択し、【Next (次へ)】をクリックします。2 番目の [Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。

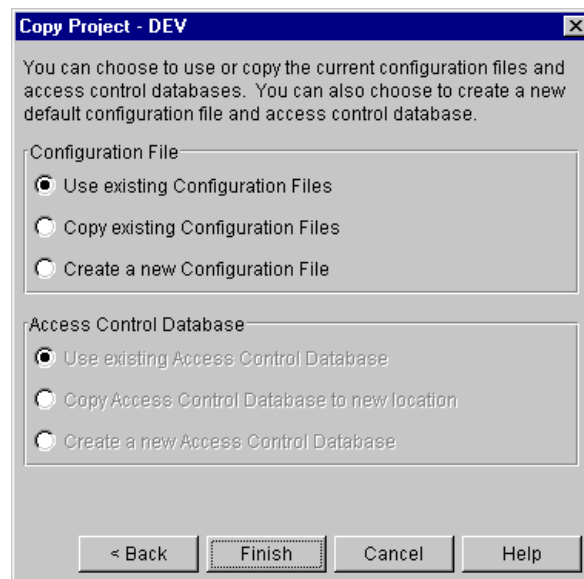


- 4 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブの場所を使用) : プロジェクトを新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー) : プロジェクトのアーカイブディレクトリ (およびその内容) をコピーし、ターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新規アーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。
- Keep specified revision and discard change history (指定したリビジョンを保持し、履歴を破棄) : ベースライン用にバージョンラベル、またはプロモーショングループを選択することによって、ベースとなるバージョンを指定します。

デフォルトリビジョン以外のリビジョンをベースバージョンとして使用するには、〈Default Revision (デフォルトリビジョン)〉フィールドにバージョンラベルまたはプロモーショングループを入力するか、または、【Browse (...)】をクリックします。ベースバージョンより前のリビジョンはコピーされません。

- 5 コピーしようとするプロジェクトにサブプロジェクトがあり、それらもコピーする必要がある場合は、〈Include subprojects (サブプロジェクトを含む)〉チェックボックスを選択します。
- 6 【Next (次へ)】をクリックします。3番目の【Copy Project (コピープロジェクト)】ダイアログボックスが表示されます。



- 7 プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、コンフィグレーションファイルグループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。
 - Use existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルを使用) : プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。コピーされたプロジェクトでも、元のプロジェクトと同じコンフィグレーションファイルが使用されます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコピー) : 既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
 - Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成) : デフォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。使用するコンフィグレーションファイルのデフォルト設定値は、管理者が制御します。

- 8 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合は、アクセスコントロールデータベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用する場合は、以下の選択ができます。
- Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベースを使用) : プロジェクトを新しい場所にコピーしても、既存のアクセスコントロールデータベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい場所にコピー) : 既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
 - Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを作成) : 新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。
- 9 【Finish (終了)】をクリックします。

ドラッグアンドドロップによるプロジェクトのコピー

ドラッグアンドドロップを使う

プロジェクト表示部でプロジェクトをドラッグアンドドロップして、プロジェクトをコピーすることもできます。

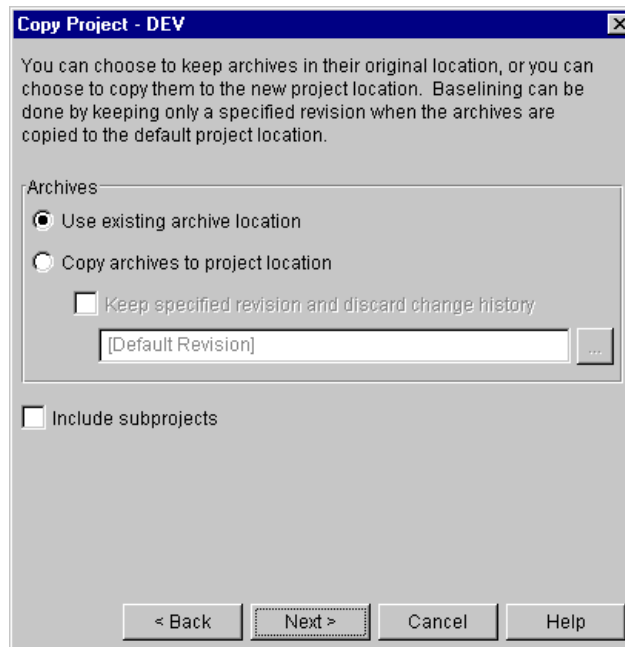
ドラッグアンドドロップを使用してプロジェクトをコピーするには

- 1 コピーするプロジェクトを選択します。

プロジェクトのコピー先	手順
同じプロジェクトデータベース内のプロジェクト	<p>a コピーするプロジェクトをプロジェクト表示部で選択します。</p> <p>b CTRL キーを押したまま、プロジェクトをコピー先プロジェクトにドラッグします。</p>
別のプロジェクトデータベース内のプロジェクト	<p>a コピーするプロジェクトをプロジェクト表示部で選択します。</p> <p>b プロジェクトを別のプロジェクトデータベース内のコピー先プロジェクトにドラッグします。</p>

アイテムのコピーを確認するメッセージが表示されます。

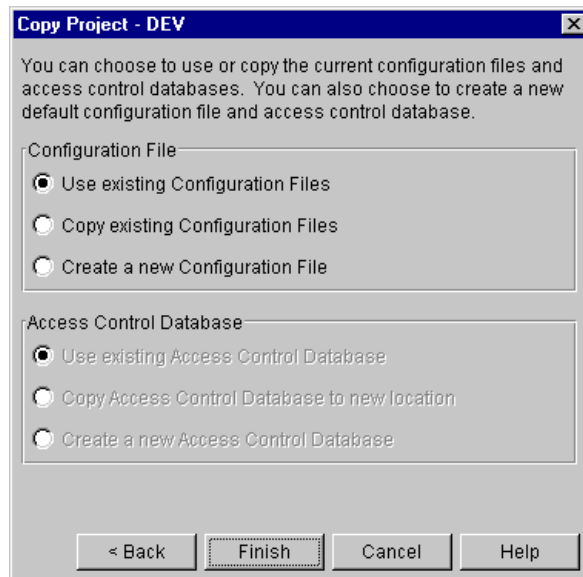
- 2 【Yes (はい)】をクリックします。〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブの場所を使用) : プロジェクトを新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー) : プロジェクトのアーカイブディレクトリ (およびその内容) をコピーし、ターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新規アーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。
 - Keep specified revision and discard change history (指定したリビジョンを保持し、履歴を破棄) : ベースライン用にバージョンラベル、またはプロモーショングループを選択することによって、ベースとなるバージョンを指定します。

デフォルトリビジョン以外のリビジョンをベースバージョンとして使用するには、〈Default Revision (デフォルトリビジョン)〉フィールドにバージョンラベルまたはプロモーショングループを入力するか、または、【Browse (...)] をクリックします。ベースバージョンより前のリビジョンはコピーされません。
- 4 コピーしようとするプロジェクトにサブプロジェクトがあり、それらもコピーする必要がある場合は、〈Include subprojects (サブプロジェクトを含む)〉チェックボックスを選択します。

- 5 【Next (次へ)】をクリックします。3番目の〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアログボックスが表示されます。



- 6 プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、コンフィグレーションファイルグループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。
- Use existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルを使用)：プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。コピーされたプロジェクトでも、元のプロジェクトと同じコンフィグレーションファイルが使用されます。
 - Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコピー)：既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成)：デフォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。使用するコンフィグレーションファイルのデフォルト設定値は、管理者が制御します。
- 7 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合は、アクセスコントロールデータベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用する場合は、以下の選択ができます。
- Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベースを使用)：プロジェクトを新しい場所にコピーしても、既存のアクセスコントロールデータベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい場所にコピー)：既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
 - Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを作成)：新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。

- 8 【Finish (終了)】をクリックします。

プロジェクトデータベースのコピー

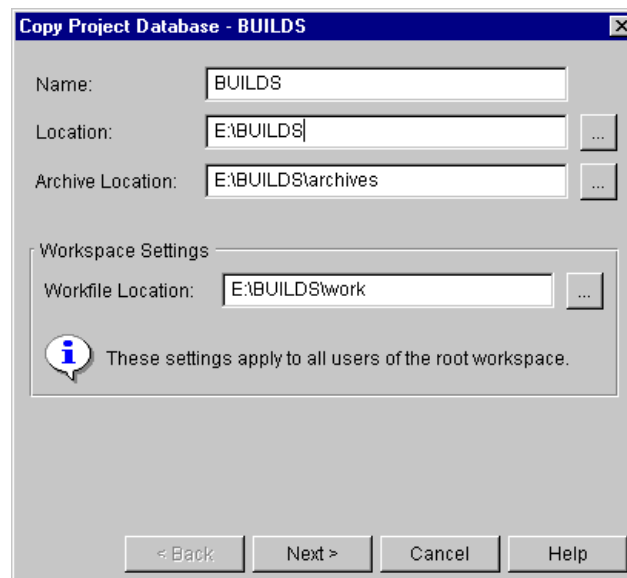
プロジェクトデータベース全体をコピーすることができますが、新しいプロジェクトデータベース名を選択する必要があります。プロジェクトデータベースをコピーするには、メニューバーを使用する必要があります。ドラッグアンドドロップはサポートされていません。

プロジェクトデータベースのコピーでは、以下を行うことができます。

- プロジェクトデータベースに含まれるアイテム全体をコピーするか、またはプロジェクトデータベースレベルのバージョン管理ファイルのみをコピーします。
- アーカイブを新しい場所にコピーするか、または既存のアーカイブの場所を使用します。
- 既存のコンフィグレーションファイルを新規プロジェクトデータベースにコピーするか、既存のコンフィグレーションファイルを使用するか、または新規コンフィグレーションファイルを作成します。
- 既存のアクセスコントロールデータベースを新規プロジェクトデータベースにコピーするか、既存のアクセスコントロールデータベースを使用するか、または、新規アクセスコントロールデータベースを作成する。

プロジェクトデータベースをコピーするには

- 1 コピーするプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [Edit (編集)] - [Copy (コピー)] を選択します。[Copy Project Database (コピープロジェクトデータベース)] ダイアログボックスが表示されます。

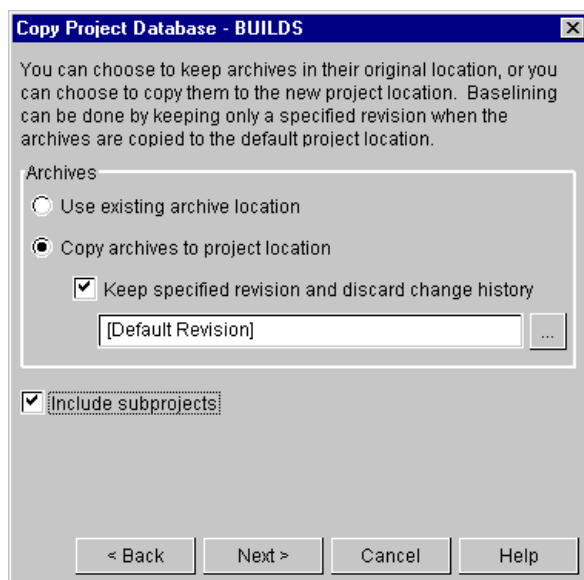


- 3 〈Name (名前)〉フィールドに新しいプロジェクトデータベース名を入力します。プロジェクトデータベース名の最初と最後には、タブまたは空白のスペースを使用できません。プロジェクトデータベース名については、これ以外に制限はありません。
- 4 〈Location (場所)〉フィールドに新規プロジェクトデータベースの場所を入力するか、または【Browse (...)] をクリックして場所を選択します。ここで入力した場所は、〈Archive Location (アーカイブの場所)〉フィールドにも反映されます。

- 5 入力したプロジェクトデータベースの場所に関連する新規アーカイブディレクトリは、〈Archive Location (アーカイブの場所)〉で指定します。別のアーカイブの場所を指定するには、このフィールドに入力するか、または【Browse (...)】をクリックして場所を選択します。
- 6 〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉フィールドに作業ファイルの場所を指定します。大部分のユーザが利用できるローカルドライブを指定することをお勧めします。プロジェクトチームのメンバーは、別の作業ファイルの場所を指定したプライベートワークスペースを作成して、いつでも作業ファイルの場所を変更することができます。

作業ファイルの場所では、そのパスのルートに \$HOME を含めることができます (たとえば、UNIX では、\$HOME/work/projecta を /usr/cherylc/work/projecta に展開することが可能)。Version Manager により、HOME 環境変数の値が代入され、作業ファイルの場所が決定されます。ユーザの HOME 環境変数が定義されていない場合は、作業ファイルの場所の識別時に空白が代入されます。

- 7 【Next (次へ)】をクリックします。2番目の【Copy Project Database (コピープロジェクトデータベース)】ダイアログボックスが表示されます。

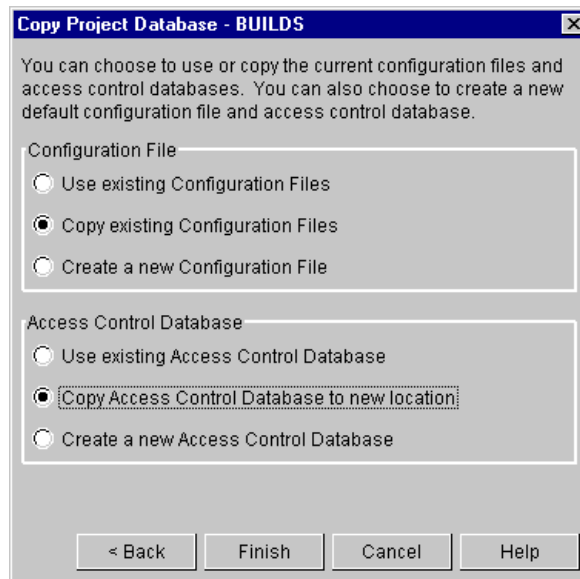


- 8 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブの場所を使用) : プロジェクトを新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー) : アーカイブをコピーし、コピー先のプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合、これを選択します。
 - Keep specified revision and discard change history (指定したリビジョンを保持し、履歴を破棄) : ベースライン用にベースとなるバージョンを選択できます。

デフォルトリビジョン以外のリビジョンをベースバージョンとして使用するには、〈Default Revision (デフォルトリビジョン)〉フィールドにバージョンラベルまたはプロモーショングループを選択します。ベースバージョンより前のリビジョンはコピーされません。

- 9 コピーしようとするプロジェクトデータベースにプロジェクトおよびサブプロジェクトがあり、それらもコピーする必要がある場合は、〈Include subprojects (サブプロジェクトを含む)〉チェックボックスを選択します。デフォルトでは、プロジェクトデータベースのルートレベルのバージョン管理ファイルのみがコピーされます。

- 10 【Next (次へ)】をクリックします。3番目の〔Copy Project Database (コピープロジェクトデータベース)〕ダイアログボックスが表示されます。



- 11 プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、〈Configuration File (コンフィグレーションファイル)〉グループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。
- Use existing Configuration File (既存のコンフィグレーションファイルを使用)：プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコピー)：既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それをコピー先プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
 - Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成)：デフォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それをコピー先プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。使用するコンフィグレーションファイルのデフォルト設定値は、管理者が制御します。
- 12 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合、アクセスコントロールデータベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用する場合、以下のいずれかを選択します。
- Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベースを使用)：プロジェクトを新しい場所にコピーしても、既存のアクセスコントロールデータベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい場所にコピー)：既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それをコピー先プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
 - Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを作成)：新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それをコピー先プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。
- 13 【Finish (終了)】をクリックします。

5.3/6.0 フォルダのコピー

5.3/6.0 フォルダは、開いているどのプロジェクトまたはプロジェクトデータベース、または別の 5.3/6.0 プロジェクトにもコピーできます。ただし、

5.3/6.0 フォルダをプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにコピーすると、5.3/6.0 フォルダはプロジェクトにアップグレードされます。5.3/6.0 フォルダを更新する前に、『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』の『Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの作業』をお読みください。

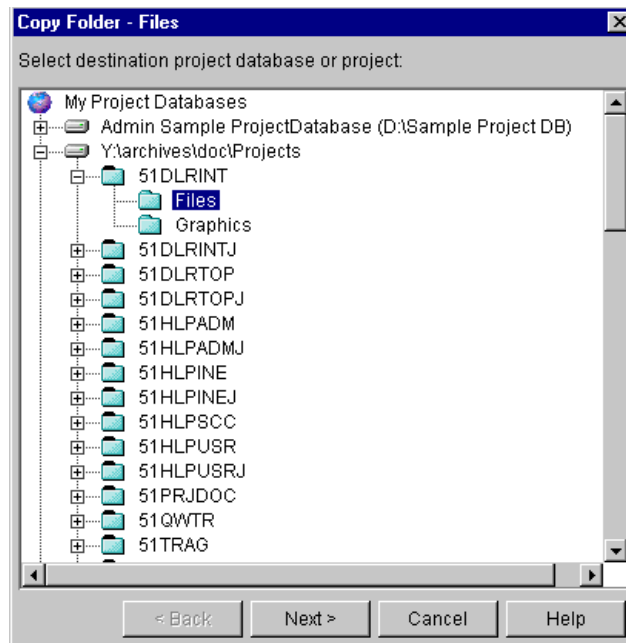
5.3/6.0 フォルダを別のプロジェクトにコピーする場合は、アーカイブを新しいプロジェクトの場所にコピーすることはできません。

メニューバーによる 5.3/6.0 フォルダのコピー

メニューバーの使用

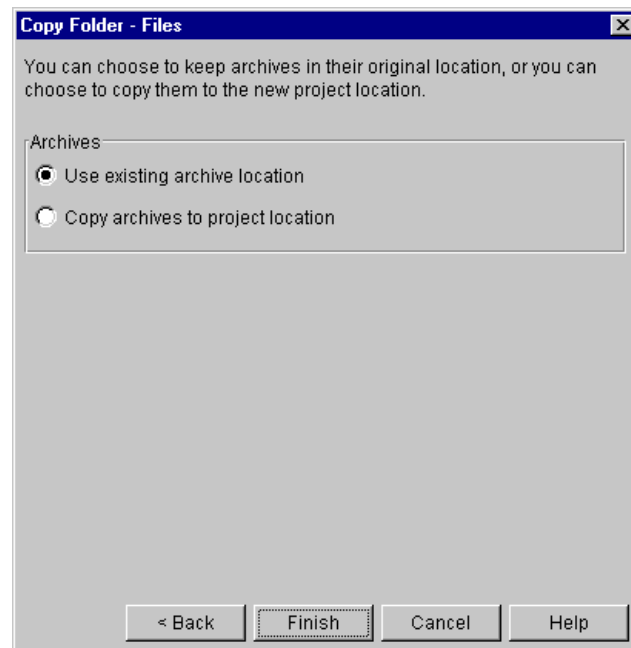
メニューバーを使用して 5.3/6.0 フォルダをコピーするには

- 1 コピーする 5.3/6.0 フォルダを選択します。
- 2 [Edit (編集)] - [Copy (コピー)] を選択します。[Copy Folder (コピーフォルダ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 コピー先を選択します。
 - 別の 5.3/6.0 プロジェクトを選択した場合は、【Next (次へ)】をクリックすると、フォルダがコピーされた後コピーアクションは終了します。アーカイブは現在の場所に置かれたままで、2 つのプロジェクトは、既存の同じアーカイブを使用します。

- コピー先にプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、【Next (次へ)】をクリックすると、2 番目の [Copy Folder (コピーフォルダ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 4 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブの場所を使用) : フォルダを新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー) : フォルダのアーカイブディレクトリをコピーし、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新規アーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。
- 5 【Finish (終了)】をクリックします。

ドラッグアンドドロップによる 5.3/6.0 フォルダのコピー

ドラッグアンドドロップを使う プロジェクト表示部内でドラッグアンドドロップして、5.3/6.0 フォルダをコピーすることもできます。

ドラッグアンドドロップで 5.3/6.0 フォルダをコピーするには

- 1 コピーするフォルダを選択します。

5.3/6.0 フォルダのコピー先	手順
プロジェクトまたはプロジェクトデータベース	<ol style="list-style-type: none"> a コピーするフォルダをプロジェクト表示部で選択します。 b フォルダをプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにドラッグします。
別の 5.3/6.0 プロジェクト	<ol style="list-style-type: none"> a コピーするフォルダをプロジェクト表示部で選択します。 b CTRL キーを押しながら、フォルダを別の 5.3/6.0 プロジェクトにドラッグします。

アイテムのコピーを確認するメッセージが表示されます。

- 2 【Yes (はい)】をクリックします。選択するアイテム
 - コピー先として別の 5.3/6.0 プロジェクトを選択した場合は、フォルダがコピーされ、コピーは完了します。アーカイブは現在の場所に置かれたままで、2 つのプロジェクトは、既存の同じアーカイブを使用します。
 - コピー先としてプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、〔Copy Folder (コピーフォルダ)〕ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブの場所を使用) : フォルダを新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー) : フォルダのアーカイブディレクトリをコピーし、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新規アーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。

4 【Finish (終了)】をクリックします。

5.3/6.0 プロジェクトのコピー

5.3/6.0 プロジェクトは、新しいフォーマットの開かれているプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにコピーできます。5.3/6.0 プロジェクトを新しいフォーマットのプロジェクトにコピーすると、5.3/6.0 プロジェクトは新しいフォーマットにアップグレードされます。

Version Manager 5.3/6.0 GUI またはいずれかの Version Manager Development Interface を使用して作成されたプロジェクトルートは、コピー (アップグレード) することができます。Version Manager Development Interface で作成された 5.3/6.0 プロジェクトをアップグレードする方法についての詳細は、ご使用の開発環境用の『Serena Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。

5.3/6.0 プロジェクトを更新する前に、『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』の『Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの作業』のセクションをお読みください。5.3/6.0 プロジェクトが Version Manager のすべての機能にアクセスできるようにするには、5.3/6.0 プロジェクトを新しい Version Manager プロジェクトフォーマットにコピーする必要があります。

5.3/6.0 プロジェクトをプロジェクトデータベースにコピーする前に、プロジェクトのコピー先のプロジェクトデータベースが開いていることを確認します。

5.3/6.0 プロジェクトのコピーでは、以下を行うことができます。

- 新規プロジェクトを、既存 5.3/6.0 プロジェクトの構造や 5.3/6.0 作業ファイル階層を基に構成できます。
- アーカイブを新規アーカイブの場所にコピーする、または既存のアーカイブの場所を使用する



注: 複数のフォルダを含むプロジェクトをコピーする場合は、サブフォルダのアーカイブの場所が異なる場合があることに注意してください。プロジェクトをコピーして、既存のアーカイブの場所を使用する場合、新規プロジェクトはそれぞれのアーカイブの場所すべてを参照します。

コピーされた後にプロジェクトに追加された新規アーカイブは、プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置かれます。

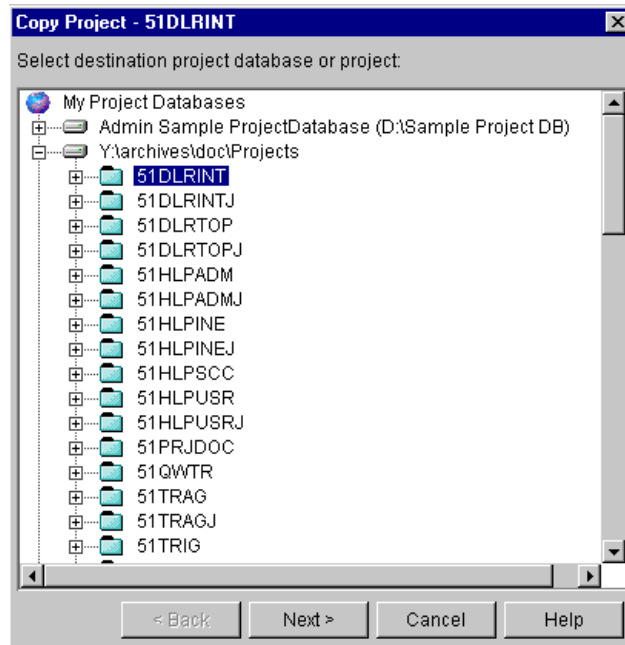
- 既存のコンフィグレーションファイルを新しいプロジェクトの場所にコピーするか、既存のコンフィグレーションファイルを使用するか、または新規コンフィグレーションファイルを作成します。
- 5.3/6.0 プロジェクトの既存のアクセスコントロールデータベースを新しいプロジェクトの場所にコピーするか、既存のアクセスコントロールデータベースを使用するか、または新規アクセスコントロールデータベースを作成します。

メニューバーによる 5.3/6.0 プロジェクトのコピー

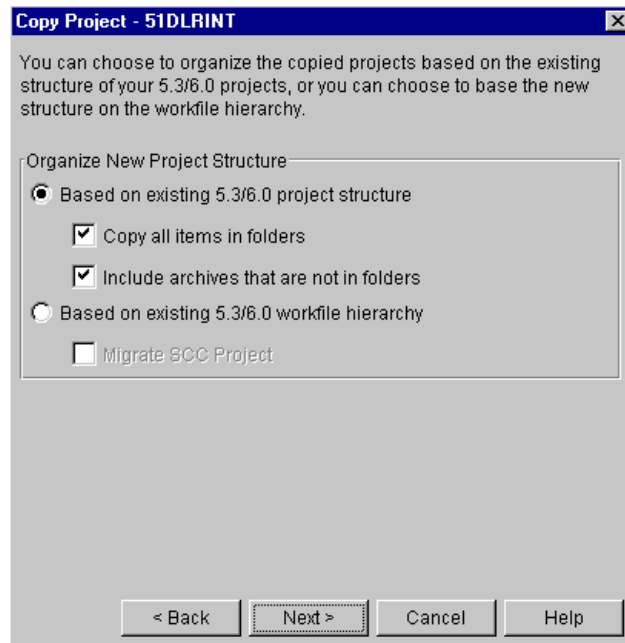
メニューバーを使用して 5.3/6.0 プロジェクトをコピーするには

1 コピーする 5.3/6.0 プロジェクトを選択します。

- 2 [Edit (編集)] – [Copy (コピー)] を選択します。[Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 コピー先のプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択し、【Next (次へ)】をクリックします。2 番目の [Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。



- 4 <Organize New Project Structure (プロジェクト構造の新規作成)> グループで、以下のいずれかを選択します。
 - Based on existing 5.3/6.0 Project structure (既存の 5.3/6.0 プロジェクト構造に基づく)：新規プロジェクトを既存の 5.3/6.0 プロジェクトの構造を基に構成するには、このラジオボタンを選択します。この構造には、プロジェクトとサブプロジェクトという 2 つのレベルのみが含まれます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

フォルダ内に格納されているすべてのアーカイブをコピーするには、〈Copy all items in folders (フォルダ内のすべてのアイテムをコピー)〉チェックボックスを選択します。

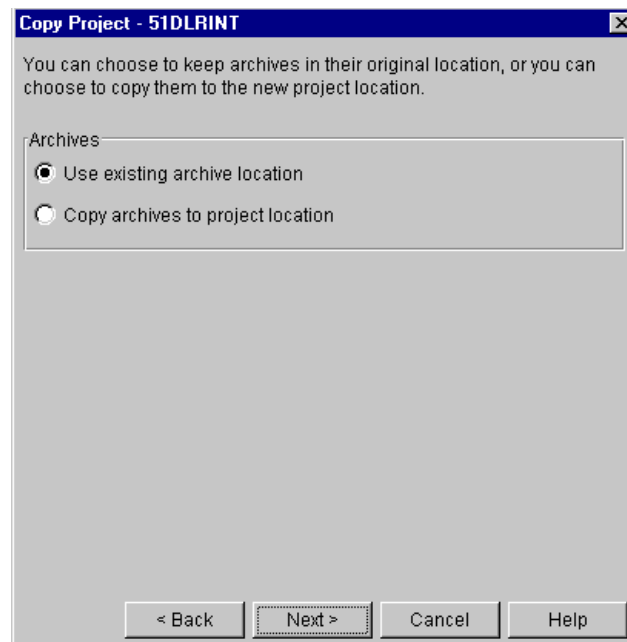
フォルダ内に含まれないアーカイブ (5.3/6.0プロジェクトのルートにあるアーカイブ) をコピーする場合は、〈Include archives that are not in folders (フォルダにないアーカイブも含む)〉チェックボックスを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy (既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層構造に基づく) : 作業ファイルの階層構造と同じ構造のプロジェクトを作成する場合は、このラジオボタンを選択します。この構造には、作業ファイルの場所と完全に一致する数のサブプロジェクトが含まれます。
- Migrate SCC project (SCCプロジェクトの移行) : SCC 5.3/6.0 プロジェクトを新しいフォーマットにアップグレードする場合は、このチェックボックスを選択します。この場合は、〈Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy (既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層構造に基づく)〉ラジオボタンが選択されている必要があります。



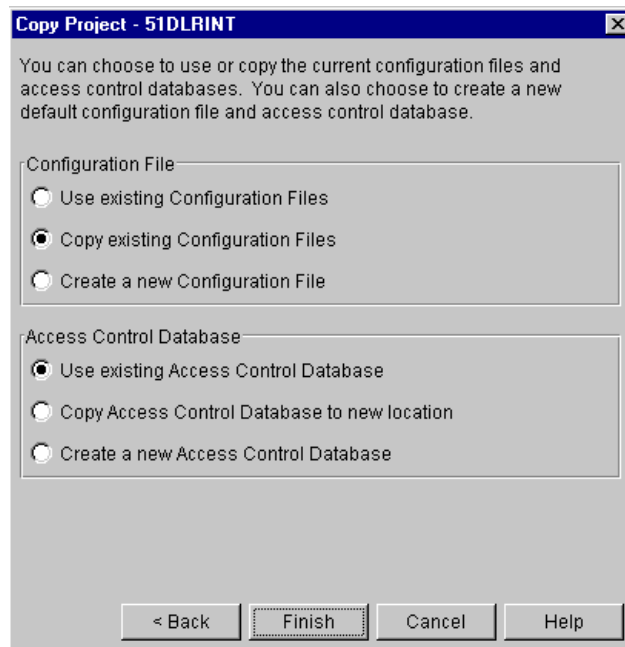
注 : ほかの Development Interface プロジェクトと共有されている SCC プロジェクトを移行する場合は、アーカイブを新しいプロジェクトディレクトリに移動しないことをお勧めします。アーカイブを移動すると、ほかのプロジェクトとの関連付けは削除されます。

- 5 【Next (次へ)】をクリックします。3番目の〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアログボックスが表示されます。



- 6 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブの場所を使用) : プロジェクトを新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー) : プロジェクトのアーカイブディレクトリ (およびその内容) をコピーし、ターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新規アーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。

- 7 【Next (次へ)】をクリックします。4 番目の [Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。



- 8 プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、コンフィグレーションファイルグループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。
- Use existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルを使用)：プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。コピーされたプロジェクトでも、元のプロジェクトと同じコンフィグレーションファイルが使用されます。



重要：コピーする 5.3/6.0 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用する場合は、コンフィグレーションファイルを共有しないことをお勧めします。

- Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコピー)：既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成)：デフォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。使用するコンフィグレーションファイルのデフォルト設定値は、管理者が制御します。
- 9 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合は、アクセスコントロールデータベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用する場合は、以下の選択ができます。
- Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベースを使用)：プロジェクトを新しい場所にコピーしても、既存のアクセスコントロールデータベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

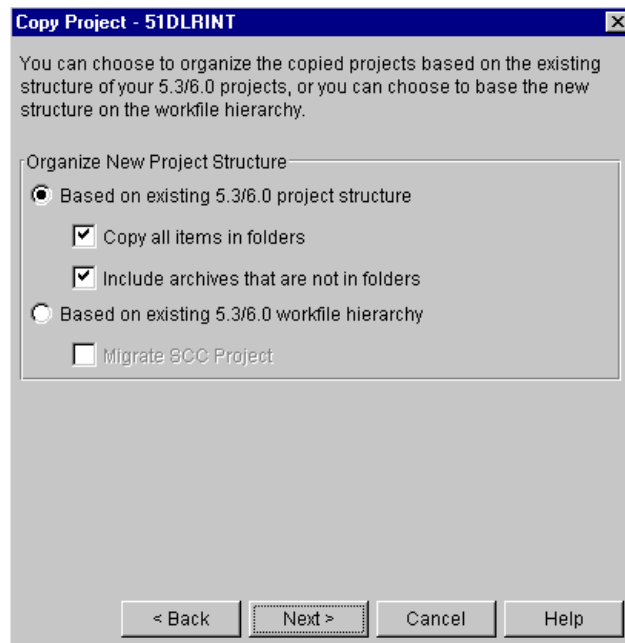
- Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい場所にコピー) : 既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
- Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを作成) : 新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。

10 【Finish (終了)】をクリックします。

ドラッグアンドドロップによる 5.3/6.0 プロジェクトのコピー

ドラッグアンドドロップで 5.3/6.0 プロジェクトをコピーするには

- 1 コピーするプロジェクトを選択します。
- 2 それをコピー先のプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにドラッグします。アイテムのコピーを確認するメッセージが表示されます。
- 3 【Yes (はい)】をクリックします。[Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。



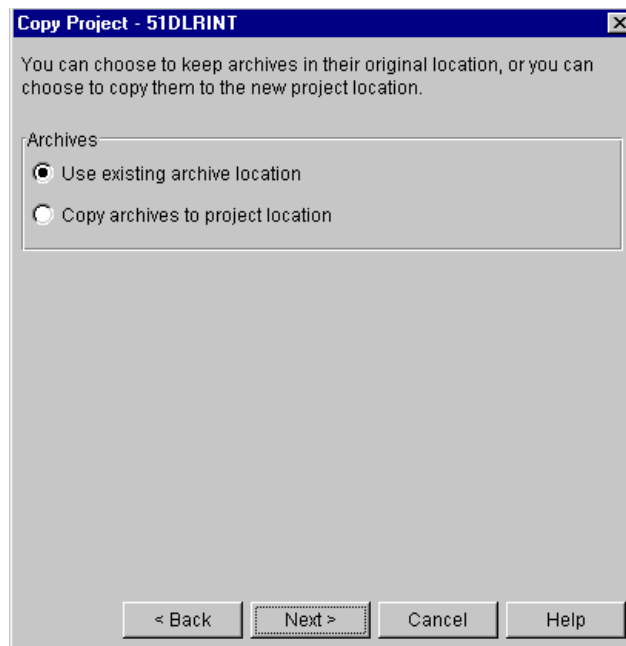
4 〈Organize New Project Structure (プロジェクト構造の新規作成)〉グループで、以下のいずれかを選択します。

- Based on existing 5.3/6.0 Project structure (既存の 5.3/6.0 プロジェクト構造に基づく) : 新規プロジェクトを既存の 5.3/6.0 プロジェクトの構造を基に構成するには、このラジオボタンを選択します。この構造には、次の 2 つのレベルのみが含まれます : プロジェクトとサブプロジェクト。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

フォルダ内に格納されているすべてのアーカイブをコピーするには、〈Copy all items in folders (フォルダ内のすべてのアイテムをコピー)〉チェックボックスを選択します。

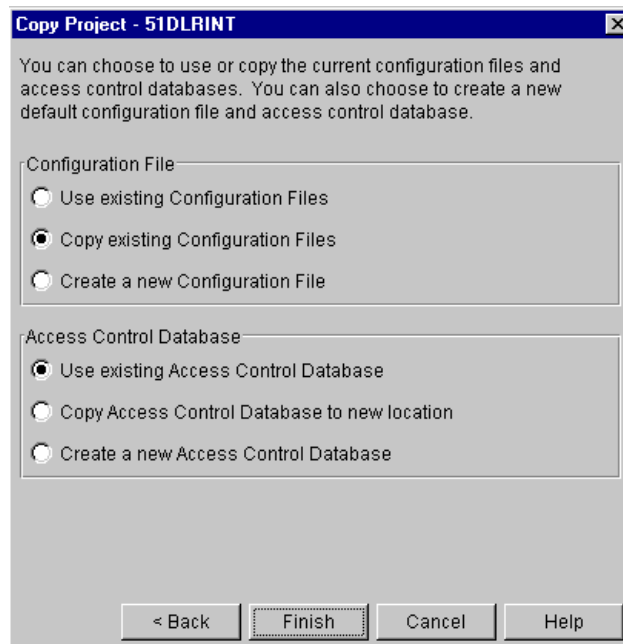
フォルダ内に含まれないアーカイブ (5.3/6.0 プロジェクトのルートにあるアーカイブ) をコピーする場合は、〈Include archives that are not in folders (フォルダにないアーカイブも含む)〉チェックボックスを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy (既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層構造に基づく) : 新規プロジェクトを 5.3/6.0 プロジェクトの作業ファイル階層構造を基に構成するには、このラジオボタンを選択します。
 - Migrate SCC project (SCCプロジェクトの移行) : SCC 5.3/6.0 プロジェクトを新しいフォーマットにアップグレードする場合は、このチェックボックスを選択します。この場合は、〈Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy (既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層構造に基づく)〉ラジオボタンが選択されている必要があります。
- 5 【Next (次へ)】をクリックします。2 番目の [Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
- Use existing archive location (既存のアーカイブの場所を使用) : プロジェクトを新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー) : プロジェクトのアーカイブディレクトリ (およびその内容) をコピーし、ターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新規アーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。

- 7 【Next (次へ)】をクリックします。3 番目の [Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。



- 8 プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、コンフィグレーションファイルグループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。

- Use existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルを使用)：プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。コピーされたプロジェクトでも、元のプロジェクトと同じコンフィグレーションファイルが使用されます。



重要：コピーする 5.3/6.0 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用する場合は、コンフィグレーションファイルを共有しないことをお勧めします。

- Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコピー)：既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成)：デフォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。使用するコンフィグレーションファイルのデフォルト設定値は、管理者が制御します。
- 9 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合は、アクセスコントロールデータベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用する場合は、以下の選択ができます。
- Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベースを使用)：プロジェクトを新しい場所にコピーしても、既存のアクセスコントロールデータベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい場所にコピー) : 既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
- Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを作成) : 新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それをターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。

10 【Finish (終了)】をクリックします。

5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー

5.3/6.0 プロジェクトルートをより新しいプロジェクトデータベースフォーマットにコピー (アップグレード) し、最新バージョンのすべての製品機能を使用することができます。5.3/6.0 プロジェクトルートをコピーすると、5.3/6.0 プロジェクトルートはプロジェクトデータベースにアップグレードされます。5.3/6.0 プロジェクトルートをコピーするには、メニューバーを使用する必要があります。ドラッグアンドドロップはサポートされていません。

Version Manager 5.3/6.0 GUI またはいずれかの Version Manager Development Interface を使用して作成されたプロジェクトルートは、コピー (アップグレード) することができます。Version Manager Development Interface で作成された 5.3/6.0 プロジェクトをアップグレードする方法についての詳細は、ご使用の開発環境用の『Serena Version Manager IDE クライアント操作ガイド』を参照してください。

5.3/6.0 プロジェクトルートを更新する前に、『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』の『Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの作業』のセクションをお読みください。

5.3/6.0 プロジェクトルートをプロジェクトデータベースにコピーする場合、コピー前にプロジェクトデータベースを作成しないでください。コピー手順の一部として、Version Manager によって新規プロジェクトデータベースが作成されます。また、バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートを既存のプロジェクトデータベースにコピーすることはできません。

5.3/6.0 プロジェクトルートのコピーでは、以下を行うことができます。

- 新規プロジェクトデータベースを、既存の 5.3/6.0 プロジェクトルートの構造や 5.3/6.0 作業ファイル階層を基に構成できます。それぞれを基に新規プロジェクトデータベースを構成すると、以下のような構造が作成されます。
 - 5.3/6.0 プロジェクトルートの構造を基にした場合、5.3/6.0 デスクトップクライアントのプロジェクトルート構造と同じプロジェクトデータベース構造が作成されます。5.3 プロジェクトルートはプロジェクトデータベースになり、各 5.3/6.0 プロジェクトはプロジェクトになり、各フォルダはサブプロジェクトになります。
 - 5.3/6.0 作業ファイル階層は、プロジェクトデータベース構造と同じになります。作業ファイル階層がネストされた構造を持つ場合は、それに一致するネストされたプロジェクト構造が作成されます。

- アーカイブを新規アーカイブの場所にコピーする、または既存のアーカイブの場所を使用したりできます。



注：複数のプロジェクトを含むプロジェクトルートのコピーする場合は、プロジェクトによってアーカイブの場所が異なる可能性があります。プロジェクトルートのコピーして、既存のアーカイブの場所を使用する場合、新規プロジェクトデータベースはそれぞれのアーカイブの場所すべてを参照します。

コピーされた後にプロジェクトルートに追加された新規アーカイブは、プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置かれます。

- 既存のコンフィグレーションファイルを新規プロジェクトデータベースの場所にコピーするか、既存のコンフィグレーションファイルを使用するか、または新規コンフィグレーションファイルを作成します。
- 5.3/6.0 プロジェクトルートの既存のアクセスコントロールデータベースを新規プロジェクトデータベースの場所にコピーするか、既存のアクセスコントロールデータベースを使用するか、または新規アクセスコントロールデータベースを作成します。

5.3/6.0 プロジェクトルートのコピーするには

- 1 コピーする 5.3/6.0 プロジェクトルートを選択します。
- 2 [Edit (編集)] - [Copy (コピー)] を選択します。[Copy Project Database (コピープロジェクトデータベース)] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 〈Name (名前)〉フィールドに新しいプロジェクトデータベース名を入力します。プロジェクトデータベース名の最初と最後には、タブまたは空白のスペースを使用できません。プロジェクトデータベース名については、これ以外の制限はありません。
- 4 〈Location (場所)〉フィールドに新規プロジェクトデータベースの場所を入力するか、または【Browse (...)] をクリックして場所を選択します。ここで入力した場所は、〈Archive (アーカイブ)〉フィールドにも反映されます。

この場所には、このプロジェクトデータベースにアクセスするすべてのユーザがアクセス可能である必要があります。プロジェクトデータベースは、別のプロジェクトデータベースの下に作成することはできないため、ドライブのルートレベル以外の場所に作成したほうがよいでしょう。

また、既存の 5.3/6.0 プロジェクトルートと同じ場所にプロジェクトデータベースを作成することはできません。

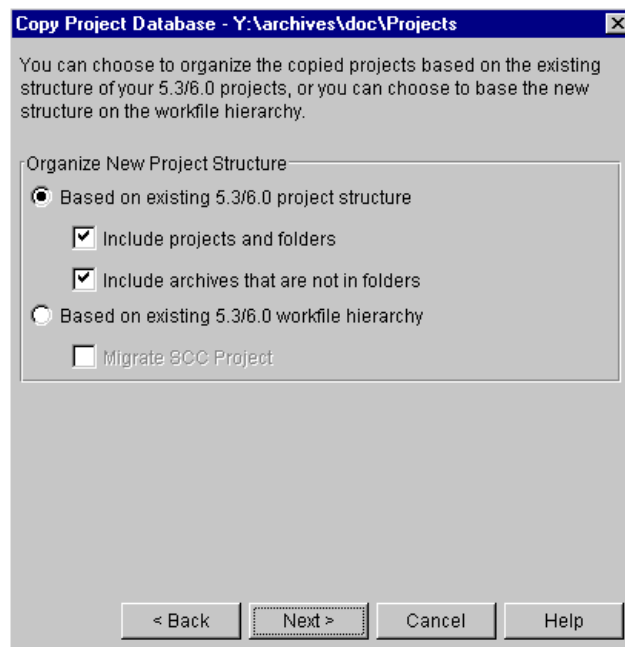
- 5 入力したプロジェクトデータベースの場所に関連する新規アーカイブディレクトリは、〈Archive Location (アーカイブの場所)〉で指定します。別のアーカイブの場所を指定するには、このフィールドに入力するか、または【Browse (...)】をクリックして場所を選択します。この場所は、アーカイブを使用するすべてのユーザがアクセスできる場所であることが必要です。
- 6 作業ファイルの場所を入力してこのフィールドに指定するか、【Browse (...)】をクリックして場所を選択します。

作業ファイルの場所にそのパスのルートとして \$HOME を含めることができます (たとえば、UNIX では、\$HOME/work は /usr/s/cherylc/work に展開することが可能)。Version Manager により、HOME 環境変数の値が代入され、作業ファイルの場所が決定されます。\$HOME を使用すると、HOME 環境変数の値に基づいて、ユーザに自動的に個別のパスを定義することができます。ユーザの HOME 環境変数が定義されていない場合は、作業ファイルの場所の識別時に空白が代入されます。



注： 大部分のユーザが利用できるローカルドライブを指定することをお勧めします。ユーザは必要に応じて、作業ファイルの場所を変更するためのプライベートなワークスペースをローカルドライブに作成することができます。

- 7 【Next (次へ)】をクリックします。2番目の〔Copy Project Database (コピープロジェクトデータベース)〕ダイアログボックスが表示されます。



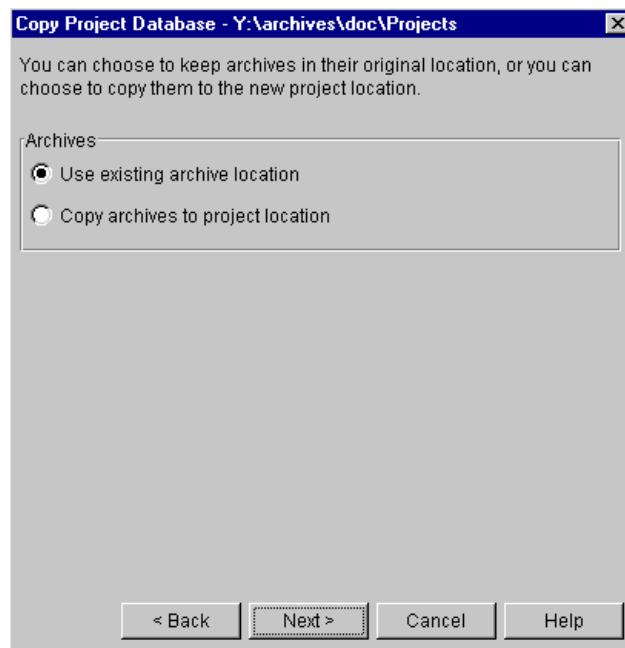
- 8 〈Organize New Project Structure (プロジェクト構造の新規作成)〉グループで、以下のいずれかを選択します。
 - Based on existing 5.3/6.0 Project structure (既存の 5.3 プロジェクト構造に基づく)：新規プロジェクトを既存の 5.3/6.0 プロジェクトルートの構造を基に構成するには、このラジオボタンを選択します。この構造には、次の 2 つのレベルのみが含まれます：プロジェクトとサブプロジェクト。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

フォルダ内に格納されているすべてのアーカイブをコピーするには、〈Copy all items in folders (フォルダ内のすべてのアイテムをコピー)〉チェックボックスを選択します。この

オプションは、既存の 5.3/6.0 プロジェクト構造を基にしてプロジェクトを作成するように選択した場合にのみ利用できます。

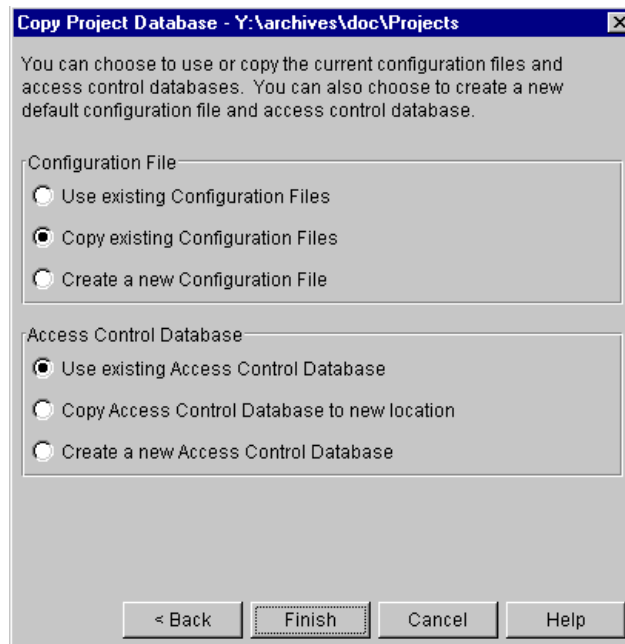
フォルダ内に含まれないアーカイブ（5.3/6.0 プロジェクトルートにあるアーカイブ）をコピーする場合は、〈Include archives that are not in folders（フォルダにないアーカイブも含む）〉チェックボックスを選択します。このチェックボックスは、5.3/6.0 プロジェクト構造に基づいてプロジェクトを作成する場合にのみ選択可能です。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy（既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層構造に基づく）：新規プロジェクトを 5.3/6.0 プロジェクトの作業ファイル階層構造を基に構成するには、このラジオボタンを選択します。このオプションの利点は、作業ファイルの整理にサブディレクトリを使用していた場合に、ネストされたプロジェクト構造が作成されることです。
 - Migrate SCC project（SCC プロジェクトの移行）：SCC 5.3/6.0 プロジェクトを新しいフォーマットにアップグレードする場合は、このチェックボックスを選択します。この場合は、〈Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy（既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層構造に基づく）〉ラジオボタンが選択されている必要があります。
- 9 【Next（次へ）】をクリックします。3 番目の〔Copy Project Database（コピープロジェクトデータベース）〕ダイアログボックスが表示されます。



- 10 〈Archives（アーカイブ）〉グループで以下のいずれかを選択します。
- Use existing archive location（既存のアーカイブの場所を使用）：プロジェクトルートを新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location（プロジェクトの場所にアーカイブをコピー）：プロジェクトのアーカイブをコピーし、それを新規プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新規アーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。

- 11 【Next (次へ)】をクリックします。4 番目の [Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。



- 12 プロジェクトルートがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、コンフィグレーションファイルグループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトルートがコンフィグレーションファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。

- Use existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルを使用)：プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。新規プロジェクトデータベースは、5.3/6.0 プロジェクトルートと同じコンフィグレーションファイルを使用します。



重要：コピーする 5.3/6.0 プロジェクトルートがアクセスコントロールデータベースを使用する場合は、コンフィグレーションファイルを共有しないことをお勧めします。

- Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコピー)：既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それを新規プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成)：デフォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それを新規プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。使用するコンフィグレーションファイルのデフォルト設定値は、管理者が制御します。
- 13 プロジェクトルートがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合は、アクセスコントロールデータベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトルートがアクセスコントロールデータベースを使用する場合は、以下の選択ができます。
- Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベースを使用)：プロジェクトルートを新しい場所にコピーした後も、既存のアクセスコントロールデータベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい場所にコピー)：既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それを新規プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
- Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを作成)：新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それを新規プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。

14 【Finish (終了)】をクリックします。

アイテムの移動

アイテムを移動するには、メニューバーを使用するか、またはアイテムをドラッグアンドドロップします。以下のアイテムを移動できます。

移動できるアイテム	移動先
バージョン 5.3/6.0 のフォルダ	同じ 5.3/6.0 プロジェクトルート内の別のプロジェクト
5.3/6.0 バージョン管理ファイル	同じ 5.3/6.0 プロジェクトルート内の別のフォルダ
プロジェクト/サブプロジェクト	同じプロジェクトデータベース内の別のプロジェクトまたはサブプロジェクト
バージョン管理ファイル	プロジェクトデータベースのルート、または同じプロジェクトデータベース内のプロジェクトまたはサブプロジェクト

バージョン管理ファイルまたはプロジェクトを、別のプロジェクトデータベースに移動することはできません。プロジェクトデータベースは移動できません。また、5.3/6.0 プロジェクトも移動できません。

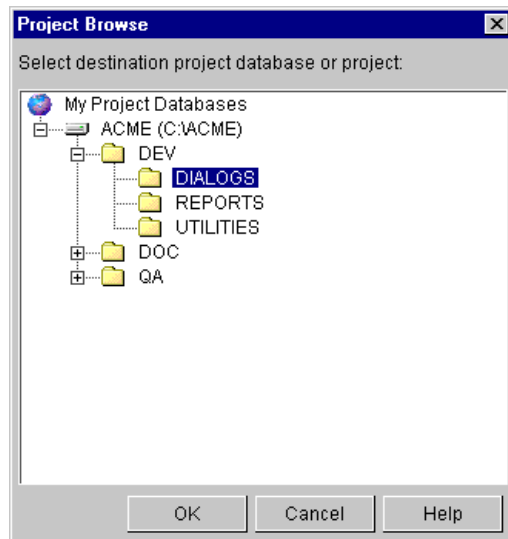
バージョン管理ファイルの移動	バージョン管理ファイルを移動しても、バージョン管理ファイルが参照するアーカイブは移動せず、バージョン管理ファイルは元の場所にあるアーカイブを参照します。
プロジェクト/フォルダの移動	プロジェクトまたはフォルダを移動すると、プロジェクトまたはフォルダに含まれるアイテムのすべて（サブプロジェクトを含む）が選択した移動先に移動します。プロジェクトおよびサブプロジェクトは、元の場所にあるそれぞれのコンフィグレーションファイルを参照します。作業ファイル設定は、そのまま保持されます。

メニューバーによるアイテムの移動

メニューバーの使用 メニューバーを使用してアイテムを移動するには

- 1 移動するアイテムを選択します。

- 2 [Edit (編集)] – [Move (移動)] を選択します。[Project Browse (プロジェクトの参照)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 移動先のプロジェクトデータベース（プロジェクトをプロジェクトデータベースの直下に移動する場合）またはプロジェクトを選択して、【OK】をクリックします。

ドラッグアンドドロップによるアイテムの移動

ドラッグアンドドロップを使う

バージョン管理ファイルは、ファイル表示部からプロジェクト表示部にドラッグアンドドロップして移動します。プロジェクトは、プロジェクト表示部内でドラッグアンドドロップして移動します。

ドラッグアンドドロップを使用してアイテムを移動するには

- 1 移動するアイテムを選択します。
- 2 それを移動先のプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにドラッグアンドドロップします。

アイテムの削除

管理者から必要な権限が割り当てられている場合は、バージョン管理ファイル、リビジョン、プロジェクト、およびサブプロジェクトを削除できます。バージョン管理ファイル、プロジェクト、およびサブプロジェクトを削除しても対応するアーカイブは削除されません。

アイテムの削除に必要な権限については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』の『セキュリティの使用』の章を参照してください。

アイテムを削除するには

- 1 削除するアイテムを選択します。
- 2 [File (ファイル)] – [Delete (削除)] を選択します。アイテムの削除を確認するメッセージが表示されます。

- 3 【Yes (はい)】をクリックしてアイテムを削除します。

選択するアイテム	結果
プロジェクトまたはサブプロジェクト	プロジェクトはプロジェクト表示部から削除されますが、アーカイブはアーカイブディレクトリに残ります。
バージョン管理ファイル	バージョン管理ファイルはファイル表示部から削除されますが、アーカイブはアーカイブディレクトリに残ります。
リビジョン	リビジョンはリビジョン表示部から削除されます。 重要 ：リビジョンはアーカイブから永久的に削除され、復旧できません。

バージョン管理ファイルの復元

バージョン管理ファイルを間違えて削除してしまったため、元のソース管理プロジェクトに再び追加する必要が生じた場合は、プロジェクトにアーカイブをインポートすることによって、それらのバージョン管理ファイルを作成し直すことができます。作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびブランチバージョンが含まれます。104 ページの『[アーカイブのインポート](#)』を参照してください。

不要なアーカイブファイルの削除について

バージョン管理ファイルを削除しても、アーカイブファイルは削除されません。アーカイブファイルを削除する場合は、最初に、以下の条件がすべて満たされていることを確認します。

- 社内の規定で、アーカイブファイルの削除が許可されている。
- それらのアーカイブファイルをほかのプロジェクトで使用していない（リンクされたバージョン管理ファイルや共有アーカイブなど）。



ヒント Serena サポートアカウントを持っている場合は、未使用アーカイブファイルをリストする PCLI スクリプトをダウンロードできます。support.serena.com/で、ナレッジベースの記事 34462 を参照してください（記事内容は英語です）。

- 以前の作業を再現または保守するために、それらのアーカイブファイルを必要としない。
- アーカイブファイルのバックアップファイルが作成されている。

これではじめて、Version Manager 管理者による不要なアーカイブの削除が可能になります。



重要：アーカイブファイルを直接処理する場合は、必ず、事前にアーカイブファイルのバックアップを行ってください。

表示のフィルタ

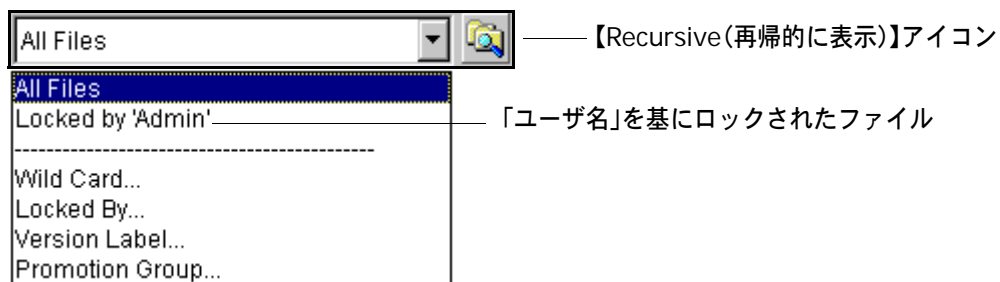
デフォルトでは、プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはフォルダを選択すると、選択したアイテムに関連する全バージョン管理ファイルがファイル表示部に表示されます。ファイルフィルタは、ファイル表示部にフィルタを実行して、フィルタ基準に見合うバージョン管理ファイルのみを表示します。Version Manager では、最後に定義されたフィルタが4つまで保存され、再使用することができます。

ファイルフィルタを
実行する理由

フィルタ可能な条件（同じバージョンラベル、類似のファイル名、同じユーザロックなど）に一致するバージョン管理ファイルのグループにアクションを実行する場合、ファイルフィルタは非常に便利です。

表示をフィルタすると、現在開いているすべてのプロジェクトデータベースに影響します。フィルタを実行するには、メニューバーから [View (表示)] - [Filters (フィルタ)] を選択するか、ツールバーの <File Filter (ファイルフィルタ)> リストを使用します。

ファイルフィルタは以下のように表示されます。<All Files (すべてのファイル)> オプションはデフォルトのオプションで、すべてのプロジェクトおよびフォルダ内の全バージョン管理ファイルを表示します。



フィルタの種類

以下の条件を満たすバージョン管理ファイルのみを表示するよう、表示にフィルタを実行できます。

- 特定ユーザまたは任意のユーザにロックされている
- ワイルドカードファイル名パターンに一致している
- 指定したプロモーショングループと一致するバージョン管理ファイル
- 指定したバージョンラベルと一致するバージョン管理ファイル
- 次の各アイテムのリビジョン番号、更新時間、リビジョンの内容が異なるバージョン管理ファイル
 - 2つのバージョンラベル
 - 2つのプロモーショングループ
 - 1つのバージョンラベルと1つのプロモーショングループ

フィルタを実行した
プロジェクトにアク
ションを実行する

プロジェクト表示部で選択したプロジェクトに対してアクション（チェックアウトなど）を実行する場合、現在のフィルタによって非表示になっているファイルも含め、そのプロジェクト全体にアクションが実行されます。現在のフィルタ条件と一致するバージョン管理ファイルに対してのみアクションを実行するには、ファイル表示部でそれらのバージョン管理ファイルを選択してから、アクションを選択します。




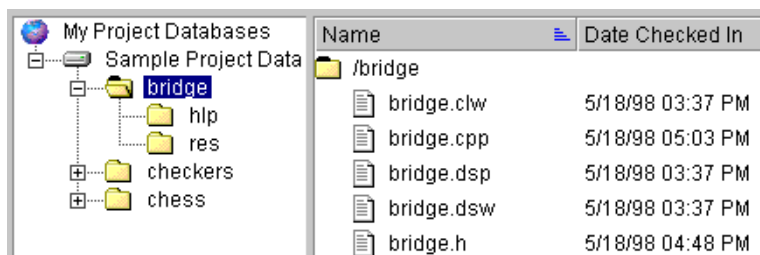
注：フィルタされた表示は、別のフィルタを選択するまでは有効となります。混乱を避けるには、別の作業に移る前に <All Files (すべてのファイル)> 表示に戻してフィルタされた表示をクリアします。


ファイルの再帰的な表示

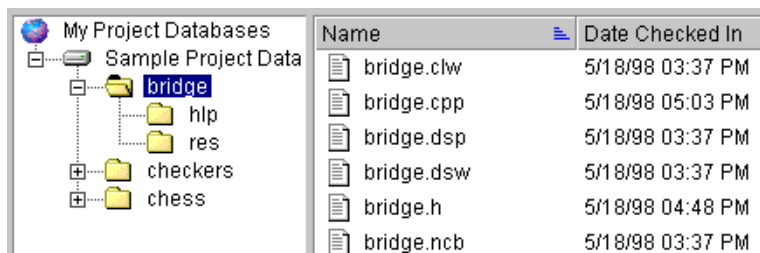
デフォルトでは、ファイル表示部には、プロジェクト表示部で選択したアイテム（プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクト）のルートに置かれているバージョン管理ファイルのみが表示されます。再帰的な表示を選択しないかぎり、ネストされたプロジェクトとサブプロジェクト内に含まれるプロジェクト、サブプロジェクト、およびファイルは表示されません。

次のようにして、再帰的と非再帰的との間で表示を切り替えます。

- 1 プロジェクト表示部で、プロジェクトデータベースまたは表示するプロジェクトを選択します。
- 2 【Recursive（再帰的）】 / 【Non-recursive（非再帰的）】アイコンをクリックします。ボタンの外観は、どちらのフィルタモードが有効になっているかを反映して変化します。
 -  Recursive（再帰的）：ファイル表示部には、プロジェクト表示部で選択したアイテムに含まれる、すべてのプロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理ファイルが表示されます。



-  Non-recursive（非再帰的）：ファイル表示部には、プロジェクト表示部で選択したアイテムのルートに含まれるバージョン管理ファイルのみが表示されます。

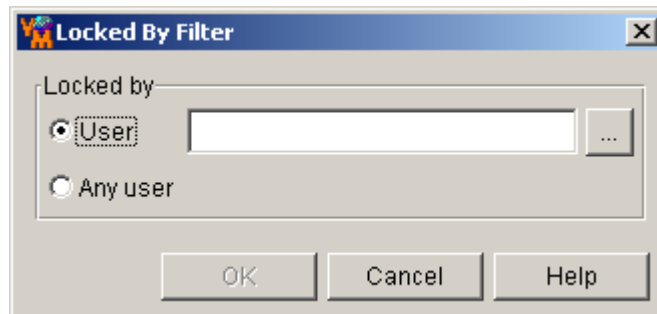


ロック設定者によるフィルタ

このフィルタを使用して特定のユーザまたは任意のユーザがロックしたバージョン管理ファイルを検索します。

ロックフィルタを設定するには

- 1 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Locked By (ロック)] を選択するか、ツールバーの <File Filter (ファイルフィルタ)> ドロップダウンリストから <Locked By (ロック)> オプションを選択します。[Locked By Filter (ロック設定者フィルタ)] ダイアログボックスが表示されます。



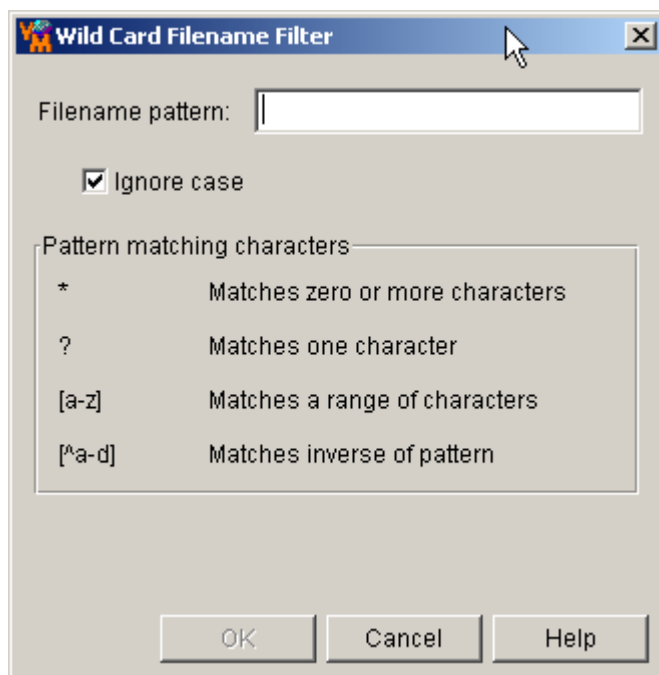
- 2 以下のいずれかを実行します。
 - 特定ユーザによってロックされたバージョン管理ファイルを表示するには、<Users (ユーザ)> オプションを選択し、1つ以上のユーザIDを入力します。複数のユーザIDは区切り文字で区切ります。デフォルトの区切り文字は、セミコロン (;) です。区切り文字についての詳細は、142 ページの『フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定』を参照してください。
 - ロック設定者に関係なく、ロックされたすべてのバージョン管理ファイルを表示するには、<Any user (すべてのユーザ)> オプションを選択します。
- 3 【OK】をクリックします。

ワイルドカードファイル名によるフィルタ

このフィルタを使用して指定したワイルドカード名パターンに一致するバージョン管理ファイルを検索します。

ワイルドカードフィルタを設定するには

- 1 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Wild Card (ワイルドカード)] を選択するか、ツールバーの〈File Filter (ファイルフィルタ)〉ドロップダウンリストから〈Wild Card (ワイルドカード)〉オプションを選択します。[Wild Card Filename Filter (ワイルドカードファイル名フィルタ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 〈Filename pattern (ファイル名のパターン)〉フィールドにフィルタ条件を入力します。

使用するワイルドカード	一致する文字
*	ゼロ個以上の任意の文字。 たとえば、DLL という拡張子のついた全バージョン管理ファイルを検索するには、*.DLLと入力します。
?	任意の 1 文字。 たとえば、TEST01.DLL、TEST02.DLL、...、TESTXX.DLL のように、一定の法則を持つファイル名を持つバージョン管理ファイルを検索するには、TEST??.DLL と入力します。
[-]	一定範囲の文字。 たとえば、A、B、C、D の文字で始まるファイル名のバージョン管理ファイルすべてを検索するには、[A-D]*と入力します。
^	括弧で囲まれた以外の文字 (たとえば、[^A-D]*は、A、B、C、D 以外で始まるすべてのファイル名)。

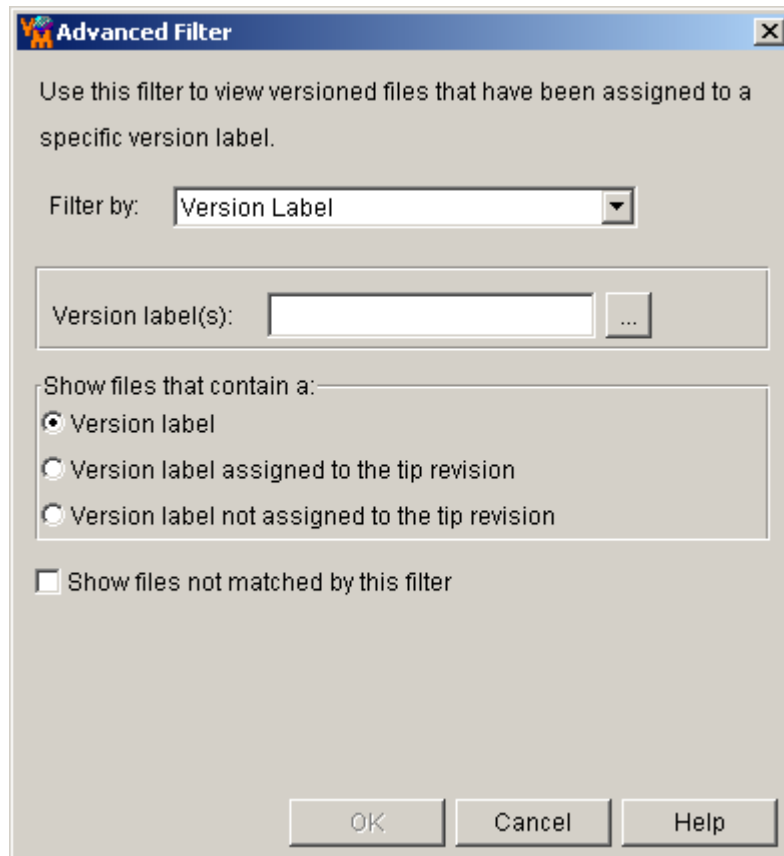
- 3 【OK】をクリックします。

バージョンラベルによるフィルタ

このフィルタを使用して指定したバージョンラベルが含まれているバージョン管理ファイルを検索します。

「バージョンラベル」フィルタを設定するには

- 1 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Advanced Filter (高度なフィルタ)] を選択するか、ツールバーの〈File Filter (ファイルフィルタ)〉ドロップダウンリストから〈Advanced Filter (高度なフィルタ)〉を選択します。[Advanced Filter (高度なフィルタ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 フィルタするバージョンラベルの名前を〈Version label(s) (バージョンラベル)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。複数のバージョンラベルは区切り文字で区切ります。デフォルトの区切り文字は、セミコロン (;) です。区切り文字についての詳細は、142 ページの『フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定』を参照してください。



注：バージョンラベルでは、大文字小文字が区別されます。大文字小文字を正確に入力してください。

- 3 指定したバージョンラベルを特定のリビジョンに含むバージョン管理ファイルを表示するには、対応するオプションを 1 つ選択します。
 - 任意のリビジョン - 〈Version label (バージョンラベル)〉
 - チップリビジョン - 〈Version label assigned to the tip revision (チップリビジョンに割り当てられているバージョンラベル)〉

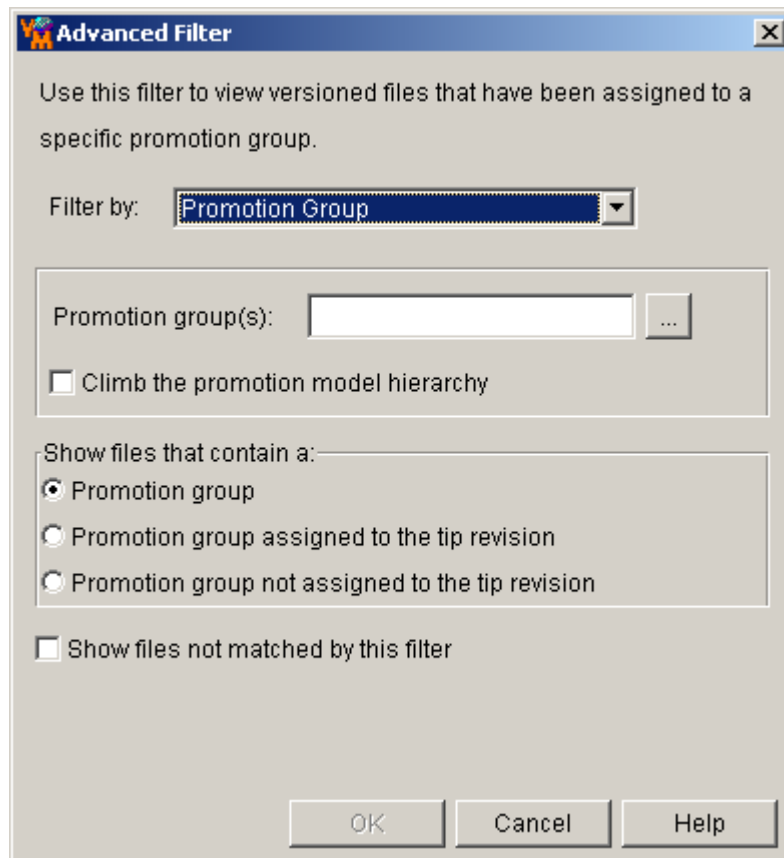
- チップリビジョン以外の任意のリビジョン - (Version label not assigned to tip revision (チップリビジョンに割り当てられていないバージョンラベル))
- 4 フィルタの論理を反転するには、(Show files not matched by this filter (このフィルタに合致しないファイルを表示)) チェックボックスを選択します。
 - 5 【OK】をクリックします。

プロモーショングループによるフィルタ

このフィルタを使用して指定したプロモーショングループを含むファイルを検索します。

「プロモーショングループ」フィルタを設定するには

- 1 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Advanced Filter (高度なフィルタ)] を選択するか、ツールバーの (File Filter (ファイルフィルタ)) ドロップダウンリストから (Advanced Filter (高度なフィルタ)) を選択します。[Advanced Filter (高度なフィルタ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 (Filter by (フィルタ)) リストから (Promotion Group (プロモーショングループ)) オプションを選択します。
- 3 フィルタするプロモーショングループの名前を (Promotion group(s) (プロモーショングループ)) フィールドに入力するか、参照して選択します。複数のプロモーショングループは区切り文字で区切ります。デフォルトの区切り文字は、セミコロン (;) です。区切り文字についての詳細は、142 ページの『フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定』を参照してください。
- 4 指定したプロモーショングループが見つからない場合、上位のプロモーショングループを検索することができます。この際、プロモーションモデルの階層は上方向に検索され、一致項目が見つ

かるか、プロモーションモデルの最高レベルに達するまで検索が続けられます。この機能を有効にするには、〈Climb the promotion model hierarchy (プロモーションモデルの階層を上げる)〉チェックボックスを選択します。

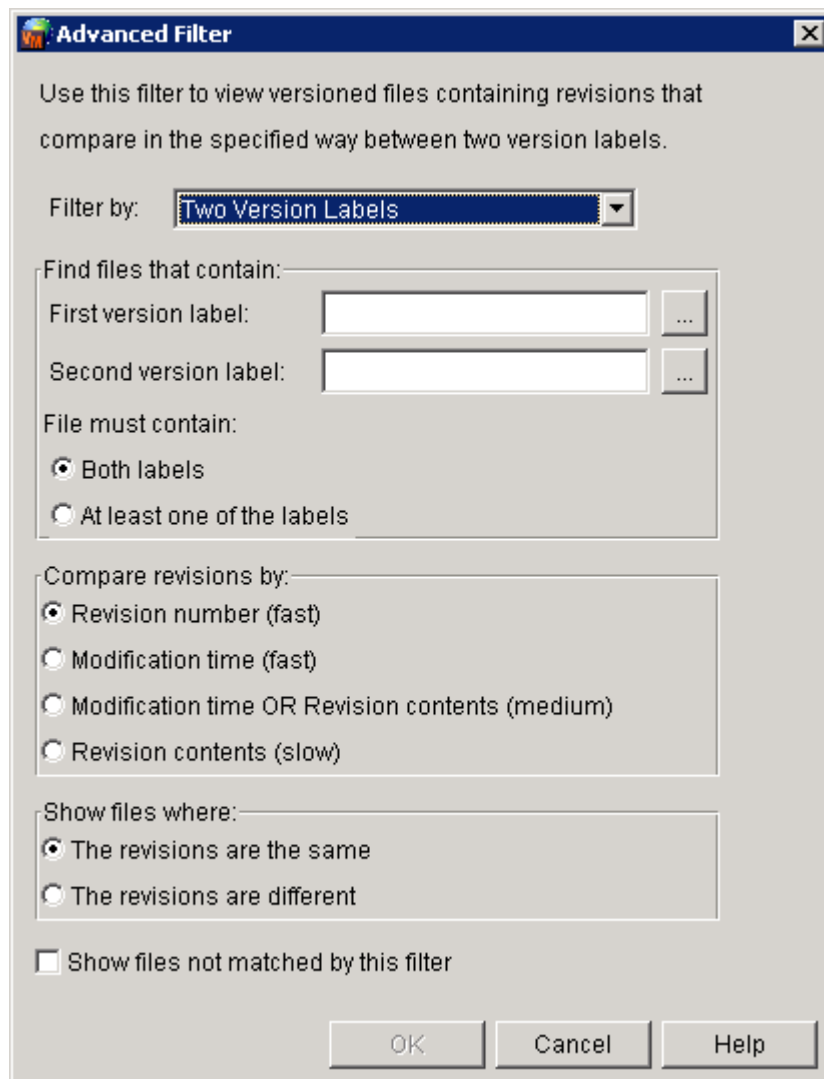
- 5 次のオプションの 1 つを選択して、次のリビジョンの中から指定したプロモーショングループが入っているバージョン管理ファイルを表示します。
 - 任意のリビジョン - 〈Promotion group (プロモーショングループ)〉
 - チップリビジョン - 〈Promotion group assigned to the tip revision (チップリビジョンに割り当てられているプロモーショングループ)〉
 - チップリビジョン以外の任意のリビジョン - 〈Promotion group not assigned to tip revision (チップリビジョンに割り当てられていないプロモーショングループ)〉
- 6 フィルタの論理を反転するには、〈Show files not matched by this filter (このフィルタに合致しないファイルを表示)〉チェックボックスを選択します。
- 7 【OK】をクリックします。

2つのバージョンラベル間の比較によるフィルタ

このフィルタを使用して、指定した2つのバージョンラベル間のリビジョンが異なるか、あるいは一致するバージョン管理ファイルを検索します。

2つのバージョンラベル間の比較フィルタを設定するには

- 1 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Advanced Filter (高度なフィルタ)] を選択するか、ツールバーの〈File Filter (ファイルフィルタ)〉ドロップダウンリストから〈Advanced Filter (高度なフィルタ)〉を選択します。[Advanced Filter (高度なフィルタ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 〈Filter by (フィルタ)〉リストから〈Two Version Labels (2つのバージョンラベル)〉オプションを選択します。
- 3 フィルタするバージョンラベル名を〈First version label (1番目のバージョンラベル)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。



注：バージョンラベルでは、大文字小文字が区別されます。大文字小文字を正確に入力してください。

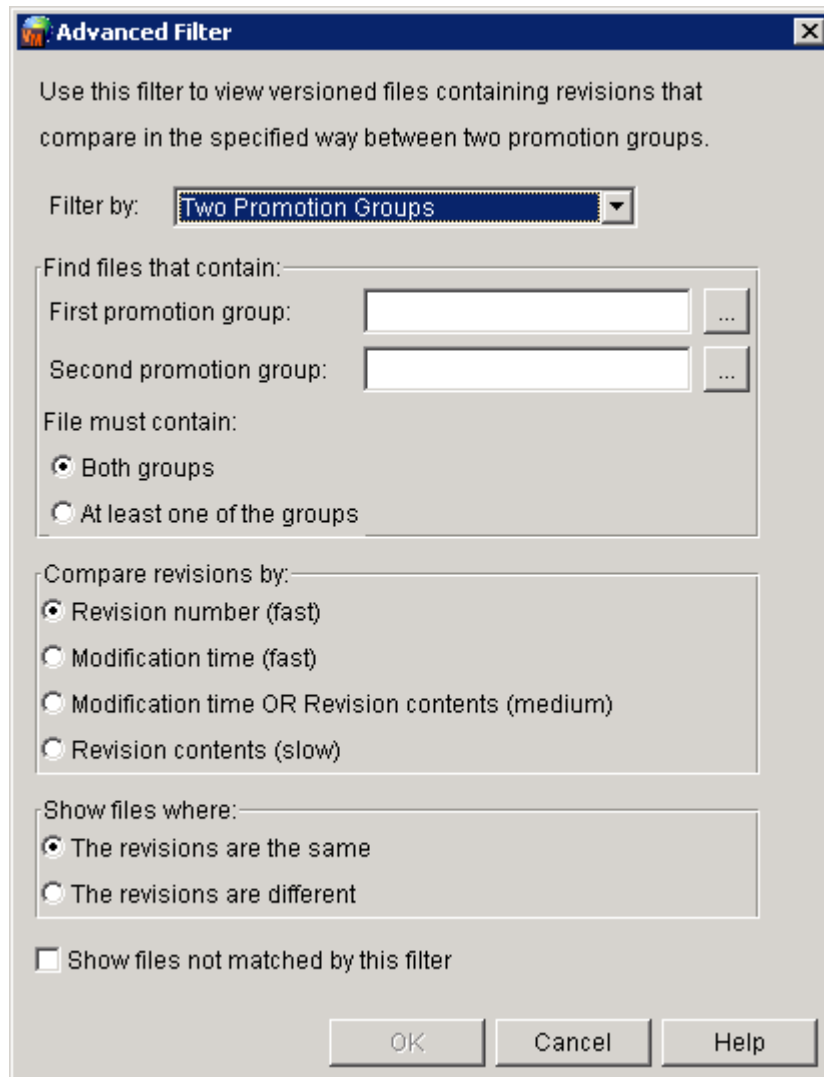
- 4 フィルタするバージョンラベル名を〈Second version label (2番目のバージョンラベル)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。
- 5 ファイルがどこに含まれるのかを次のように指定します。
 - 両方のラベル
 - 少なくとも1つのラベル
- 6 リビジョンの比較処理を、次のオプションの中から選択します。
 - Revision number (リビジョン番号)。
 - Modification time (変更時刻)。
 - Modification time OR Revision contents (更新時刻またはリビジョンの内容)：最初に、リビジョンの更新時間が比較されます。更新時間が同じ場合は、次にリビジョンの内容が比較されます。多数のリビジョンに同じ更新時間が設定されている場合は、処理に時間がかかります。
 - Revision contents (リビジョンの内容)：リビジョンの内容が比較されます。このオプションは最も時間がかかります。
- 7 ファイルを表示する条件を、次の中から選択します。
 - The revisions are the same (リビジョンが一致)
 - The revisions are different (リビジョンが異なる)
- 8 フィルタの論理を反転するには、〈Show files not matched by this filter (このフィルタに合致しないファイルを表示)〉チェックボックスを選択します。
- 9 【OK】をクリックします。

2つのプロモーショングループの比較によるフィルタ

このフィルタを使用して、指定した2つのプロモーショングループ間のリビジョンが異なるか、あるいは一致するバージョン管理ファイルを検索します。

2つのプロモーショングループ間の比較フィルタを設定するには

- 1 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Advanced Filter (高度なフィルタ)] を選択するか、ツールバーの〈File Filter (ファイルフィルタ)〉ドロップダウンリストから〈Advanced Filter (高度なフィルタ)〉を選択します。[Advanced Filter (高度なフィルタ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 〈Filter by (フィルタ)〉リストから〈Two Promotion Groups (2つのプロモーショングループ)〉オプションを選択します。
- 3 フィルタ処理するプロモーショングループ名を〈First promotion group (1番目のプロモーショングループ)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。
- 4 フィルタするプロモーショングループ名を〈Second promotion group (2番目のプロモーショングループ)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。

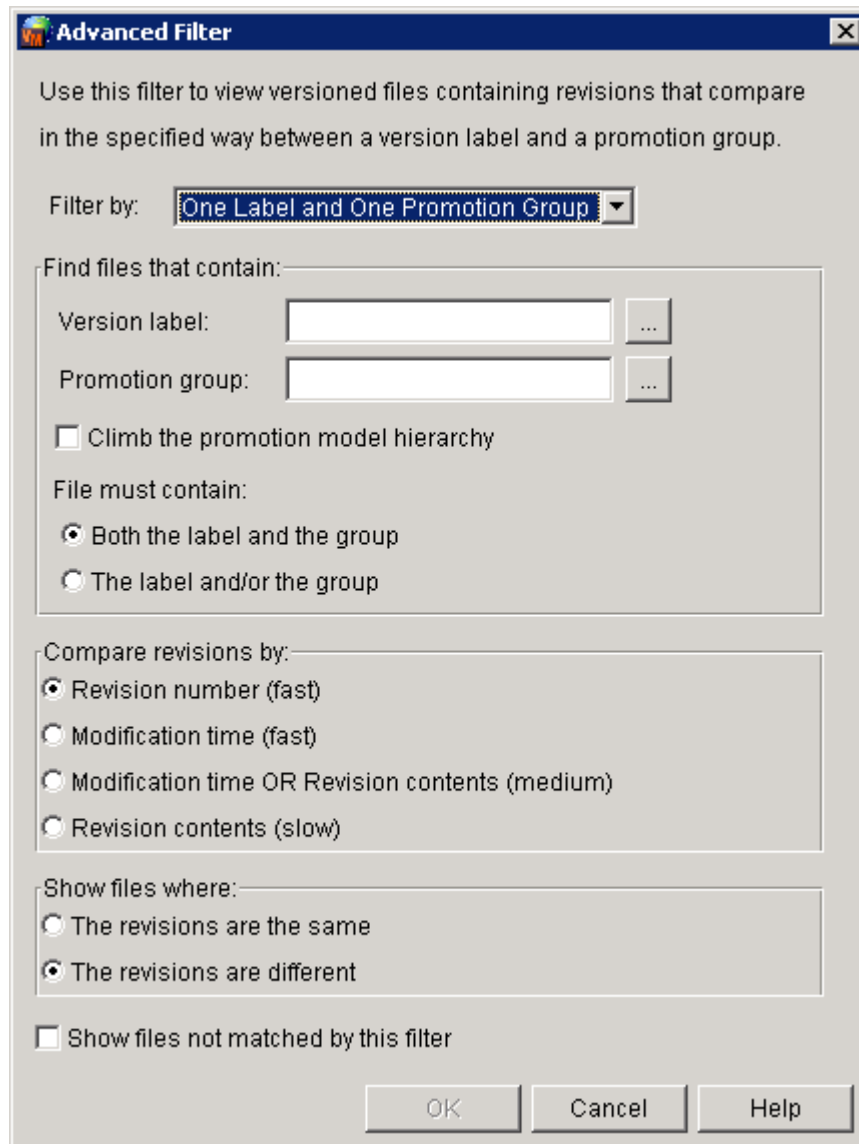
- 5 ファイルがどこに含まれるのかを次のように指定します。
 - Both groups (両方のグループ)
 - At least one of the groups (少なくとも1つのグループ)
- 6 リビジョンの比較処理を、次のオプションの中から選択します。
 - Revision number (リビジョン番号)。
 - Modification time (変更時刻)。
 - Modification time OR Revision contents (更新時間またはリビジョンの内容)：最初に、リビジョンの更新時間が比較されます。更新時間が同じ場合は、次にリビジョンの内容が比較されます。多数のリビジョンに同じ更新時間が設定されている場合は、処理に時間がかかります。
 - Revision contents (リビジョンの内容)：リビジョンの内容が比較されます。このオプションは最も時間がかかります。
- 7 ファイルを表示する条件を、次の中から選択します。
 - The revisions are the same (リビジョンが一致)
 - The revisions are different (リビジョンが異なる)
- 8 フィルタの論理を反転するには、〈Show files not matched by this filter (このフィルタに合致しないファイルを表示)〉チェックボックスを選択します。
- 9 【OK】をクリックします。

バージョンラベルとプロモーショングループの比較によるフィルタ

このフィルタを使用して、指定したバージョンラベルと指定したプロモーショングループのバージョンが異なるか、あるいは一致するバージョン管理ファイルを検索します。

バージョンラベルとプロモーショングループの相違点を使用したフィルタを設定するには

- 1 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Advanced Filter (高度なフィルタ)] を選択するか、ツールバーの <File Filter (ファイルフィルタ)> ドロップダウンリストから <Advanced Filter (高度なフィルタ)> を選択します。[Advanced Filter (高度なフィルタ)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 <Filter by (フィルタ)> リストから <One Label and One Promotion Group (1 つのラベルと 1 つのプロモーショングループ)> オプションを選択します。

- 3 フィルタ処理するバージョンラベル名を〈Version label (バージョンラベル)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。



注：バージョンラベルでは、大文字小文字が区別されます。大文字小文字を正確に入力してください。

- 4 フィルタ処理するプロモーショングループ名を〈Promotion group (プロモーショングループ)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。
- 5 ファイルがどこに含まれるのかを次のように指定します。
 - Both the label and the group (ラベルとグループの両方)
 - The label and/or the group (ラベルまたはグループ)
- 6 指定したプロモーショングループが見つからない場合、上位のプロモーショングループを検索することができます。この際、プロモーションモデルの階層は上方向に検索され、一致項目が見つかるか、プロモーションモデルの最高レベルに達するまで検索が続けられます。この機能を有効にするには、〈Climb the promotion model hierarchy (プロモーションモデルの階層を上げる)〉チェックボックスを選択します。
- 7 リビジョンの比較処理を、次のオプションの中から選択します。
 - Revision number (リビジョン番号)。
 - Modification time (変更時刻)。
 - Modification time OR Revision contents (更新時間またはリビジョンの内容)：最初に、リビジョンの更新時間が比較されます。更新時間が同じ場合は、次にリビジョンの内容が比較されます。多数のリビジョンに同じ更新時間が設定されている場合は、処理に時間がかかります。
 - Revision contents (リビジョンの内容)：リビジョンの内容が比較されます。このオプションは最も時間がかかります。
- 8 ファイルを表示する条件を、次の中から選択します。
 - The revisions are the same (リビジョンが一致)
 - The revisions are different (リビジョンが異なる)
- 9 フィルタの論理を反転するには、〈Show files not matched by this filter (このフィルタに合致しないファイルを表示)〉チェックボックスを選択します。
- 10 【OK】をクリックします。

全バージョン管理ファイルの表示 (フィルタなし)

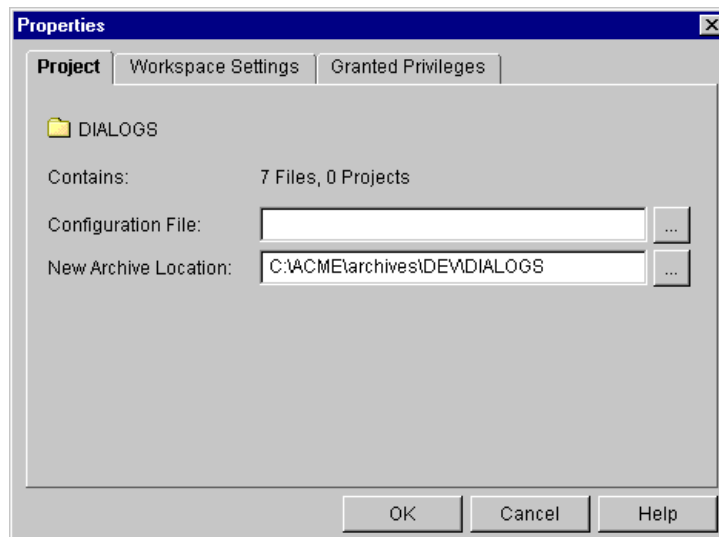
フィルタ表示をクリアして、全バージョン管理ファイルを表示するには、[View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [All Files (すべてのファイル)] を選択するか、ツールバーの〈File Filter (ファイルフィルタ)〉ドロップダウンリストから〈All Files (すべてのファイル)〉を選択します。

プロパティの確認

任意のアイテムのプロパティを Version Manager デスクトップクライアントで確認できます。

アイテムのプロパティを表示するには：

- 1 アイテムを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。



[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスの形式および表示されるプロパティは、選択したアイテムによって異なります。

選択するアイテム	以下の操作を実行できます。
プロジェクト データベース	含まれるアイテム、コンフィグレーションファイル、アーカイブの場所、ツールバーコンフィグレーションファイル、ワークスペース設定、ユーザ権限の表示および変更
プロジェクトまたは サブプロジェクト	含まれるアイテム、コンフィグレーションファイル、アーカイブの場所、ワークスペース設定、ユーザ権限の表示および変更
5.3/6.0 プロジェクト ルート	含まれるアイテム、コンフィグレーションファイル、ツールバーコンフィグレーションファイル、ワークスペース設定の表示および変更
5.3/6.0 プロジェクト	含まれるアイテム、コンフィグレーションファイル、ワークスペース設定の表示および変更
バージョン 5.3/6.0 の フォルダ	含まれるアイテム、作業ファイルの場所の表示および変更
バージョン管理ファイル	アーカイブ情報の表示、コメントまたは作業ファイルの場所の変更。リビジョンに関連付けられたバージョンラベル、プロモーショングループ、ブランチの表示。
リビジョン	リビジョン情報の表示、リビジョンコメントの変更。リビジョンに関連付けられたバージョンラベル、プロモーショングループ、ブランチの表示。

選択するアイテム	以下の操作を実行できます。
バージョンラベル	リビジョン情報の表示、リビジョンコメントの変更。バージョンラベル、プロモーショングループ、ブランチの表示。
プロモーショングループ	リビジョン情報の表示、リビジョンコメントの変更。バージョンラベル、プロモーショングループ、ブランチの表示。

第 3 章

プロジェクトデータベースの操作

プロジェクトデータベースについて	82
プロジェクトデータベースのオープン	82
プロジェクトデータベースを閉じる	84
シナリオ：既存のプロジェクトデータベースを開いてログインする	85

プロジェクトデータベースについて

プロジェクトデータベースはプロジェクト構造の格納場所です。デスクトップクライアントでは、プロジェクトデータベースの下にプロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理ファイルが表示されます。各プロジェクトデータベースには、一連のコンフィグレーションオプション、1 つ以上のワークスペース、1 つのツールバーコンフィグレーションファイルがあり、必要に応じてアクセスコントロールデータベースが追加されます。

デフォルトでは、オペレーティングシステム上のプロジェクトデータベースの場所には、プロジェクトデータベースコンフィグレーションファイル、ユーザデータ用のディレクトリ、作業ファイル、およびアーカイブがあります。

通常、プロジェクトデータベースは管理者が作成します。ユーザは、プロジェクトデータベースに作業ファイルディレクトリを追加して、バージョン管理ファイルのプロジェクトを作成します。

プロジェクトデータベースの構造や作成方法についての詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

新規プロジェクトデータベースについて

Version Manager を最初に起動したときに、〈Create a new project database (新規プロジェクトデータベースを作成する)〉チェックボックスを選択すると、新規プロジェクトデータベースを作成できます。新規プロジェクトデータベースが作成できない場合は、管理者に問い合わせ、プロジェクトデータベース作成の権限が付与されているかを確認してください。この新規プロジェクトデータベースをサンプルのプロジェクトデータベースとともに使用すると、Version Manager タスクの練習をしたり、名前を変更して実際の作業ファイルを格納したりすることができます。

デフォルトでは、プロジェクトデータベースはインストールディレクトリの下に作成されます。

- Windows の場合：Program Files\Serena\vm\Newdb
- UNIX の場合：/usr/serena/vm/unix/newdb

新規プロジェクトデータベース用としてオペレーティングシステム上に作成されるディレクトリおよびファイルは、以下のとおりです。

作成されるディレクトリ	内容
アーカイブディレクトリ (\newdb\archives)	プロジェクトをプロジェクトデータベースに追加する場合、アーカイブはこのディレクトリに保存されます。このディレクトリには、新規プロジェクトデータベース用のコンフィグレーションファイル、およびデフォルトのアクセスコントロールデータベースも含まれます。
Pvcuser ディレクトリ (\newdb\pvcuser)	プロジェクトデータベースにユーザが最後に設定したワークスペースなど、ユーザに関する情報が含まれます。

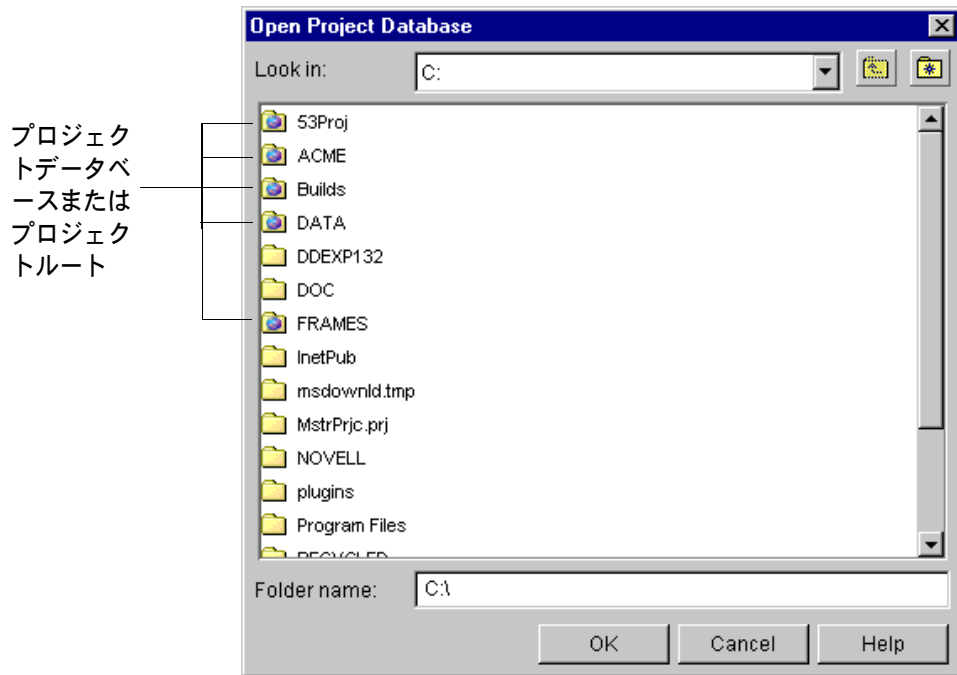
プロジェクトデータベースの設定についての詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。


プロジェクトデータベースのオープン

バージョン管理下のプロジェクト、サブプロジェクト、またはバージョン管理ファイルにアクセスするには、プロジェクトデータベースを開く必要があります。

プロジェクトデータベースを開くには

- 1 [File (ファイル)] - [Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)] を選択します。[Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 開くプロジェクトデータベースの場所を参照します。プロジェクトデータベースおよび 5.3/6.0 プロジェクトルートは、[Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)] ダイアログボックスに Serena 地球儀のついたフォルダ () で表示されます。



注：5.3/6.0 プロジェクトルートの場合は、この場所は、Version Manager 5.3/6.0 デスクトップクライアントの [Options (オプション)] - [Data File Locations (データファイルロケーション)] で入力した場所です。ここには Pvcproj.pub ファイルが含まれています。

プロジェクトデータベースディレクトリには、少なくとも、pvcuser ディレクトリ、および Version Manager プロジェクトデータベースファイル (pvcid.ser、pvcroot.old および pvcroot.ser) が含まれています。デフォルトを無効にしないかぎり、プロジェクトデータベースには、通常アーカイブディレクトリと作業ディレクトリが格納されています。

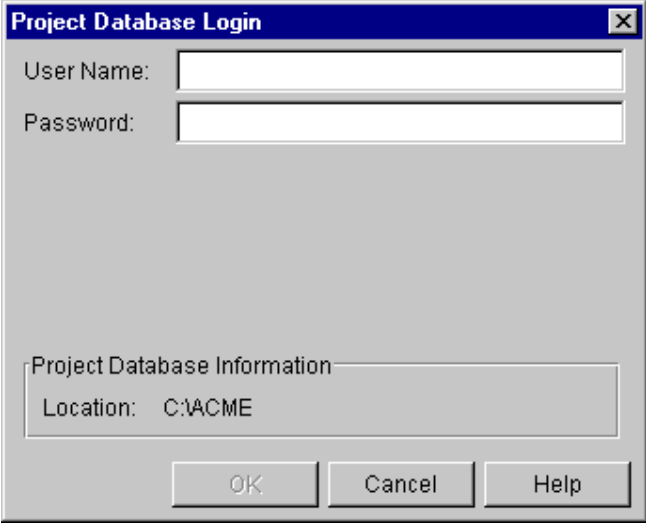


注：< Look in (検索先) > リストボックスで < File Servers (ファイルサーバ) > を選択して、Version Manager のファイルサーバ上で使用できるプロジェクトデータベースの一覧を表示します。

- 3 【OK】をクリックします。選択したプロジェクトデータベースがプロジェクト表示部に表示されます。

プロジェクトデータベースへのログイン

管理者がユーザ名とパスワードを入力するように設定した場合は、[Project Database Login (プロジェクトデータベースログイン)] ダイアログボックスが表示されます。通常、ユーザ名とパスワードは、管理者によって割り当てられます。



プロジェクトデータベースにログインするには

- 1 〈User Name (ユーザ名)〉フィールドにユーザ ID を入力します。
- 2 〈Password (パスワード)〉フィールドにパスワードを入力します。
- 3 【OK】をクリックします。プロジェクトデータベースがプロジェクト表示部に表示されます。



注：プロジェクトデータベースにログインできない場合は、管理者に問い合わせ、ユーザ ID およびパスワードを確認してください。

プロジェクトデータベースを閉じる

プロジェクトデータベースは、ユーザが閉じるまでは、プロジェクト表示部に表示されます。

プロジェクトデータベースを閉じるには

- 1 閉じるプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Close Project Database (プロジェクトデータベースを閉じる)] を選択します。

シナリオ：既存のプロジェクトデータベースを開いてログインする



Version Manager を導入する準備として、システム管理者の井上さんは、この製品をインストールするネットワーク上の場所および Games プロジェクトデータベースのネットワーク上の場所を阿部さんに伝えました。Version Manager は h:\vm に、プロジェクトデータベースは h:\vm\games に格納されています。阿部さんは Version Manager を自分のワークステーションにインストールし、[スタート] メニューから [Serena] - [ChangeMan Version Manager] - [Version Manager] を選択します。

阿部さんは Games プロジェクトデータベースの場所を参照し、それを開こうとしています。管理者がプロジェクトデータベースへアクセスするときにパスワードを入力するよう設定しているため、阿部さんは井上さんから教えられたユーザ名、SABe とパスワード、PrjLead を入力する必要があります（ユーザ識別プロセスについての詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』の『ログインソース』のセクションを参照してください）。ユーザ名とパスワードを入力すると、Games プロジェクトデータベースが開かれ、プロジェクト表示部に表示されます。

Games プロジェクトデータベースには、プロジェクトもバージョン管理ファイルもまだ存在していません。次のシナリオで、阿部さんは 4 つのプロジェクトをデータベースに配置します。ただし、すでに定義されているプロジェクトデータベースには、以下の特性があります。

- **コンフィグレーション設定：**Version Manager 機能のデフォルト設定が指定されています。Version Manager が全ユーザに対して同様に機能するよう、また、不注意でデータを壊してしまうことがないように、井上さんは、Games プロジェクトデータベースとそのプロジェクトだけでなく、全プロジェクトデータベースを管理するマスターコンフィグレーションファイルを埋め込んでいます。マスターコンフィグレーションファイルで、井上さんはグローバルオプションを定義して、どのプロジェクトデータベースまたはプロジェクトに対してもほかの人がオプションをリセットできないように設定しました。たとえば、井上さんのマスターコンフィグレーションファイルは、全プロジェクトデータベースが以下のタスクを首尾一貫して実行するよう設定されています。
 - ファイルをチェックインしたときにアーカイブを作成する
 - ユーザを Netware ID、Host ID、および [Login (ログイン)] ダイアログボックスで識別する
 - アクセスコントロールデータベースを、h:\vm に格納する
 - 多重ロックを許可する
 - 共通のネットワークディレクトリにセマフォファイルを格納する
 - 同一のプロモーションモデルを使用する
 - 全アーカイブファイルに arc という拡張子を使用する
- ユーザは、これらの特性に関する設定は変更できませんが、適切な権限を持っている場合は、そのほかのコンフィグレーションオプションを変更することができます。詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- **ワークスペースの特性：**プロジェクトデータベースの作業設定が指定されています。ワークスペースには以下の設定が格納されています。

- デフォルトの作業ファイルの場所：プロジェクトデータベースに含まれるプロジェクト、サブプロジェクトおよびバージョン管理ファイルのデフォルトの作業ファイルの場所。デフォルトの作業ファイルの場所は、リビジョンのチェックアウト先および作業ファイルのチェックイン元であるディレクトリです。阿部さんがプロジェクトを追加すると、作業ファイルの場所は、自分で変更しないかぎり、井上さんによってデータベースに指定された作業ファイルの場所に関連付けられます。たとえば、Games プロジェクトデータベースのデフォルト作業ファイルの場所は `h:\vm\games\work` です。阿部さんが最初のプロジェクトである Chess を追加すると、作業ファイルの場所は `h:\vm\games\work\chess` となります。次のシナリオでは、阿部さんとチームが、もっと開発を効率的に行うために、作業ファイルの場所を変更する方法を説明します。
- デフォルトリビジョン：ユーザが明示的に特定のリビジョンを選択せずにアクションを実行したときに、アクションの対象となるリビジョン。たとえば、管理者は、アクションの対象として特定のバージョンラベルを指定できます。井上さんは最新のリビジョン（チップリビジョン）をデフォルトリビジョンとして定義しました。Games 開発者が特定のリビジョンを指定しないでファイルをチェックアウトした場合は、自動的にファイルの最新バージョンがチェックアウトされます。
- 自動ブランチおよびマージのオプション設定：ブランチおよびマージについては、この後のシナリオで説明しています。ブランチを自動化する方法およびマージタスクについての詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- セキュリティ定義：アクセスコントロールデータベースに格納されるセキュリティ定義は、Games プロジェクトデータベースで認証されているユーザ、およびそれらのユーザが実行できるアクションを識別します。すでに阿部さんは、全開発者、それぞれの役割、割り当てられたプロジェクトについての詳細なリストを井上さんに渡してあります。井上さんは、その情報を使ってユーザを追加し、各ユーザに応じた権限を与えます。アクセスコントロールデータベースの設定についての詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- カスタムツールバー：頻繁に使用するアプリケーションやタスクへのショートカットを提供するオプションです。管理者は、別々にカスタマイズしたツールバーを各プロジェクトデータベースに関連付けることができます。井上さんは、Games プロジェクトデータベースには、まだどのカスタム設定も定義していません。詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

第 4 章

Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルート の操作

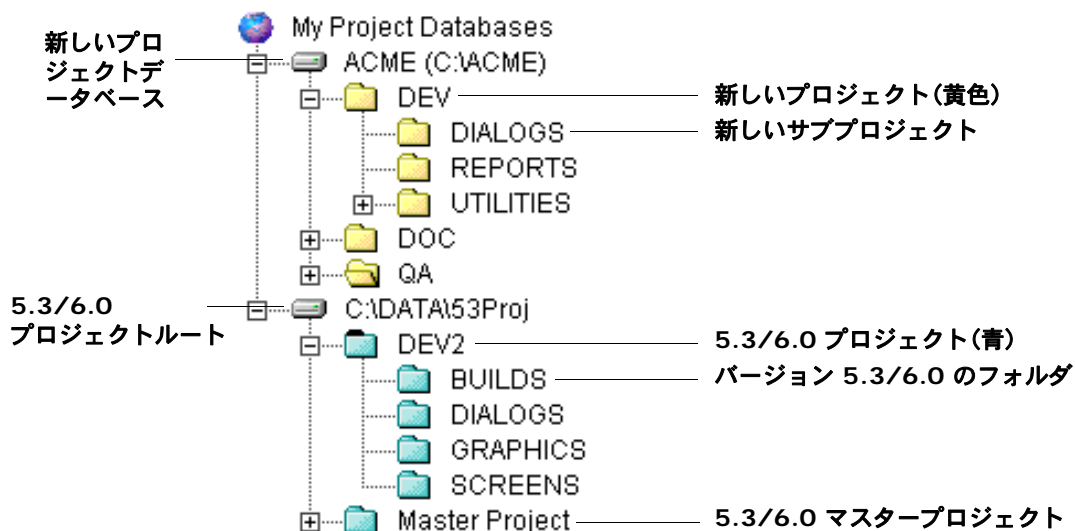
5.3/6.0 プロジェクトルートについて	88
5.3/6.0 プロジェクトルートのオープン	89
5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー	91
5.3/6.0 プロジェクトルートのクローズ	91
シナリオ：Version Manager で 5.3/6.0 プロジェクトルートを開く	92

5.3/6.0 プロジェクトルートについて

5.3/6.0 フォーマットと新しいフォーマット
5.3/6.0 Version Manager プロジェクトで作業する場合は、それを Version Manager プロジェクトの新しいフォーマットにアップグレードするか、既存の 5.3/6.0 フォーマットのままにしておくかを決める必要があります。

5.3/6.0 プロジェクトルートを更新する前に、『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』の『Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの作業』のセクションをお読みください。

外観の違い
バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートを新しいバージョンの Version Manager デスクトップクライアントで開き、新しいプロジェクトフォーマットにアップグレードせずに、そのプロジェクトルートに含まれているプロジェクトとバージョン管理ファイルを使用して引き続き作業することができます。バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートを開くと、以下に示すように、新しいプロジェクトデータベースとは多少異なる形式で表示されます。



たとえば、次のような点が異なります。

- 5.3/6.0 プロジェクトルートは、名前ではなく、プロジェクトパスによって表示されます。
- 5.3/6.0 プロジェクトルートには、プロジェクトデータベースでは使用されないマスタープロジェクトが含まれています。
- デスクトップクライアントで簡単に区別できるように、5.3/6.0 のプロジェクトルート内のプロジェクトおよびフォルダは青色で示され、プロジェクトデータベース内のプロジェクトおよびサブプロジェクトは黄色で示されます。

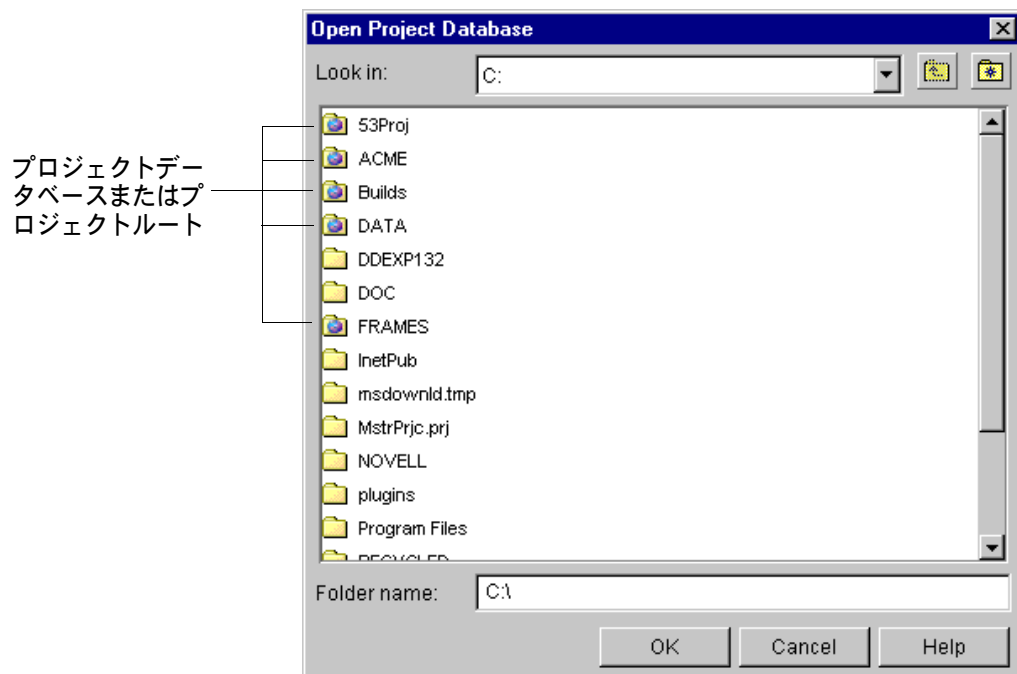
5.3/6.0 プロジェクトルートのオープン


5.3/6.0 プロジェクトを新しいデスクトップクライアントで開くと、5.3/6.0 プロジェクトルートで作業をするときに使用できる機能のサブセットのみを使用できます。これらの機能制限は、5.3/6.0 プロジェクトルートとの互換性を保つためのものです。

Version Manager の新機能をすべて使用するには、5.3/6.0 プロジェクトルートを新しいプロジェクトデータベースにコピーする必要があります。詳細は、『Serena PVCS Version Manager 入門ガイド』の『Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの作業』を参照してください。

バージョン5.3/6.0のプロジェクトルートを開くには

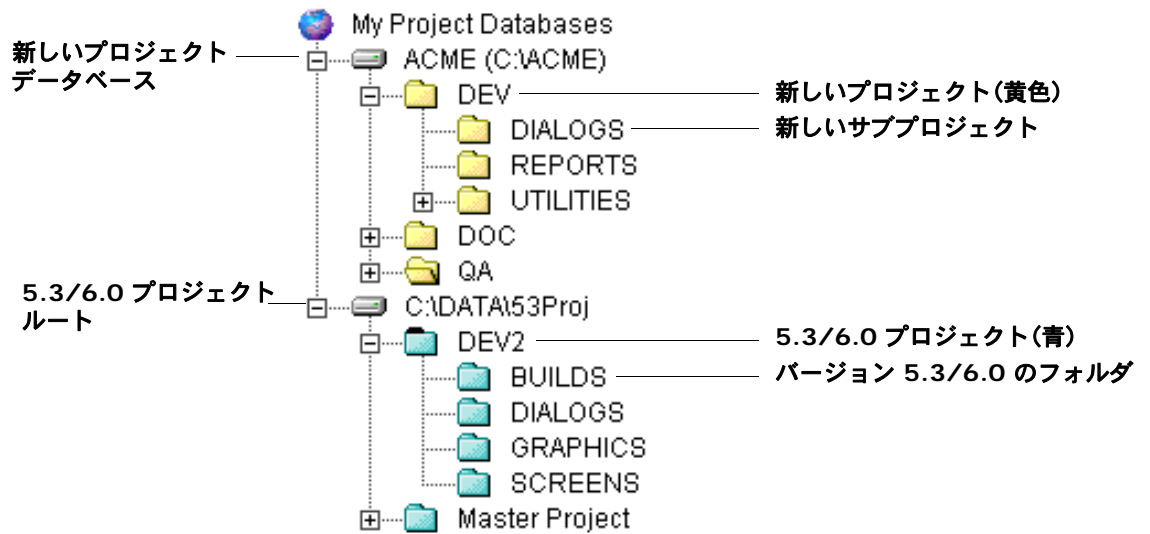
- 1 [File (ファイル)] - [Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)] を選択します。[Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 開こうとしているプロジェクトルートの場所を選択します。プロジェクトルートおよびプロジェクトデータベースは、[Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)] ダイアログボックスに Serena 地球儀のついたフォルダ () で表示されます。

注：プロジェクトルートの場所は、5.3/6.0 プロジェクトのデータファイルの場所と同じです。

- 開く 5.3/6.0 プロジェクトルートを選択し、【OK】をクリックします。選択した 5.3/6.0 プロジェクトルートがプロジェクト表示部に表示されます。



- 5.3/6.0 プロジェクトルートに関連するプロジェクトおよびフォルダを表示するには、5.3/6.0 プロジェクトルートをダブルクリックします。

5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー

5.3/6.0 プロジェクトルートは、Version Manager データベースにコピーできます。5.3/6.0 プロジェクトルートのコピーの詳細は、[58 ページの『5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー』](#)を参照してください。

5.3/6.0 プロジェクトルートのクローズ

Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートは、ユーザが閉じるまでは、プロジェクト表示部に表示されています。

5.3/6.0 プロジェクトルートを閉じるには

- 1 閉じる 5.3/6.0 プロジェクトルートを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Close Project Database (プロジェクトデータベースを閉じる)] を選択します。

シナリオ：Version Manager で 5.3/6.0 プロジェクトルートを開く



阿部さんは Games プロジェクトデータベースに 4 つのプロジェクトを追加する準備を整えました。Version Manager へのスムーズな移行を促進するために阿部さんが望んでいることは、Version Manager プロジェクトデータベースの構造を、現在まで開発者たちが作業してきた階層と同一にすることです。既存のファイルは、4 つの主なネットワークディレクトリの下にグループ化されています。

Chess	Bridge	Checkers	Solitaire
K:\chess \client \board \images \server \library	K:\bridge \hlp \res	K:\checkers \client \board \images \server \library	K:\solitaire \lib \source \include \resource

Chess および Bridge の両プロジェクトは、現在、Version Manager 5.3/6.0 のバージョン管理下にあります。阿部さんは Bridge プロジェクトを、Version Manager の新機能を使用できるようにアップグレードしたいと考えています。しかし、管理者は、Bridge ゲームの前リリースを反映できるように、元の 5.3/6.0 プロジェクトを保存しておきたいと思っています。阿部さんは、井上さんに、Bridge プロジェクトを新規プロジェクトとして新バージョンの環境に移動することを告げました。阿部さんがアップグレードを行う前に、元のプロジェクトをベースラインとして保存しておくために、井上さんは Bridge プロジェクトを 5.3 Version Manager 環境でロックしました。その後、阿部さんは、Bridge プロジェクトを Version Manager で開きました。そして Bridge プロジェクトを選択し、〈Copy Project (プロジェクトのコピー)〉オプションを選択した後、以下のオプションを選択しました。

- プロジェクトのコピー先として Games プロジェクトデータベースを選択しました。
- アーカイブのコピーを、メインの Game ディレクトリ下の新規ディレクトリに配置するため、〈Copy Archives to Project Location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー)〉オプションを選択しました。
- Bridge プロジェクトの新規バージョンの起点を入力するために、〈Keep Specified Revision and Discard Change History (指定したリビジョンを保持し、履歴を破棄)〉オプションを選択しました。そして、Bridge アプリケーションの新規バージョンの起点を定義するバージョンラベルとして、Bridge1.0 と入力しました。Version Manager は、このバージョンラベルに関連するリビジョンより前のリビジョンはどれもコピーしません。
- Bridge プロジェクトで Game プロジェクトデータベースで定義されたコンフィグレーションオプションが継承されるように、〈Use an Existing Configuration File (既存のコンフィグレーションファイルを使用)〉オプションを選択しました。
- Bridge プロジェクトで Game プロジェクトデータベースで定義されたセキュリティオプションが継承されるように、〈Use an Existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベースを使用)〉オプションを選択しました。

阿部さんは【Finish (終了)】をクリックしました。これで、プロジェクトは新しいプロジェクトとして表示されます。

阿部さんは、開発者が新しい Version Manager インターフェイス経由で Chess プロジェクトにアクセスできることを望んでいますが、このプロジェクトを新しい Games プロジェクトデータベースにアップグレードするつもりはありません。Chess チームの中にはほかのメンバーとは離れて作業をしているメンバーもいます。これらの開発者は、Version Manager へのブラウザベースのインターフェイスである、Version Manager Web クライアントを使用して、バージョン管理ファイルにアクセスします。この場合、Web クライアント経由ではプロジェクトルートにはアクセスできません。ただし、阿部さんは Version Manager について 5.3 と新バージョンの 2 つのバージョンをサ

ポートする考えはなく、また、開発者が 1 つの製品について 2 つのバージョンにアクセスを余儀なくされることも望んでいません。したがって、阿部さんは Chess 開発者に対して、新しいプロジェクトフォーマットにアップグレードせずに、新しいインターフェイスを使用してファイルにアクセスするよう要請しました。リモート開発者は、引き続き Version Manager Web クライアントを使用して、ファイルにアクセスすることになります。

これで阿部さんは新しい Version Manager プロジェクトを作成する準備が整いました。

第 5 章

作業ファイルの追加

作業ファイルの追加について	96
アーカイブのインポート	104
シナリオ：既存の作業ファイル構造を模倣したプロジェクトを作成する	108

作業ファイルの追加について

作業ファイルを追加するタイミング プロジェクトデータベース、プロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン 5.3/6.0 のプロジェクトまたはフォルダを作成する必要があるときは、いつでも作業ファイルを追加できます。

プロジェクトデータベース/プロジェクトへの作業ファイルの追加

作業ファイルの追加では、個々のファイル、1つのディレクトリ、またはディレクトリツリー全体を、プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトに追加することができます。作業ファイルを追加すると、以下のものが自動的に作成されます。

- ディレクトリ（ディレクトリを追加した場合）と同名のプロジェクトの作成、およびそのディレクトリ内のファイルのそのプロジェクトへの追加
- ディレクトリ内の追加された各作業ファイルのアーカイブの作成、およびその最初のリビジョンのチェックイン
- 新規作成されたアーカイブを参照するバージョン管理ファイルの作成
- サブディレクトリ（サブディレクトリのあるディレクトリを追加した場合）と同名のサブプロジェクトの作成、およびそのサブディレクトリ内のファイルのそのサブプロジェクトの追加（設定により、さらに下位のサブディレクトリについて、同様の動作を実行させることができます）

Issue の関連付け TrackerLink または SourceBridge をインストールしている場合は、[Add Workfiles（作業ファイルの追加）] ダイアログボックスで【Associate Issues（Issueの関連付け）] ボタンをクリックして、Issue をバージョン管理ファイルに関連付けることができます。



注：Version Manager で、作業ファイルを追加するときに Issue との関連付けを要求するよう設定した場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。

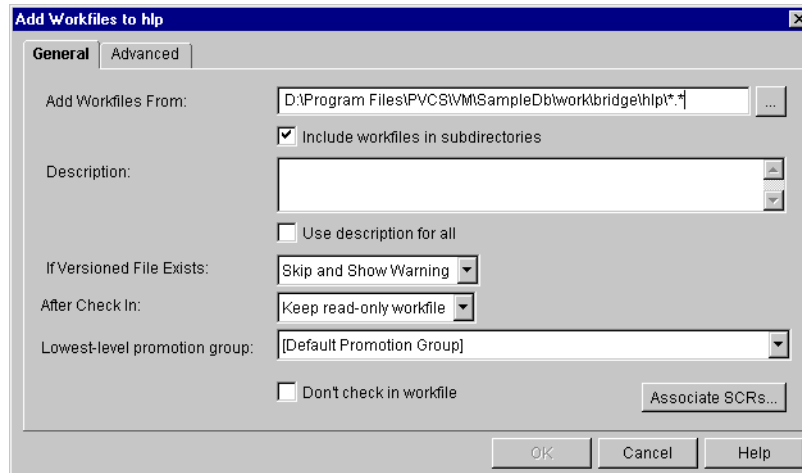


注：Version Manager デスクトップクライアントが次に起動されたときに使用される、Issue 管理の統合を設定できます。現在開いているクライアントセッションには影響しません。

- 1 Serena Issue 管理の統合ユーティリティを起動します（Windows [スタート] メニューの Serena フォルダから、[ChangeMan Version Manager] - [Issue Management Integration（Issue 管理の統合）] を選択します）。
- 2 〈TeamTrack SourceBridge〉または〈Tracker TrackerLink〉を選択します。
- 3 【OK】または【Launch Version Manager（Version Manager の起動）】 ボタンをクリックします。

プロジェクトデータベース/プロジェクトに作業ファイルを追加するには

- 1 アーカイブの追加先であるプロジェクトデータベース、プロジェクトまたはサブプロジェクトを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Add Workfiles (作業ファイルの追加)] を選択します。[Add Workfiles (作業ファイルの追加)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 [General (全般)] タブで、以下の設定を行います。
 - a <Add Workfiles From (追加される作業ファイルの場所)> フィールドに追加する作業ファイルの場所を入力するか、【Browse (...)] をクリックしてその場所を選択します。



注：「*」または「*. *」以外のフィルタを使用してパス (c:\files*.cpp など) を指定した場合は、そのフィルタに一致するファイルが直接追加されます。最上位のプロジェクトは作成されません。ただし、サブディレクトリも追加する場合は、そのためのサブプロジェクトが作成され、フィルタに一致するファイルのみが追加されます。

- b 手順 a でディレクトリが選択されており、選択したディレクトリのサブディレクトリに含まれるファイルもすべて追加する場合は、<Include workfiles in subdirectories (サブディレクトリの作業ファイルも含む)> チェックボックスを選択します。
- c <Description (コメント)> フィールドに、追加する作業ファイルのコメントを入力します。このフィールドは必須です。コメントを入力しないかぎり、【OK】 ボタンは有効になりません。

初めてファイルを追加している場合は、入力したテキストがアーカイブのコメントとなり、「最初のリビジョン」というテキストが、リビジョンのコメントとして自動的にリビジョン表示部に入力されます。アーカイブのコメントは、バージョン管理ファイルを選択して、[File (ファイル)] - [Properties (プロパティ)] を選択すると、画面に表示されます。

これは、ファイルをチェックインするときと異なります。ファイルをチェックインするときは、<Description (コメント)> フィールドに入力されたテキストがリビジョンのコメントとしてリビジョン表示部に表示されます。

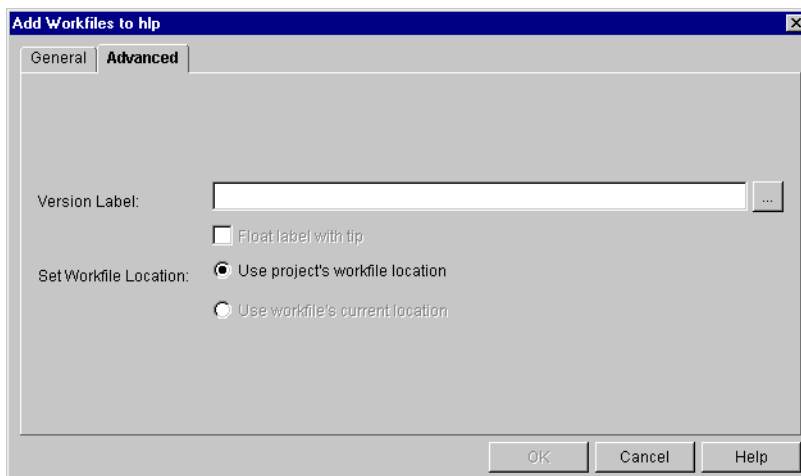
- d (複数作業ファイルの追加の場合のみ) 追加する作業ファイルごとに Version Manager から固有のコメントをプロンプトさせる場合は、<Use change description for all (この説明をすべてのファイルに適用)> チェックボックスの選択を解除します。解除しないと、同じコメントがすべてのファイルに適用されます。

- e (If Versioned File Exists (バージョン管理ファイルが存在する場合)) ドロップダウンリストで、プロジェクト内に同じ名前のバージョン管理ファイルが存在している場合の動作を選択します。
- Skip (上書きしない) を選択すると、プロジェクト内に存在する同名のバージョン管理ファイルが上書きされず、警告も表示されません。
 - Skip and Show Warning (上書きせずに警告を表示) を選択すると、プロジェクト内に存在する同名のバージョン管理ファイルが上書きされず、プロジェクト内に同名のファイルが存在していることを告げる警告が表示されます。デフォルト設定です。
- f (After Check In (チェックイン後の作業ファイル)) ドロップダウンリストで、変更後の作業ファイルがチェックインされた後の動作を選択します。
- (Keep read-only workfile (読み取り専用で残す)) を選択すると、作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルが保持されます。デフォルト設定です。
 - (Keep revision locked (チェックアウト状態を保持)) を選択すると、チェックイン後の新しいリビジョンがロックされます。
 - (Delete workfile (削除する)) を選択すると、チェックイン後に、作業ファイルの場所から作業ファイルが削除されます。
- g (プロモーションモデルが有効な場合のみ) (Lowest-level promotion group (最下位のプロモーショングループ)) ドロップダウンリストで、値を選択します。
- 追加する作業ファイルと関連付ける最下位のプロモーショングループを選択します。
 - リビジョンとプロモーショングループを関連付けない場合は、([None] ([なし])) を選択します。
- デフォルトでは、([Default Promotion Group] ([デフォルトプロモーショングループ])) が選択されており、これは、ワークスペースの設定により定義された、この動作に使用される最下位のプロモーショングループを表します。このワークスペースの設定が定義されておらず、ここでプロモーショングループを選択しなかった場合は、リビジョンにはプロモーショングループが関連付けられません。
- h (SuperUser 権限または Unlimited の権限を持っているユーザのみ) 作業ファイルを追加 (アーカイブを作成) するが、バージョン管理ファイルの最初のリビジョンをチェックインしない場合は、(Don't check in workfile (チェックインしない)) チェックボックスを選択します。
- i (Serena TrackerLink および SourceBridge ユーザのみ) 追加する作業ファイルを Issue に関連付ける場合は、【Associate Issues (Issue の関連付け)】をクリックします。【Association (関連付け)】ダイアログボックスが開きます。



注：作業ファイルの追加時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。

- 4 作業ファイルをチェックインする場合は、必要に応じて、[Advanced (詳細)] タブで以下の操作を行うことができます。



- 〈Version Label (バージョンラベル)〉フィールドで、バージョンラベルを入力するか、【Browse (...)] ボタンをクリックしてバージョン管理ファイルに割り当てられる既存のバージョンラベルを選択することにより、バージョンラベルをチェックインしたリビジョンに割り当てます。バージョンラベルでは大文字と小文字が区別されます。
- バージョンラベルをつねに最新のリビジョンに割り当てておくには、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択します。
- 追加する作業ファイルの場所を設定するには、以下のオプションを設定します (これらのオプションは、[General (全般)] タブで 〈Don't check in workfile (チェックインしない)〉チェックボックスが選択されている場合は無効です)。

- ファイルを現在の場所からプロジェクトの作業ファイルの場所にコピーするには、〈Use project's workfile location and copy workfile(s) into it (プロジェクトの作業ファイルの場所にコピー)〉オプションを選択します。プロジェクトの作業ファイルの場所が、作業ファイルの場所として使用されます。

このオプションでは、作業ファイルが作業ファイルの場所にすでに存在する場合の操作を選択することもできます。〈Skip (上書きしない)〉または〈Overwrite (上書きする)〉のオプションがあります。



注：このオプションは、作業ファイルの場所以外から作業ファイルを追加している場合のみ設定可能です。作業ファイルの場所にある作業ファイルを追加している場合は、ラジオボタンの設定を変更することはできず、このラジオボタン名が 〈Use project's workfile location (プロジェクトの作業ファイルの場所を使用)〉となります。

- 作業ファイルの現在の場所を、作業ファイルの場所として使用するには、〈Use workfile's current location (既存の作業ファイルの場所を使用)〉オプションを選択します。

- 5 【OK】をクリックします。

5.3/6.0 プロジェクトへの作業ファイルの追加

作業ファイルをバージョン 5.3/6.0 のプロジェクトまたはフォルダに追加することができます。バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートに追加することはできません。個々の作業ファイルまたは作業ファイルのディレクトリを追加できます。作業ファイルのディレクトリを追加する場合は、ディレクトリのルートレベルにある作業ファイルのみが追加されます。サブディレクトリにある作業ファイルは追加されず、プロジェクトもフォルダも作成されません。

バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトまたはフォルダには、同じ名前の複数のファイルを追加できません。ただし、Version Manager 5.3/6.0 デスクトップクライアントを使用して、別のアーカイブと作業ファイルの場所を定義して複数の同名のファイルを追加した場合は、新しい Version Manager デスクトップクライアントでもそのまま使用することができます。

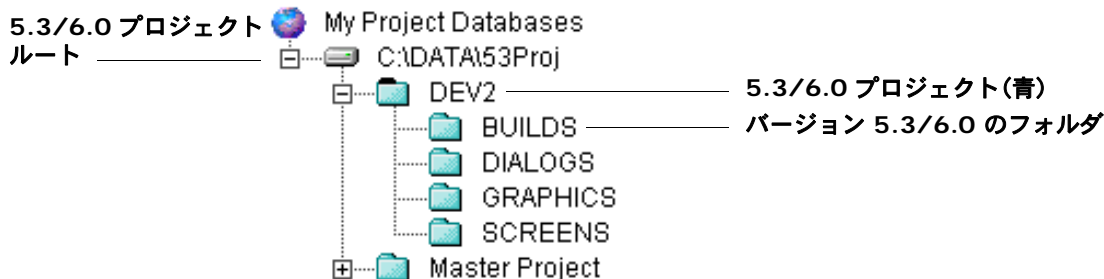
作業ファイルを追加すると、以下のものが自動的に作成されます。

- 指定されたアーカイブディレクトリ内に、追加した作業ファイルごとのアーカイブ（最初のリビジョンがチェックインされます）
- 新規アーカイブを参照するバージョン管理ファイル

作業ファイルの格納先の選択

バージョン 5.3/6.0 のデスクトップクライアントで作業ファイルをフォルダ内に表示するには、その作業ファイルをプロジェクトに追加し、[Folder (フォルダ)] – [Change Folder Members (メンバーの変更)] を選択することにより、手動でこれらをプロジェクトフォルダにコピーする必要があります。

引き続き作業ファイルを直接 5.3/6.0 プロジェクトに追加したり、バージョン管理ファイルを 5.3/6.0 フォルダにコピーできますが、Version Manager はこれで作業ファイルを直接 5.3/6.0 フォルダに追加できるようになります。作業ファイルを 5.3/6.0 フォルダに追加すると、Version Manager はフォルダにバージョン管理ファイルを作成し、これらを自動的に 5.3/6.0 プロジェクトにコピーします。これで、プロジェクトおよびフォルダレベルの両方からアーカイブにアクセスすることができます。



5.3/6.0 フォルダに作業ファイルを追加すると、自動的に 5.3/6.0 プロジェクトに追加されます。

5.3/6.0 プロジェクト作業ファイルの場所

Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトは、1 つの作業ファイルの場所のみをサポートします。既存の作業ファイルを、現在のワークスペースに設定した作業ファイルの場所にコピーするのではなく、5.3/6.0 プロジェクトの作業ファイルの場所に格納する場合は、以下の点に注意してください。

- 追加する作業ファイルが、5.3/6.0 デスクトップクライアントで指定されている 5.3/6.0 プロジェクトの作業ディレクトリにあることを確認します ([Project (プロジェクト)] – [Configure Project (詳細設定)] – [Project Options (プロジェクトオプション)])。
- 現在のワークスペースの作業ファイルの場所が、5.3/6.0 プロジェクトの作業ディレクトリに設定されていることを確認します。現在のワークスペースの作業ファイルの場所の設定についての詳細は、117 ページの『ワークスペースの操作』を参照してください。

5.3/6.0 プロジェクト作業ディレクトリと現在のワークスペースの作業ファイルの場所が同期しない場合は、作業ファイルを、現在のワークスペースに設定されている作業ファイルの場所にコピーしなければなりません。

5.3/6.0 フォルダ作業ファイルの場所

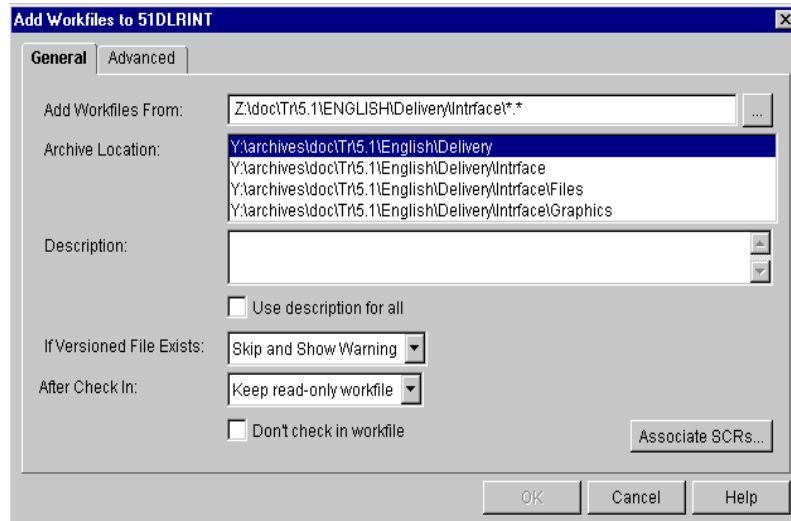
5.3/6.0 フォルダは複数の作業ファイルの場所を持つことができるため、作業ファイルを追加するときに、既存の作業ファイルの場所を使用するか、または現在のワークスペースに設定した作業ファイルの場所を使用するかを選択します。

アーカイブディレクトリの選択

5.3/6.0 プロジェクトに作業ファイルを追加するときには、アーカイブディレクトリを選択するよう求められます。5.3/6.0 プロジェクトでは、アーカイブディレクトリは、作業ファイルの階層に基づいて自動的に作成されるわけではありません。アーカイブディレクトリがない場合は、5.3/6.0 デスクトップクライアントを使って追加する必要があります。

5.3/6.0 プロジェクトに作業ファイルを追加するには

- 1 作業ファイルの追加先であるバージョン 5.3/6.0 プロジェクトまたはフォルダを選択します。
- 2 [File (ファイル)] – [Add Workfiles (作業ファイルの追加)] を選択します。[Add Workfiles (作業ファイルの追加)] ダイアログボックスが表示されます。



注：このプロジェクトには、プロモーションモデルが定義されていないため、この図には〈Lowest-level promotion group (最下位のプロモーショングループ)〉フィールドが表示されていません。このフィールドについては、手順3のgを参照してください。

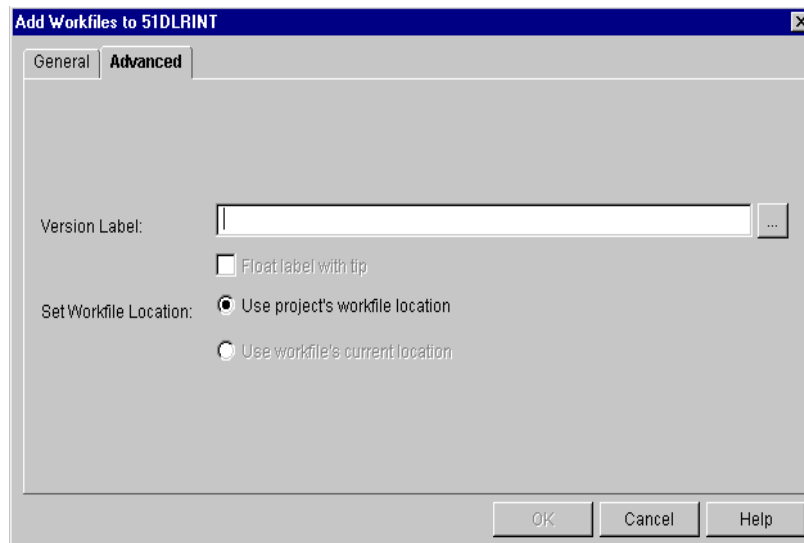
- 3 [General (全般)] タブで、以下の設定を行います。
 - a 〈Add Workfiles From (追加される作業ファイルの場所)〉フィールドに追加する作業ファイルの場所を入力するか、【Browse (...)] をクリックしてその場所を選択します。
 - b 〈Archive Location (アーカイブの場所)〉フィールドに、コンフィグレーションファイルで指定されたアーカイブディレクトリ内のアーカイブを作成する場所を選択します。
 - c 〈Description (コメント)〉フィールドに、追加する作業ファイルのコメントを入力します。このフィールドは必須です。コメントを入力しないかぎり、【OK】 ボタンは有効になりません。
 - d (複数作業ファイルの追加の場合のみ) 追加する作業ファイルごとに Version Manager から固有のコメントをプロンプトさせる場合は、〈Use change description for all (この変更コメントをすべてのファイルに適用)〉チェックボックスの選択を解除します。解除しないと、同じコメントがすべてのファイルに適用されます。
 - e 〈If Versioned File Exists (バージョン管理ファイルが存在する場合)〉ドロップダウンリストで、プロジェクト内に同じ名前のバージョン管理ファイルが存在している場合の動作を選択します。
 - 〈Skip (上書きしない)〉を選択すると、プロジェクト内に存在する同名のバージョン管理ファイルが上書きされず、警告も表示されません。

- 〈Skip and Show Warning (上書きせずに警告を表示)〉を選択すると、プロジェクト内に存在する同名のバージョン管理ファイルが上書きされず、プロジェクト内に同名のファイルが存在していることを告げる警告が表示されます。デフォルト設定です。
- f 〈After Check In (チェックイン後の作業ファイル)〉ドロップダウンリストで、変更後の作業ファイルがチェックインされた後の動作を選択します。
- 〈Keep read-only workfile (読み取り専用で残す)〉を選択すると、作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルが保持されます。デフォルト設定です。
 - 〈Keep revision locked (チェックアウト状態を保持)〉を選択すると、チェックイン後の新しいリビジョンがロックされます。
 - 〈Delete workfile (削除する)〉を選択すると、チェックイン後に、作業ファイルが作業ファイルの場所から削除されます。
- g (プロモーションモデルが有効な場合のみ) 〈Lowest-level promotion group (最下位のプロモーショングループ)〉ドロップダウンリストで、値を選択します。
- 追加する作業ファイルと関連付ける最下位のプロモーショングループを選択します。
 - リビジョンとプロモーショングループを関連付けない場合は、〈[None] ([なし])〉を選択します。
- デフォルトでは、〈[Default Promotion Group] ([デフォルトプロモーショングループ])〉が選択されており、これは、ワークスペースの設定により定義された、この動作に使用される最下位のプロモーショングループを表します。このワークスペースの設定が定義されておらず、ここでプロモーショングループを選択しなかった場合は、リビジョンにはプロモーショングループが関連付けられません。
- h (SuperUser 権限または Unlimited の権限を持っているユーザーのみ) 作業ファイルを追加するが、チェックインしない場合は、〈Don't check in workfile (チェックインしない)〉チェックボックスを選択します。
- i (Serena TrackerLink および SourceBridge を使用する場合のみ) 追加する作業ファイルを Issue に関連付ける場合は、【Associate Issues (Issue の関連付け)】をクリックします。【Association (関連付け)】ダイアログボックスが開きます。



注：作業ファイルの追加時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。

- 4 作業ファイルをチェックインする場合は、〔Advanced (詳細)〕タブで、さらに以下の設定を行うことができます。



- a 〈Version Label (バージョンラベル)〉フィールドで、バージョンラベルを入力するか、【Browse (...)] ボタンをクリックしてバージョン管理ファイルに割り当てられる既存のバージョンラベルを選択することにより、バージョンラベルをチェックインしたリビジョンに割り当てます。バージョンラベルでは大文字と小文字が区別されます。
- b バージョンラベルをつねに最新のリビジョンに割り当てておくには、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択します。
- c 追加する作業ファイルの場所を設定するには、以下のオプションを設定します。
- バージョン 5.3/6.0 のプロジェクト：5.3/6.0 プロジェクトの場合：〈Use project's workfile location and copy workfiles into it (プロジェクトの作業ファイルの場所にコピー)〉のみが選択可能な場合は、ファイルのアーカイブは選択したアーカイブディレクトリにコピーされ、作業ファイルは現在のワークスペース用に設定された作業ファイルの場所にコピーされます。

このオプションを選択した場合は、作業ファイルがすでに作業ファイルの場所に存在する場合の操作を選択する必要があります。〈Skip (上書きしない)〉または〈Overwrite (上書きする)〉のオプションがあります。デフォルト値は〈Skip (上書きしない)〉です。



注：このオプションは、作業ファイルの場所以外から作業ファイルを追加している場合にのみ設定可能です。作業ファイルの場所にある作業ファイルを追加している場合は、ラジオボタンの設定を変更することはできず、このラジオボタン名が〈Use project's workfile location (プロジェクトの作業ファイルの場所を使用)〉となります。

- 〈Use workfile's current location (既存の作業ファイルの場所を使用)〉ラジオボタンのみが選択可能な場合は、ファイルのアーカイブはプロジェクトに追加されますが、作業ファイルは現在の場所に置かれたままです。

設定可能なオプションの制御については、100 ページの『5.3/6.0 プロジェクト作業ファイルの場所』を参照してください。

- フォルダ：〈Use project's workfile location and copy workfiles into it (プロジェクトの作業ファイルの場所にコピー)〉ラジオボタンがデフォルトで選択されます。このラジオボタンが選択できない場合は、選択した作業ファイルがすでに、現在のワークスペース用に設定された作業ファイルの場所に存在します。

〈Use workfile's current location (既存の作業ファイルの場所を使用)〉を使用することもできます。この場合は、ファイルのアーカイブはプロジェクトに追加されますが、作業ファイルは現在の場所に置かれたままです。

- 5 【OK】をクリックします。

アーカイブのインポート

アーカイブをインポートすると、既存のアーカイブにアクセスでき、それらをプロジェクトで使用できます。アーカイブのインポートは、バージョン管理ファイルやプロジェクトのコピーに似ていますが、コピーにはない機能を含んでいます。

アーカイブのインポートにより、以下を実行する手段が提供されます。

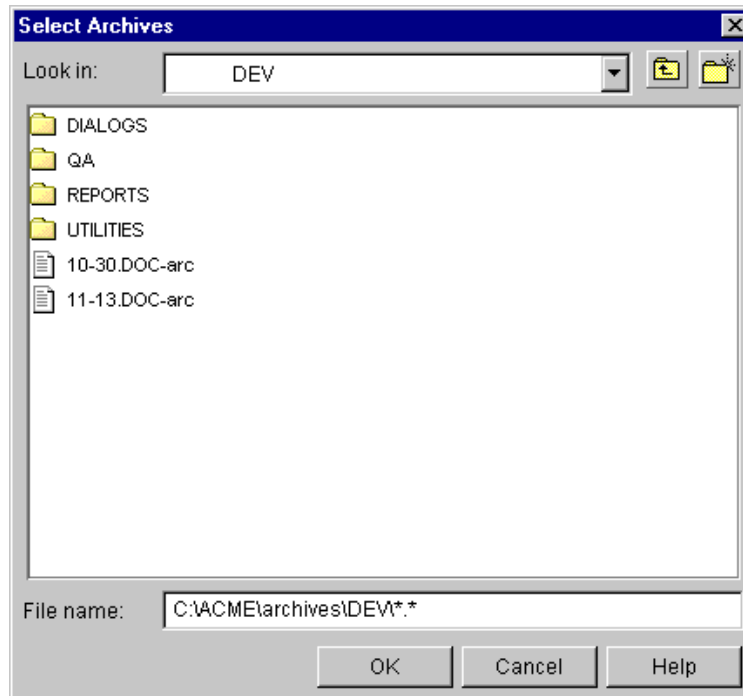
- コマンドラインインターフェイスのみの環境で作成されたアーカイブにアクセスする。デスクトップクライアントおよび Web クライアントでは、アーカイブはプロジェクトおよびバージョン管理ファイルに関連付けられている必要があります。コマンドラインでは、プロジェクトもバージョン管理ファイルも作成されず、アーカイブと直接連携して動作します。コマンドラインで作成されたアーカイブをデスクトップクライアントにインポートすると、アーカイブがプロジェクト（またはプロジェクトデータベース）に関連付けられ、バージョン管理ファイルが作成されます。このバージョン管理ファイルによって、引き続きコマンドラインインターフェイスはもとより、プロジェクト経由によるデスクトップクライアントおよび Web クライアントからアーカイブにアクセスできるようになります。
- 削除されたバージョン管理ファイルを作成し直す。誤ってバージョン管理ファイルを削除してしまうと、デスクトップクライアントでは、そのバージョン管理ファイルのアーカイブにはアクセスできません。しかし、バージョン管理ファイルを削除したプロジェクトにアーカイブをインポートして戻すと、バージョン管理ファイルを再作成できます。また、バージョン管理ファイルとアーカイブとのリンクも復旧されます。
- アーカイブディレクトリ内のすべてのアーカイブにアクセスする。デスクトップクライアントプロジェクトは、必ずしも選択したアーカイブディレクトリ内の全アーカイブを表示しません（ディレクトリに全作業ファイルが追加されるか、またはアーカイブの場所内の全アーカイブがインポートされたものでない場合を除く）。デスクトップクライアントプロジェクトをコピーしたり移動したりすると、デスクトップクライアントウィンドウに表示されないアーカイブは見落とされてしまう可能性があります。アーカイブディレクトリをインポートするよう選択すると、すべてのアーカイブがインポートされます。
- アーカイブを移動したとき、バージョン管理ファイルとそのアーカイブ間の参照を復元する。アーカイブの場所が変更された場合は、アーカイブをインポートして、バージョン管理ファイルとアーカイブのリンクを復元する必要があります。バージョン管理ファイルとそのアーカイブ間の参照を復元する方法については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクトデータベース、プロジェクトおよびサブプロジェクトへのアーカイブのインポート

プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトにアーカイブをインポートする場合は、個々のファイル、1つのディレクトリ、またはディレクトリツリー全体をインポートできます。アーカイブをインポートすると、Version Managerは新規アーカイブを参照するバージョン管理ファイルを作成します。

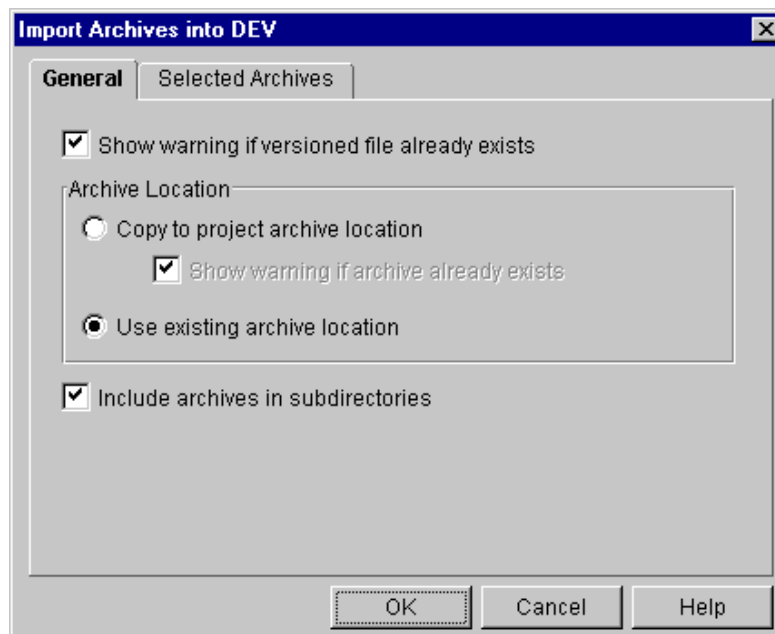
プロジェクトデータベース/プロジェクトにアーカイブをインポートするには

- 1 アーカイブのインポート先であるプロジェクトデータベースまたはプロジェクトを選択します。
- 2 [Admin (管理)] - [Import Archives (アーカイブのインポート)] を選択します。[Select Archives (アーカイブの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



選択表示部に表示されている場所は、選択したプロジェクトまたはプロジェクトデータベースの現在の作業ファイルの場所です。

- 3 インポートするアーカイブを選択して、【OK】をクリックします。[Import Archives (アーカイブのインポート)] ダイアログボックスが表示されます。



4 次の手順に従います。

- a デフォルトでは、アーカイブをインポートするために選択したプロジェクト内にすでにバージョン管理ファイルが存在する場合は、警告メッセージが表示されます。この警告メッセージを表示しないよう設定するには、〈Show warning if versioned file already exists (バージョン管理ファイルがすでに存在する場合、警告を表示)〉チェックボックスの選択を解除します。
- b 〈Archive Location (アーカイブの場所)〉グループで、インポートするアーカイブの場所を選択します。デフォルトオプションは、〈Use existing archive location (既存のアーカイブの場所を使用)〉です。このオプションでは、アーカイブを参照しますが、アーカイブの現在の場所は変更しません。

もう 1 つのオプションは 〈Copy to project archive location (プロジェクトのアーカイブの場所にコピー)〉で、アーカイブをプロジェクトのアーカイブの場所にコピーし、この場所を新規アーカイブの場所として使用します。

デフォルトでは、指定したアーカイブの場所にインポートするアーカイブがすでに存在する場合は、警告メッセージが表示されます。この警告メッセージを表示しないよう設定するには、〈Show warning if archive already exists (アーカイブがすでに存在する場合は、警告を表示)〉チェックボックスの選択を解除します。

- c アーカイブのディレクトリを追加する場合は、〈Include archives in subdirectories (サブディレクトリのアーカイブも含む)〉チェックボックスを使用できます。サブディレクトリにあるアーカイブがインポートされるように設定するには、このチェックボックスを選択します。

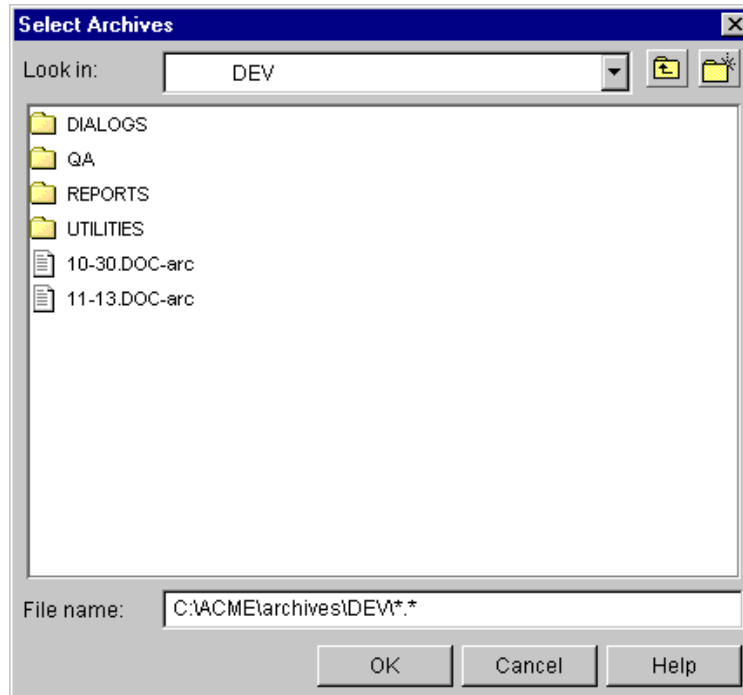
5 【OK】をクリックします。

5.3/6.0 プロジェクトへのアーカイブのインポート

5.3/6.0 プロジェクトまたはフォルダにアーカイブをインポートできます。ただし、バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルートにはインポートできません。アーカイブまたはアーカイブのディレクトリを個別に追加できます。アーカイブディレクトリをインポートすると、ディレクトリのルートレベルにあるアーカイブのみがインポートされ、サブディレクトリにあるアーカイブはインポートされません。アーカイブをインポートすると、新規アーカイブを参照するバージョン管理ファイルが自動的に作成されます。

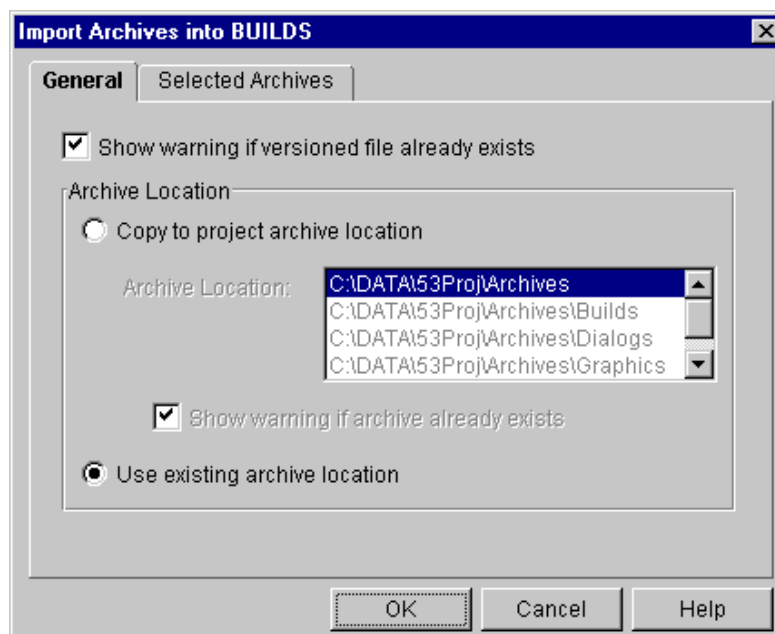
バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトにアーカイブをインポートするには

- 1 アーカイブのインポート先であるバージョン 5.3/6.0 のプロジェクトまたはフォルダを選択します。
- 2 [Admin (管理)] - [Import Archives (アーカイブのインポート)] を選択します。[Select Archives (アーカイブの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



選択表示部に表示されている場所は、選択したプロジェクトまたはプロジェクトデータベースの現在の作業ファイルの場所です。

- 3 インポートするアーカイブを選択して、【OK】をクリックします。[Import Archives (アーカイブのインポート)] ダイアログボックスが表示されます。



- 4 次の手順に従います。
- a デフォルトでは、アーカイブをインポートするために選択したプロジェクト内にすでにバージョン管理ファイルが存在する場合は、警告メッセージが表示されます。この警告メッセージを表示しないよう設定するには、〈Show warning if versioned file already exists (バージョン管理ファイルがすでに存在する場合は、警告を表示)〉チェックボックスの選択を解除します。
 - b 〈Archive Location (アーカイブの場所)〉グループで、追加するアーカイブの場所を選択します。アーカイブの追加先の場所に応じて、選択肢は異なります。
 - 5.3/6.0 プロジェクトの場合：選択できるオプションは、〈Copy to project archive location (プロジェクトのアーカイブの場所にコピー)〉のみです。このオプションを選択すると、アーカイブがプロジェクトのアーカイブの場所にコピーされます。アーカイブの場所を指定するには、〈Archive Location (アーカイブの場所)〉リストボックスで場所を選択します。

デフォルトでは、インポートするアーカイブが指定のアーカイブの場所にすでに存在する場合は、警告が表示されます。この警告メッセージを表示しないよう設定するには、〈Show warning if archive already exists (アーカイブがすでに存在する場合は、警告を表示)〉チェックボックスの選択を解除します。

 - フォルダ：デフォルトオプションは、〈Use existing archive location (既存のアーカイブの場所を使用)〉です。このオプションでは、アーカイブを参照しますが、アーカイブの現在の場所を変更しません。〈Copy to project archive location (プロジェクトのアーカイブディレクトリにコピー)〉ラジオボタンを選択することもできます。
- 5 【OK】をクリックします。

シナリオ：既存の作業ファイル構造を模倣したプロジェクトを作成する



阿部さんは Checkers と Solitaire という 2 つの新規プロジェクトを作成しなければなりません。これらのプロジェクトには作業ファイル構造があり、阿部さんはこの作業ファイル構造にならってプロジェクトを構成したいと考えています。

阿部さんは、まず、Games プロジェクトデータベースを選択し、〈Add Workfiles (作業ファイルの追加)〉オプションを選択します。そして、クライアントおよびサーバのサブディレクトリが含まれているプロジェクトディレクトリの最上層である `k:\checkers` を参照し、【OK】をクリックします。さらに、以下のオプションを設定します。

- 一連の関連ファイルのコメントとして「CheckersMaster 2.0 のオリジナルソースファイル」と入力しました。この情報は、各ファイルに関連するアーカイブに格納されます。情報を表示するには、バージョン管理ファイルを選択してプロパティを表示します。
- 作業ファイルを元のプロジェクトファイルと同じディレクトリに格納するには、デフォルトの〈Use existing workfile location (既存の作業ファイルの場所を使用)〉を選択したままにします。たとえば、メインプロジェクトファイルの作業ファイルの場所は `k:\checkers` に、クライアントサブプロジェクトファイルの作業ファイルの場所は `k:\checkers\client` になります。Version Manager は、Games プロジェクトデータベースのワークスペース設定に作業ファイルの場所を保存します (後のシナリオでは、阿部さんとプロジェクトチームメンバーが、個々のプロジェクトおよびユーザの特定のニーズを反映した作業ファイルの場所を定義します)。この作業を終えると、Checkers プロジェクトを選択し、〈Set Workfile Location (作業ファイルの場所の設定)〉オプションを選択することにより、作業ファイルの場所を確認することができます。各サブプロジェクトも、同様の手順で確認することができます。

- チェックインのオプションはデフォルトのままにします。つまり、チェックイン後、作業ファイルの場所の作業ファイルのバージョンはロックされません。
- Checkers プロジェクトの下に各サブディレクトリおよびその内容が追加されるよう、〈Include workfiles in subdirectories (サブディレクトリの作業ファイルも含む)〉チェックボックスが選択されていることを確認します。Version Manager では、これらのサブディレクトリが、Checkers プロジェクトのサブプロジェクトに変換されます。

阿部さんは【OK】をクリックし、選択を確定します。Version Manager によって以下のタスクが実行されます。

- Checkers プロジェクトを Games プロジェクトデータベースに追加します。
- Client サブプロジェクトおよびそのサブプロジェクト (BoardとImages) を作成します。
- Server サブプロジェクトおよびその Library サブプロジェクトを作成します。
- checkers ディレクトリおよびそのサブディレクトリの各ソースファイルに対して、バージョン管理ファイルをプロジェクト構造に追加します。これで、各バージョン管理ファイルは1つのリビジョンを持ちます。
- 各バージョン管理ファイルの最初のリビジョンに、「最初のリビジョン」というデフォルトの最初のコメントを割り当てます。
- 各バージョン管理ファイルにアーカイブを作成します。
- 既存の場所を、Checkers プロジェクトおよびそのサブプロジェクト用の作業ファイルの場所として割り当てます。
- 各アーカイブに「CheckersMaster 2.0 のオリジナルソースファイル」というコメントを割り当てます。

阿部さんは、上記の手順を Solitaire プロジェクトに対しても行いました。Solitaire プロジェクトを追加した後、阿部さんはリビジョン表示部を表示して、新規アーカイブファイルの初期リビジョンについての基本情報を確認しました。

これで、阿部さんは 4 つのプロジェクトをすべて正常に追加したので、Chess プロジェクトと Checkers プロジェクトで共有できるよう Images サブプロジェクトを設定して、プロジェクトのセットアップ手順を完了することができます。そのために、阿部さんは Chess から Images サブプロジェクトを選択し、〈Copy Project (プロジェクトのコピー)〉オプションを選択します。Checkers をコピー先プロジェクトとして選択し、コピーアクションとしてシステムデフォルト値をそのまま使用します。これで、Chess プロジェクトおよび Checkers プロジェクトは 1 つの Images プロジェクトへのアクセスを共有します。Version Manager は、各イメージに対して 1 つのアーカイブおよびバージョン管理ファイルを保持します。プロジェクトのセットアップタスクはこれで完了です。

第 6 章

プロジェクトの操作

プロジェクトについて	112
プロジェクトの作成	112
サブプロジェクトの作成	114
プロジェクト名の変更	114
プロジェクトの削除	115
シナリオ：サブプロジェクトを作成して作業ファイルを追加する	115

プロジェクトについて

プロジェクトとは Version Manager プロジェクトは、システムのディレクトリやサブディレクトリに似ています。Version Manager では、関連するファイルを保管するためにプロジェクトを作成し、システムディレクトリやサブディレクトリと同様に、階層構造を持たせることができます。つまり、プロジェクトおよびサブプロジェクトの下に、サブプロジェクトを作成することができます。

ディレクトリがシステムドライブ内に置かれるように、すべての Version Manager プロジェクトは、Version Manager プロジェクトデータベース内に置かれます。



プロジェクトを作成する理由 プロジェクトを作成して、ファイルを整理します。すでに作業ファイルが論理的に整理されている場合は、その構造を反映した Version Manager プロジェクトを作成するとよいでしょう。

また、既存のファイル構造と異なる Version Manager プロジェクトを作成し、プロジェクト環境により適合させることもできます。

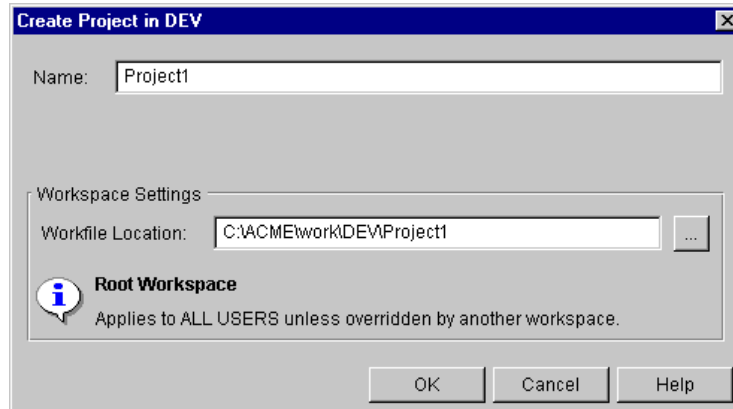
プロジェクトの作成

使用前の準備 プロジェクトを作成するには、プロジェクトデータベースを開く必要があります。プロジェクトデータベースへアクセスできない場合は、管理者に連絡してください。

既存のファイル 構成されたディレクトリ構造に既存ファイルがある場合は、プロジェクトを作成する必要はありません。ディレクトリおよびファイルをプロジェクトデータベースに追加すると、プロジェクトが自動的に作成されます。ディレクトリおよびファイルを Version Manager に直接追加する方法については、95 ページの『作業ファイルの追加』を参照してください。

プロジェクトを作成するには

- 1 プロジェクトの格納に使用するプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Create Project (プロジェクトの作成)] を選択します。[Create Project (プロジェクトの作成)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Name (名前)> フィールドに、一意なプロジェクト名を指定します。プロジェクトデータベース内の同じレベルにある 2 つのプロジェクト名に同じ名前を付けることはできません。名前の前後にタブや空白を付けることはできません。名前には、次の文字以外のすべての文字を使用できます。

- アスタリスク (*)
- コロン (:)
- 縦線 (|)
- スラッシュ (/)、円記号 (\)
- 疑問符 (?)
- 角かっこ (< >)
- 波形符号 (~)
- パーセント記号 (%)
- アンパサンド (&)
- 二重引用符 (")
- 引用符 (')
- コンマ (,)

「..」という 2 文字のプロジェクト名や、「.」または「@」の 1 文字のみのプロジェクト名は無効です。

ここで入力するプロジェクト名は、<Workfile Location (作業ファイルの場所)> のパスにも反映されます。

- 4 入力したプロジェクト名が反映された新規作業ファイルの場所が〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉フィールドに表示されます。別の作業ファイルの場所を指定する場合は、新しい場所をこのフィールドに入力するか、【Browse (...)] をクリックして選択します。



注：作業ファイルの場所を選択する場合は、このプロジェクトに対する権限を持ったすべてのユーザがアクセスできるローカルドライブを指定することをお勧めします。こうすると、デフォルトの作業ファイルの場所に、プロジェクトチームの全メンバーが確実にアクセスすることができます。プロジェクトチームのメンバーは、別の作業ファイルの場所を指定したプライベートワークスペースを作成して、いつでも作業ファイルの場所を変更することができます。

- 5 【OK】 をクリックします。指定した作業ファイルの場所が存在しない場合は、ディレクトリの作成を確認するメッセージが表示されます。【OK】 をクリックすると、新規作業ファイルの場所が作成されます。

サブプロジェクトの作成

サブプロジェクト（ネストプロジェクトともいいます）は、プロジェクトデータベース内のプロジェクトの下に直接格納されることを除くと、プロジェクトと同じです。サブプロジェクトを作成するには、112 ページの『プロジェクトの作成』と同じ手順を実行します。ただし、手順 1 でプロジェクトデータベースの代わりにプロジェクトを選択します。

プロジェクト名の変更

プロジェクト名が適切でなくなった場合は、いつでも名前を変更できます。プロジェクト名は、デスクトップクライアント上のみで変更され、オペレーティングシステム上のプロジェクトディレクトリの名前は変更されません。

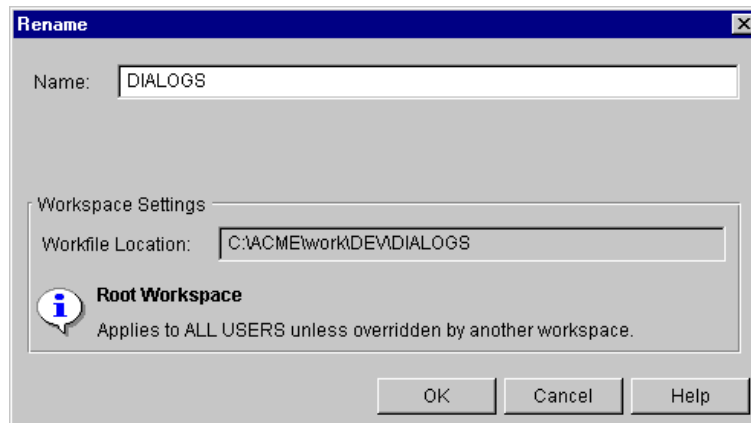
プロジェクト名を変更して、プロジェクトの元の作業ファイルの場所が変更されていない場合は、新規プロジェクト名に一致する新規作業ファイルディレクトリが作成されます。すべてのファイルが、この新規作業ファイルの場所からチェックインされ、ここにチェックアウトされます。ただし、プロジェクトの元の作業ファイルの場所が変更されている場合は、プロジェクト名を変更しても、同じ作業ファイルの場所が使用されます。

プロジェクトの名前の変更中に、ほかのユーザがバージョン管理ファイルをチェックアウトした場合は、Version Manager は変更前の作業ファイルの場所を保持します。ファイルがチェックインされると、ユーザは変更前の作業ファイルの場所を使用するか、新しい作業ファイルの場所を使用するかを選択するよう求められます。

プロジェクト名を変更するには

- 1 名前を変更するプロジェクト（またはサブプロジェクト）を選択します。

- 2 [File (ファイル)] – [Rename (名前の変更)] を選択します。[Rename (名前の変更)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Name (名前)> フィールドに、新しいプロジェクトの名前を入力します。ここで入力する新しいプロジェクト名は、編集不可の <Workfile Location (作業ファイルの場所)> パスにも反映されます。
- 4 【OK】をクリックします。作業ファイルの場所が存在しない場合は、ディレクトリの作成を確認するメッセージが表示されます。【OK】をクリックすると、新規作業ファイルの場所が作成されます。

プロジェクトの削除

プロジェクトが必要でなくなった場合は、いつでも削除できます。プロジェクトを削除すると、そのプロジェクトとサブプロジェクトがプロジェクト表示部から削除され、バージョン管理ファイルがファイル表示部から削除されます。アーカイブを削除する権限がない限り、アーカイブはアーカイブディレクトリに残ります。

プロジェクトを削除するには

- 1 削除するプロジェクト（または、サブプロジェクト）を選択します。
- 2 [File (ファイル)] – [Delete (削除)] を選択します。アイテムの削除を確認するメッセージが表示されます。
- 3 【Yes (はい)】をクリックして、プロジェクトを削除します。



注：削除したプロジェクトは復元できませんが、削除したプロジェクトは再作成できます。再作成するには、新規プロジェクトを作成し、削除したプロジェクトのアーカイブをインポートします。

シナリオ：サブプロジェクトを作成して作業ファイルを追加する



プロジェクトデータベースのセットアップを確認しているときに、阿部さんは、Solitaire プロジェクトに新しい委託業者によって書かれたコードが足りないことに気がきました。この委託業者による game_rules コードを Solitaire プロジェクトに組み込まなければなりません。

阿部さんは、委託業者の作業を、Rules という別のサブプロジェクトに格納しようと考えました。そこで阿部さんは Solitaire プロジェクトを選択し、〈Create Project (プロジェクトの作成)〉オプションを選択しました。このプロジェクトには Rules と名付け、作業ファイルの場所を c:\work に設定しました。作業ファイルの場所を変更し、委託業者がファイルをネットワークから自分のローカルドライブに簡単に移動できるようにしました。現在、委託業者が作業ディレクトリを持っていない場合は、Version Manager により、最初に委託業者がファイルをチェックアウトしたときに、作業ディレクトリが作成されます。阿部さんは【OK】をクリックしました。新しいサブプロジェクトが Solitaire プロジェクトの下に表示されます。阿部さんは、〈Add Workfiles (作業ファイルの追加)〉オプションを選択し、game_rules ファイルのあるネットワーク上の場所を探しました。各ファイルを選択して、【OK】を選択しました。これで、ファイルは Solitaire プロジェクトに組み込まれました。

第 7 章

ワークスペースの操作

ワークスペースについて	118
パブリックワークスペースとプライベートワークスペース	119
ルートワークスペースについて	119
ワークスペースの階層	120
ワークスペースの作成	126
ワークスペースの設定	127
ワークスペース設定の変更	128
ワークスペース名の変更	130
ワークスペースの削除	131
シナリオ：デフォルトワークスペースに影響を与えずにカスタムワークスペースを定義する	133
シナリオ：個人的なワークスペースを定義する	134

ワークスペースについて

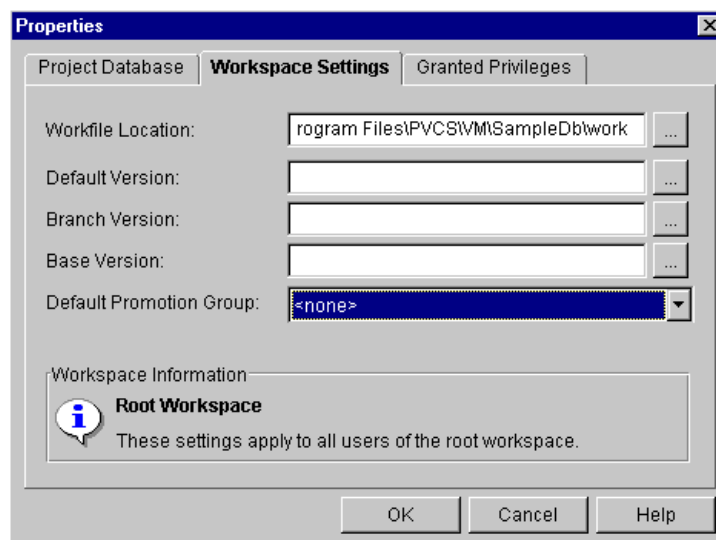
ワークスペースとは ワークスペースは、プロジェクトデータベースと、そこに含まれるすべてのプロジェクトおよびバージョン管理ファイルについて定義された作業設定の集合です。複数のワークスペースを作成したり、複数のワークスペースからアイテムを選択することができますが、プロジェクトデータベースに設定可能なワークスペースはつねに1つのみです。

ワークスペースには、以下の作業設定が保管されます。

- **作業ファイルの場所**：ファイルのチェックイン元およびチェックアウト先となるディレクトリです。作業ファイルの場所は必ず設定しなければならず、プロジェクトデータベースまたはプロジェクトの作成、または作業ファイルの追加を行うときに定義されます。
- **デフォルトバージョン**：アクションが実行されるリビジョンを定義するバージョンラベルです（ほかのバージョンラベルまたはリビジョン番号が定義されていない場合）。空白の場合は、最新のリビジョンがデフォルトバージョンになります。
- **ベースバージョン**：ブランチを開始するリビジョンを示すために割り当てるバージョンラベルです。空白の場合は、自動ブランチは利用できません。
- **ブランチバージョン**：チップブランチに割り当てるバージョンラベルです。空白の場合は、自動ブランチは利用できません。
- **デフォルトプロモーショングループ**：プロモーションモデルが設定されている場合に限り、デフォルトプロモーショングループは、プロモーションモデルの最下位のプロモーショングループです。

デフォルトでは、指定したデフォルトプロモーショングループは、リビジョンのチェックアウト、リビジョンのロックおよび作業ファイルの追加を行うときにリビジョンに割り当てられます。デフォルトプロモーショングループを定義することにより、ユーザは、これらのアクションに使用する最下位レベルのプロモーショングループを指定する必要がなくなります。）

これらの作業設定にアクセスするには、プロジェクトデータベース、プロジェクトまたはバージョン管理ファイルを選択し、[File (ファイル)] - [Properties (プロパティ)] - [Workspace Settings (ワークスペースの設定)] タブを選択します。



ワークスペースを使用する理由

ワークスペースを使用すると、プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはバージョン管理ファイルレベルでの作業設定の設定および変更が簡単にできます。また、プロジェクトの作業設定を個別の作業スタイルに合わせて細かく調整することもできます。たとえば、複数のプロジェクトチームのメンバーが、ローカルでプロジェクトファイルを操作する必要がある場合は、各メンバーが、自

分のワークステーション用に設定した作業ファイルの場所を持つプライベートワークスペースをセットアップすることができます。また、各プロジェクトに別々のデフォルトバージョン、ベースバージョン、およびブランチバージョンを設定して、別々のブランチ設定をすることもできます。

複数のワークスペースを作成し、選択することはできますが、プロジェクトデータベースで一度に使用できるワークスペースは1つだけです。

作業ファイルの場所

ワークスペースに格納される最も一般的な作業設定は、「作業ファイルの場所」です。作業ファイルの場所は、ファイルのチェックイン元およびチェックアウト先となるディレクトリです。作業ファイルの場所は、プロジェクトデータベースを作成したり、プロジェクトを作成したり、ファイルを追加したときに定義されます。作業ファイルの場所を変更すると、変更は現在のワークスペースに保存されます。現在のワークスペースは、Version Manager デスクトップクライアントウィンドウの一番下にあるステータスバーに表示されます。



作業ファイルの場所の設定にすばやくアクセスするには、プロジェクトデータベース、プロジェクトまたはバージョン管理ファイルを選択し、[File (ファイル)] - [Set Workfile Location (作業ファイルの場所の設定)] を選択します。

パブリックワークスペースとプライベートワークスペース

ワークスペースには、パブリックワークスペースとプライベートワークスペースの 2 種類があります。



- パブリックワークスペース：パブリックワークスペースは通常、プロジェクトデータベースが作成されたときに、管理者によって作成されます。プロジェクトリーダーは、プロジェクトのニーズに合わせて、パブリックワークスペースを変更したり、新規のパブリックワークスペースを作成しなくてはならない場合があります。パブリックワークスペースの作業ファイルの場所は通常、プロジェクトチームの全メンバーがアクセスできるネットワークサーバに設定されます。

パブリックワークスペースの設定をどのように変更できるかは、管理者により割り当てられた権限によって異なります。ただし、パブリックワークスペースに加えられたすべての変更は、そのワークスペースを使用してプロジェクトデータベースにアクセスするすべてのユーザに影響を及ぼします。そのため、同じプロジェクトデータベースに複数のユーザがアクセスしている場合、パブリックワークスペースとプライベートワークスペースを組み合わせることをお勧めします。



- プライベートワークスペース：プライベートワークスペースは通常、プロジェクトチームのほかのメンバーに影響を与えることなく、プロジェクト作業設定をカスタマイズすることができるように、プロジェクトチームの個々のメンバーによって作成されます。プライベートワークスペースは、作成したユーザのみがアクセスすることができます。プライベートワークスペースの作業ファイルの場所は通常、個人のローカルドライブに設定されます。

ルートワークスペースについて

デフォルトの
パブリックワーク
スペース

ルートワークスペースは、デフォルトのパブリックワークスペースです。ルートワークスペースは、管理者がプロジェクトデータベースを作成するときに自動的に作成されます。ルートワークスペースを削除したり、ルートワークスペース名を変更することはできません。ルートワークスペースの設定をどのように変更できるかは、管理者により割り当てられた権限によって異なります。

ほかのワークスペースを作成または設定していない場合は、ルートワークスペースがアクティブなワークスペースとなります。

初期状態のルートワークスペースで定義されている設定は、以下のとおりです。

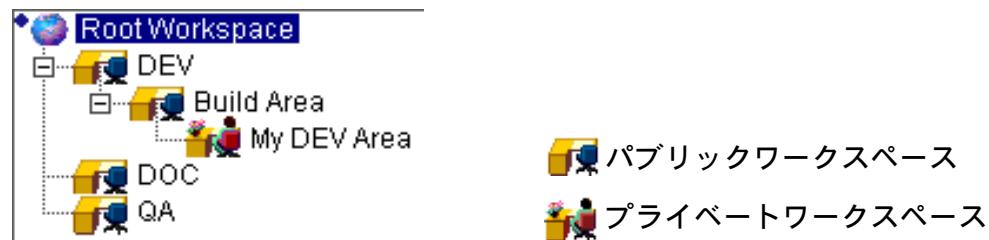
- システム管理者によりプロジェクトデータベースに対して設定されている、その作成時の作業ファイルの場所。
- プロジェクトデータベースに関連付けられたマスターコンフィグレーションファイルにデフォルトトリビジョンが定義されている場合に、アクションに使用するデフォルトトリビジョン。初期設定は、マスターコンフィグレーションファイルから読み込まれ、デフォルトトリビジョンがチップリビジョンとなっています。
- プロジェクトデータベースに関連付けられたマスターコンフィグレーションファイルで自動ブランチが設定されている場合の自動ブランチ。初期設定は、マスターコンフィグレーションファイルから取得されます。

最初に定義されていない設定は、プロモーションモデルが有効な場合のみ使用できるデフォルトプロモーショングループです。デフォルトプロモーショングループは、最下位のプロモーショングループが管理者によって複数定義されている場合に使用されます。

ワークスペースの階層

ルートワークスペースからの枝分かれ

パブリックかプライベートかにかかわらず、すべてのワークスペースは、ルートワークスペースから派生します。作成するすべてのワークスペースは、それらの派生元のワークスペースの作業設定を継承します。ただし、ユーザによる作業設定の変更は、継承した作業設定に優先して使用されます。



たとえば、上に示す階層では、管理者が、DEV、DOC、および QA という異なるパブリックワークスペースを作成しています。製品のビルド用に、開発チームが別の領域を必要とするため、プロジェクトリーダーは、Build Area という新規パブリックワークスペースを作成しました。プロジェクトチームのあるメンバーは、ファイルは新しい Build Area からチェックアウトしますが、作業はローカルで行うため、My DEV Area というプライベートワークスペースを作成しました。

パブリックワークスペースは、ほかのパブリックワークスペースから作成できます。プライベートワークスペースは、パブリックワークスペースからもプライベートワークスペースからも作成できます。ただし、プライベートワークスペースからパブリックワークスペースを作成することはできません。

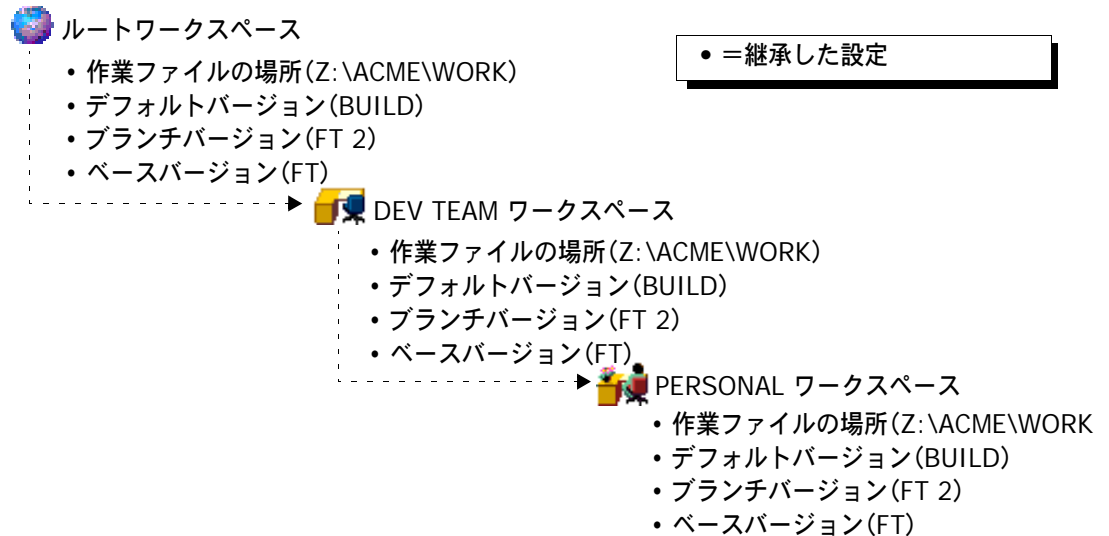
ワークスペース設定の継承

ワークスペースは継承される

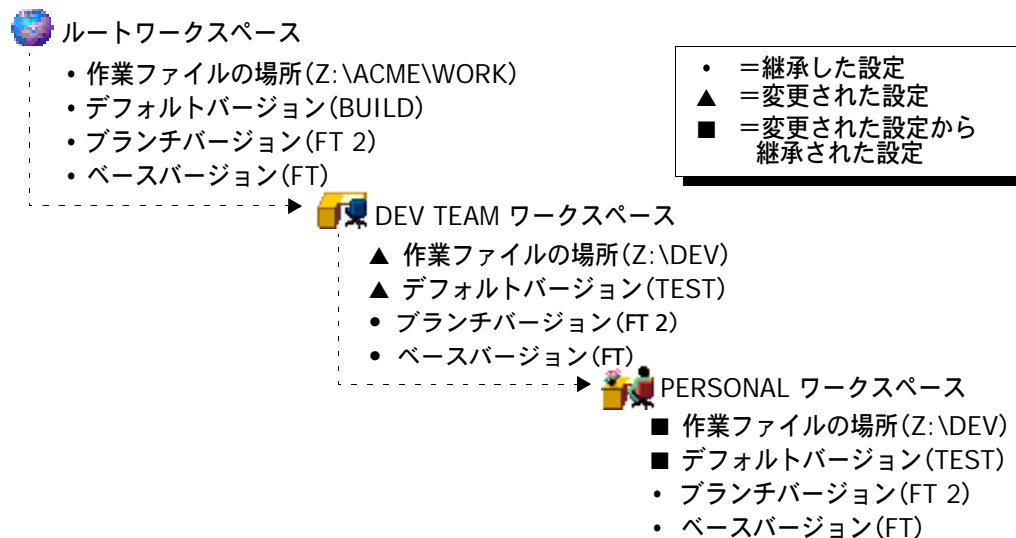
親ワークスペースと継承したワークスペースの間では 5 つの設定が共有されます。作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ブランチバージョン、ベースバージョン、およびデフォルトプロモーショングループの 5 つです。

親のワークスペースで、あるワークスペース設定を変更すると、継承したワークスペースでその作業設定がすでに変更されている場合を除き、継承したワークスペースにも変更が反映されます。継承したワークスペースの設定を親のワークスペースの設定に戻すには、変更した設定フィールドの値を削除します。

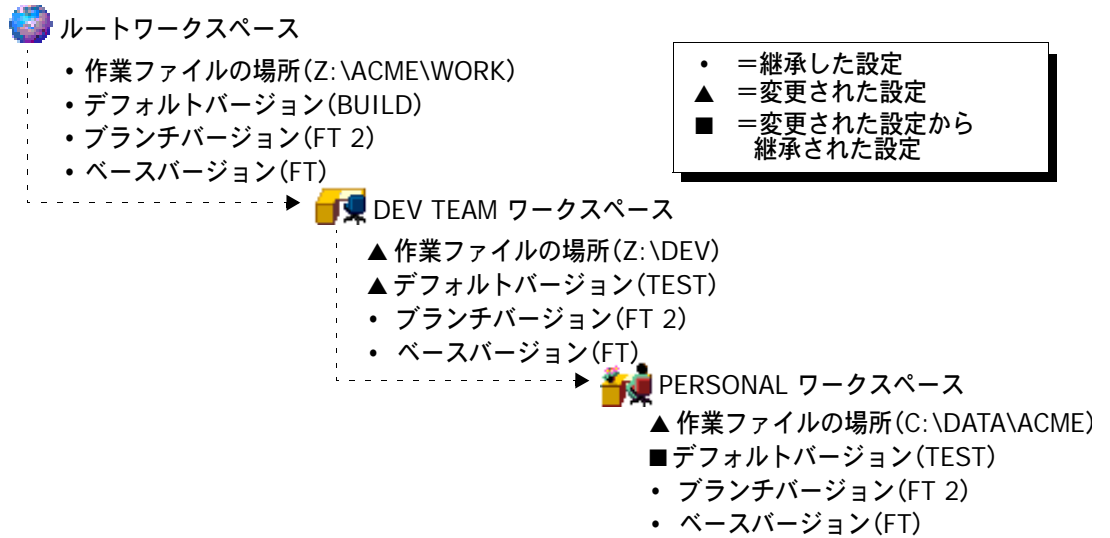
- 例 1** 管理者は、ルートワークスペースに値を割り当てます。プロジェクトリーダーは、ルートワークスペースから DEV TEAM というワークスペースを作成します。プロジェクトチームのメンバーは、DEV ワークスペースから PERSONAL というワークスペースを作成します。これら 3 つのワークスペースは、同一の作業設定を持っています。



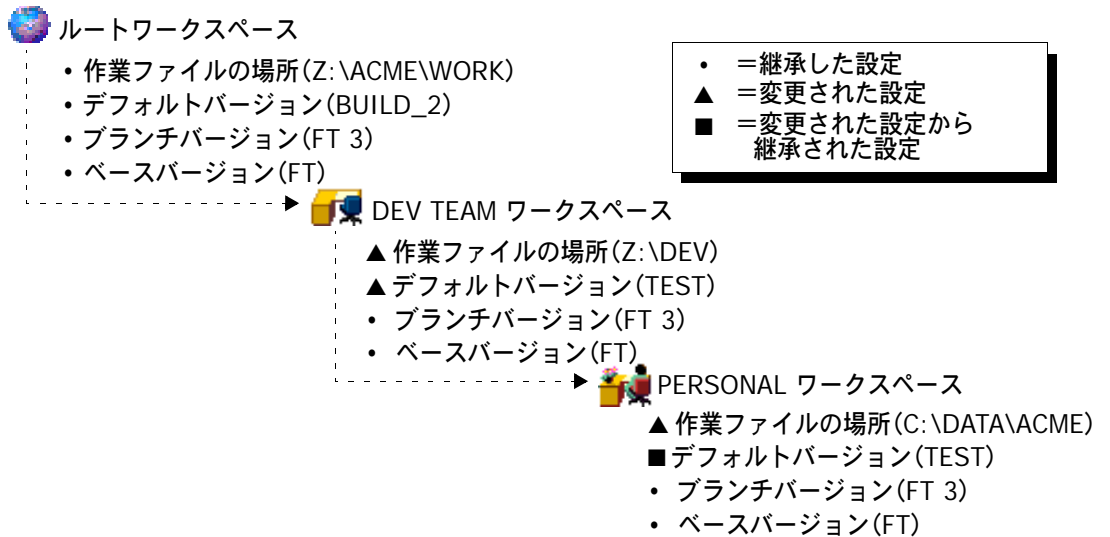
- 例 2** プロジェクトリーダーは、DEV TEAM ワークスペースの 2 つのワークスペース設定を変更します。PERSONAL ワークスペースは、DEV TEAM ワークスペースから設定を継承しているので、PERSONAL ワークスペースの同じ 2 つの設定も変更されます。



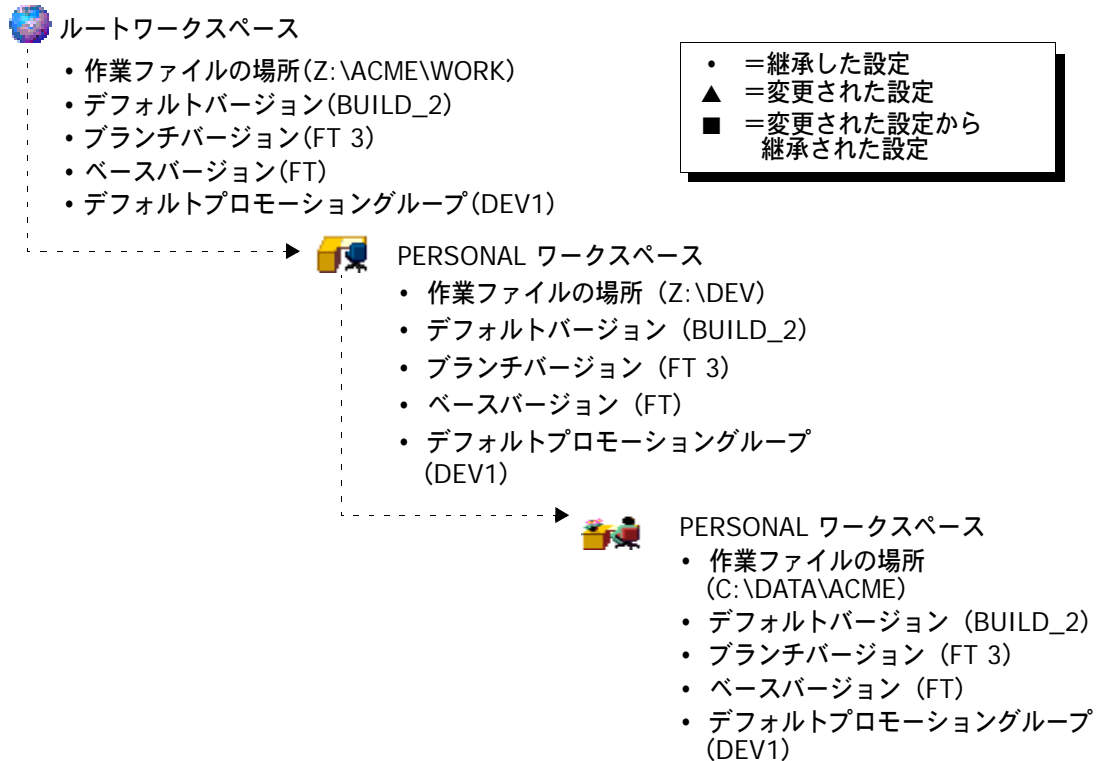
例 3 プロジェクトチームのメンバーは、ローカルで作業ができるように、PERSONAL ワークスペースの作業ファイルの場所を変更します。



例 4 管理者は、ルートワークスペースのデフォルトバージョンとブランチバージョンの作業設定を変更しました。ブランチバージョンは DEV TEAM ワークスペースと PERSONAL ワークスペースの両方でも変更されますが、デフォルトバージョンは DEV TEAM ワークスペースですすでに変更されているので、ルートワークスペースでの変更は DEV TEAM ワークスペースの設定にも、PERSONAL ワークスペースに継承された設定にも反映されません。




- 例 5** プロジェクトリーダーは、DEV TEAM ワークスペースのデフォルトバージョンをルートワークスペースの設定を継承する設定に戻そうと考えました。そのために、プロジェクトリーダーは、DEV TEAM ワークスペースのデフォルトバージョンの値を削除しました。PERSONAL ワークスペースのデフォルトバージョンの値は変更されていなかったため、ルートワークスペースのデフォルトバージョンの値は、DEV TEAM ワークスペースのデフォルトバージョンの値だけでなく、PERSONAL ワークスペースのデフォルトバージョンの値にも継承されました。さらに、プロジェクトリーダーは、ルートワークスペースのワークスペース設定を、デフォルトプロモーショングループが定義されるよう変更しました。



作業ファイルの場所の決定




Version Manager でプロジェクトデータベースを作成するときは、作業ファイルの場所に絶対パス（ドライブ名も含める）を使用する必要があります。

プロジェクトデータベース 作業ファイルの場所

 ACME (Z:\ACME) — Z:\ACME\WORK

デフォルトでは、プロジェクトを作成すると、新規プロジェクト名が親の作業ファイルの場所の最後に追加されて、プロジェクトの作業ファイルの場所が作成されます。

プロジェクト階層 作業ファイルの場所

 ACME (Z:\ACME) — Z:\ACME\WORK
 DEV — Z:\ACME\WORK\DEV
 DIALOGS — Z:\ACME\WORK\DEV\DIALOGS

Version Manager が作業ファイルの場所を保存する方法

Version Manager では、作業ファイルの場所の親と異なる部分のみが格納されます。しかし、プロジェクトやプロジェクトデータベースのプロパティを表示すると、Version Manager によって完全な作業ファイルの場所が特定されるため、作業ファイルの場所が常に絶対パスとして表示されます。

すべてのワークスペースに、プロジェクトおよびプロジェクトデータベースごとに 1 つずつ作業ファイルの場所が格納されます。

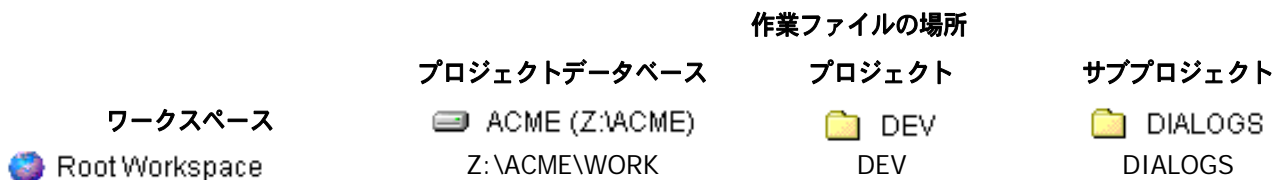


注：ルートワークスペースで作業中に、プロジェクトの作業ファイルの場所を削除すると、そのプロジェクト用の作業ファイルの場所はプロジェクトデータベースディレクトリの直下に設定されます。

作業ファイルの場所		
プロジェクト階層	表示されるもの	格納されるもの
ACME (Z:\ACME)	Z:\ACME\WORK	Z:\ACME\WORK
DEV	Z:\ACME\WORK\DEV	DEV
DIALOGS	Z:\ACME\WORK\DEV\DIALOGS	DIALOGS

例 1

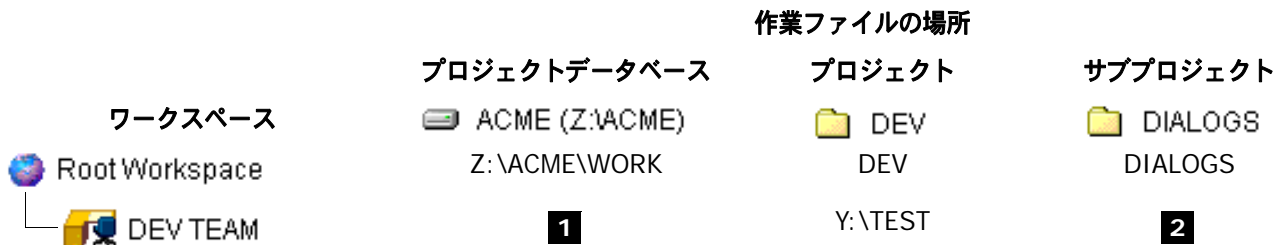
次の例では、管理者が ACME プロジェクトデータベース、DEV プロジェクト、および DIALOGS サブプロジェクトを作成し、デフォルトの作業ファイルの場所を受け入れています。ルートワークスペースには作業ファイルの場所が3つ含まれています。そのうちの 1 つは絶対パスで (Z:\ACME\WORK)、残りの 2 つは相対パスです (DEV および DIALOGS)。



例 2

この例では、前述のプロジェクト階層を使って、Version Manager が 2 つのワークスペースの作業ファイルの場所を決定する方法を説明します。

DEV TEAM ワークスペースは、開発者たちが別の作業ファイルの場所で作業ファイルをテストできるように、プロジェクトリーダーによって作成されました。Version Manager は、指定された DEV プロジェクトの作業ファイルの場所のみから、DEV TEAM ワークスペースの ACME プロジェクトデータベースおよび DIALOGS サブプロジェクトの作業ファイルの場所を決定しなければなりません。



1 DIALOGS サブプロジェクト用 DEV TEAM 作業ファイルの場所は、Z:\ACME\WORK です。

DEV TEAM ワークスペースには、ACME プロジェクトデータベース用作業ファイルの場所が指定されていないため、Version Manager は親のワークスペース（ルートワークスペース）にある作業ファイルの場所の値を参照します (Z:\ACME\WORK)。これは絶対パスであるため、Version Manager は作業ファイルの場所の決定を終了します。

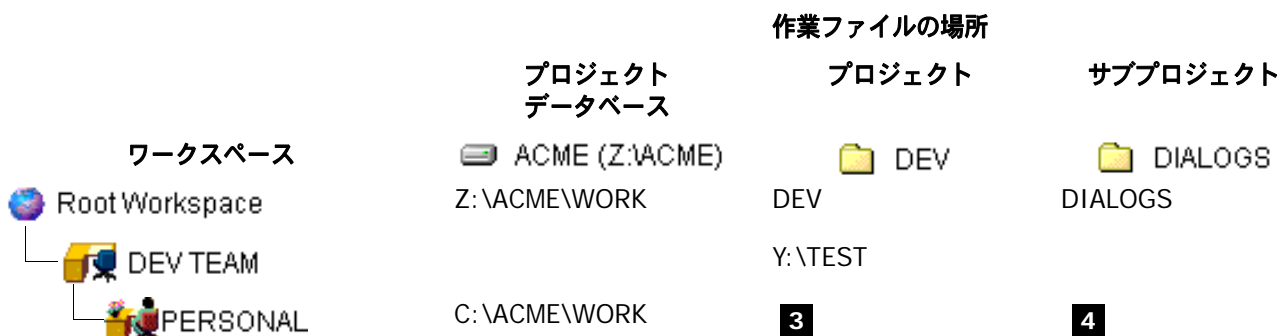
2 DIALOGS サブプロジェクト用 DEV TEAM 作業ファイルの場所は、Y:\TEST\DIALOGS です。

DEV TEAM ワークスペースには、DIALOGS サブプロジェクト用作業ファイルの場所が指定されていないため、Version Manager は親のワークスペース（ルートワークスペース）にある作業ファイルの場所の値を参照します（DIALOGS）。この値は絶対パスであるため、DIALOGS の親プロジェクトである DEV の DEV TEAM の作業ファイルの場所（Y:\TEST）に値DIALOGSを追加します。その結果、作業ファイルの場所は Y:\TEST\DIALOGS になります。これは絶対パスであるため、Version Manager は作業ファイルの場所の決定を終了します。

例 3

この例では、前述のプロジェクト階層を使って、Version Manager が 3 つのワークスペースの作業ファイルの場所を決定する方法を説明します。

PERSONAL（プライベート）ワークスペースは、あるプロジェクトチームメンバーによって ACME プロジェクト階層に準じてローカルで作成されました。Version Manager は、指定された ACME プロジェクトデータベースの作業ファイルの場所のみから、PERSONAL ワークスペースの DEV プロジェクトおよび DIALOGS サブプロジェクトの作業ファイルの場所を決定しなければなりません。



3 PERSONAL ワークスペースの DEV プロジェクト用作業ファイルの場所は Y:\TEST です。

PERSONAL ワークスペースには、DEV プロジェクトの作業ファイルの場所が指定されていないため、Version Manager は親のワークスペース（DEV TEAM）の作業ファイルの場所の値を参照します（Y:\TEST）。これは絶対パスであるため、Version Manager は作業ファイルの場所の決定を終了します。

4 DIALOGS サブプロジェクト用 PERSONAL 作業ファイルの場所は、Y:\TEST\DIALOGSです。

PERSONAL ワークスペースには、DIALOGS サブプロジェクトの作業ファイルの場所が指定されていないため、Version Manager は親のワークスペース（DEV TEAM）の作業ファイルの場所値を参照します。ここには値がないため、Version Managerは、DEV TEAM の親ワークスペース（ルートワークスペース）を参照して値を見つけます（DIALOGS）。

この値は絶対パスであるため、DIALOGS の親プロジェクトである DEV の PERSONAL の作業ファイルの場所に値 DIALOGS を追加します。しかし、ここには値がないため、Version Manager は、PERSONAL の親ワークスペース（DEV）を参照して値を見つけます（Y:\TEST）。その結果、作業ファイルの場所は Y:\TEST\DIALOGS になります。これは絶対パスであるため、Version Manager は作業ファイルの場所の決定を終了します。

PERSONAL ワークスペースが、ローカルで作業をするというプロジェクトチームメンバーの目的を達成しましたか？バージョン管理ファイルがプロジェクトデータベースレベルにある場合のみ。ローカルのワークスペースが ACME プロジェクト階層を踏襲しなかったのは、PERSONAL ワークスペースが、プロジェクト階層の中間で絶対パスでカスタマイズされた DEV TEAM ワークスペース（Y:\TEST）から派生したものであるためです。

ACME プロジェクト階層全体をローカルで踏襲するには、プロジェクトチームメンバーが、以下のどちらかを行う必要があります。

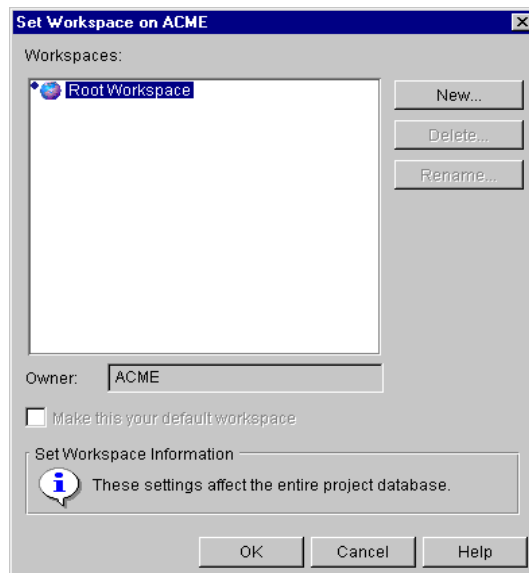
- PERSONAL ワークスペースの DEV プロジェクト用作業ファイルの場所に、絶対パスを入力します (C:\ACME\WORK\DEV)。
- ACME プロジェクトデータベースの作業ファイルの場所の絶対パスを持ったルートワークスペースから、直接派生した新規プライベートワークスペースを作成します。

ワークスペースの作成

ここで、プロジェクトデータベースでアクティブにしておけるワークスペースは、一度に 1 つだけです。プロジェクトデータベースの各プロジェクトは、それぞれの作業設定（作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョン、ブランチバージョン、およびデフォルトプロモーショングループ）を持つことができます。

ワークスペースを作成するには

- 1 ワークスペースを作成するプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Set Workspace (ワークスペースの設定)] を選択します。[Set Workspace (ワークスペースの設定)] ダイアログボックスが表示されます。

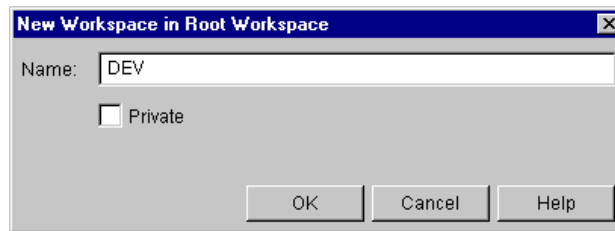


- 3 新しいワークスペースが初期設定を継承する元となるワークスペースを選択します。これが、最初に作成するワークスペースの場合は、ルートワークスペースを選択する必要があります。



注：パブリックワークスペースはプライベートワークスペースからは継承できません。プライベートワークスペースは、パブリックワークスペースを継承できます。

- 4 【New (新規作成)】をクリックします。[New Workspace (新規ワークスペースを作成)] ダイアログボックスが表示されます。



- 5 〈Name (名前)〉フィールドに、新規ワークスペースの名前を入力します。
- 6 ワークスペースをプライベートワークスペースにする場合は、〈Private (プライベート)〉チェックボックスを選択します。選択しない場合は、ワークスペースはパブリックワークスペースになります。
- 7 【OK】をクリックします。Version Manager はワークスペースを作成し、それに派生元から継承した作業設定を割り当てます。これらの設定を変更する方法については、[128 ページの『ワークスペース設定の変更』](#)を参照してください。また、新規ワークスペースは現在のワークスペースとして設定されます。


ワークスペースの設定

アクティブなワークスペースは常に、ステータスバーのワークスペース表示部に表示されます。ワークスペースを設定すると、以下を行うことができます。

- 1つのワークスペースから別のワークスペースへの変更
- デフォルトワークスペースの設定

デフォルトワークスペースとは

デフォルトワークスペースは、プロジェクトデータベースを開いたり、Version Manager を再起動したときに、アクティブなワークスペースとして選択されるワークスペースです。

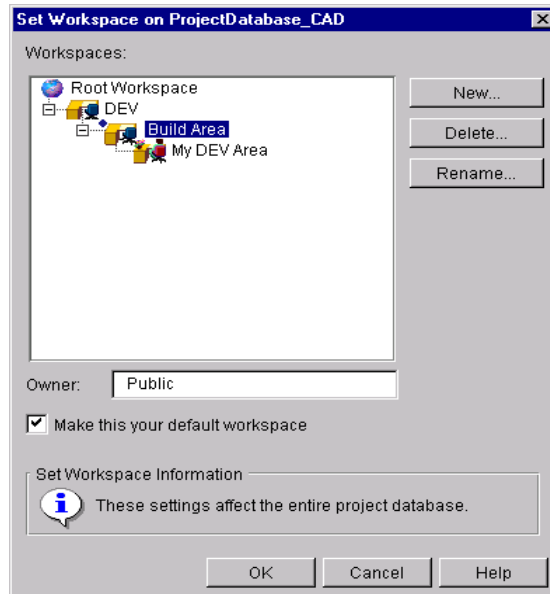
プロジェクトデータベースには、各ユーザに対して1つのデフォルトワークスペースがあります。デフォルトワークスペースを設定するまで、Version Manager はルートワークスペースをデフォルトワークスペースとして使用します。デフォルトワークスペースのワークスペースアイコンの隣には、青い菱形が表示されます ()。

ワークスペースを設定するには

- 1 別のワークスペースを設定するプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Set Workspace (ワークスペースの設定)] を選択します。[Set Workspace (ワークスペースの設定)] ダイアログボックスが表示されます。



ヒント: ステータスバーのワークスペース表示部をクリックしても、[Set Workspace (ワークスペースの設定)] ダイアログボックスを開くことができます。



- 3 このプロジェクトデータベースに対してアクティブにするワークスペースを選択します。
- 4 このワークスペースをデフォルトワークスペースにするには、〈Make this your default workspace (デフォルトワークスペースに設定)〉チェックボックスを選択します。
- 5 【OK】をクリックします。プロジェクトデータベースの作業設定が、選択したワークスペースで定義されている設定に変わります。

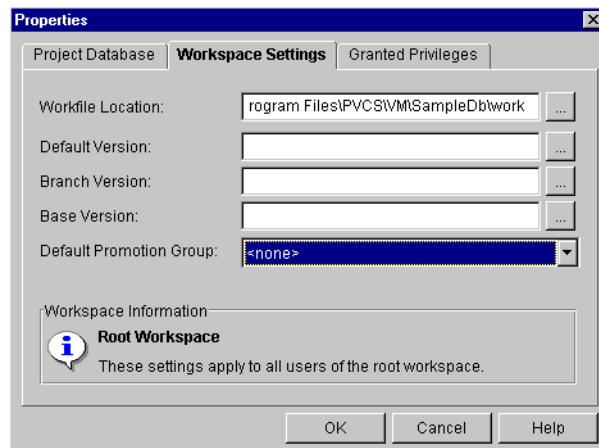
ワークスペース設定の変更

ワークスペースを作成すると、そのワークスペースには、その派生元であるワークスペースの作業設定が継承されます。ワークスペースの設定を変更すると、変更した値が継承したワークスペースの設定に優先して使用されます。

ワークスペース設定を変更するには

- 1 編集するワークスペースを設定します。詳細は、[127 ページの『ワークスペースの設定』](#)を参照してください。
- 2 プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはバージョン管理ファイルを選択します。

- 3 [File (ファイル)] – [Properties (プロパティ)] を選択し、[Workspace Settings (ワークスペースの設定)] タブを選択します。



これらのフィールドには、親ワークスペースから継承した値が含まれています（自分またはほかのユーザによって変更された場合を除く）。

- 4 以下のフィールドに適切な情報を入力または選択します。

フィールド	入力または選択する値
作業ファイルの場所	<p>作業ファイルディレクトリの場所。ここからファイルをチェックインしたり、ここへファイルをチェックアウトします。このフィールドの設定を削除すると、親ワークスペースの設定が継承されます。</p> <p>ルートワークスペースで作業中に、プロジェクトの作業ファイルの場所を削除すると、そのプロジェクト用の作業ファイルの場所はプロジェクトデータベースディレクトリの直下に設定されます。</p> <p>作業ファイルの場所にそのパスのルートとして \$HOME を含めることができます（たとえば、UNIX では、\$HOME/workは/usr/cherylc/work に展開することが可能）。Version Manager により、HOME 環境変数の値が代入され、作業ファイルの場所が決定されます。\$HOME を使用すると、HOME 環境変数の値に基づいて、ユーザに自動的に個別のパスを定義することができます。</p>
デフォルトバージョン	<p>デフォルトバージョンとして使用するバージョンラベル。チェックアウト、取得、チェックイン、ロック、ロック解除、バージョンラベルおよびプロモーショングループの割り当てなどのアクションは、デフォルトバージョンに対して実行されます。このフィールドの設定を削除すると、親ワークスペースの設定が継承されます。</p>
ベースバージョン	<p>ブランチを開始するリビジョンに割り当てるバージョンラベル。このフィールドは、自動ブランチを有効にするために使用されます。このフィールドの設定を削除すると、親ワークスペースの設定が継承されず、フィールドが空白の場合は、自動ブランチは利用できません。</p>

フィールド	入力または選択する値
ブランチバージョン	ブランチのチップに割り当てるバージョンラベル。このフィールドは、自動ブランチを有効にするために使用されます。このフィールドの設定を削除すると、親ワークスペースの設定が継承されます。フィールドが空白の場合は、自動ブランチは利用できません。
デフォルトプロモーショングループ	デフォルトプロモーショングループは、プロモーションモデルが作成されている場合にのみ有効です。デフォルトプロモーショングループは、プロモーションモデルの最下位のプロモーショングループです。 デフォルトでは、指定したデフォルトプロモーショングループは、リビジョンのチェックアウト、リビジョンのロックおよび作業ファイルの追加を行うときにリビジョンに割り当てられます。デフォルトプロモーショングループを定義することにより、ユーザは、これらのアクションに使用する最下位レベルのプロモーショングループを指定する必要がなくなります。)

5 【OK】をクリックします。

ワークスペース名の変更

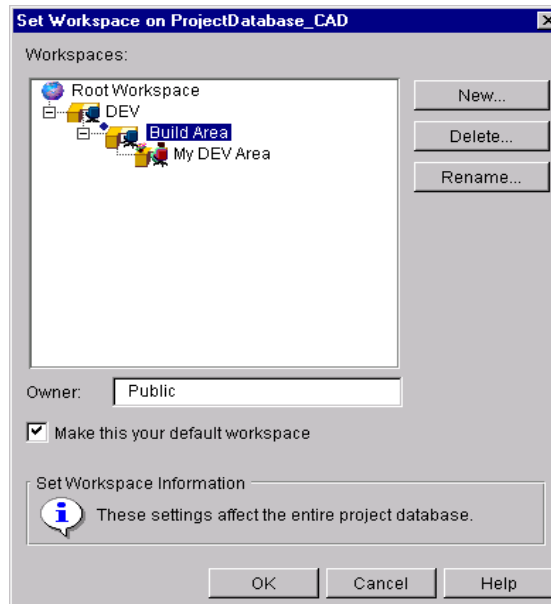
SuperUser 権限または Unlimited 権限がある場合はパブリックワークスペースの名前を変更できます。ただし、パブリックワークスペースの名前を変更すると、そのワークスペースにアクセスするすべてのユーザが影響を受けます。プライベートワークスペースを作成した場合は、その名前を変更できません。



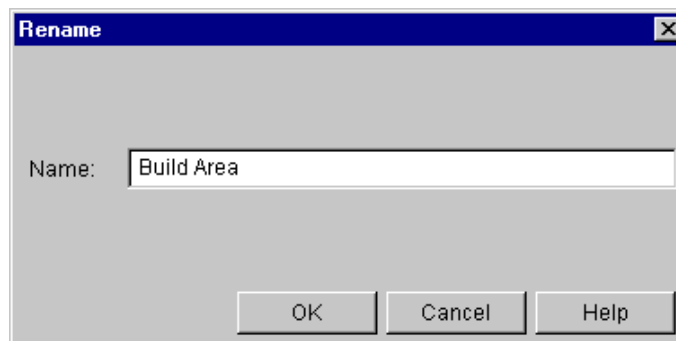
注：デフォルトワークスペースに設定されているワークスペースの名前を変更すると、デフォルトワークスペースがルートワークスペースに設定されます。これは、名前を変更されたワークスペースがデフォルトワークスペースとなっている全ユーザに影響を及ぼします。

ワークスペースの名前を変更するには

- 1 ワークスペースの名前を変更するプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Set Workspace (ワークスペースの設定)] を選択します。[Set Workspace (ワークスペースの設定)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 名前を変更するワークスペースを選択し、【Rename (名前の変更)】をクリックします。[Rename (名前の変更)] ダイアログボックスが表示されます。

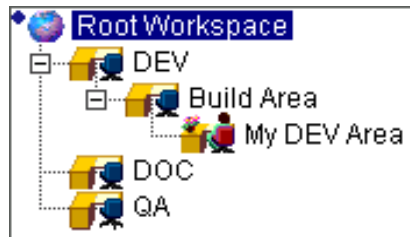


- 4 ワークスペースの名前を変更し、【OK】をクリックします。新しい名前が [Set Workspace (ワークスペースの設定)] ダイアログボックスに表示されます。
- 5 【OK】をクリックして Version Manager のメインウィンドウに戻ります。

ワークスペースの削除

作成したプライベートワークスペースは、現在のワークスペースでないかぎり、削除することができません。SuperUser または Unlimited 権限があれば、パブリックワークスペースも削除することができます。ワークスペースを削除すると、そこから派生したすべてのワークスペースも削除されます。ルートワークスペース、現在のワークスペースおよびその親であるワークスペースは削除できません。

たとえば、以下の階層で、DEV パブリックワークスペースを削除すると、Build Area パブリックワークスペースと My DEV Area プライベートワークスペースも削除されます。



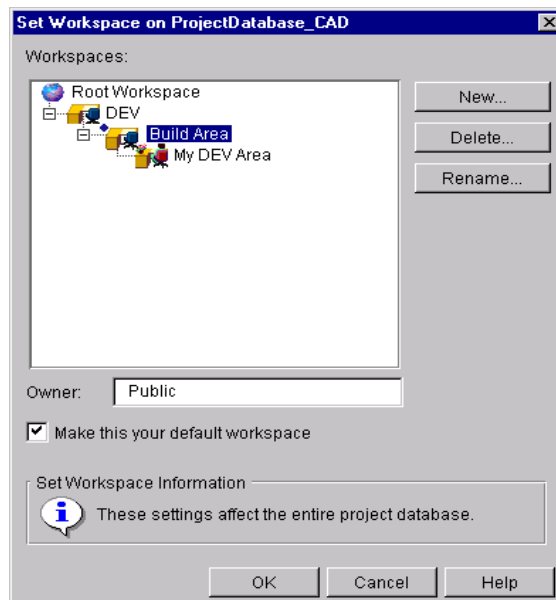
デフォルトワークスペースに設定されているパブリックワークスペースがほかのユーザにより削除された場合は、ルートワークスペースが、デフォルトワークスペースになります。



重要：パブリックワークスペースを削除すると、そのワークスペースを使用するユーザすべてに影響を与えます。

ワークスペースを削除するには

- 1 ワークスペースを削除するプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [File (ファイル)] – [Set Workspace (ワークスペースの設定)] を選択します。[Set Workspace (ワークスペースの設定)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 削除するワークスペースを選択し、【Delete (削除)】をクリックします。ワークスペースの削除を確認するメッセージが表示されます。
- 4 【Yes (はい)】をクリックしてワークスペースを削除します。ワークスペースは、ワークスペース階層から削除されます。
- 5 【OK】をクリックして Version Manager のメインウィンドウに戻ります。

シナリオ：デフォルトワークスペースに影響を与えずにカスタムワークスペースを定義する



Bridge プロジェクトは間もなく完了します。この段階では、品質保証のエンジニアがコードをテストし、テクニカルライターが機能についてのドキュメントを作成し、開発者がプログラミング作業を完了させます。すべてのチームメンバーが同じネットワークドライブ上の同じアーカイブのセットを使って作業しますが、各グループが作業するドライブ上の場所はそれぞれ異なります。また、ビルドチームはまったく別のネットワークドライブでコードをコンパイルします。阿部さんは、各グループがファイルを使用するたびに作業ファイルの場所を再定義しなくても済むように、各グループに対して別のワークスペースを設定したいと考えています。

まず、管理者によって定義されたワークスペース設定を確認します。そのためには、Games プロジェクトデータベースを右クリックし、[Properties (プロパティ)] を選択し、[Workspace Settings (ワークスペースの設定)] タブを選択します。ルートワークスペースは管理者によって次のようなデフォルト設定で設定されていました（ルートワークスペースを削除したり名前を変更したりすることはできません）。

- デフォルトの作業ファイルの場所は `h:\vm\games\work` です。ルートワークスペースで作業をする場合は、バージョン管理ファイルはプロジェクトデータベースの場所に関連するディレクトリにチェックアウトされます。たとえば、ルートワークスペースで作業をしている場合は、Checkers バージョン管理ファイルは、`h:\vm\games\work\checkers` にチェックアウトされます。
- デフォルトのデフォルトバージョンは空白です。デフォルトバージョンが指定されていない場合は、自動的に最新バージョンに対して動作します。井上さんは、このフィールドを空白のままにしています。後で、阿部さんが自動ブランチやマージを設定する際に、ブランチバージョンと一致するデフォルトバージョンを指定できます。
- デフォルトのブランチバージョンは空白です。このバージョンラベルは、開発ブランチの最新リビジョン（チップリビジョン）を示します。このデータベースにはブランチがまだ作成されていないので、井上さんはこのフィールドを空白のままにしています。
- デフォルトのベースバージョンは空白です。このバージョンラベルは、このリビジョンからファイルの別のバージョン（ブランチ）が開始されることを示します。このデータベースにはブランチがまだ作成されていないので、井上さんはこのフィールドを空白のままにしています。

全開発グループは、プロジェクトデータベースに定義された作業ファイルの場所のサブディレクトリに作業ファイルを格納しているため、阿部さんは、プロジェクトデータベースの作業ファイルの場所に関連した、各開発グループ固有の作業ファイルの場所を指定しようと考えています。そのためにはまず、井上さんによって設定されたルートワークスペースの設定を継承する 4 つの新しいワークスペースを作成しなければなりません。阿部さんは Games プロジェクトを選択し、〈Set Workspace (ワークスペースの設定)〉オプションを選択しました。次に、ルートワークスペースを選択し【New (新規作成)】をクリックしました。そして、新規ワークスペースを「Quality Assurance」と名付けました。そのワークスペースは「パブリック」ワークスペースにして、全ユーザがアクセスできるようにする必要があるため、〈Private (プライベート)〉チェックボックスが選択されていないことを確認してから【OK】をクリックしました。

毎回ルートワークスペースを選択し直しながら、この手順を 3 回繰り返して、阿部さんは、Writers、Developer、および Build の 3 つの新規ワークスペースも作成し終わりました。そして、ワークスペース階層を表示し、今作成したワークスペースがすべて親のルートワークスペースの子として表示されることを確認しました。この階層構造は、4 つの新規ワークスペースがルートワークスペースの設定を直接継承していることを示します。次に、阿部さんは、新規パブリックワークスペースにそれぞれの作業ファイルの場所を指定する必要があります。

Quality Assurance ワークスペースの作業ファイルの場所をカスタマイズするため、ステータスバーの 3 番目の枠で現在のワークスペースをクリックし、Quality Assurance ワークスペースを現在のワークスペースに設定します。次に、Games プロジェクトデータベースを選択し、[File (ファイル)] - [Set Workfile Location (作業ファイルの場所の設定)] を選択します。Quality Assurance の作業ファイルの場所は、現在、ルートワークスペースから継承された `h:\vm\games\work` に設定されています。このパスの末尾に `\QA` を追加して、部署固有の作業ファイルの場所を定義します。新しい作業ファイルの場所がファイル表示部の上のヘッダに表示されます。阿部さんは、上記の手順を Development ワークスペースと Writer ワークスペースに対しても行いました。Build ワークスペースについては、チームメンバーがコードをビルドするのは `h:` ドライブではないため、作業ファイルの場所を完全に変更する必要があります。したがって、作業ファイルの場所として `z:\build` と入力して Build ワークスペースをカスタマイズしました。

阿部さんは、これで、Version Manager を開発チームに配布する準備ができました。

シナリオ：個人的なワークスペースを定義する



内田さんは、Chess および Checkers プロジェクトを担当するソフトウェア開発者です。彼女は、阿部さんから提供された情報を使ってプロダクトを彼女自身のマシンにインストールし、Games プロジェクトデータベースにログインしました。プロダクトを使用する前に、彼女は、作業環境をカスタマイズするつもりです。阿部さんからは、カスタマイズできるように、ユーザオプションのチェックリストをもらっています。

まず、Chess および Checkers プロジェクトの作業ファイルの場所を確認しました。予想していたとおり、どちらもネットワークドライブ上にありました。内田さんは週に 3 日自宅で作業をするため、自分のラップトップにファイルをチェックアウトしたいと考えています。阿部さんのチェックリストを確認しながら、これらの設定を変更するには、プライベート作業ファイル設定を格納しておく独自のワークスペースを定義することがもっともよい方法であると気付きました。プライベートワークスペースを作成すれば、ほかのユーザの設定に影響を与えることなく、彼女は自分の作業ファイルの場所を設定できます。

プライベートワークスペースを作成するため、内田さんはまず、Games プロジェクトデータベースを選択し、〈Set Workspace (ワークスペースの設定)〉オプションを選択しました。次に、ルートワークスペースを選択し、【New (新規作成)】をクリックします。自分の名前に基づく UchidaP という名前をワークスペースに付けて、〈Private (プライベート)〉チェックボックスを選択します。このオプションを選択すると、変更が自分の作業ファイルの場所以外には影響しなくなります。さらに、〈Make this your default workspace (デフォルトワークスペースに設定)〉チェックボックスを選択します。この設定は、内田さんのユーザ情報とともに格納されます。これ以降、内田さんが Games プロジェクトデータベースを開くと、自動的に UchidaP が現在のワークスペースに設定されます。

続いて内田さんは、UchidaP が現在のワークスペースに設定された状態で Chess プロジェクトを選択し、〈Set Workfile Location (作業ファイルの場所の設定)〉オプションを選択して、作業ファイルの場所を `c:\work` に変更します。この手順を Checkers プロジェクトについても繰り返します。

第 8 章

ユーザ設定

作業ファイルの場所の設定	136
アプリケーションログの使用	137
[Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)] ダイアログボックスの非表示	138
確認ダイアログボックスの非表示	140
サブプロジェクトをプロジェクト操作に追加	140
フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定	142
チェックイン/チェックアウトオプションの定義	142
ダイアログボックスの表示設定	144
デフォルトエディタの設定	145
シナリオ：個人用のユーザ設定を定義する	148

作業ファイルの場所の設定

作業ファイルの場所とは、作業ファイルをチェックインおよびチェックアウトする場所のことです。プロジェクトを作成するユーザ（通常はプロジェクトリーダー）が、プロジェクトを作成するときに作業ファイルの場所を決定します。作業ファイルの場所は、プロジェクトデータベースに割り当てられたワークスペースに保存されます。このワークスペースは、通常パブリックワークスペースです。

パブリックワークスペースとプライベートワークスペース

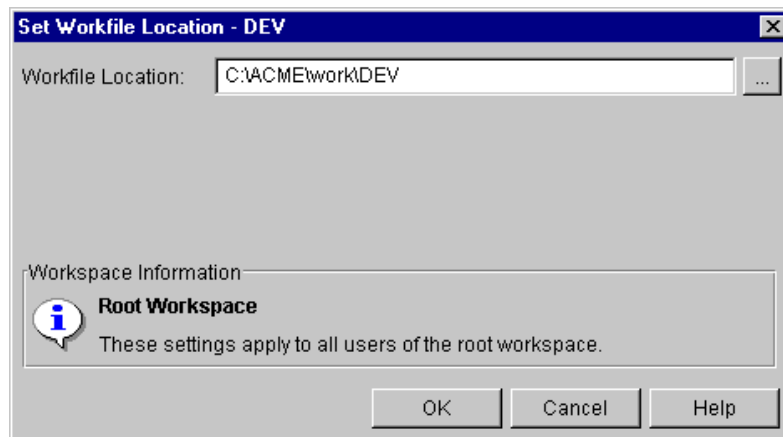
パブリックワークスペースにある作業ファイルの場所を変更すると、そのパブリックワークスペースを使ってアクセスするすべてのユーザの作業ファイルの場所に影響します。プライベートワークスペースにある作業ファイルの場所を変更した場合は、ほかのユーザの作業ファイルの場所にはまったく影響しません。

ルートワークスペースで作業中に、プロジェクトの作業ファイルの場所を削除すると、そのプロジェクト用の作業ファイルの場所はプロジェクトデータベースディレクトリの直下に設定されます。

ワークスペースの詳細は、[第 7 章、117 ページの『ワークスペースの操作』](#)を参照してください。

プロジェクトデータベース、プロジェクト、サブプロジェクト、またはバージョン管理ファイルの作業ファイルの場所を設定するには

- 1 プロジェクトデータベース、プロジェクト、サブプロジェクト、またはバージョン管理ファイルを選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Set Workfile Location (作業ファイルの場所の設定)] を選択するか、または、[File (ファイル)] - [Properties (プロパティ)] - [Workspace Settings (ワークスペースの設定)] タブを選択します。



- 3 <Workfile Location (作業ファイルの場所)> フィールドに新しい作業ファイルの場所を入力するか、【Browse (...)】をクリックして新しい場所を選択します。
- 4 【OK】をクリックします。

アプリケーションログの使用

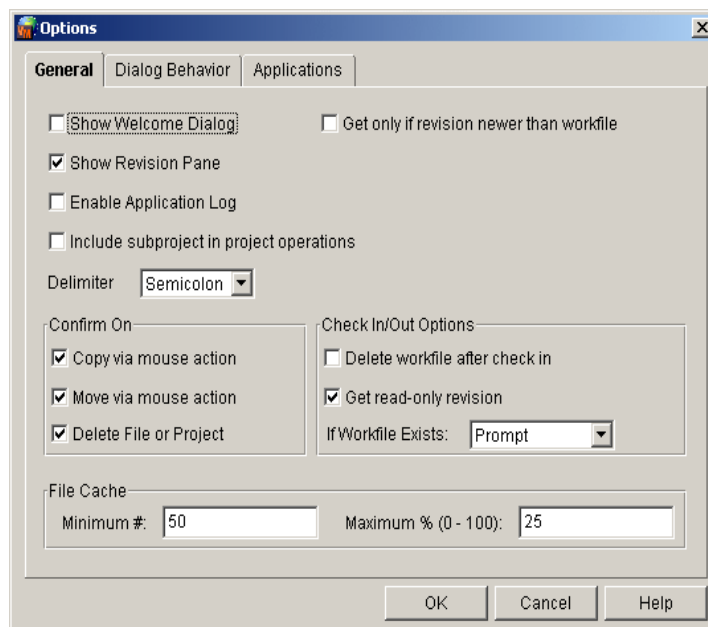
pvcscapp.log ファイルが生成されるようにして、Version Manager からの警告やエラーメッセージを記録するよう設定できます。このファイルに記録されるのは、結果としてコマンドが実行されないようなエラーのみです。また、OutOfMemoryError のような予期せぬ状態が発生した場合、このファイルにスタックトレースが出力されます。コマンドの実行結果のログに記録されるエラーは、コマンドの実行を妨げることはなく、そのため、pvcscapp.log には記録されません。

アプリケーションログオプションは、Version Manager を実行するワークステーションごとに設定され、各ユーザが有効または無効にすることができます。アプリケーションログを使用可能にすると、「ホーム」ディレクトリに pvcscapp.log という名前のファイルが作成されます。ログを表示するには、デフォルトエディタを使用してファイルを開きます。

Windows ユーザ：「ホーム」ディレクトリは、システムプロパティで設定する *home* 環境変数によって決まります。home 環境変数が設定されていない場合、ログファイルは *drive:\users\default* に作成されます。ここで *drive* は、Windows システムファイルの場所です。

アプリケーションログを作成するには

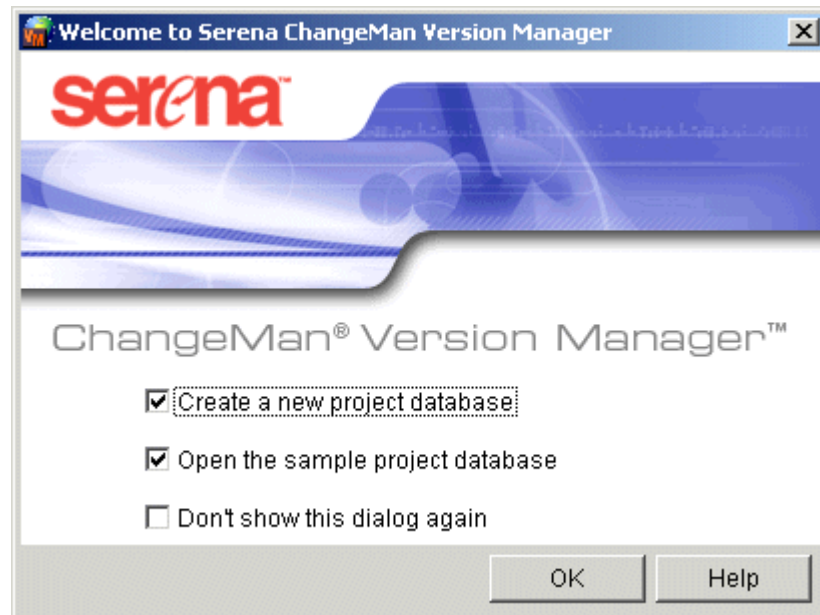
- 1 [View (表示)] – [Options (オプション)] を選択します。[Options (オプション)] ダイアログが開き、[General (全般)] タブが表示されます。



- 2 <Enable Application Log (アプリケーションログを作成)> チェックボックスを選択し、【OK】をクリックします。

〔Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)〕 ダイアログボックスの非表示

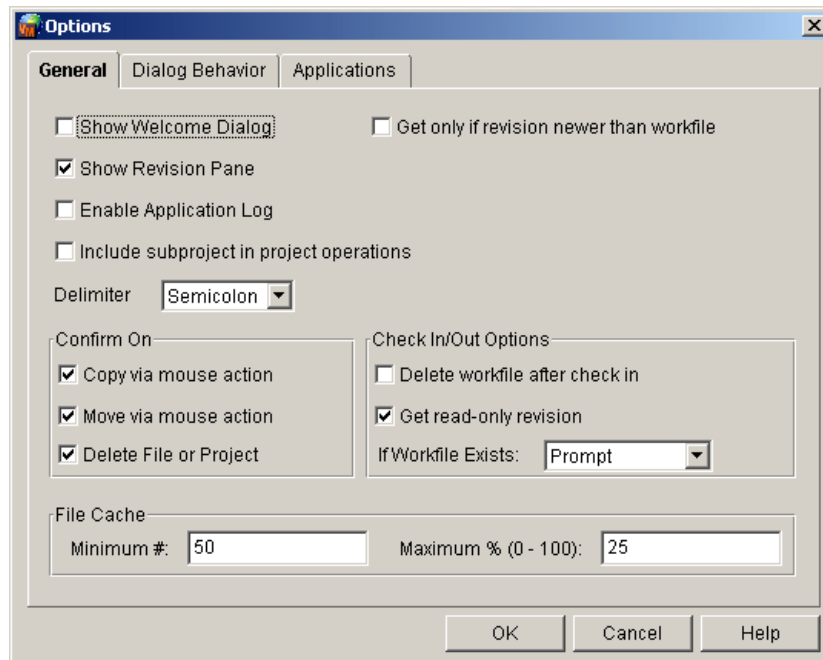
〔Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)〕 ダイアログボックスは、初心者のユーザが、簡単に、新規プロジェクトを作成したり、サンプルプロジェクトデータベースを開いたり、既存のプロジェクトデータベースを開いたりできるようデザインされています。



〔Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)〕 ダイアログボックスは、〈Don't show this dialog again (次回からこのダイアログを表示しない)〉 チェックボックスを選択するか、ユーザ設定の起動メッセージオプションを無効にしないかぎり、Version Manager を起動するたびに表示されます。

〔Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)〕 ダイアログボックスが表示されないようにするには

- 1 [View (表示)] - [Options (オプション)] を選択します。〔Options (オプション)〕 ダイアログボックスが開き、〔General (全般)〕 タブがアクティブになっています。



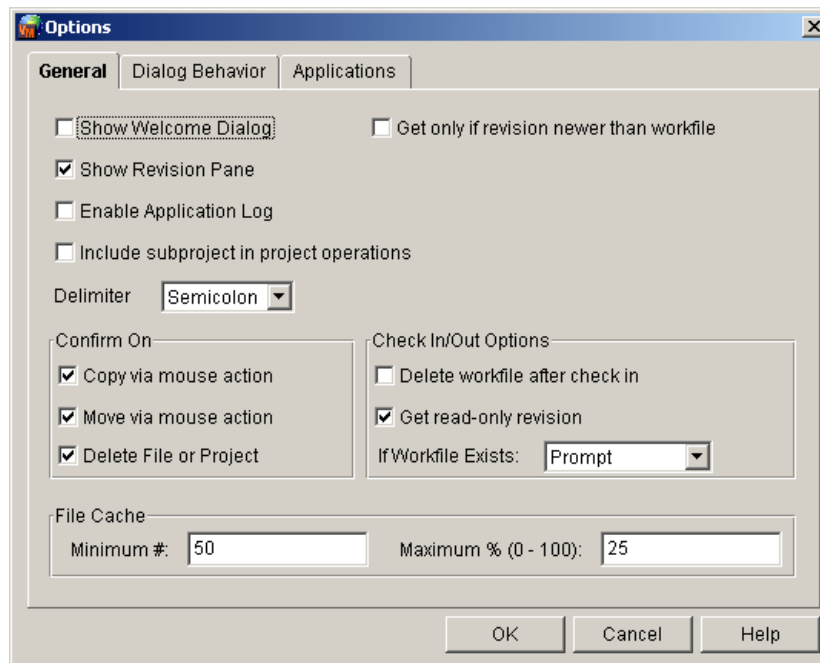
- 2 〈Show Welcome Dialog (〔Serena ChangeMan Version Manager へようこそ〕 ダイアログボックスを表示)〉 チェックボックスの選択を解除します。
- 3 【OK】 をクリックします。

確認ダイアログボックスの非表示

デフォルトでは、Version Manager 内からアイテムのコピー、移動、または削除を行うと、そのたびに確認ダイアログボックスが表示されます。確認ダイアログボックスは、これらのタスクの種類ごとに表示されるかどうかを指定することができます。

任意またはすべての確認ダイアログボックスを非表示にするには

- 1 [View (表示)] – [Options (オプション)] を選択します。[Options (オプション)] ダイアログボックスが開き、[General (全般)] タブがアクティブになっています。



- 2 <Confirm On (確認メッセージの表示)> グループボックスのいずれかのオプションを選択します。
 - ドラッグアンドドロップを使ってアイテムをコピーする際に確認ダイアログボックスを表示しない場合は、<Copy via mouse action (ドラッグアンドドロップによるコピー)> チェックボックスの選択を解除します。
 - ドラッグアンドドロップを使ってアイテムを移動する際に確認ダイアログボックスを表示しない場合は、<Move via mouse action (ドラッグアンドドロップによる移動)> チェックボックスの選択を解除します。
 - バージョン管理ファイルまたはプロジェクトを削除する際に確認ダイアログボックスを表示しない場合は、<Delete File or Project (ファイルまたはプロジェクトの削除)> チェックボックスの選択を解除します。
- 3 【OK】をクリックします。

サブプロジェクトをプロジェクト操作に追加

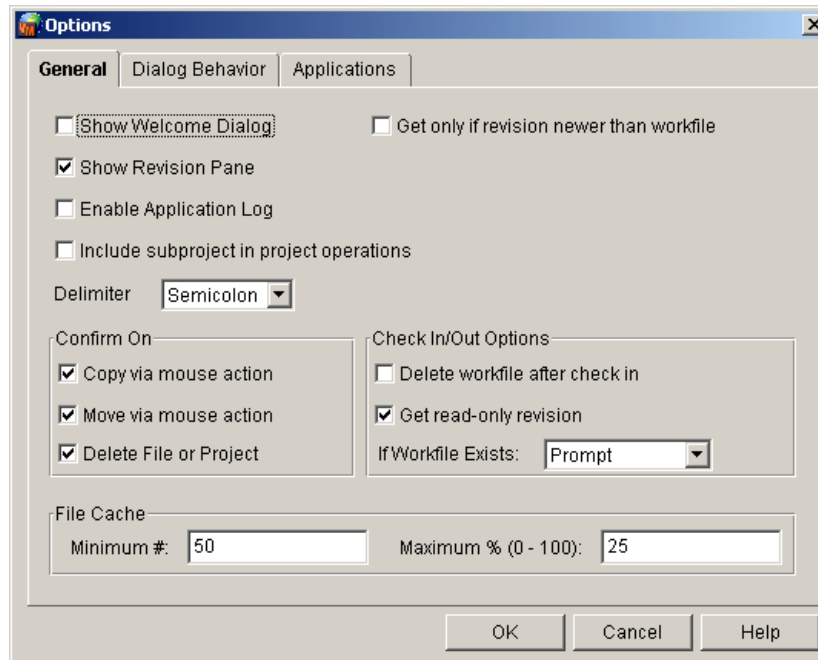
プロジェクトデータベースまたはプロジェクトに対してアクションを実行する場合、デフォルトでは、そのプロジェクトデータベースまたはプロジェクトの直下のバージョン管理アイテムのみがアク

ションの対象となります。サブプロジェクト内のバージョン管理ファイルは、デフォルトでは操作対象から除外されます。

プロジェクトデータベースまたはプロジェクトに対してアクションを実行するとき、サブプロジェクトも処理対象となるようにデフォルト設定を変更できます。

プロジェクトデータベースまたはプロジェクトの操作を実行するときの、デフォルト設定を変更するには

- 1 [View (表示)] - [Options (オプション)] を選択します。[Options (オプション)] ダイアログボックスが開き、[General (全般)] タブがアクティブになっています。



- 2 <Include subproject in project operations (処理対象にサブプロジェクトも含める)> チェックボックスを選択します。
- 3 【OK】 をクリックします。



注： <Include subproject in project operations (処理対象にサブプロジェクトも含める)> オプションを選択することはプロジェクト操作中に、サブプロジェクトを操作の対象に含めなければならないという意味ではありません。このチェックボックスを選択すると、プロジェクトレベルの操作を実行するためのダイアログボックスで、<include subproject (サブプロジェクトも含む)> チェックボックスがあらかじめ選択された状態になります。

フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定

デフォルトでは、セミコロン (;) を使用してダイアログボックスのフィールド内の複数エントリを区切ります。区切り文字は複数エントリを受け入れるすべてのフィールドで使用します。

名前の中で区切り文字を使用しているアイテムを処理する場合は、区切り文字を変更する必要があります。区切り文字には、コンマ (,)、コロン (:), またはセミコロン (;) を設定できます。

区切り文字を指定するには

- 1 [View (表示)] – [Options (オプション)] を選択します。[Options (オプション)] ダイアログボックスが開き、[General (全般)] タブが表示されます。
- 2 <Delimiter (区切り文字)> リストから、次のいずれかを選択します。
 - Comma (コンマ (,))
 - Colon (コロン (:))
 - Semicolon (セミコロン (;)) (デフォルト)



重要: ダイアログボックスのフィールドに入力するアイテムに含まれていない区切り文字を選択してください。

- 3 【OK】 をクリックします。

チェックイン/チェックアウトオプションの定義

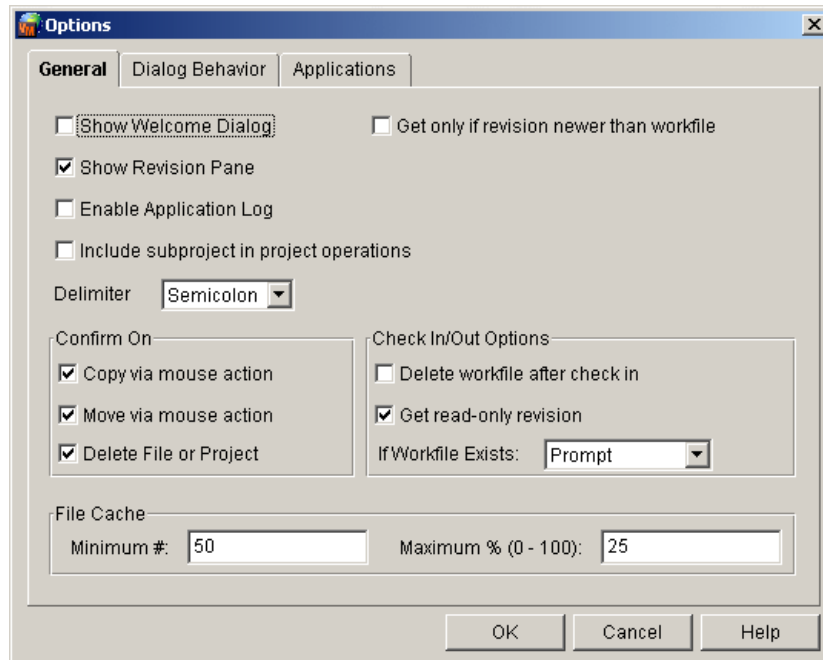
チェックイン/チェックアウト/取得アクションを実行すると、Version Manager は、デフォルトで以下の操作を行います。

- チェックアウト時に、作業ファイルがすでに存在する場合は、確認のダイアログボックスを表示します。
- チェックイン後、作業ファイルの場所に作業ファイルの読み取り専用のコピーを残します。
- 取得を実行したときに、読み取り専用の作業ファイルをコピーします。

チェックイン、チェックアウト、または取得のアクションを実行するときに、これらのデフォルトオプションを変更する必要がある場合は、使用する環境に合わせて各オプションを変更することができます。

チェックイン、チェックアウト、または取得オプションを変更するには

- 1 [View (表示)] – [Options (オプション)] を選択します。[Options (オプション)] ダイアログボックスが開き、[General (全般)] タブがアクティブになっています。



- 2 <Check In/Out Options (チェックイン/チェックアウトオプション)> グループボックスで以下のオプションを選択します。

- チェックインの正常終了後に作業ファイルの場所から作業ファイルを削除するには、<Delete workfile after check in (チェックイン後に作業ファイルを削除)> チェックボックスを選択します。
- 取得の実行時に作業ファイルを書き込み可能にするには、<Get read-only revision (リビジョンを読み取り専用で取得)> チェックボックスの選択を解除します。
- 作業ファイルがすでに存在する場合に <Prompt (確認する)> 以外のオプションを選択するには、<If Workfile Exists (作業ファイルが存在する場合)> ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

その他のオプションには、重複した作業ファイルが存在する場合でも作業ファイルを追加する <Overwrite (上書きする)>、作業ファイルの場所に作業ファイルを追加しない <Don't Overwrite (上書きしない)> があります。

- リビジョンが作業ファイルよりも新しい場合のみ取得またはチェックアウトするには、<Get only if revision is newer than workfile (作業ファイルより新しいリビジョンの場合のみ実行)> チェックボックスを選択します。これによって、変更されなかったリビジョンを取得しないので時間の節約になります。

- 3 <File Cache (ファイルキャッシュ)> グループボックスで、以下のオプションを設定します。

- <Minimum # (最小値 #)> フィールドに、ファイル表示部に一度にロードされるファイルの数の最小値を入力します。これは、割合の設定値に関係なくロードされる最小数です。ファイル数がこの値を超えると、必要に応じて、最小値の数だけ次のファイルがロードされます。

- 一度にロードするファイル数の最大数を、総ファイル数に対する割合で (Maximum % (最大値 %)) フィールドに入力します。

Version Manager は、2 つのフィールドの値を比較し、より多くのファイルが表示される方を使用します。たとえば、最小値のフィールドで 100 ファイルを選択し、2000 ファイルが含まれるプロジェクトの 25% を最大値として選択した場合、500 ファイル (2000 ファイルの 25%) がロードされます。最小値を小さくすると、初期表示用のファイルがより速くロードされます。また、最大値を大きくすると、より速くスクロールできます。

最小値には通常、各プロジェクトに含まれるファイル数の平均値を設定します。割合の最大値は、プロジェクトのファイル数が平均値より多い場合に備えて設定します。

- 4 【OK】をクリックします。

ダイアログボックスの表示設定

Version Manager では、ダイアログボックスの表示を柔軟に調整できます。デフォルトでは、Version Manager は、以下のプロジェクトアクションおよびバージョン管理ファイルアクションすべてに関してダイアログボックスを表示します。

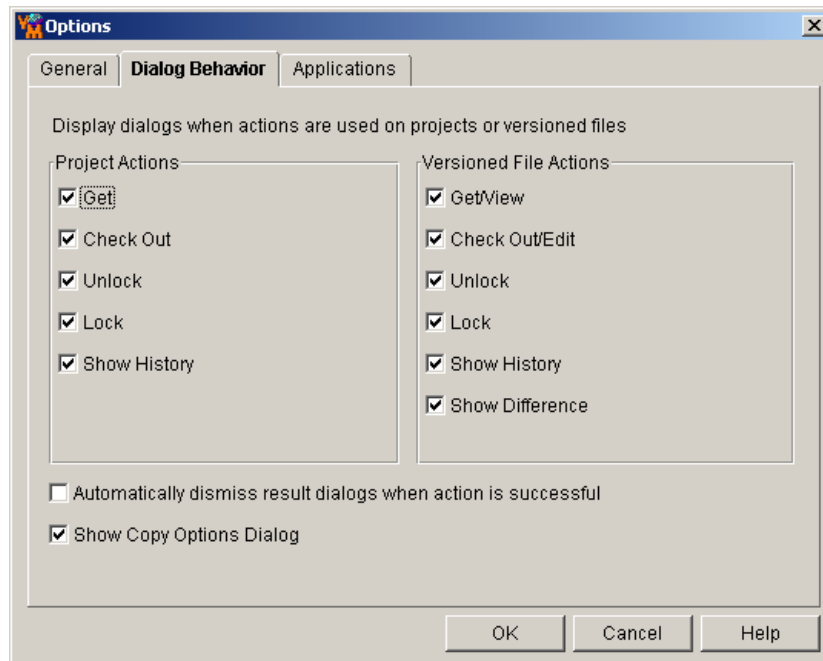
- Get/View (取得 / 表示)
- Check Out/Edit (チェックアウト / 編集)
- Unlock (ロック解除)
- Lock (ロック)
- Show History (履歴の表示)
- Show Difference (相違点の表示) (バージョン管理ファイルのみ)



注：プロジェクトおよびバージョン管理ファイルの両方に対するチェックインアクションに対しては、常に、ダイアログボックスが表示されます。

各ダイアログボックスの表示 / 非表示を指定するには

- 1 [View (表示)] - [Options (オプション)] - [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブを選択します。



- 2 <Project Actions (プロジェクトへのアクション)> グループボックスおよび <Versioned File Actions (バージョン管理ファイルへのアクション)> グループボックスで、表示されないようにするダイアログボックスを選択します。
- 3 アクションが正常に完了した場合に、結果を知らせるダイアログボックスが自動的に閉じられるよう設定するには、<Automatically dismiss result dialogs when action is successful (正常終了の場合は、結果を自動的に画面から消去)> チェックボックスを選択します。
- 4 アイテムをコピーする際に、コピーオプションを表示するダイアログボックスを非表示にするには、<Show Copy Options Dialog (コピーオプションを表示)> チェックボックスの選択を解除します。
- 5 【OK】をクリックします。

デフォルトエディタの設定

デフォルトエディタを設定して、Version Manager でバージョン管理ファイルをダブルクリックしたときに起動するエディタを指定します。

Windows の場合

Windows では、Windows のファイルタイプ関連付けによって定義されたエディタまたは選択した特定のエディタでファイルが開きます。デフォルトでは、Windows のファイルタイプ関連付けが使用されます。デフォルトを使用することをお勧めします。



注： ファイルをダブルクリックすると正しくないアプリケーションが起動する場合、Windows エクスプローラを使用して Windows ファイルタイプを修正します。

UNIX の場合 UNIX 版の場合、次を定義する必要があります。

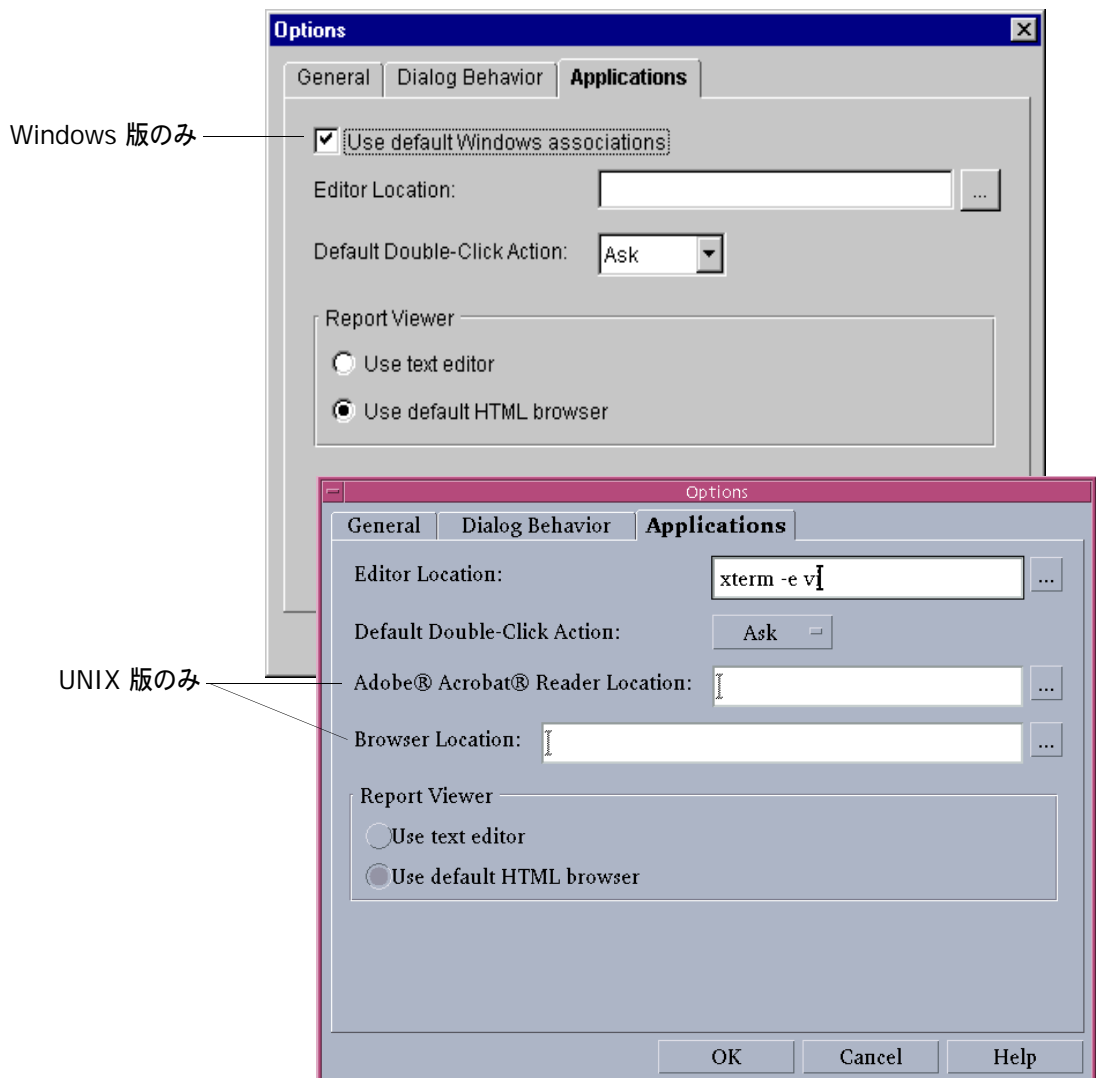
- Version Manager 内で編集または表示するファイル用に起動するエディタの場所
- [Help (ヘルプ)] - [Online Manuals (オンラインマニュアル)] を選択して、オンラインマニュアル用に起動する Adobe Acrobat Reader の場所
- オンラインヘルプを表示する HTML ブラウザの場所



注：UNIX 版には、〈Use Default Windows Associations (Windows のデフォルトの関連付けを使用)〉チェックボックスはありません。

デフォルトエディタを設定するには

- 1 [View (表示)] - [Options (オプション)] - [Applications (アプリケーション)] タブを選択します。



- 2 (Windows 版のみ) Windows のファイルタイプ関連付けを使用してエディタを起動するには、〈Use default Windows associations (Windows のデフォルトの関連付けを使用)〉チェックボックスを選択します。

- 3 〈Editor Location (テキストエディタの場所)〉テキストボックスにエディタプログラムの実行ファイルのある場所を入力するか、または、【Browse (...)] をクリックして実行ファイルを選択します。
- (UNIX 版のみ) 独自のウィンドウを起動する非 GUI エディタ (vi など) を指定した場合、そのエディタは、xterm またはその他のウィンドウタイプで起動する必要があります。たとえば、〈Editor Location (テキストエディタの場所)〉テキストボックスに次のように入力します。
`xterm editor path`
 ここで editor path には、エディタの場所を入力します。
 - (Windows 版のみ) エディタを指定して、さらに、〈Use default Windows associations (Windows のデフォルトの関連付けを使用)〉チェックボックスを選択した場合は、指定したエディタは、Windows で関連付けられたアプリケーションを見つけることができない場合にのみ使用されます。
- 4 ファイルをダブルクリックしたときに Version Manager に実行させるアクションを選択するには、〈Default Double-Click Action (ダブルクリック時のデフォルトアクション)〉ドロップダウンリストから任意のオプションを選択します。オプションは次のとおりです。
- Ask (表示 / 編集の選択)
 - View file (ファイルの表示)
 - Edit file (ファイルの編集)
- デフォルトは 〈Ask (表示 / 編集の選択)〉です。これは、ファイル表示を行うか、またはファイル編集を行うかを確認するダイアログボックスを表示します。〈View file (ファイルの表示)〉を選択すると、Version Manager は表示専用としてファイルを取得します。〈Edit file (ファイルの編集)〉を選択すると、Version Manager は編集のためにファイルをチェックアウトします。
- 5 (UNIX 版のみ) 〈Adobe® Acrobat® Reader Location (Adobe Acrobat Reader の場所)〉テキストボックスに、Version Manager オンラインマニュアルの表示に使用する Adobe Acrobat の実行ファイルのある場所を入力するか、または、【Browse (...)] をクリックして実行ファイルを選択します。
- 6 (UNIX 版のみ) 〈Browser Location (ブラウザの場所)〉フィールドに HTML ブラウザ実行ファイルのある場所を入力するか、または、【Browse (...)] をクリックして実行ファイルを選択します。指定するブラウザがオンラインヘルプの表示に使用されます。場合によっては、レポートの表示にも使用されます。
- 7 〈Report Viewer (レポート表示ツール)〉グループボックスで、レポートの表示に使用するブラウザを選択します。
- Version Manager レポートをテキストエディタで表示する場合は、〈Use text editor (テキストエディタを使用)〉を選択します。
 - Version Manager レポートを HTML 形式で表示する場合は、〈Use default HTML browser (デフォルトの HTML ブラウザを使用)〉を選択します。



注：大きいレポート (500 ファイル以上) を生成する場合は、テキストエディタでのレポートの表示を推奨します。サイズの大きいレポートをHTMLエディタで表示すると、表示に数分かかる場合があります。レポートについての詳細は、[第 19 章、245 ページの『レポートの使用』](#)を参照してください。

- 8 【OK】 をクリックします。

シナリオ：個人用のユーザ設定を定義する



個人用のユーザ設定を定義するため、内田さんは、[View (表示)] – [Options (オプション)] を選択しました。Version Manager では、これらのオプションを各ユーザに対して別々に保存できます。内田さんは、以下のように設定しました。

- [General (全般)] タブ
 - 〈Show Welcome Dialog (〔Serena ChangeMan Version Manager へようこそ〕 ダイアログボックスを表示)〉の選択を解除して、Version Manager の起動時にこのダイアログボックスが表示されないようにしました。
 - 通常はファイルの最新バージョンを使って作業をするので、リビジョン表示部は表示しないデフォルト設定のままにしました。特定のバージョン管理ファイルの履歴を見る必要が生じたときは、いつでもリビジョン表示部を表示できます。
 - アプリケーションログを使用可能にするオプションを選択しました。アプリケーションログには、警告とエラーメッセージが記録されます。pvcsapp.log ファイルに保存され、どのテキストエディタでも表示できます。内田さんは、ログを見る必要がないことを願っていますが、必要になった場合に備えておきます。
 - 〈Include subproject in project operations (処理対象にサブプロジェクトも含める)〉オプションを選択しました。内田さんは、Chess プロジェクトおよび Checkers プロジェクトの両方にサブプロジェクトが含まれるならば、これらのプロジェクトで実行するすべてのアクションが、選択したプロジェクト内のバージョン管理ファイルおよびサブプロジェクト内に格納されるバージョン管理ファイルを対象とするようにしたいと考えました。
 - 移動と削除の際には確認のダイアログボックスを表示しますが、コピーの際には表示しないようオプションを選択しました。チェックイン/チェックアウトオプションは、現時点では、デフォルトのままにしました。作業を進めていくうちに、これらの設定を変更することがあるかもしれません。
- Version Manager 環境に慣れる必要があるので、[On the Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブでは、プロジェクトとバージョン管理ファイルに対する全アクションのダイアログボックスを表示するデフォルト設定をそのままにしました。結果のダイアログボックスの表示も、デフォルト設定をそのままにしました。取得、チェックアウト、チェックインのオプションは、Version Manager に慣れてから、適切に設定する予定です。それらの設定を行った後は、設定用のダイアログボックスが表示されずに、選択したデフォルトの設定でアクションが実行されます。その時点では、アクションが正常に完了したときに、結果を報告するダイアログボックスを自動的に閉じるオプションも選択するかもしれません。
- [Applications (アプリケーション)] タブでは、バージョン管理ファイルをダブルクリックしたときにデフォルトエディタが開かれるように設定できます。[Application (アプリケーション)] タブで、内田さんは作業ファイルの編集時に使用するエディタを選択することができます。内田さんは 〈Editor Location (テキストエディタの場所)〉 フィールドにエディタプログラムの実行ファイルのパス名を入力しました。これで、バージョン管理ファイルをダブルクリックしたときに選択したエディタでファイルが開かれるように設定できました。

内田さんはこの個人用のユーザ設定を保存しました。これで、バージョン管理タスクを実行する準備ができました。

第 9 章

リビジョンのチェックアウト

チェックアウトについて	150
デフォルトのチェックアウトオプション	150
リビジョンのチェックアウト	151
シナリオ：プロジェクトファイルをチェックアウトし、編集する	156

チェックアウトについて

リビジョンをチェックアウトする理由	リビジョンに変更を加える必要がある場合は、リビジョンをチェックアウトします。1つのバージョン管理ファイル、複数のバージョン管理ファイル、1つのプロジェクトまたはプロジェクトデータベース全体を選択して、リビジョンをチェックアウトできます。プロジェクトまたはプロジェクトデータベースをチェックアウトした場合は、Serena PVCS Version Manager はそれらに含まれている全バージョン管理ファイルをチェックアウトします。
チェックアウトの際に何が起こるか	リビジョンをチェックアウトすると、Version Manager はそのリビジョンをロックし、指定の作業ファイルの場所に書き込み可能な作業ファイルを作成します。
リビジョンの指定	リビジョンをチェックアウトする際は、リビジョン番号、バージョンラベル、または、プロモーショングループによってリビジョンを選択することができます。
Issue の関連付け	TrackerLink または SourceBridge をインストールしている場合は、[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスで【Associate Issues (Issue の関連付け)】ボタンをクリックして、Issue をリビジョンに関連付けることができます。



注：リビジョンのチェックアウト時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。



注：Version Manager デスクトップクライアントが次に起動されたときに使用される、Issue 管理の統合を設定できます。現在開いているクライアントセッションには影響しません。

- 1 Serena Issue 管理の統合ユーティリティを起動します (Windows [スタート] メニューの Serena フォルダから、[ChangeMan Version Manager] - [Issue Management Integration (Issue 管理の統合)] を選択します)。
- 2 <TeamTrack SourceBridge> または <Tracker TrackerLink> を選択します。
- 3 【OK】または【Launch Version Manager (Version Manager の起動)】ボタンをクリックします。

デフォルトのチェックアウトオプション

Version Manager では、リビジョンをチェックアウトすると、次のような初期デフォルト値が使用されます。これらのデフォルト値はリビジョンをチェックアウトするときに無効にすることができます。また、[Options (オプション)] ダイアログボックス ([View (表示)] - [Options (オプション)] - [General (全般)] タブ) でデフォルト値を定義し直すこともできます。デフォルトでは、以下のように処理が行われます。

- デフォルトリビジョンを、現在作業ファイルの場所として設定されている場所にチェックアウトします。



注：プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、166 ページの『デフォルトバージョンの定義』を参照してください。

- 選択したプロジェクトのリビジョンのみをチェックアウトし、サブプロジェクトのリビジョンはチェックアウトしません。
- 現在の作業ファイルの場所にすでに書き込み可能な作業ファイルがある場合は、作業ファイルを上書きする前に確認用ダイアログボックスを表示します。



注：現在の作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルがある場合は、確認用ダイアログボックスは表示されません。

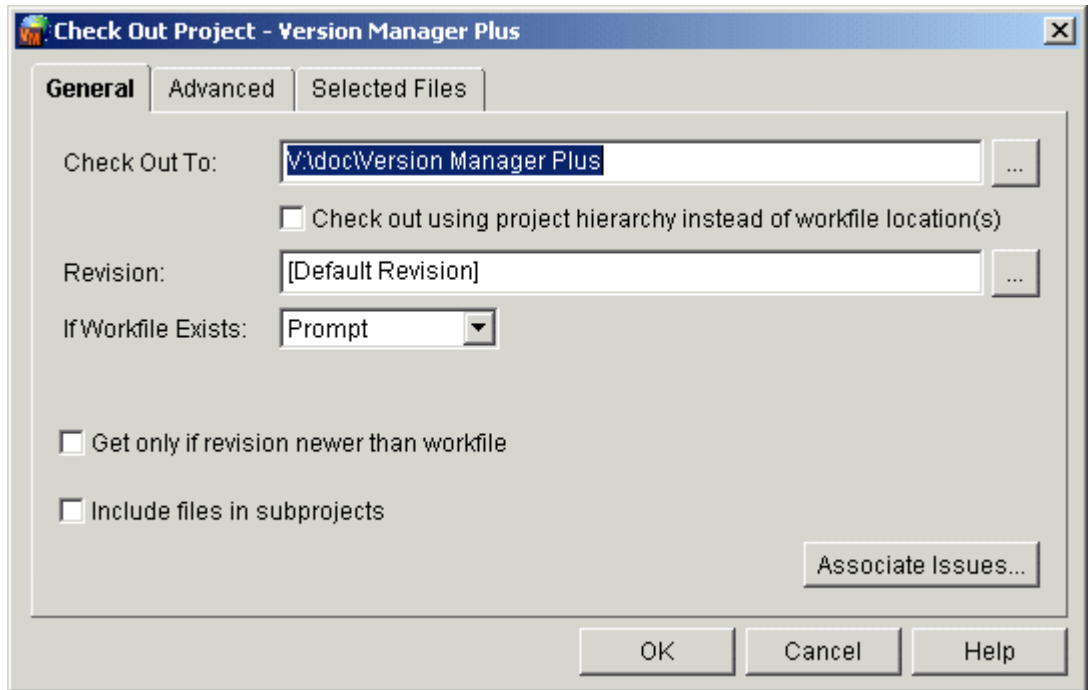
- 作業ファイルより新しいかどうかにかかわらず、リビジョンをチェックアウトします。
- プロモーションモデルが有効の場合は、現在リビジョンに割り当てられているプロモーショングループを保持します。
- ファイルのチェックアウト時に、TrackerLink または SourceBridge の自動起動は行いません。

リビジョンのチェックアウト

リビジョンをチェックアウトするには

- 1 チェックアウトするリビジョンを含むバージョン管理ファイル、プロジェクト、またはプロジェクトデータベースを選択します。

- 2 [Actions (アクション)] – [Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されます。



ヒント: チェックアウトするのが通常はデフォルトリビジョンである場合は、[View (表示)] – [Options (オプション)] – [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブで <Check Out/Edit (チェックアウト / 編集)> チェックボックスの選択を解除することによって、[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスの表示を省略できます。チェックアウトされるリビジョンと Issue との関連付けが必要な場合は、[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されなくても、[TrackerLink or SourceBridge association (TrackerLink または SourceBridge の関連付け)] ダイアログボックスが自動的に表示されます。

- 3 以下のいずれかを実行します。
- デフォルトのチェックアウトオプションを変更する場合は、次のセクションに進みます。
 - デフォルトのチェックアウトオプションを採用する場合は、【OK】をクリックします。
Version Manager は、デフォルトリビジョンを指定の作業ファイルの場所にチェックアウトし、バージョン管理ファイルにロックアイコンを付加します。

デフォルトのチェックアウトオプションの変更

- 1 [Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスの [General (全般)] タブで、以下の設定を行います。
- チェックアウトされるリビジョンの作業ファイルの場所を変更するには、<Check Out To (チェックアウト先)> フィールドの場所を編集するか、【Browse (...)] ボタンをクリックして場所を選択します。

パスの変更は今回のチェックアウトに限って有効です。作業ファイルの場所の設定が変更されるわけではありません。



注：1つのファイルをチェックアウトする場合は、〈Check Out To (チェックアウト先)〉フィールドにファイルの場所と名前が表示されます。このファイル名は変更でき（新規ファイルが作成される）、それをチェックインすると新規アーカイブが作成されます。

- (複数のバージョン管理ファイル、プロジェクトデータベース、またはプロジェクトをチェックアウトする場合のみ) 〈Check out using project hierarchy instead of workfile location(s) (プロジェクトの階層構造を使用)〉を選択すると、デフォルトの作業ファイルの場所が無効になり、〈Check Out To (チェックアウト先)〉フィールドで指定した作業ファイルの場所に基づいて、プロジェクト構造を反映したサブディレクトリ (場所) にファイルがチェックアウトされます。ディレクトリがない場合は、Version Manager によって自動的に作成されます。このオプションを選択しない場合は、各プロジェクトまたはサブプロジェクトで定義されているデフォルトの作業ファイルの場所にファイルがチェックアウトされます。

たとえば、〈Check Out To (チェックアウト先)〉フィールドの値が `c:\projdb\work` で、このオプションが選択されている場合は、次の表に示されている場所にファイルがチェックアウトされます。

プロジェクトの構造	ファイルのチェックアウト先
/proj1/subproj1	c:\projdb\work\proj1\subproj1
/proj1/subproj2	c:\projdb\work\proj1\subproj2
/proj2/subproj1	c:\projdb\work\proj2\subproj1

- デフォルトリビジョン以外のリビジョンをチェックアウトする場合は、チェックアウトするリビジョンに割り当てられたリビジョン番号、バージョンラベル、またはプロモーショングループを、〈Revision (リビジョン)〉フィールドに入力するか、【Browse (...)] ボタンをクリックして選択します。

指定したプロモーショングループに関連付けられているリビジョンが見つからない場合は、プロモーションモデルの次の階層に関連付けられているリビジョンがチェックアウトされます。

数字で始まる値を指定するには、円記号 (\) を前に付ける必要があります。たとえば、1.2 や 1abc という値の場合は、\1.2や\1abc のように入力します。

プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、[166 ページの『デフォルトバージョンの定義』](#)を参照してください。

- 〈If Workfile Exists (作業ファイルが存在する場合)〉ドロップダウンリストで、チェックアウトする作業ファイルが選択した作業ファイルの場所にすでに存在する場合に実行する処理を選択します。〈Prompt (確認する)〉(デフォルト値)を選択すると、重複する作業ファイルが存在する場合、実行する処理を尋ねるメッセージが表示されます。

そのほかのオプションには、複製の作業ファイルが存在していても作業ファイルを追加する環境変数が設定されていない場合と、作業ファイルの場所に作業ファイルを追加しない環境変数が設定されていない場合があります。

- リビジョンが作業ファイルよりも新しい場合にのみチェックアウトするには、〈Get only if revision is newer than workfile (作業ファイルより新しいリビジョンの場合のみ実行)〉チェックボックスを選択します。これによって、変更されなかったリビジョンをチェックアウトしないので時間の節約が可能です。

- 現在選択しているファイルが、プロモーションモデルが割り当てられたプロジェクトデータベースに関連付けられている場合は、チェックアウトするリビジョンにプロモーショングループを割り当てることができます。プロモーショングループを割り当てるには、〈Lowest-level promotion group (最下位のプロモーショングループ)〉ドロップダウンリストから選択します。

ワークスペースの設定を使用して、デフォルトプロモーショングループを定義することができます。アクティブなワークスペースにデフォルトプロモーショングループが定義されていない場合、Version Manager は以下の処理を行います。

- プロモーションモデルに複数のプロモーショングループが定義されている場合は、最下位のプロモーショングループを選択するよう求められます。
- プロモーションモデルに定義されているプロモーショングループが 1 つの場合は、その最下位のプロモーショングループが使用されます。

〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスが選択されている場合は、各サブプロジェクトのプロモーションモデルについても同様の動作が行われます。



注：このフィールドを使用して、チェックアウトするリビジョンを選択することはできません。プロモーショングループに基づいてリビジョンをチェックアウトするには、〈Revision (リビジョン)〉フィールドにプロモーショングループを入力します。

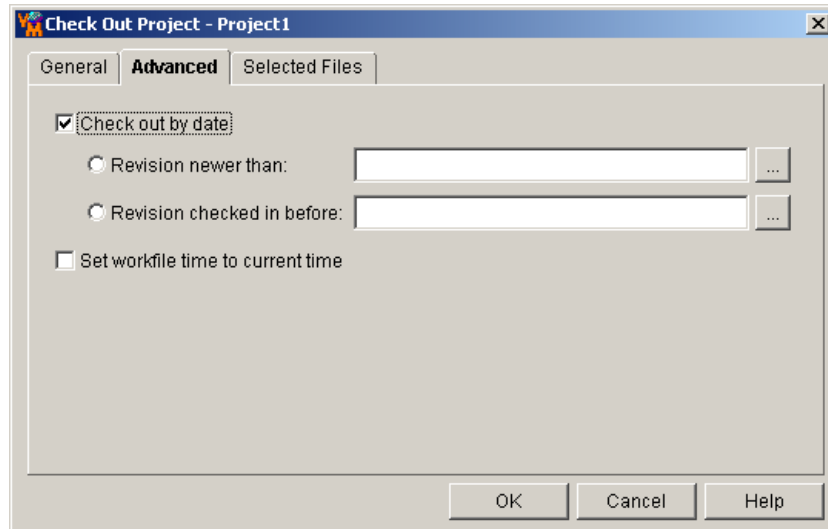
- (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあるバージョン管理ファイルのリビジョンをチェックアウトするには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- (Serena TrackerLink および SourceBridge を使用する場合のみ) チェックアウトする作業ファイルを Issue に関連付ける場合は、【Associate Issues (Issue の関連付け)】ボタンをクリックします。【Association (関連付け)】ダイアログボックスが開きます。

リビジョンのチェックアウト時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動されることに注意してください。



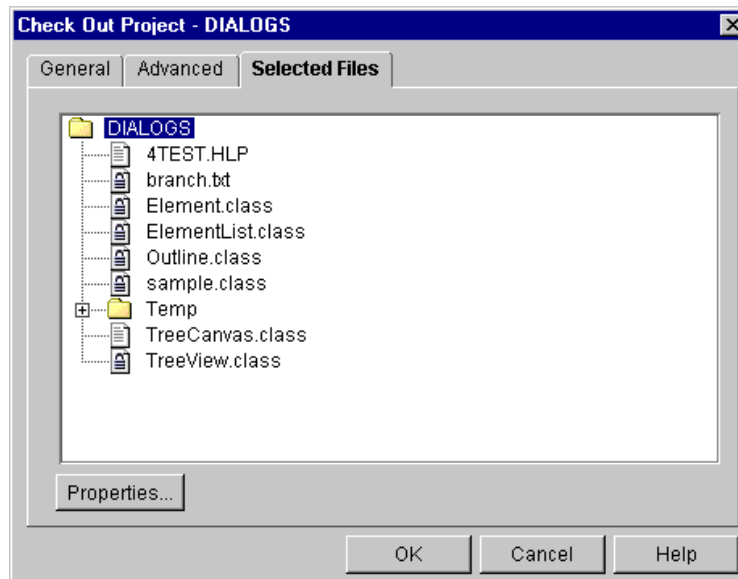
注：チェックアウトの操作を行うときに、【Check Out (チェックアウト)】ダイアログボックスが表示されないように設定され、かつ、関連付けのダイアログボックスが有効で Issue との関連付けが要求されるよう設定されている場合は、リビジョンのチェックアウト時に Version Manager によって【Association (関連付け)】ダイアログボックスが表示されません。

- 2 [Advanced (詳細)] タブで、以下の設定を行います。



- 特定の日時のリビジョンをチェックアウトするには、〈Check out by date (日付指定)〉チェックボックスを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
オプションには、特定のリビジョンの日付に基づいてリビジョンをチェックアウトできる〈Revision newer than (指定した日より新しいリビジョン)〉や、特定のチェックイン日付に基づいてリビジョンをチェックアウトできる〈Revision checked in before (指定した日より古いリビジョン)〉があります。
- 作業ファイルのタイムスタンプを現在の日付と時間に更新するには、〈Set workfile time to current time (作業ファイルのタイムスタンプを現在の時間に設定)〉チェックボックスを選択します。

- 3 [Selected Files (選択されたファイル)] タブで、以下を行います。



- チェックアウトしようとしているファイルが適切かどうかを、リスト表示で確認します。
- 選択したアイテムのプロジェクト設定およびワークスペース設定の内容を表示するには、【Properties (プロパティ)】をクリックします。[Selected Files (選択されたファイル)] タブに戻るには、【OK】をクリックします。

- 4 【OK】をクリックします。選択したリビジョンの書き込み可能なコピーが指定の作業ファイルの場所にチェックアウトされ、リビジョンはロックされます。

シナリオ：プロジェクトファイルをチェックアウトし、編集する



内田さんは、Server サブプロジェクトに格納されている一連の Checkers ファイルを使って作業を開始する準備を整えました。彼女は、Server サブプロジェクトを選択し、ステータスバーの一番右に表示されたこのサブプロジェクトに含まれているファイル総数を確認しました。そして、[Check Out (チェックアウト)] コマンドを選択し、デフォルトのチェックアウト設定を確認しました。

Server サブプロジェクト内のサブプロジェクトに含まれるファイルもすべてチェックアウトする必要があるため、〈Include files in subproject (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択しました。〈Check Out To (チェックアウト先)〉テキストボックスに表示されている個人用の作業ファイルの場所が `c:\work` であることも確認しました (この場所は、以前のシナリオで内田さんがプライベートワークスペースに指定した作業ファイルの場所です)。内田さんは、他の 3 人の開発者とともに、このプロジェクトに数ヶ月間取り組んでいます。作業ディレクトリに既存の作業ファイルが存在するかどうかかわからないので、〈If Workfile Exists (作業ファイルが存在する場合)〉オプションを〈Prompt (確認する)〉に設定しました。これで、作業ディレクトリにある書き込み可能な作業ファイルに対応するファイルがチェックアウトされたときに、確認のダイアログボックスが表示されます。

次に内田さんは、[Advanced (詳細)] タブのオプションを確認しました。自分の作業ディレクトリにある既存の作業ファイルよりも古いファイルをチェックアウトしたくないので、それらの作業ファイルよりも新しいリビジョンだけをチェックアウトするよう、〈Check out by date (日付指定)〉オプションを選択しました。【OK】をクリックしました。Server プロジェクトとそのサブプロジェクトである Library に含まれているすべてのファイルの書き込み可能なコピーが取得され、`c:\work` にコピーされました。バージョン管理ファイルと選択されたリビジョンにロックアイコンが配置されました。

内田さんは、[View (表示)] - [Options (オプション)] - [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブを選択し、プロジェクトおよびバージョン管理ファイル両方の〈Check Out (チェックアウト)〉オプションの選択を解除しました。次にファイルをチェックアウトしたときに、ダイアログボックスが表示されないようにするためです。彼女はまた、[Applications (アプリケーション)] タブの〈Default Double-Click Action (ダブルクリック時のデフォルトアクション)〉を〈Edit (編集)〉に変更しました。以降、内田さんが [Check Out (チェックアウト)] を選択すると、Version Manager は [Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスで現在指定されているパラメータを使って、自動的にファイルをチェックアウトします。また、バージョン管理ファイルをダブルクリックすると、Version Manager は、適切なエディタでファイルを開きます。ファイルの読み取り専用バージョンを表示するには、ファイルを選択して [Edit (編集)] - [View File (ファイルの表示)] を選択します。

内田さんは最初のファイルをダブルクリックしました。〈Use default Windows associations (Windows のデフォルトの関連付けを使用)〉を選択された状態のままにしていたので、ファイルが適切なエディタで表示されました。内田さんはファイルに変更を加え、保存して閉じました。その後内田さんは、自分が加えた変更が Chess プロジェクトで行われている作業に影響を与えることに気づき、自分が行った関連作業を確認するよう Chess 開発者に伝えるメモを readme ファイルに追加しようと考えました。内田さんは Chess プロジェクトの readme ファイルをダブルクリックしました。readme ファイルがチェックアウトされ、メモ帳で表示されました。内田さんは readme ファイルにメモを追加して保存し、エディタを終了しました。

このとき、別の開発者である江藤さんが Checkers サブプロジェクトの Library を選択し、[Actions (アクション)] - [Check Out (チェックアウト)] を選びました。データベースは、すでに井上さんによってリビジョンに多重ロックを使用できるように設定されていました。また、プロモーションモデルが定義されて使用できる状態です。多重ロックが使用できるように、最下位レベルのプロモーショングループが3つ (Development、Bug_Fix、およびTemp) あるモデルが定義されています。ライブラリファイルのプライマリロックは内田さんが持っています。そのため、ライブラリファイルが内田さんによってロックされていることを示すメッセージが江藤さんに表示され、これらのファイルのブランチを作成するかどうか尋ねられます。ブランチを作成すると、彼はこれらのファイルのセカンダリロックを所有することになります。彼は【Yes (はい)】をクリックしました。

プロジェクトデータベースに対しプロモーションモデルが有効な場合、チェックアウトした各リビジョンは、最下位レベルのプロモーショングループに関連付けられている必要があります。そのため、Version Manager は、最下位レベルの別のプロモーショングループを選択するよう江藤さんに求めました (各最下位レベルのプロモーショングループは、アーカイブ内の1つのリビジョンだけを割り当てることができます)。内田さんは Development プロモーショングループをトランクリビジョンに関連付けました。江藤さんは、バグを修正していないので、Library ブランチにTempを割り当てて、【OK】をクリックしました。後で、江藤さんは変更をメインの development トランクとマージする必要があります。

第 10 章

リビジョンの取得

取得とチェックアウト	160
デフォルトの取得オプション	160
リビジョンの取得	161
シナリオ：プロジェクトファイルの読み取り専用コピーをチェックアウトする	164

取得とチェックアウト

リビジョンを取得する理由	作業ファイルが必要であるが更新の必要がない場合、リビジョンを取得します。リビジョンを取得する際は、1 つのバージョン管理ファイル、複数のバージョン管理ファイル、1 つのプロジェクトまたはプロジェクトデータベース全体を選択します。リビジョンを変更する必要がある場合は、〈Check Out (チェックアウト)〉オプションを使用します (151 ページの『リビジョンのチェックアウト』を参照してください)。
取得の際に何が起こるか	リビジョンを取得すると、Serena PVCS Version Manager はリビジョンの状態を保持し (ロックまたはロック解除)、指定の作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルを作成します。
リビジョンの指定	リビジョンを取得する際、リビジョン番号、バージョンラベルまたはプロモーショングループによってリビジョンを指定できます。
プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの取得	プロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択してリビジョンを取得する場合は、選択されたプロジェクトまたはプロジェクトデータベース内のすべてのバージョン管理ファイルに関連するリビジョンが取得されます。

デフォルトの取得オプション

管理者がプロジェクトコンフィグレーションのデフォルトを変更していない限り、リビジョンを取得すると、Version Manager は以下を実行します。

- システムで指定されているテンポラリディレクトリにデフォルトリビジョンの読み取り専用コピーを作成します。Windows では、テンポラリディレクトリが TEMP 環境変数で定義されています。Version Manager は、このディレクトリに `\pvcs` というサブディレクトリを作成します (例: `\temp\pvcs`)。UNIX では、`pvcsvmux` スクリプトにより、テンポラリディレクトリが `/tmp/pvcs` に設定されています。
- 選択したプロジェクトのリビジョンのみを取得し、プロジェクトのサブプロジェクトのリビジョンは除外する
- 書き込み可能な作業ファイルが現在の作業ファイルの場所に存在する場合は、作業ファイルの上書き前に確認する



注: 現在の作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルがある場合は、確認用ダイアログボックスは表示されません。

- 作業ファイルよりも新しいかどうかに関係なく、リビジョンを取得します。
- プロモーションモデルが有効な場合は、リビジョンに現在割り当てられているプロモーショングループを保持する

リビジョンの取得

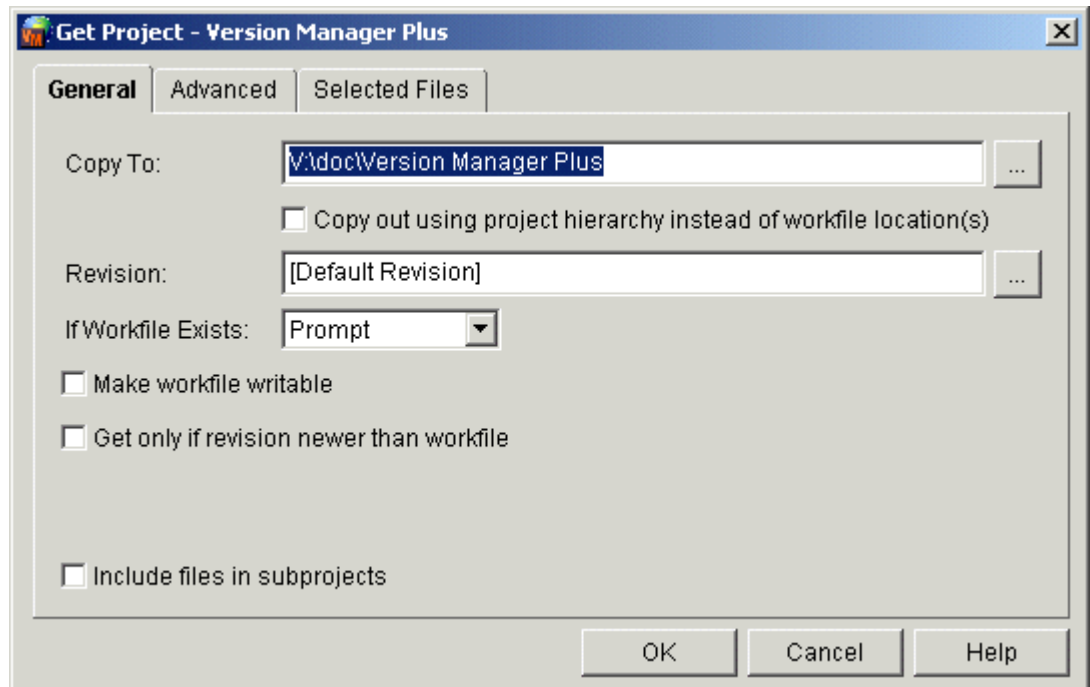
リビジョンを取得するには

- 1 取得するリビジョンに関連付けられたバージョン管理ファイル、プロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。



注：複数のプロジェクトまたはフォルダに対して、取得を実行している場合に、ダイアログボックスに表示される作業ファイルの場所は、共通の親プロジェクトの作業ファイルの場所となります。詳しくは [35 ページの『作業ファイルの場所』](#) を参照してください。

- 2 [Actions (アクション)] - [Get (取得)] を選択します。[Get (取得)] ダイアログボックスが表示されます。



注：通常、デフォルトリビジョンを取得するのであれば、[View (表示)] - [Options (オプション)] - [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブで (Get/View (取得/表示)) チェックボックスの選択を解除し、[Get (取得)] ダイアログボックスの表示を省略することができます。

- 3 以下のいずれかを実行します。
 - デフォルトの取得オプションを変更する場合は、次のセクションに進みます。
 - デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したリビジョンがコピーされ、読み取り専用作業ファイルが指定の作業ファイルの場所に置かれます。

デフォルト取得オプションのオーバーライド

- 1 [Get (取得)] ダイアログボックスの [General (全般)] タブで、以下の設定を行います。
 - 作業ファイルの場所を変更するには、(Copy To (コピー先)) テキストボックスで場所を変更するか、【Browse (...)] ボタンをクリックして場所を選択します。

パスの変更は今回の取得に限って有効です。作業ファイルの場所の設定が変更されるわけではありません。



注：1 つのファイルを取得する場合は、〈Copy To (コピー先)〉テキストボックスにはファイルの場所と名前が表示されます。このファイル名は変更でき（新規ファイルが作成される）、それをチェックインすると新規アーカイブが作成されます。

- (複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、およびプロジェクトデータベースを取得する場合のみ) バージョン管理ファイルの作業ファイルの場所を絶対パスおよびサブディレクトリ内のバージョン管理ファイルで上書きするには、〈Copy out using project hierarchy instead of workfile location(s) (プロジェクトの階層構造を使用)〉チェックボックスを選択します。このオプションにより、〈Copy To (コピー先)〉フィールドのパスに対して相対的なプロジェクト構造を踏襲するパスおよびサブディレクトリが作成されます。
- デフォルトリビジョン以外のリビジョンを取得する場合は、取得するリビジョンに割り当てられたリビジョン番号、バージョンラベルまたはプロモーショングループを、〈Revision (リビジョン)〉テキストボックスに入力するか、【Browse (...)] ボタンをクリックして選択します。

数字で始まるバージョンラベルを指定するには、円記号 (\) を前に付ける必要があります。たとえば、1.2や1abc という値の場合は、\1.2 や \1abc のように入力します。

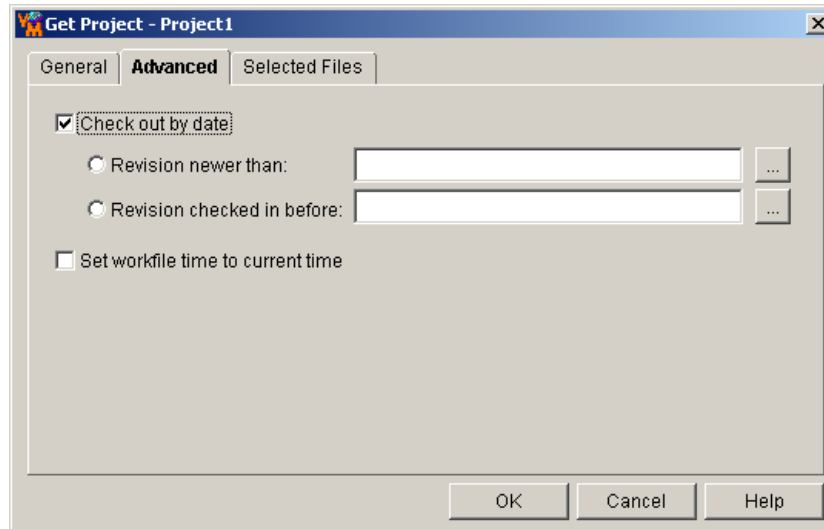
プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、[166 ページの『デフォルトバージョンの定義』](#)を参照してください。

- 〈If Workfile Exists (作業ファイルが存在する場合)〉ドロップダウンリストで、コピーする作業ファイルが選択した作業ファイルの場所にすでに存在する場合に実行する処理を選択します。〈Prompt (確認する)〉(デフォルト値)を選択すると、重複する作業ファイルが存在する場合、実行する処理を尋ねるメッセージが表示されます。

その他のオプションには、重複した作業ファイルが存在する場合でも作業ファイルを追加する〈Overwrite (上書きする)〉、作業ファイルの場所に作業ファイルを追加しない〈Don't Overwrite (上書きしない)〉があります。

- 選択しているファイルが、プロモーションモデルが作成されているプロジェクトデータベースに関連付けられている場合は、プロモーショングループを選択してリビジョンを取得することができます。プロモーショングループが割り当てられたリビジョンを取得するには、〈Promotion Group (プロモーショングループ)〉ドロップダウンリストからそのプロモーショングループを選択します。指定したプロモーショングループが割り当てられたリビジョンが見つからない場合は、そのプロモーションモデルで次のレベルのプロモーショングループが割り当てられたリビジョンが取得されます。
- リビジョンを書き込み可能にするには、〈Make workfile writable (書き込み可能な作業ファイル)〉チェックボックスを選択します。これは、テストが目的でリビジョンのコピーを作成する場合に便利です。リビジョンはロックされず、ほかのユーザがアクセスすることができます。
- リビジョンが作業ファイルよりも新しい場合にのみ取得するには、〈Get only if revision is newer than workfile (作業ファイルより新しいリビジョンの場合のみ実行)〉チェックボックスを選択します。これによって、変更されなかったリビジョンを取得しないので時間の節約になります。
- (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあるバージョン管理ファイルのリビジョンを取得するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。

- 2 [Advanced (詳細)] タブで、以下の設定を行います。

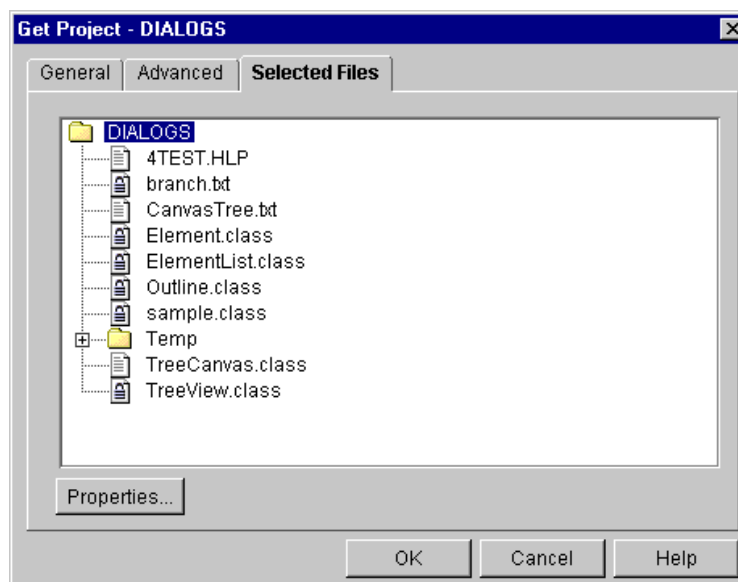


- 特定の日時のリビジョンを取得するには、〈Check out by date (日付指定)〉チェックボックスを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

オプションには、特定のリビジョンの日付に基づいてリビジョンを取得できる〈Revision newer than (指定日より新しいリビジョン)〉や、特定のチェックイン日付に基づいてリビジョンを取得できる〈Revision checked in before (指定日より古いリビジョン)〉があります。

- 作業ファイルのタイムスタンプを現在の日付と時間に更新するには、〈Set workfile time to current time (作業ファイルのタイムスタンプを現在の時間に設定)〉チェックボックスを選択します。

- 3 [Selected Files (選択されたファイル)] タブで以下を行います。



- 取得しようとしているファイルが適切かどうかを確認するには、リスト表示を見ます。
- 選択したアイテムのプロジェクト設定およびワークスペース設定の内容を表示するには、【Properties (プロパティ)】をクリックします。[Selected Files (選択されたファイル)] タブに戻るには、【OK】をクリックします。

- 4 【OK】をクリックします。選択したリビジョンのコピーがそれぞれの作業ファイルの場所にコピーされます。

シナリオ：プロジェクトファイルの読み取り専用コピーをチェックアウトする



小川さんは Chess プロジェクトの新しいメンバーです。彼女の最初の仕事は、11 月 10 日にビルドされたアプリケーションのチェスボードレイアウトにあるいくつかのバグを修正することです。作業にとりかかる前に、このゲームの全コードを確認して各コンポーネントを把握し、問題のあるモジュールを確認しておくことにしました。これらのファイルは編集しないので、ほかのユーザが使用しないようにロックする必要はありません。

小川さんは Chess プロジェクトを選択し、〈Get (取得)〉オプションを選択しました。ファイルのコピーは 1 つのローカルディレクトリに格納したいので、〈Copy To (コピー先)〉フィールドのデフォルトの作業ファイルの場所を、`c:\review` という新しい場所に変更しました。〈Revision (リビジョン)〉フィールドの横の【Browse (...)] をクリックし、Version 4.3 Chess Nov_11 のバージョンラベルを選択しました。このラベルは、Chess アプリケーションの 11 月 11 日のビルドに関連付けられたすべてのリビジョンを識別するものです。読み取り専用のバージョンのファイルへのアクセスについては、デフォルト設定のままにしました。サブプロジェクトのファイルも含めるオプションを選択して【OK】をクリックしました。Version 4.3 Nov_11 のバージョンラベルに関連付けられたすべてのプロジェクトファイルが Version Manager によってコピーされ、既存の作業ファイルの確認を開始できるようになりました。

第 11 章

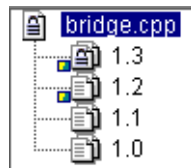
リビジョンの操作

リビジョンについて	166
デフォルトバージョンの定義	166
リビジョンの表示	168
リビジョンの編集	169
変更の説明の追加/変更	171
リビジョンの削除	171

リビジョンについて

リビジョンは、バージョン管理ファイルの一形式です。Serena PVCS Version Manager からリビジョンをチェックアウトすることによって、作業ファイルを何度でも作成することができます。リビジョンをチェックアウトすると、作業ファイルとなり、バージョン管理ファイルによって指定された作業ファイルの場所に格納されます。作業ファイルをチェックインして戻すと、バージョン管理ファイルの新規リビジョンとなり、バージョン管理ファイルに関連付けられたアーカイブに格納されます。

初めて作業ファイルを追加した場合は、バージョン管理ファイルの最初のリビジョン (1.0) としてアーカイブに格納されます。たとえば、以下のバージョン管理ファイル、「bridge.cpp」には 1.0、1.1、1.2 および 1.3 という 4 つのバージョンがあります。1.0が最初のバージョンです。



デフォルトバージョンの定義

リビジョンをチェックアウトしたり、取得したりすると、ほかのリビジョンを指定しないかぎり、デフォルトバージョンがチェックアウトされます。デフォルトでは、デフォルトバージョンは、バージョン管理ファイルの最新のリビジョン (チップリビジョン) です。また、いずれかのバージョンラベルをデフォルトバージョンとして定義することもできます。

プロジェクトワークスペース設定

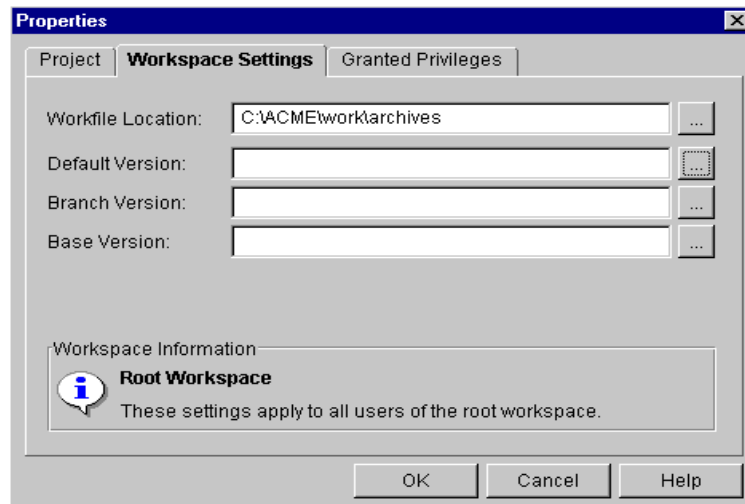
デフォルトバージョンは、プロジェクトまたはプロジェクトデータベースのワークスペース設定の〈Default Version (デフォルトバージョン)〉フィールドに表示されます ([File (ファイル)] - [Properties (プロパティ)] - [Workspace Settings (ワークスペースの設定)] タブ)。管理者またはプロジェクトリーダーは、デフォルトバージョンを、プロジェクトコンフィグレーションオプションで指定できます。プロジェクトデータベースにデフォルトバージョンが指定されている場合は、そのプロジェクトデータベース内の全プロジェクトがデフォルトバージョンの設定を継承します。詳細は、[120ページの『ワークスペースの階層』](#)を参照してください。

プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトバージョンを定義できます。デフォルトバージョンを定義すると、Version Managerは、指定したデフォルトバージョンに関連するリビジョンを自動的にチェックアウトしたり、取得したりします。

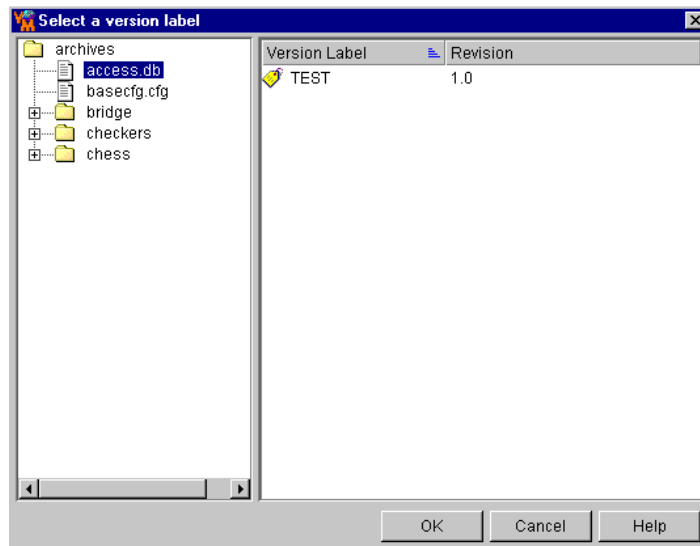
注：プロジェクトデータベースに自動ブランチやマージが設定されている場合は、必ずデフォルトバージョンを定義する必要があります。ブランチおよびマージの詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』の『ファイルのブランチとマージ』を参照してください。

デフォルトリビジョンを定義するには

- 1 デフォルトバージョンを定義するプロジェクトデータベースまたはプロジェクトを選択します。
- 2 [File (ファイル)] – [Properties (プロパティ)] を選択し、[Workspace Settings (ワークスペースの設定)] タブを選択します。



- 3 <Default Version (デフォルトバージョン)> フィールドに任意のバージョンラベルを入力するか、【Browse (...)] ボタンをクリックしてデフォルトバージョンを選択します。[Select a version label (バージョンラベルの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



バージョンラベルを入力する際は、大文字と小文字を正確に入力してください。<Default Version (デフォルトバージョン)> フィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

- 4 【OK】 をクリックします。

リビジョンの表示

リビジョンの表示は、基本的にはリビジョンの取得と同じ機能です。Version Manager により、デフォルトリビジョンの読み取り専用のコピーが作成されます。ただし、リビジョンを表示した場合は、以下の動作も実行されます。

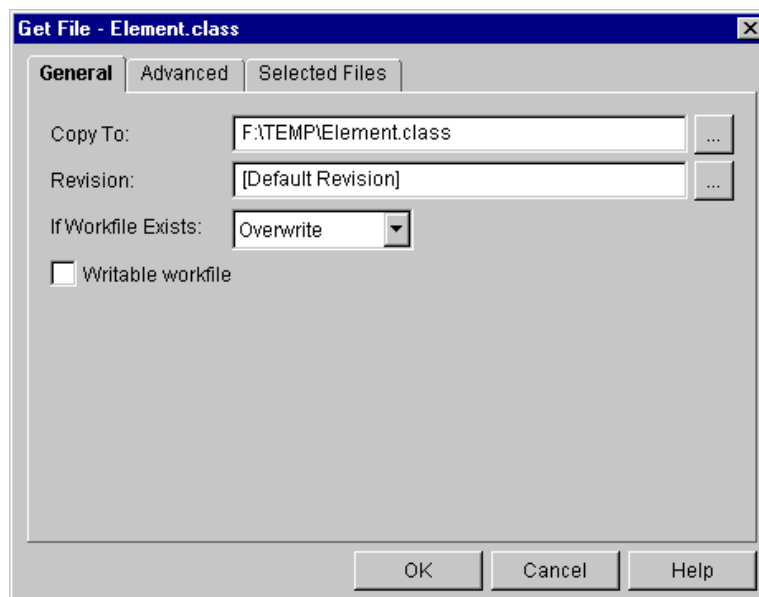
- 作業ファイルをテンポラリディレクトリ (Windows では `\temp\pvcs`、UNIX では `/tmp/pvcs`) にコピーします。Windows では、テンポラリディレクトリが TEMP 環境変数により定義されています。UNIX では、`pvcsvmux` スクリプトで定義されています。
- 作業ファイルに関連付けられたアプリケーションを起動し、ファイルを開きます。ファイルの表示に使用されるエディタは、Windows によりデフォルトで関連付けられているか、[View (表示)] - [Options (オプション)] で指定したエディタです。



注：リビジョンを特定のアプリケーションと関連付ける方法については、145ページの『デフォルトエディタの設定』を参照してください。

リビジョンを表示するには

- 1 ファイル表示部で、表示するバージョン管理ファイルを選択し、[Edit (編集)] - [View File (ファイルの表示)] を選択します。[Get (取得)] ダイアログボックスが表示されます。

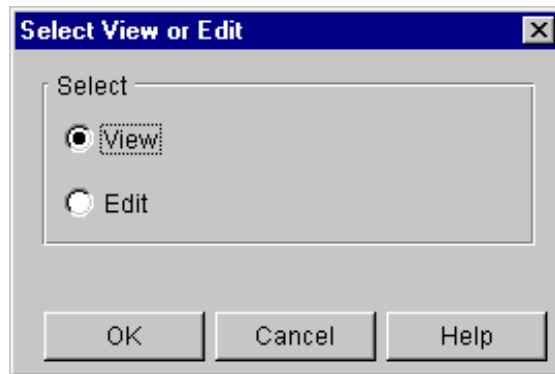


注：通常はデフォルトリビジョンを表示するのであれば、[View (表示)] - [Options (オプション)] - [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブで、<Get/View (取得/表示)> チェックボックスの選択を解除しておくこと、[Get (取得)] ダイアログボックスの表示を省略できます。

- 2 【OK】をクリックします。関連付けられたアプリケーションで作業ファイルの読み取り専用コピーが開きます。



注：〈Default Double-Click Action (ダブルクリック時のデフォルトアクション)〉の設定 ([View (表示)] - [Options (オプション)] - [Applications (アプリケーション)] タブ) で 〈Ask (表示/編集の選択)〉または 〈View (表示)〉が選択されている場合は、ファイル表示部でバージョン管理ファイルをダブルクリックすると、[Select View or Edit (表示/編集の選択)] ダイアログボックスが表示されます。〈View (表示)〉を選択し、【OK】をクリックします。[Get (取得)] ダイアログボックスに選択したファイルが表示されます。【OK】をクリックします。



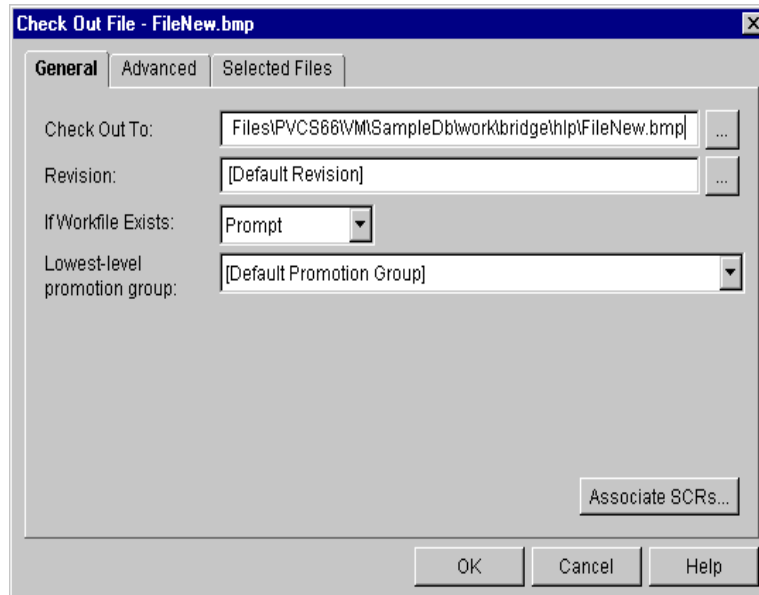
リビジョンの編集

リビジョンの編集は、チェックアウト機能と同様の基本機能を提供します。つまり、作業ファイルの場所として現在設定されている場所から、デフォルトリビジョンをチェックアウトします。ただし、リビジョンを編集する際は、作業ファイルに関連付けられたアプリケーションが起動し、リビジョンの書き込み可能なコピーが開きます。

このリビジョンは、現在作業ファイルの場所として設定されている場所ではなく、システムで定義されているテンポラリディレクトリにコピーされます。Windows では、テンポラリディレクトリが TEMP 環境変数で定義されています。Version Manager は、/pvcs ディレクトリをテンポラリディレクトリ (たとえば、\temp\pvcs) に作成します。UNIXでは、pvcsvmux スクリプトにより、テンポラリディレクトリが /tmp/pvcs に設定されています。

リビジョンを編集するには

- 1 ファイル表示部で、編集するバージョン管理ファイルを選択し、[Edit (編集)] – [Edit File (ファイルの編集)] を選択します。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されます。

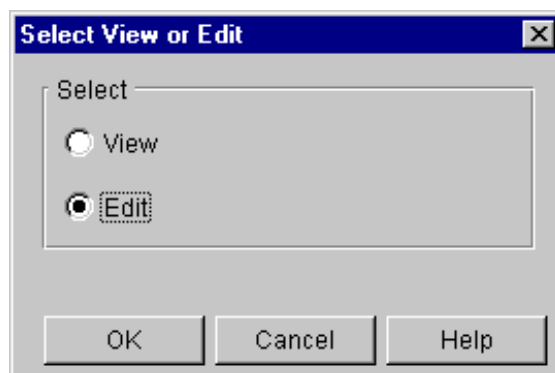


注：通常はデフォルトリビジョンを編集するのであれば、[View (表示)] – [Options (オプション)] – [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブで、〈Check Out/Edit (チェックアウト/編集)〉チェックボックスの選択を解除しておく、[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスの表示を省略できます。

- 2 【OK】をクリックします。リビジョンがロックされ、関連付けられたアプリケーションで作業ファイルが開かれます。



注：〈Default Double-Click Action (ダブルクリック時のデフォルトアクション)〉の設定 ([View (表示)] – [Options (オプション)] – [Applications (アプリケーション)] タブ) で 〈Ask (表示/編集の選択)〉または 〈View (表示)〉が選択されている場合は、ファイル表示部でバージョン管理ファイルをダブルクリックすると、[Select View or Edit (表示/編集の選択)] ダイアログボックスが表示されます。[Edit (編集)] を選択すると、[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスに選択したファイルが表示されます。【OK】をクリックします。[Select View or Edit (表示/編集の選択)] ダイアログボックスをスキップするには、〈Default Double-Click Action (ダブルクリック時のデフォルトアクション)〉で 〈Edit (編集)〉を選択します。

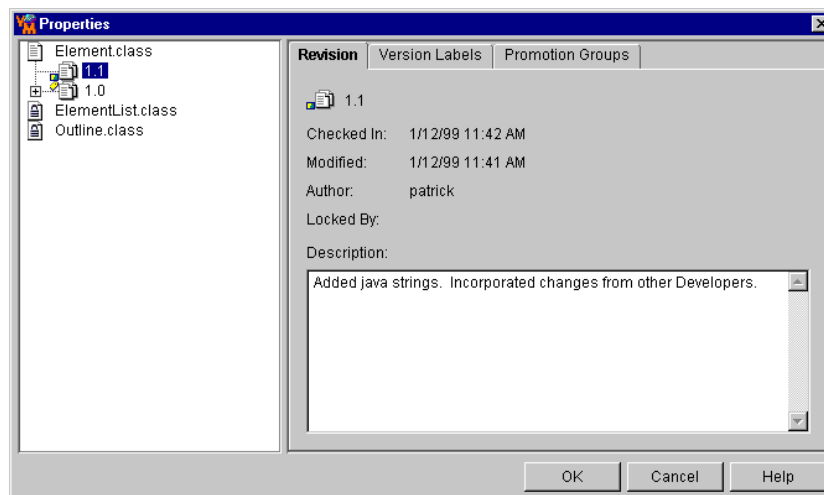


変更の説明の追加 / 変更

バージョン管理ファイルやリビジョンの変更の説明は、いつでも追加したり、変更したりできます。変更の説明を利用すると、特定のリビジョンがどのように変更されたかがすぐにわかります。

リビジョンまたはバージョン管理ファイルの変更の説明を追加または修正するには

- 1 変更の説明を追加または変更するバージョン管理ファイルまたはリビジョン（リビジョン表示部が表示されている場合）を選択します。
- 2 [File (ファイル)] - [Properties (プロパティ)] を選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。バージョン管理ファイルを選択した場合は、[Versioned File (バージョン管理ファイル)] タブが表示されています。リビジョンを選択した場合は [Revision (リビジョン)] タブが表示されています。



- 3 バージョン管理ファイルかリビジョンのどちらかを変更する場合は、左側の表示部でアイテムを選択します。選択したアイテムによって、表示されるタブが異なります。
- 4 <Description (コメント)> フィールドで説明を変更します。
- 5 手順 1 で複数のバージョン管理ファイルまたはリビジョンを選択した場合は、ファイルまたはリビジョンごとに手順 3 ~ 4 を繰り返します。
- 6 【OK】をクリックします。

リビジョンの削除

特定のリビジョンをアーカイブから削除できます。



警告！ リビジョンの削除は取り消すことができません。また、削除したリビジョンは復元できません。

リビジョンを削除するには

- 1 削除するリビジョンに関連するバージョン管理ファイルを選択します。リビジョン表示部が表示されている場合は、削除するリビジョンを選択します。
- 2 [File (ファイル)] – [Delete (削除)] を選択するか、【Delete (削除)】をクリックします。アイテムの削除を確認するメッセージが表示されます。
- 3 【Yes (はい)】をクリックします。リビジョンはアーカイブから完全に削除され、このアクションを取り消すことはできません。

第 12 章

作業ファイルのチェックイン

チェックインについて	174
デフォルトのチェックインオプション	174
作業ファイルのチェックイン	175
シナリオ：一連のプロジェクトフォルをチェックインする	178

チェックインについて

作業ファイルはいつチェックインするか	作業ファイルは、変更した後、以下のような場合にチェックインします。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 作業ファイルの変更を保存する必要がある場合 ■ 変更の結果を、プロジェクトチームのほかのメンバーにも入手可能にする必要がある場合 作業ファイルは、チェックインするたびに、バージョン管理ファイルにおける新しいリビジョンとなります。
チェックインの間何が起こるか	デフォルトでは、作業ファイルをチェックインすると、新しいリビジョンが作成され、それに次の番号が割り当てられ、作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルが残されます。
プロジェクトおよびプロジェクトデータベースのチェックイン	プロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択して作業ファイルをチェックインすると、Version Manager は、選択したプロジェクトまたはプロジェクトデータベースに含まれるすべてのバージョン管理ファイルに関連する作業ファイルをチェックインします。
Issue の関連付け	TrackerLink または SourceBridge をインストールしている場合は、[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスで【Associate Issues (Issueの関連付け)】ボタンをクリックして、Issueを作業ファイルに関連付けることができます。



注：作業ファイルのチェックイン時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。



注：Version Manager デスクトップクライアントが次に起動されたときに使用される、Issue 管理の統合を設定できます。現在開いているクライアントセッションには影響しません。

- 1 Serena Issue 管理の統合ユーティリティを起動します (Windows [スタート] メニューの Serena フォルダから、[ChangeMan Version Manager] - [Issue Management Integration (Issue 管理の統合)] を選択します)。
- 2 <TeamTrack SourceBridge> または <Tracker TrackerLink> を選択します。
- 3 【OK】または【Launch Version Manager (Version Manager の起動)】ボタンをクリックします。

デフォルトのチェックインオプション

Version Manager では、作業ファイルをチェックインすると、次のようなデフォルト設定が適用されます。デフォルト設定は作業ファイルをチェックインする際に無効にすることができます。また、[Options (オプション)] ダイアログボックス ([View (表示)] - [Options (オプション)] - [General (全般)] タブ) でデフォルトを定義し直すこともできます。デフォルト設定をそのまま使用すると、以下のように処理が行われます。

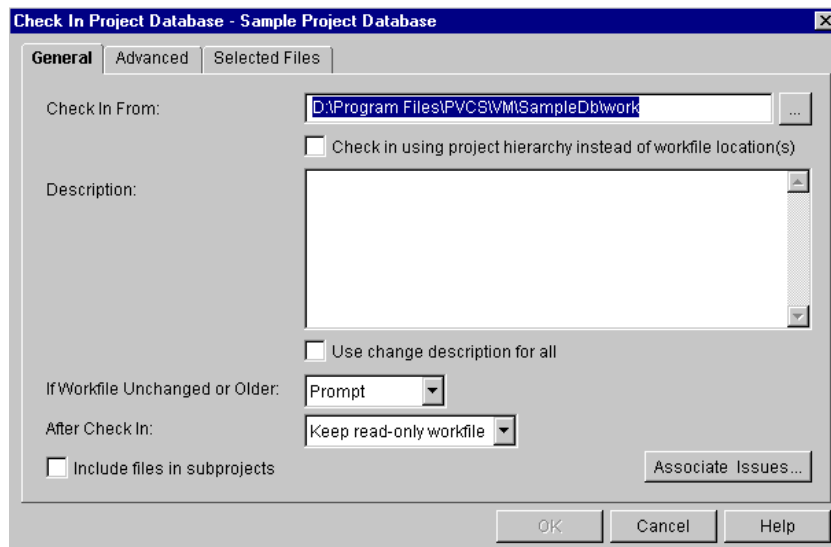
- チェックアウト先の場所でファイルをチェックインします。ファイルにチェックアウト先の場所がない場合 (ファイルがロックされているけれども、チェックアウトされていない場合)、別の場所を指定しないかぎり、現在のワークスペースに定義されているデフォルトの作業ファイルの場所にチェックインされます。
- 作業ファイルに次の番号を割り当てて、次のリビジョンとしてアーカイブに格納し、リビジョンのロックを解除します。

- 作業ファイルの場所として現在設定されている場所に、作業ファイルの読み取り専用コピーを保存します。
- 選択したプロジェクトの作業ファイルのみをチェックインし、プロジェクトのサブプロジェクトの作業ファイルはチェックインしません。
- 作業ファイルが変更されていないか以前のリビジョンより古い場合は、作業ファイルのチェックイン前に確認します。
- プロモーションモデルが有効な場合は、リビジョンに現在割り当てられているプロモーショングループを保持します。
- バージョンラベルを割り当てません。
- ファイルのチェックイン時は、Issue の関連付けのための TrackerLink または SourceBridge の自動起動は行いません。
- ブランチは作成しません（チェックアウトされた作業ファイルが最新のリビジョンでない場合を除く）。

作業ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインするには

- 1 作業ファイルまたはチェックインする作業ファイルを含むプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] - [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Description (コメント)> フィールドに、作業ファイルに加えた変更についての説明を入力します。プロジェクトチームのほかのメンバーがほかのリビジョンと区別できるように記述します。
- 4 以下のいずれかを実行します。
 - デフォルトのチェックインオプションを変更する場合は、次のセクションに進みます。

- デフォルトのチェックインオプションを変更しない場合は、【OK】をクリックします。選択した作業ファイルはチェックインされ、読み取り専用の作業ファイルが、指定の作業ファイルの場所に置かれます。

デフォルトのチェックインオプションの変更

- 1 [Check In (チェックイン)] ダイアログボックスの [General (全般)] タブで、以下の設定を行います。

- チェックインされる作業ファイルのあるチェックイン元の場所を変更するには、〈Check In From (チェックインするファイル)〉フィールドの場所を編集するか、【Browse (...)] ボタンをクリックして場所を選択します。

デフォルトでは、〈Check In From (チェックインするファイル)〉の場所は、ファイルがチェックアウトされた場所です。このパスを変更すると、このチェックインについてのみチェックインの場所が変更されます。



注：作業ファイルのチェックアウト先の場所がチェックイン元の場所と一致しない場合は、警告が表示されます。

- (複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、およびプロジェクトデータベースをチェックインする場合のみ) 作業ファイルのチェックインの場所を絶対パスおよびサブディレクトリ内の作業ファイルで上書きするには、〈Check in using project hierarchy instead of workfile location(s) (プロジェクトの階層構造を使用)〉チェックボックスを選択します。このオプションにより、〈Check In From (チェックインするファイル)〉フィールドのパスに対して相対的なプロジェクト構造を踏襲するパスおよびサブディレクトリが作成されます。
- (複数作業ファイルの追加の場合のみ) 追加する作業ファイルごとに Version Manager から固有の説明をプロンプトさせる場合は、〈Use change description for all (この変更コメントをすべてのファイルに適用)〉チェックボックスの選択を解除します。解除しないと、同じ説明がすべてのファイルに適用されます。
- 〈If Workfile Unchanged or Older (変更がないか、リビジョンより古い場合)〉ドロップダウンリストで、チェックインする作業ファイルが変更されていない場合や、以前のリビジョンより古い場合に実行する処理を選択します。〈Prompt (確認する)〉(デフォルト値)を選択すると、作業ファイルが変更されていない場合、実行する処理を尋ねるメッセージが表示されます。

その他のオプションには、作業ファイルが変更されていない場合でもチェックインする〈Check in (チェックインする)〉と、作業ファイルをアーカイブの場所にチェックインしない〈Do not check in (チェックインしない)〉があります。

- 〈After Check In (チェックイン後の作業ファイル)〉ドロップダウンリストで、作業ファイルをチェックインした後の Version Manager による作業ファイルの処理を選択します。〈Check In From (チェックインするファイル)〉の場所から作業ファイルを削除するには、〈Delete workfile (削除する)〉を選択します。作業ファイルの場所に、読み取り専用の作業ファイルのコピーを残しておく場合は、〈Keep read-only workfile (読み取り専用で残す)〉を選択します。作業ファイルがチェックインされると作成されるリビジョンをロックするには、〈Keep revision locked (チェックアウト状態を保持)〉を選択します。
- (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにある作業ファイルをチェックインするには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。

- (Serena Tracker または SourceBridge を使用する場合のみ) チェックインする作業ファイルを Issue に関連付ける場合は、【Associate Issues (Issue の関連付け)】 ボタンをクリックします。[Association (関連付け)] ダイアログボックスが開きます。



注：作業ファイルのチェックイン時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。

- 2 (Advanced (詳細)) タブで、以下の設定を行います。

The screenshot shows a dialog box titled "Check In File - AfxCore.rtf" with three tabs: "General", "Advanced", and "Selected Files". The "Advanced" tab is active. It contains the following fields and options:

- Revision:** A text field containing "Default Revision" and a browse button (...).
- Force branch:** An unchecked checkbox.
- Version Label:** A text field and a browse button (...).
- Float label with tip:** An unchecked checkbox.
- If Version Label Exists:** A dropdown menu currently set to "Prompt".

At the bottom of the dialog are buttons for "OK", "Cancel", and "Help".

- チェックインする作業ファイルのリビジョン番号を後続番号以外にする場合は、新しいリビジョン番号を (Revisions (リビジョン)) フィールドに入力します。

このフィールドには 2 つの用途があります。主な用途は、チェックインする作業ファイルに新規リビジョン番号を指定することです。その場合、フィールドに新規リビジョン番号を入力します。選択することはできません。

このフィールドの 2 つ目の目的は、ロックされてチェックアウトされたバージョン管理ファイルに複数のリビジョンがある場合に、ロックされたどのリビジョンをチェックインするかを指定することです。



重要： 浮動ラベルは、リビジョン番号付け方式の範囲を超えて変化することはありません。

たとえば不動ラベルに 1.3 という値を与えた場合、新しいリビジョンが作られるたびに変わることができます (1.4、1.5 から最終的に 1.6 まで変化するとします)。ただしここで整数部に別の値を与えると (たとえば 2.0、または 1.7 の代わりに 2.7 など)、ラベルは新しいリビジョンへ移行できなくなります。同様の制限がブランチリビジョンにも課せられます (1.14.1.2、1.14.1.3、1.14.1.4 と浮動したあとに 1.14.2.0 を入力した場合など)。

- ロックされたリビジョンのうちいずれかのリビジョン番号を選択するか、ロックされたリビジョンに関連付けられたプロモーショングループまたはバージョンラベルを選択します。リビジョン番号が選択されていない場合は、選択するよう求められます。

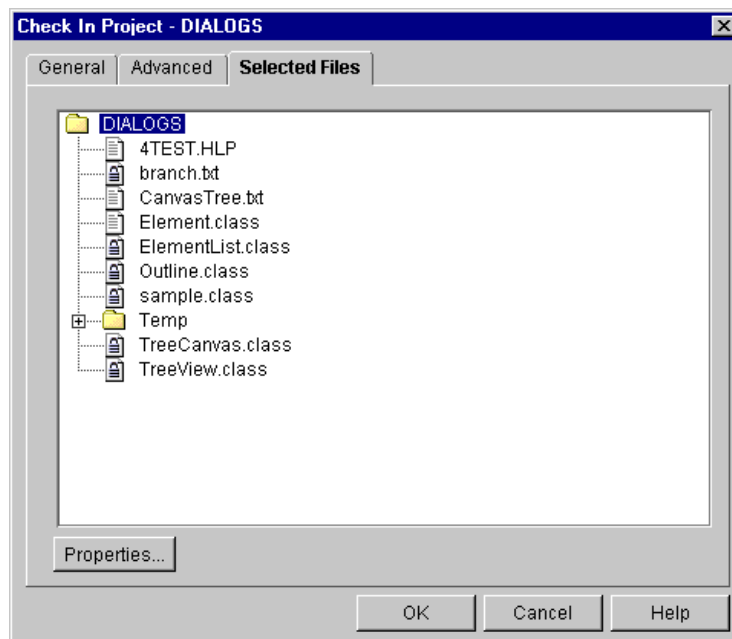
リビジョンを指定するには、(Revision (リビジョン)) フィールドにリビジョン番号を入力します。

- このリビジョンで強制的にブランチを作成するには、(Force Branch (強制的にブランチさせる)) チェックボックスを選択します。

- バージョンラベルを割り当てるには、〈Version Label (バージョンラベル)〉フィールドにバージョンラベルを入力するか、【Browse (...)] ボタンをクリックしてバージョンラベルを選択します。バージョンラベルを入力する場合は、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
- バージョンラベルを現在のトランクまたはブランチの最新 (チップ) リビジョンに割り当てておくには、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択します。
- 〈If Version Label Exists (バージョンラベルが存在する場合)〉ドロップダウンリストで、選択したアーカイブ内のリビジョンに同じバージョンラベルがすでに割り当てられている場合に行う処理を選択します。〈Prompt (確認する)〉 (デフォルト値) を選択すると、同じバージョンラベルが存在する場合、実行する処理を尋ねるメッセージが表示されます。

その他のオプションには、チェックインするリビジョンにバージョンラベルを再度割り当てる 〈Reassign (再度割り当てる)〉 や、ラベルがすでに存在する場合はチェックインをキャンセルする 〈Don't Reassign (再度割り当てない)〉 があります。

- 3 【Selected Files (選択されたファイル)】 タブで以下を行います。



- チェックインしようとしているファイルが適切かどうかを確認するには、このタブに表示されたファイルのリストを見ます。
 - 選択したアイテムのプロジェクト設定およびワークスペース設定の内容を表示するには、【Properties (プロパティ)】 をクリックします。【Selected Files (選択されたファイル)】 タブに戻るには、【OK】 をクリックします。
- 4 【OK】 をクリックします。選択した作業ファイルは、それぞれに指定されたアーカイブの場所にチェックインされます。

シナリオ：一連のプロジェクトファイルをチェックインする



内田さんは Checkers ファイルへの一連の変更を完了し、Version Manager に変更を保存しようとしています。全ファイルに対して変更を行ったわけではないのですが、時間を節約するため、プロジェクト全体をチェックインすることにしました。彼女はプロジェクトを選択し、〈Check In (チェックイン)〉 オプションを選択しました。

まず、〈Check In From (チェックインするファイル)〉フィールドに自分の作業ディレクトリである `c:\work` が表示されていることを確認します。次に、変更に関する説明として「ドラッグアンドドロップ機能の定義を完了」と入力します。この説明は各リビジョンの説明文として格納されます。

チェックインするファイルの中には変更していないファイルもあります。そこで、それらのファイルをチェックインするたびに確認ダイアログボックスを表示させたくはないので、〈If Workfile Unchanged or Older (変更がないか、リビジョンより古い場合)〉ドロップダウンリストで〈Don't Check In (チェックインしない)〉を選択しました。これで、変更したファイルのみがチェックインされます。

内田さんは Checkers ファイルにさらに編集を加える必要があるので、ほかの人がこれらのファイルを変更できないようにする必要がありました。そこで、〈After Check In (チェックイン後の作業ファイル)〉グループボックスで〈Keep revision locked (チェックアウト状態を保持)〉チェックボックスを選択しました。これで、ほかのユーザは新しい開発ブランチを作成しないかぎり、ファイルを変更できず、内田さんが変更したファイルのロックが保持されます。さらに、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉オプションを選択して、Checkers プロジェクトのサブプロジェクトの変更ファイルもすべてチェックインされるよう設定しました。

[Advanced (詳細)] タブでは、リビジョンのデフォルト値をそのままにしました。ただし、現在の作業にバージョンラベルを割り当てる必要がありました。このラベルにより、ドラッグアンドドロップ機能を定義する一連のファイルを識別しやすくなります。そこで、内田さんは `Drag_Drop_November` というバージョンラベルを割り当てました。〈Float label with tip (浮動ラベル)〉オプションは選択しませんでした。これは、ラベルをファイルの新しいバージョンに自動的に移行させるのではなく、これらのリビジョンとの関連付けをラベルで維持したかったからです。内田さんの仕事は、Checkers プロジェクトのトランク開発の一部であり、したがってブランチを強制する必要はありません。内田さんは【OK】をクリックしてファイルをチェックインしました。Version Managerによって以下のアクションが実行されます。

- 変更したファイルを `c:\work` ディレクトリにチェックインします。
- 変更していないファイルはチェックインしません。
- 全 Checkers ファイルの書き込み可能なコピーを `c:\work` ディレクトリに保持します。
- 変更したすべてのリビジョンに「ドラッグアンドドロップ機能の定義を完了」という説明を関連付けます。
- 変更したすべてのリビジョンに `Drag_Drop_November` というバージョンラベルを関連付けます。

第 13 章

ロックの使用

リビジョンのロック	182
リビジョンのロック解除	185
多重ロック	187
シナリオ：ほかのユーザによるファイルの変更を防ぐ	188

リビジョンのロック

ロックが使用される場合	あるユーザが使用中のリビジョンを、プロジェクトチームのほかのメンバーが編集しないようにするには、リビジョンにロックを使用します。ロックを使用すると、ファイルが現在使用中であることを知らせる警告がほかのユーザに表示され、リビジョンへのアクセスが制限されます。プロジェクトチームのほかのメンバーは、リビジョンの表示と取得はいつでも行えますが、チェックインしたり、無効にすることはできません。 リビジョンをチェックアウトすると、そのリビジョンが自動的にロックされます。作業ファイルをチェックインするか、ロックを解除しないかぎり、そのリビジョンはロックされたままとなります。
ロックのしくみ	バージョン管理ファイルをロックすると、バージョン管理ファイルの特定のリビジョンをロックすることになります。特定のリビジョンをロックすると、プロジェクトチームのほかのメンバーはそのリビジョンにアクセスできなくなります。 ほかのメンバーは、作業しているプロジェクトで多重ロックが有効になっている場合のみ、ロックされたリビジョンを編集できます。多重ロックについての詳細は、 187 ページ を参照してください。
ロックの指定	リビジョン番号、バージョンラベル、またはプロモーショングループを指定することにより、リビジョンをロックできます。また、1 つのリビジョンまたはバージョン管理ファイル、複数のバージョン管理ファイル、1 つのプロジェクト、プロジェクトデータベース全体を選択することにより、リビジョンをロックできます。
Issue の関連付け	TrackerLinkまたはSourceBridgeをインストールしている場合は、[Lock File (ロックファイル)] ダイアログボックスで【Associate Issues (Issue の関連付け)】をクリックして、システム変更要求 (Issue) をロックしたファイルに関連付けることができます。



注：リビジョンのロック時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。



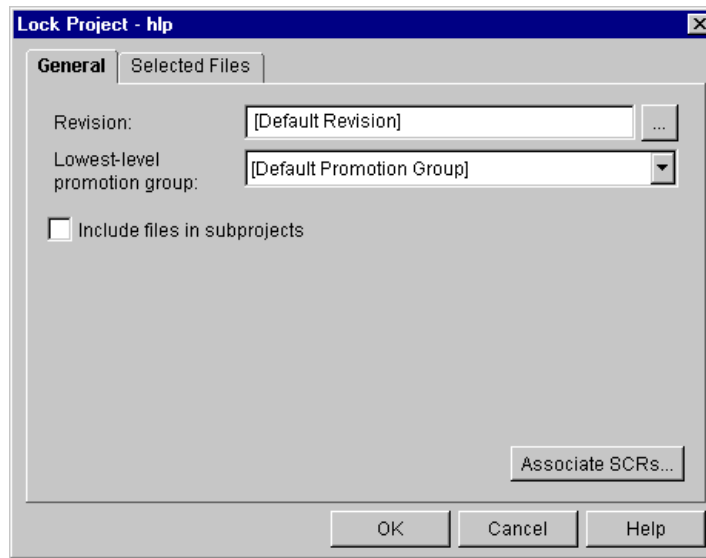
注：Version Manager デスクトップクライアントが次に起動されたときに使用される、Issue 管理の統合を設定できます。現在開いているクライアントセッションには影響しません。

- 1 Serena Issue 管理の統合ユーティリティを起動します (Windows [スタート] メニューの Serena フォルダから、[ChangeMan Version Manager] - [Issue Management Integration (Issue 管理の統合)] を選択します)。
- 2 <TeamTrack SourceBridge> または <Tracker TrackerLink> を選択します。
- 3 【OK】または【Launch Version Manager (Version Manager の起動)】 ボタンをクリックします。

リビジョンをロックするには

- 1 ロックするリビジョン (リビジョン表示部が表示されている場合)、またはバージョン管理ファイルを選択します。一連のリビジョンをロックする必要がある場合は、それらのリビジョンを含んだプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。

- 2 [Actions (アクション)] – [Lock (ロック)] を選択します。[Lock (ロック)] ダイアログボックスが表示されます。



ヒント 通常はデフォルトリビジョンをロックするのであれば、[Options (オプション)] ダイアログボックス ([View (表示)] – [Options (オプション)]) を選択の [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブで [Lock (ロック)] チェックボックスの選択を解除し、[Lock (ロック)] ダイアログボックスの表示を省略することができます。ただし、ロックされたリビジョンに必ず Issue を関連付けるよう設定されている場合は、[Lock (ロック)] ダイアログボックスの表示を省略しても、[Association (関連付け)] ダイアログボックスは自動的に表示されます。

- 3 [General (全般)] タブで、以下の操作を行います。

- [Revision (リビジョン)] テキストボックスで、ロックするリビジョンに関連付けられたリビジョン番号またはバージョンラベルを指定します。選択したリビジョンが、プロモーションモデルが定義されたプロジェクトデータベースに関連付けられている場合は、プロモーショングループを指定することもできます。



注：数字で始まるバージョンラベルを指定するには、円記号 (\) を前に付ける必要があります。たとえば、1.2 や 1abc という値の場合は、\1.2 や \1abc のように入力します。

リビジョンを指定しなければ、プロジェクトまたはプロジェクトデータベースのデフォルトリビジョンがロックされます。デフォルトリビジョンは、とくに指定しないかぎり、最新のリビジョンです。

プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、[166 ページの『デフォルトバージョンの定義』](#)を参照してください。

- [Lowest-level promotion group (最下位のプロモーショングループ)] ドロップダウンリストで、プロモーショングループを選択します。このフィールドは、現在のプロジェクトデータベースにプロモーションモデルが定義されている場合にのみ有効になります。選択したプロモーショングループが、ロックされたリビジョンに関連付けられます。

デフォルトでは、[Default Promotion Group] ([デフォルトプロモーショングループ]) が選択されており、これは、ワークスペースの設定により定義された、この動作に使用され

る最下位のプロモーショングループを表します。ワークスペース設定の値が定義されておらず、このフィールドで別の値を選択しない場合、デフォルトの動作は以下のようになります。

- プロモーションモデルに最下位のプロモーショングループが複数含まれる場合は、プロモーショングループを選択するかどうかを尋ねられます。
- プロモーションモデルに含まれる最下位のプロモーショングループが 1 つの場合は、そのプロモーショングループが選択されます。
- 〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスが選択されている場合は、プロジェクトにプロモーションモデルが定義されていなくても、プロモーションモデルが定義されたサブプロジェクトに以上の設定が適用されます。



注：このフィールドを使用して、ロックされるリビジョンを選択することはできません。プロモーショングループに基づいてリビジョンをロックするには、〈Revision (リビジョン)〉フィールドにプロモーショングループを入力します。

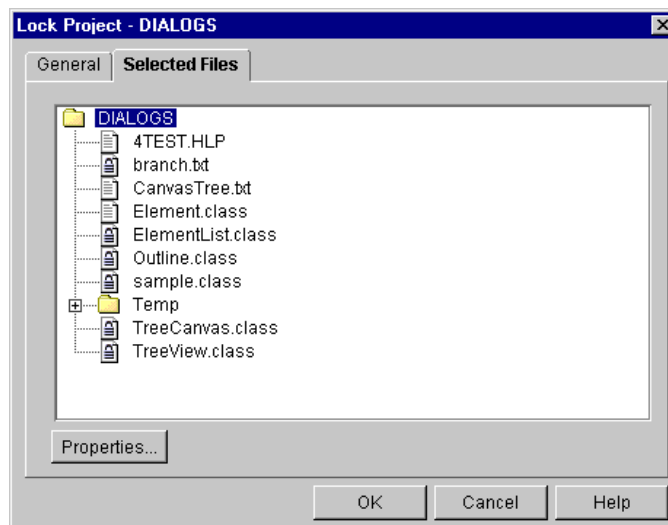
- (Serena Tracker および SourceBridge を使用する場合) ロックする作業ファイルを Issue に関連付ける場合は、【Associate Issues (Issue の関連付け)】をクリックします。【Association (関連付け)】ダイアログボックスが開きます。

リビジョンのロック時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動することに注意してください。



注：ロックの操作を行うときに、【Lock (ロック)】ダイアログボックスが表示されないように設定され、かつ Issue との関連付けが要求されるよう設定されている場合は、リビジョンのロック時に【Version Manager displays the association (Version Manager で関連付けを表示)】ダイアログボックスが表示されます。

- 4 【Selected Files (選択されたファイル)】タブで以下を行います。



- ロックしようとしているファイルが適切なファイルかどうかを確認するには、このタブに表示されるファイルリストを見ます。
- 選択したアイテムのプロジェクト設定およびワークスペース設定の内容を表示するには、【Properties (プロパティ)】をクリックします。【Selected Files (選択されたファイル)】タブに戻るには、【OK】をクリックします。

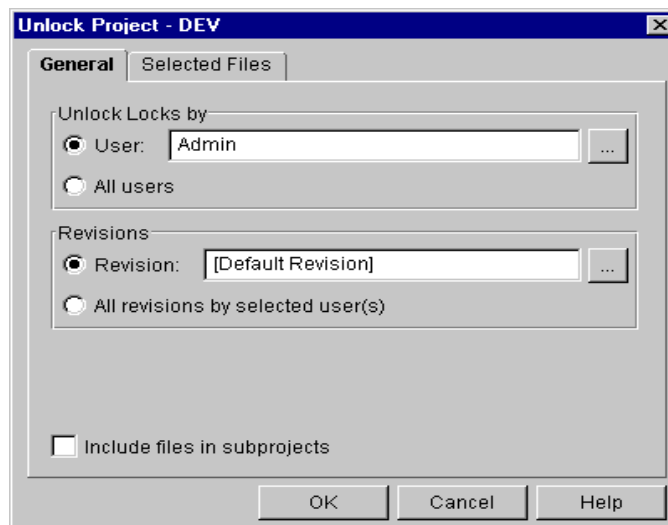
- 5 【OK】をクリックします。選択したリビジョンがロックされます。

リビジョンのロック解除

- ロックが解除される場合** 作業ファイルをチェックインすると、Version Manager は自動的にデフォルトリビジョンのロックを解除します。しかし、リビジョンをチェックインせずに、ロックを解除する必要がある場合もあります。
- たとえば、プロジェクト全体をチェックアウトして、変更したファイルのみをチェックインした場合は、変更していないファイルはロックされたままです。リビジョンをロック解除するためだけに、変更されていない作業ファイルをチェックインする代わりに、ロックを解除するロック解除オプションを使用できます。
- ロック解除のしくみ** バージョン管理ファイルをロック解除すると、バージョン管理ファイルの特定のリビジョンをロック解除することになります。リビジョンをロック解除することにより、リビジョンを解放して、プロジェクトチームのほかのメンバーがリビジョンにアクセスできるようにします。
- Issueと関連付けられており、ロックされているが変更されていないファイルをロック解除すると、関連付けも解除され、Issue 内に、関連付けが削除されたことが記述されます。
- ロック解除の権限** ロック解除の権限は、管理者によって設定されたユーザIDおよびアクセスリストグループ権限に基づきます。デフォルトでは、自分が設定したロックのみを解除することができます（SuperUser または Unlimited 権限を持っている場合を除く）。
- 特定のリビジョンのロック解除** リビジョン番号、バージョンラベル、またはプロモーショングループを指定することにより、リビジョンをロック解除できます。1つのリビジョンまたはバージョン管理ファイル、複数のバージョン管理ファイル、1つのプロジェクト、またはプロジェクトデータベース全体を選択することにより、リビジョンをロック解除できます。

リビジョンをロック解除するには

- 1 ロック解除するリビジョン（リビジョン表示部が表示されている場合）、またはバージョン管理ファイルを選択します。一連のリビジョンをロック解除する必要がある場合は、それらのリビジョンを含んだプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] - [Unlock (ロック解除)] を選択します。[Unlock (ロック解除)] ダイアログボックスが表示されます。



〔General (全般)〕 タブで、以下の操作を行います。

- 〈Unlock Locks (ロック解除)〉 グループボックスの 〈User (ユーザ)〉 フィールドには、選択したプロジェクトデータベースにログインする際に使用されるユーザ ID が表示されます。
「他のユーザのロック解除」 権限を持っている場合は、ほかのユーザIDにより設定されたロックを解除することができます。
SuperUser 権限を持っている場合は、〈All Users (すべてのユーザ)〉 オプションを選択すると、どのユーザによって作成されたロックでも解除できます。
- 〈Revision (リビジョン)〉 グループボックスの 〈Revision (リビジョン)〉 テキストボックスに、ロック解除するリビジョンに関連付けられたリビジョン番号またはバージョンラベルを指定します。選択したプロジェクトデータベースにプロモーションモデルが定義されている場合は、プロモーショングループを指定することもできます。



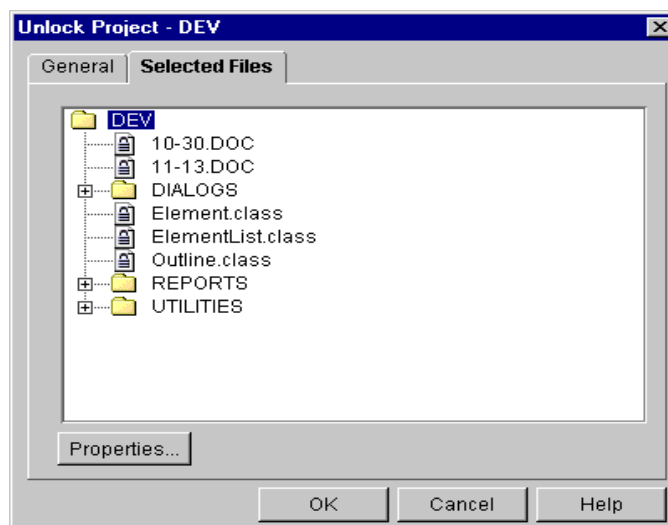
注：数字で始まるバージョンラベルを指定するには、円記号 (\) を前に付ける必要があります。たとえば、1.2 や 1abc という値の場合は、\1.2 や \1abc のように入力します。

リビジョンを指定しなければ、プロジェクトまたはプロジェクトデータベースのデフォルトリビジョンがロック解除されます。デフォルトリビジョンは、とくに指定しないかぎり、最新のリビジョンです。

プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、[166 ページの『デフォルトバージョンの定義』](#)を参照してください。

〈User (ユーザ)〉 フィールドで指定されたユーザIDに関連付けられたリビジョンをすべてロック解除するには、〈All revisions by selected user(s) (選択されたユーザのすべてのリビジョン)〉 オプションを選択します。

- (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) デフォルトでは、サブプロジェクト内のファイルはロック解除されません。サブプロジェクト内のファイルをロック解除するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉 チェックボックスを選択します。
- 3 ロック解除する前に、選択したファイルまたはプロジェクトを確認するには、〔Selected Files (選択されたファイル)〕 タブを選択します。

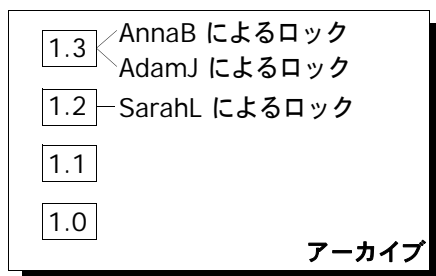


- 4 [Selected Files (選択されたファイル)] タブで以下を行います。
 - ロックを解除しようとしているファイルが適切かどうかを確認するには、このタブに表示されるファイルリストを見ます。
 - 選択したアイテムのプロジェクト設定およびワークスペース設定の内容を表示するには、【Properties (プロパティ)】をクリックします。[Selected Files (選択されたファイル)] タブに戻るには、【OK】をクリックします。
- 5 【OK】をクリックします。選択したリビジョンがロック解除されます。

多重ロック

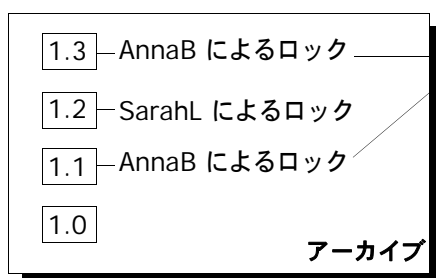
デフォルトでは、1つのリビジョンに作成できるロックは1つだけです。ただし、管理者は、1つのリビジョンに複数のロックを設定したり、同じユーザがアーカイブ内に複数のロックを設定したり、同じユーザが1つのリビジョンに複数のロックを設定できるよう、以下のようにプロジェクトをセットアップできます。

- 1つのリビジョンに対する複数のロックを許可する (リビジョンごとの多重ロック)



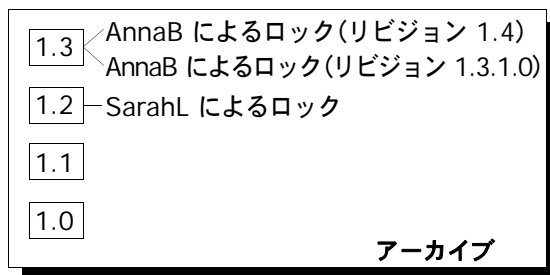
各ユーザは同じアーカイブ内の複数のリビジョンをロックできませんが、リビジョンでの複数ロックは可能です。

- アーカイブ内で1人のユーザによって設定された複数のリビジョン (1人のユーザによる多重ロック)



各ユーザは同じアーカイブ内の複数のリビジョンをロックできますが、どのリビジョンも多重ロックすることはできません。

- 1人のユーザによって1つのリビジョンに設定された複数のロック (ユーザとリビジョンの多重ロック)



各ユーザは同じアーカイブ内のリビジョンに多重ロックをかけることができます。

多重ロックは、並行開発しているパス（ブランチ）があるプロジェクトチームのメンバー用に設計されています。多重ロックについての詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』の『リビジョンのブランチとマージ』の章を参照してください。

シナリオ：ほかのユーザによるファイルの変更を防ぐ



チームリーダーの川井さんとほかの 6 人のライターは Bridge プロジェクトのドキュメントを作成しています。彼らはまだ製品のベータ版を持っていません。代わりに、製品仕様書を使用してその機能についてのドキュメントを作成していました。8 月に完成した仕様書を使用して、すべてのダイアログボックスのヘルプトピックを完成させました。しかし、最近になって、先般の有用性テストの結果を反映するため、多くのダイアログボックスが大幅に変更されていることが分かりました。これらの変更は、8 月のバージョンの仕様書には反映されていませんでした。川井さんは、仕様書が最新になるまでライターにこれらのファイルを変更させないことにしました。ライターには、正しくない情報で機能についてのドキュメントを作成して時間を無駄にしてほしくありませんでした。

川井さんはまず、変更されたダイアログボックスすべてに Usability_Chgs というバージョンラベルを割り当てました。そして、Bridge プロジェクトを選択し、Usability_Chgs バージョンラベルを使って表示のフィルタを実行しました。また、【Recursive View（再帰的に表示）】をクリックして、Usability_Chgs バージョンラベルと一致する Bridge プロジェクト内の全ファイルを表示しました。ファイル表示部には、このバージョンラベルが割り当てられているバージョン管理ファイルのみが表示されています。川井さんはこのファイルリストを見て、関連のあるドキュメントトピックを特定しました。

次に、川井さんは、CTRL キーを押しながらファイル表示部の各バージョン管理ファイルを選択し、【Lock（ロック）】コマンドを選択しました。これで、ファイルへのアクセスは禁じられます。川井さんはロックのデフォルト設定をそのままにして、【OK】をクリックしました。バージョン管理ファイルは、ファイル表示部にロックアイコンとともに表示されました。

ファイルがロックされている理由をライターに知らせる必要があります。そのために、ファイル表示部でバージョン管理ファイルを反転表示させたまま、ロックしたリビジョンにバージョンラベルを割り当てました。浮動でない、つまり、固定のバージョンラベルとして、名前を「On Hold」と入力し、【OK】をクリックしました。


最後に、川井さんは、フィルタを「すべてのファイル」にリセットし、リビジョン表示部を表示して、適切なリビジョンがロックされて、On Hold バージョンラベルが割り当てられていることを確認しました。仕様書が更新されたら、ファイルのロックを解除して、バージョンラベルを削除するつもりです。それらのタスクについては、次のシナリオで説明します。

第 14 章

バージョンラベルの使用

バージョンラベルについて	190
デフォルトオプションの適用	191
バージョンラベルの割り当て	191
バージョンラベル名の変更	193
バージョンラベルの再割り当て	194
デフォルトバージョンの指定	197
バージョンラベルの削除	197
シナリオ：バージョンラベルの再割り当て、名前変更、および削除を行う	198

バージョンラベルについて

バージョンラベルとは	バージョンラベルは、リビジョンを識別するために使用されるタグです。通常、「Beta Test 1」など、特定の製品リリースの各コンポーネントの特定のリビジョンを識別するのに使用されます。
	 特定のリビジョンにバージョンラベルを割り当て、同じバージョン管理ファイルやバージョン管理ファイルのグループ内にあるほかのリビジョンと区別します。
	バージョンラベルは、リビジョン、1つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、5.3/6.0 フォルダ、プロジェクトデータベース全体、既存のバージョンラベルまたはプロモーショングループを選択して割り当てます。
	リビジョンにラベルを割り当てたら、リビジョンの代わりにバージョンラベルを指定することによって、アクションを実行できます。アクションには、作業ファイルのチェックイン、リビジョンのチェックアウト、ファイルのグループのプロモート、レポートの生成などがあります。
複数のバージョンラベル	各リビジョンには複数のバージョンラベルを割り当てることができます。ただし、バージョンラベルは、各バージョン管理ファイル内で一意である必要があります。
大文字/小文字の区別	バージョンラベルでは大文字と小文字が区別されます。バージョンラベルを使用する際は、大文字と小文字を正確に指定するようにしてください。
文字の制限	バージョンラベルは 254 文字以下で指定する必要があります。英字、数字、特殊文字を使用できません。ただし、コロン (:)、アスタリスク (*)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、および二重引用符 (") は使用できません。



注：バージョンラベルは、リビジョン番号とまぎらわしくない値にしてください。

固定ラベルと浮動ラベル

バージョンラベルには固定バージョンラベルと浮動バージョンラベルの 2 つのタイプがあります。

- 固定：ユーザによって移動されない限り、ファイルの特定のリビジョンに固定されます。
- 浮動：新しいリビジョンが追加されるにつれて、ファイルのチップリビジョン（最新のリビジョン）へと移動します。

浮動ラベルによって、リビジョン番号を気にすることなくアーカイブ中の最新バージョンを参照できます。この機能は、ブランチを含むプロジェクトで作業するときに特に便利です。各ブランチとトラックのチップリビジョンに異なる浮動ラベルを付けることができます。



重要： 浮動ラベルは、リビジョン番号付け方式の範囲を超えて変化することはありません。

たとえば不動ラベルに 1.3 という値を与えた場合、新しいリビジョンが作られるたびに変化できません (1.4、1.5 から最終的に 1.6 まで変化するとします)。ただしここで整数部に別の値を与えると (たとえば 2.0、または 1.7 の代わりに 2.7 など)、ラベルは新しいリビジョンへ移行できなくなります。同様の制限がブランチリビジョンにも課せられます (1.14.1.2、1.14.1.3、1.14.1.4 と浮動したあとに 1.14.2.0 を入力した場合など)。

デフォルトオプションの適用

バージョンラベルを割り当てる際に、リビジョンを指定しなかったり、[Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)] ダイアログボックスのどの値も変更しなかった場合は、Version Manager は以下を実行します。

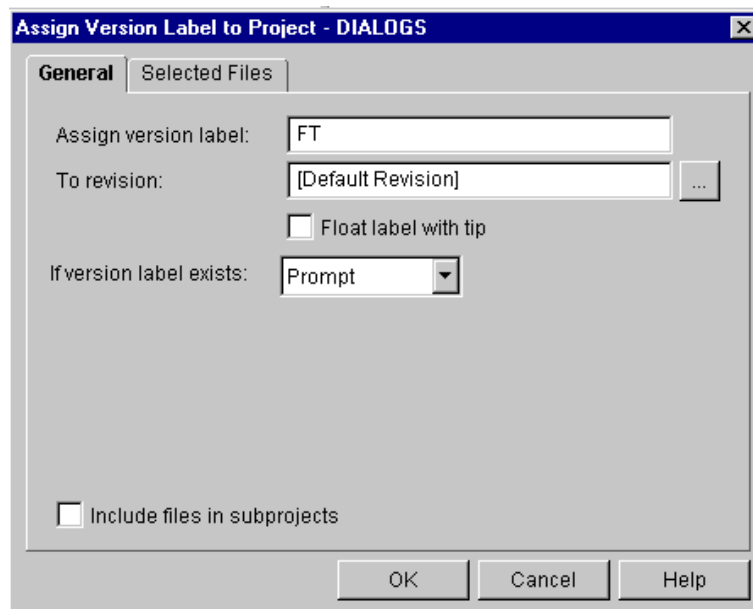
- デフォルトリビジョンにバージョンラベルを割り当てます。デフォルトリビジョンが指定されていない場合は、最新の（チップ）リビジョンが使用されます。
- 固定バージョンラベルをデフォルトリビジョンに割り当てる
- 既存のバージョンラベルを変更する前に、確認のダイアログボックスを表示します。

バージョンラベルの割り当て

バージョンラベルは、1 つまたは複数のリビジョン、バージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、プロジェクトデータベース全体、既存のバージョンラベルまたはプロモーショングループを選択して割り当てます。

バージョンラベルを割り当てるには

- 1 バージョンラベルを割り当てるアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] - [Version Label (バージョンラベル)] - [Assign (割り当て)] を選択します。[Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Assign version label (バージョンラベルの割り当て)〉フィールドに、バージョンラベルを入力します。バージョンラベルは 254 文字以下で指定する必要があります。英字、数字、特殊文字を使用できます。ただし、コロン (:)、アスタリスク (*)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、および二重引用符 (") は使用できません。



注：バージョンラベルは、リビジョン番号とまぎらわしくない値にしてください。

- 4 以下のいずれかを実行します。
- デフォルトのバージョンラベルオプションを変更する場合は、次のセクションに進みます。
 - デフォルトのバージョンラベルオプションを変更しない場合は、【OK】をクリックします。選択したアイテムに対して指定したデフォルトリビジョンに、固定バージョンラベルが割り当てられます。

デフォルト以外のバージョンラベルオプションの使用

- 1 [Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)] ダイアログボックスで、次のいずれかを行います。
- デフォルトリビジョン以外のリビジョンにバージョンラベルを割り当てるには、〈To revision (割り当てるリビジョン)〉テキストボックスにリビジョン番号、バージョンラベル、プロモーショングループのいずれかを入力するか、【Browse (...)】をクリックしてリビジョンを選択します。
ワークスペースのデフォルトリビジョンを定義する方法については、[166 ページの『デフォルトバージョンの定義』](#)を参照してください。
 - バージョンラベルがつねに最新のリビジョン (チップリビジョン) に割り当てられるようにするには、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択します。
 - 〈If version label exists (バージョンラベルが存在する場合)〉ドロップダウンリストで、割り当てるバージョンラベルがすでにバージョン管理ファイルに存在する場合に実行する処理を選択します。〈Prompt (確認する)〉(デフォルト値) を選択すると、重複するバージョンラベルが存在する場合、実行する処理を尋ねるメッセージが表示されます。
その他のオプションには、既存のバージョンラベルを指定したリビジョンに移動する 〈Reassign (再度割り当てる)〉 や、バージョンラベルをバージョン管理ファイルに割り当てない 〈Don't reassign (再度割り当てない)〉 があります。
 - (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあすべてのバージョン管理ファイルにバージョンラベルを割り当てるには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- 2 【OK】をクリックします。指定したバージョンラベルが選択したリビジョンに割り当てられます。

作業ファイルのチェックイン時と追加時のバージョンラベルの割り当て

作業ファイルのチェックインや追加の際にも、リビジョンにバージョンラベルを割り当てることができます。バージョンラベルオプションは、[Check In (チェックイン)] ダイアログボックス、および [Add Workfiles (作業ファイルの追加)] ダイアログボックスの [Advanced (詳細)] タブで設定できます。チェックインの際にバージョンラベルを割り当てする方法については、[176 ページの『デフォルトのチェックインオプションの変更』](#)を参照してください。作業ファイルを追加する際にバージョンラベルを割り当てする方法については、[96 ページの『プロジェクトデータベース/プロジェクトへの作業ファイルの追加』](#)を参照してください。

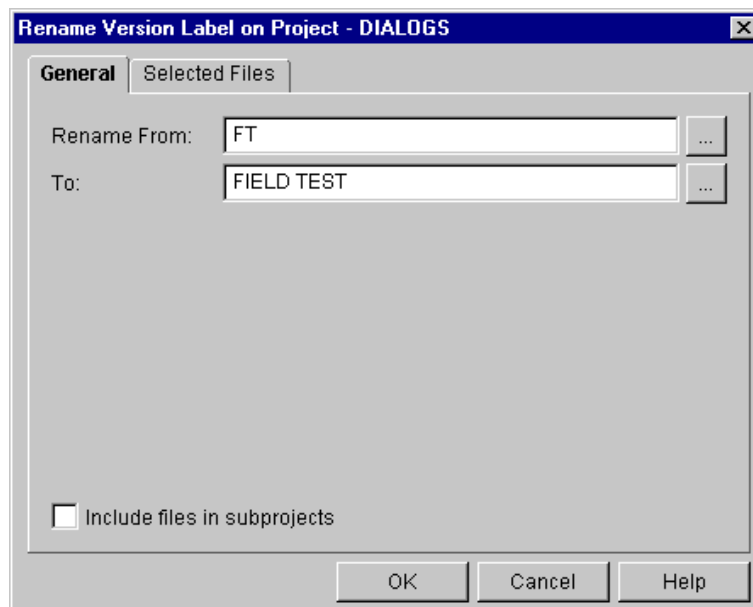
バージョンラベル名の変更

既存のバージョンラベルを変更するには、バージョンラベル名を変更します。バージョンラベルは、既存のバージョンラベル、リビジョン、1つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、5.3/6.0 フォルダまたはプロジェクトデータベース全体を選択して変更します。

プロジェクト、フォルダまたはプロジェクトデータベースレベルにバージョンラベルを再割り当てすると、再割り当てするバージョンラベルと一致するバージョンラベルはすべて変更されます。

バージョンラベル名を変更するには

- 1 名前を変更するバージョンラベルまたは名前を変更するバージョンラベルを含んだアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] - [Version Label (バージョンラベル)] - [Rename (ファイル名の変更)] を選択します。[Rename Version Label (バージョンラベル名の変更)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Rename From (現在の名前)> テキストボックスに、名前を変更するバージョンラベルを入力するか、【Browse (...)] をクリックしてバージョンラベルを選択します。

- 4 〈To (新しい名前)〉テキストボックスに新しいバージョンラベル名を入力するか、【Browse (...)】をクリックしてバージョンラベルを選択します。バージョンラベルは 254 文字以下で指定する必要があります。英字、数字、特殊文字を使用できます。ただし、コロン (:)、アスタリスク (*)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、および二重引用符 (") は使用できません。



注：バージョンラベルは、リビジョン番号とまぎらわしくない値にしてください。

- 5 (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあるバージョンラベルの名前を変更するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- 6 【OK】をクリックします。

バージョンラベルの再割り当て

以下のような場合、バージョンラベルを割り当て直すことができます。

- 既存のラベルを、同一バージョン管理ファイル内のあるリビジョンから別のリビジョンに移動する場合
- バージョンラベルの属性を変更する場合 (浮動バージョンラベルを固定バージョンラベルに変更する場合やその逆の場合)

バージョンラベルの再割り当ては、既存のバージョンラベル、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、5.3/6.0 フォルダまたはプロジェクトデータベース全体を選択して行います。

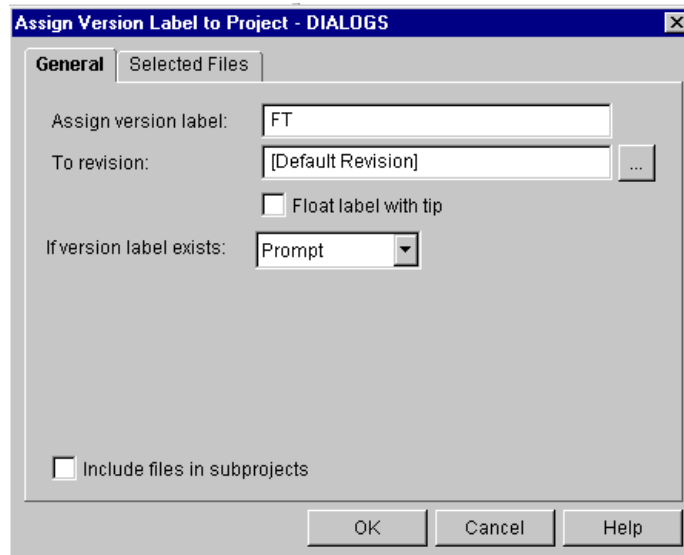
プロジェクト、フォルダまたはプロジェクトデータベースレベルのバージョンラベル名を変更すると、そのバージョンラベルと一致するすべてのバージョンラベル名が変更されます。

既存のバージョンラベルの移動

既存のバージョンラベルを同一のバージョン管理ファイル内で移動するには

- 1 移動するバージョンラベルまたは移動するバージョンラベルを含んだアイテムを選択します。

- 2 [Actions (アクション)] – [Version Label (バージョンラベル)] – [Assign (割り当て)] を選択します。[Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Assign version label (バージョンラベル)> テキストボックスに、移動するバージョンラベルを入力します。



重要： バージョンラベルでは大文字と小文字が区別されます。バージョンラベルを入力する際は、再割り当てする既存のバージョンラベルと、大文字/小文字の使用が一致している必要があります。

- 4 バージョンラベルをデフォルトリビジョン以外のリビジョンに移動するには、<To revision (割り当てるリビジョン)> テキストボックスに、リビジョン番号、バージョンラベル、プロモーショングループのいずれかを入力するか、【Browse (...)】をクリックしてリビジョンを選択します。

ワークスペースのデフォルトリビジョンを定義する方法については、[166 ページの『デフォルトバージョンの定義』](#)を参照してください。

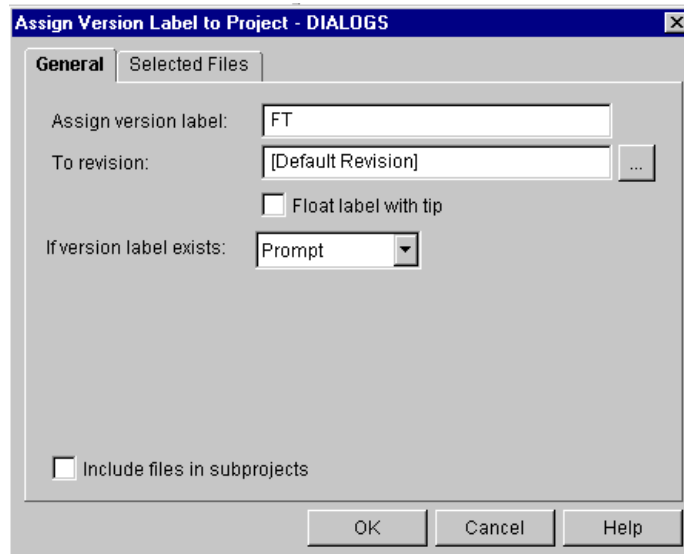
- 5 <To revision (割り当てるリビジョン)> テキストボックスで選択したリビジョンが最新の (チップ) リビジョンの場合に、以降のファイルがチェックインされるたびに、バージョンラベルが自動的に最新のリビジョンに割り当てられるようにするには、<Float label with tip (浮動ラベル)> チェックボックスを選択します。
- 6 <If version label exist (バージョンラベルが存在する場合)> ドロップダウンリストで、<Reassign (再度割り当てる)> を選択します。
- 7 (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあるバージョン管理ファイルのバージョンラベルを移動するには、<Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)> チェックボックスを選択します。
- 8 【OK】をクリックします。

バージョンラベルプロパティの変更

バージョンラベルのプロパティを変更すると、固定バージョンラベルを浮動バージョンラベルに変更したり、その逆に変更することができます。

バージョンラベルのプロパティを変更するには

- 1 プロパティを変更するバージョンラベルまたはプロパティを変更するバージョンラベルを含んだアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] – [Version Label (バージョンラベル)] – [Assign (割り当て)] を選択します。[Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Assign version label (バージョンラベル)> テキストボックスに変更するバージョンラベルを入力します。



重要： バージョンラベルでは大文字と小文字が区別されます。バージョンラベルを入力する際は、変更する既存のバージョンラベルと、大文字/小文字の使用が一致している必要があります。

- 4 <Assign version label (バージョンラベル)> テキストボックスに入力したものと同一バージョンラベルを、<To revision (割り当てるリビジョン)> テキストボックスに入力します。
- 5 ラベルを「浮動」ラベルに変更する場合は、<Float label with tip (浮動ラベル)> チェックボックスを選択します。そうでない場合は、このチェックボックスを選択解除すると、ラベルが「固定」ラベルに変更されます。
- 6 <If version label exist (バージョンラベルが存在する場合)> ドロップダウンリストで、<Reassign (再度割り当てる)> を選択します。
- 7 (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあるすべてのバージョン管理ファイルのバージョンラベルプロパティを変更するには、<Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)> チェックボックスを選択します。
- 8 【OK】 をクリックします。

デフォルトバージョンの指定

リビジョンをチェックアウト、取得、またはプロモートするときには、別のリビジョンを指定しない限り、現在のワークスペースに対して設定されたデフォルトリビジョンが使用されます。デフォルトリビジョンは、バージョン管理ファイルの最新リビジョン（チップ）です。ただし、バージョンラベルをデフォルトリビジョンに指定することができます。

任意のバージョンラベルをデフォルトバージョンに指定すると、Version Manager は、チェックアウト、取得およびプロモート時のデフォルトリビジョンとして、そのバージョンラベルを使用します。

任意のバージョンラベルをワークスペースのデフォルトリビジョンとして定義する方法については、[166 ページの『デフォルトバージョンの定義』](#)を参照してください。

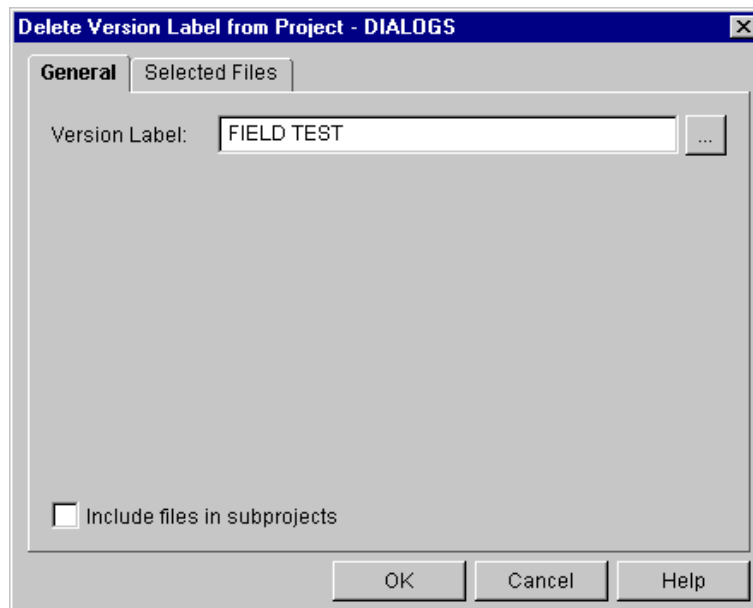
バージョンラベルの削除

不要になったバージョンラベルは削除することができます。バージョンラベルの削除は、バージョンラベル、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、5.3/6.0 フォルダまたはプロジェクトデータベース全体を選択して行います。

プロジェクト、フォルダまたはプロジェクトデータベースレベルのバージョンラベルを削除すると、削除するバージョンラベルと一致するすべてのバージョンラベルが削除されます。

バージョンラベルを削除するには

- 1 削除するバージョンラベルまたは削除するバージョンラベルを含むアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] - [Version Label (バージョンラベル)] - [Delete (削除)] を選択します。[Delete Version Label (バージョンラベルの削除)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Version Label (バージョンラベル)〉テキストボックスに、削除するバージョンラベルを入力するか、【Browse (...)] をクリックしてバージョンラベルを選択します。



重要： バージョンラベルでは大文字と小文字が区別されます。バージョンラベルを入力する際は、削除する既存のバージョンラベルと、大文字/小文字が一致している必要があります。

- 4 (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあるバージョンラベルを削除するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- 5 【OK】 をクリックします。

シナリオ：バージョンラベルの再割り当て、名前変更、および削除を行う



Bridge プロジェクトは、いよいよテストができる段階に入りました。この開発チームのリーダーは木村さんです。木村さんは、ファイルを QA_Testing プロモーショングループにプロモートする準備として、「FT」(Field Test の略) というラベルをファイルに割り当てることにしました。このラベルは、開発者たちが作業を完了するまで、最新のリリースに移動し続けるようにするつもりです。

木村さんは、Bridge プロジェクトをクリックし、[Assign (割り当て)] - [Version Label (バージョンラベル)] - [Rename (ファイル名の変更)] を選択しました。ラベル名として「FT」と入力し、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択して、バージョンラベルがつねに最新のリリースまたは「チップ」リリースとなるようにし、【OK】 をクリックしました。

開発者たちは、Bridge プロジェクトの作業を続けます。フィールドテストでの変更を完了したら、木村さんに報告します。木村さんはリリース表示部を表示し、[Version Labels (バージョンラベル)] タブを選択します。彼女は、FTバージョンラベルがチップリリースに関連付けられていることを確認します。

開発者の 1 人である桑田さんは、自分の現在のワークスペースを Build に設定しています。このワークスペースでビルド用作業ファイルの場所を指定しています。桑田さんは、FTバージョンラベルに関連した Bridge ファイルを Build のディレクトリ、z:\build にチェックアウトします。そのため、〈Check Out (チェックアウト)〉オプションを選択し、〈Revision (リリース)〉テキストボックスに「FT」と入力しました。〈Check Out To (チェックアウト先)〉の場所には、ビルド用作業ファイルの場所である z:\build が反映されます。【OK】 をクリックすると、Version Manager は、ビルドディレクトリにバージョン管理ファイルの書き込み可能なコピーを作成します。

木村さんはコードをコンパイルして、機能チェックを完了しました。ファイルに多少の変更を施して、現在、コードを QA (品質管理) に送る準備ができています。バージョンラベルを Field Test に変更したかったので、Bridge プロジェクトをクリックして、[Actions (アクション)] - [Version Label (バージョンラベル)] - [Rename (ファイル名の変更)] を選択しました。〈Rename From (現在の名前)〉テキストボックスに「FT」と入力し、〈To (新しい名前)〉テキストボックスに「Field Test」と入力しました。〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉オプションを選択して【OK】 をクリックしました。

ファイルをチェックインする際に、Field Test バージョンラベルを浮動から固定に変更します。木村さんは、Bridge プロジェクトを選択して、〈Check In (チェックイン)〉オプションを選択しました。[General (全般)] タブで、説明のテキストボックスに「フィールドテスト QA 可能」と入力しました。[Advanced (詳細)] タブで、〈Version Label (バージョンラベル)〉テキストボックスに

「Field Test」と入力し、〈Float label with tip（浮動ラベル）〉チェックボックスが選択されていないことを確認しました。

Version Manager は、Bridge ファイルの新しいリビジョンを作成します。リビジョンは、Field Test という固定ラベルに関連付けられています。品質管理チームは、Field Test ラベルを基にして Bridge ファイルをチェックアウトし、Bridge 開発者たちが製品の最終リリースに向けて作業を続けている間にも、コードをテストできます。開発者がファイルの新規リビジョンを作成しても、Field Test ラベルは同じリビジョンに関連付けられたままです。

その間に、ドキュメントチームのリーダーである川井さんは、Chess プロジェクトの製品仕様書が更新されたことを知りました。ダイアログボックスのヘルプファイルのロックを解除して、On Hold というバージョンラベルを削除する必要があります。そのために、川井さんは〈Unlock（ロック解除）〉オプションを選択し、〈Unlock Locks By User（ユーザによるロック解除）〉フィールドに「Kawai」と入力しました。〈Include files in subprojects（サブプロジェクトのファイルも含む）〉チェックボックスを選択して【OK】をクリックしました。これで、ファイル表示部のこれらのファイルには、ロックアイコンが付かなくなりました。次に川井さんは、Chess プロジェクトを選択し、[Actions（アクション）] - [Version Label（バージョンラベル）] - [Delete（削除）] を選択しました。〈Version Label（バージョンラベル）〉フィールドに「On Hold」と入力し、〈Include files in subprojects（サブプロジェクトのファイルも含む）〉チェックボックスを選択しました。【OK】をクリックすると、これでバージョンラベルのダイアログボックスヘルプファイルへの関連付けは解除されました。ライターたちはトピックをチェックアウトし、更新された仕様書を使用して作業を続けることができます。

パート 3

Version Manager デスクトップクライアントを使った高度なタスク

リビジョンのブランチ作成	204
ファイルの比較	213
ファイルのマージ	219
リビジョンのプロモート	235
レポートの使用	245

第 15 章

リビジョンのブランチ作成

ブランチについて	205
ブランチ番号	205
ブランチの作成	206
シナリオ：開発のメインラインを中断させずにバグを修正する	212

ブランチについて

ブランチとは ブランチは、トランク（メインライン）のリビジョンまたは別の開発ブランチから分岐した、1 つまたは複数のリビジョンで構成される新たな開発ラインです。

並行開発 ブランチを使用すると、トランクまたは別のブランチで作業をしているプロジェクトチームのほかのメンバーと「並行」して、ファイルの別のバージョンを開発できます。ブランチは一般的に、次のような理由で使用します。

- 別のプラットフォーム用にバージョンを開発する場合。たとえば、Windows 版アプリケーションのソースコードファイルが保存された複数のアーカイブがある場合、各アーカイブからブランチを作成して、そのアプリケーションの UNIX 版を開発できます。
- トランクの開発を中断することなく不具合を修正する場合。不具合が見つかり、ソースコードファイルの他の部分での作業を続行したまま修正を行いたい場合は、不具合を含むリビジョンからブランチを作成し、不具合を修正して、テストすれば、トランクでの開発を中断する必要がありません。修正したブランチは、後でトランクの最新リビジョンにマージできます。
- 基本となる製品を作成し、それを主要な顧客用の製品にカスタマイズする場合。

ブランチにより、同一ファイルの別リビジョンに対し、複数の開発者がそれぞれ並行して開発を継続することができます。また、トランクの開発および複数のブランチについて、1 人の開発者が並行して作業することも可能です。

ブランチ番号

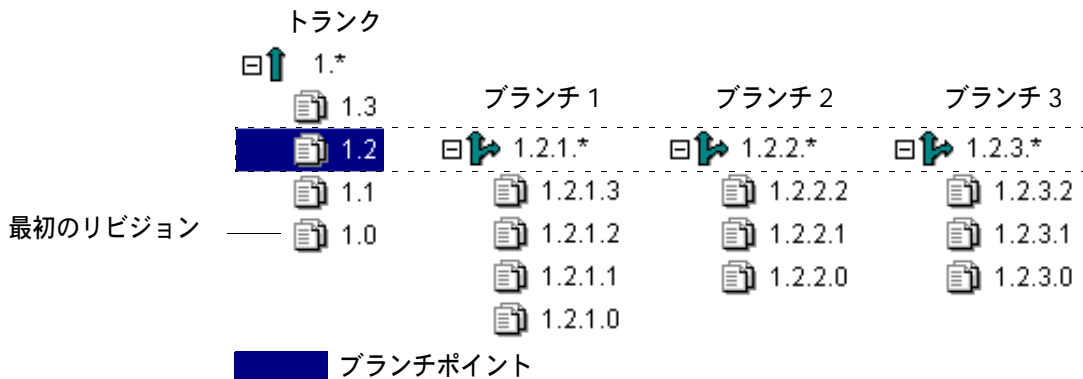
ブランチは、トランクまたは別のブランチから分岐します。ブランチの分岐元のリビジョンを、ブランチポイント（またはベースバージョン）といいます。ブランチポイントの最初のブランチリビジョンには、1.0 がついたブランチポイントリビジョン番号が付きます。後続のブランチリビジョンの番号は 0.1 ずつ増えます。



たとえば、上の図では、リビジョン 1.2 がブランチポイントなので、ここから分岐する最初のリビジョンの番号は「1.2.1.0」になります。トランクリビジョンと同様、新しく分岐する各リビジョンも 0.1 ずつ大きくなるので、このブランチの後続リビジョンの番号は、「1.2.1.1」、「1.2.1.2」のようになります。さらに、リビジョン 1.2.1.2 は別のブランチポイントになるので、ここから分岐する最初のリビジョンの番号は「1.2.1.2.1.0」となります。後続のリビジョンには、「1.2.1.2.1.1」、「1.2.1.2.1.2」という番号が付けられます。Version Manager では、「1.*」の前のブランチポイントリビジョン番号によってブランチが識別されます。

ただし、同じリビジョンから複数のブランチを作成する場合は、新規ブランチのリビジョン番号が 1.0 ずつ大きくなります。たとえば、リビジョン 1.2 を使用して複数のブランチを作成するとしま

す。この場合、最初のブランチのリビジョン番号は「1.2.1.*」になり、2 番目のブランチのリビジョン番号は「1.2.2.*」3 番目のブランチのリビジョン番号は「1.2.3.*」となります。



ブランチの作成

使用前の準備 ブランチを作成する前に、リビジョン表示部を表示しておくことをお勧めします（[View (表示)] - [Show Revisions (リビジョンを表示)]）。メインウィンドウでは、ブランチに関する情報は、リビジョン表示部のみに表示されます。

ブランチが作成される場合

以下の場合に、ブランチが作成されます。

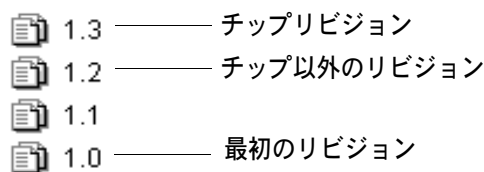
- チップ以外のリビジョンをチェックインする場合
- チップリビジョンをチェックインするときに強制ブランチする場合
- 多重ロックされたリビジョンをチェックインする場合
- Version Managerで自動ブランチを設定する場合

チップ以外のリビジョンのチェックイン

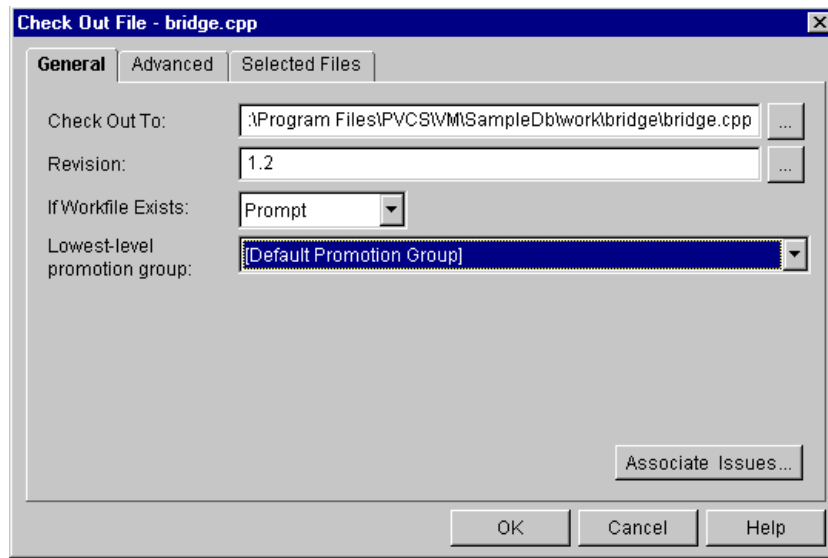
チップ以外のリビジョンをチェックインすると、ブランチが作成されます。

チップ以外のリビジョンをチェックインしてブランチを作成するには

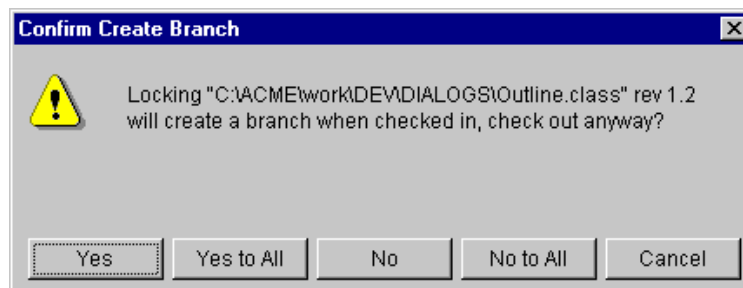
- 1 リビジョン表示部で、ブランチの開始ポイントに使用するチップ以外のリビジョンを選択します。



- 2 [Actions (アクション)] – [Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されます。

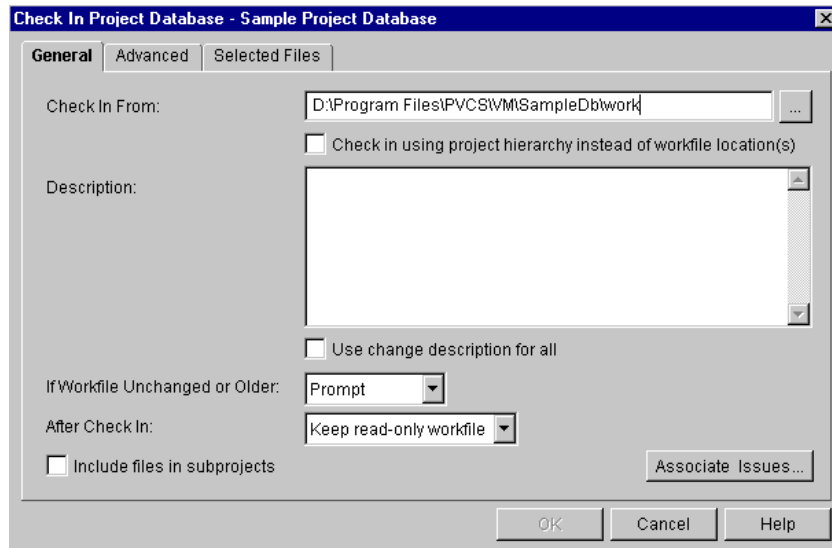



- 3 【OK】 をクリックします。ブランチの作成を確認するメッセージが表示されます。










- 4 【Yes (はい)】 をクリックします。作業ファイルの場所として現在設定されている場所にリビジョンがチェックアウトされ、このリビジョンはロックされます。

- 5 作業ファイルの変更を終えたら、[Actions (アクション)] – [Check In (チェックイン)] を選択して作業ファイルをアーカイブにチェックインして戻します。[Check In File (ファイルのチェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 <Description (コメント)> フィールドに変更の説明を入力し、【OK】をクリックします。ブランチアイコン () によって示されるブランチが作成されます。ブランチリビジョンには、ブランチポイントのリビジョン番号の後に「1.*」が割り当てられます。最初のブランチリビジョンには、ブランチポイントのリビジョン番号の後に「1.0」が割り当てられます。





 1.* — トランク
 1.3
 1.2 — ブランチポイント
 1.1
 1.0
 1.2.1.* — 新しいブランチ
 1.2.1.0 — 最初のブランチリビジョン

ブランチの強制

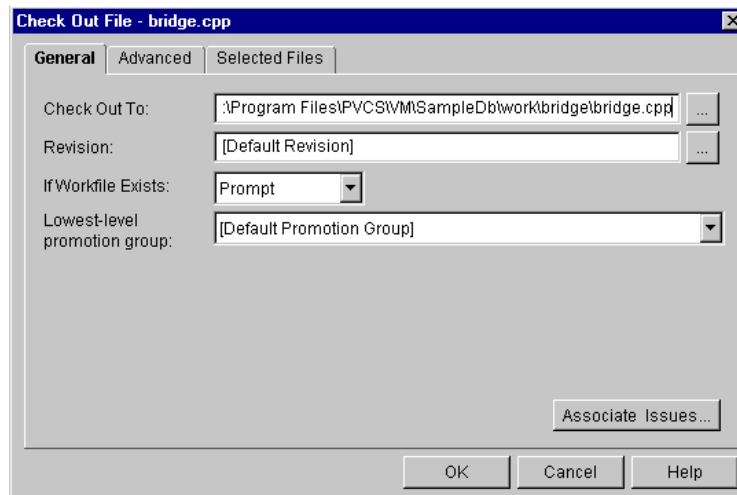
ブランチを強制することによって、最新の (チップ) リビジョンでブランチを作成できます。チップリビジョンからブランチを作成するには、作業ファイルをチェックインする際に、<Force branch (強制的にブランチさせる)> オプションを選択する必要があります。

チップリビジョンで強制的にブランチさせるには

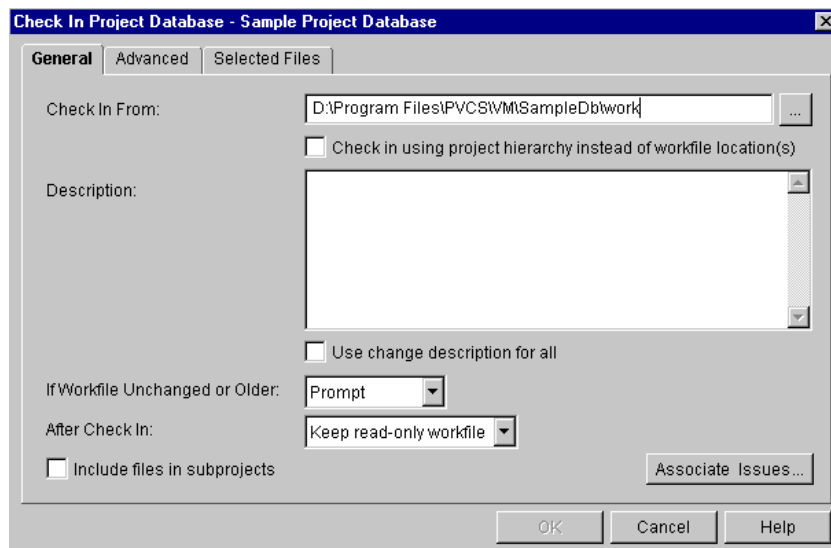
- 1 リビジョン表示部で、ブランチの開始ポイントにするチップリビジョンを選択します。

 1.3 — チップリビジョン
 1.2
 1.1
 1.0 — 最初のリビジョン

- 2 [Actions (アクション)] – [Check Out (チェックアウト)] を選択します。[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されます。

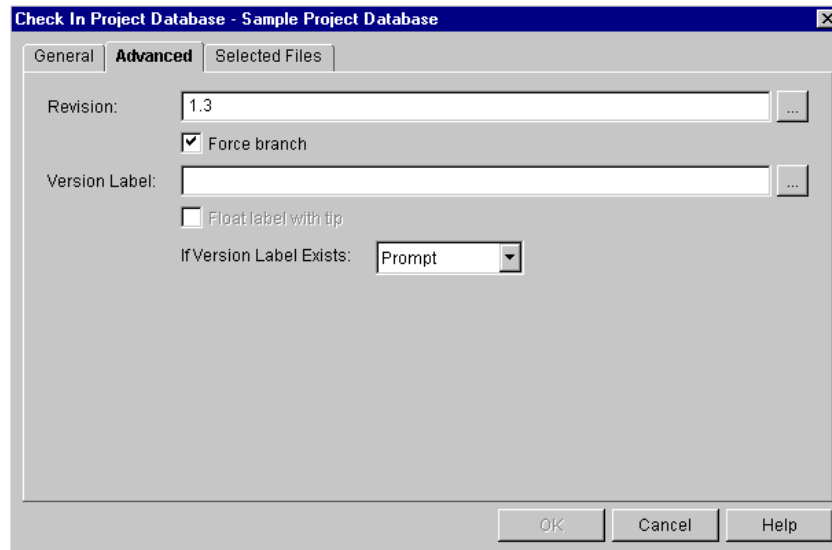



- 3 【OK】をクリックします。チップリビジョンがチェックアウトされ、リビジョンがロックされます。
- 4 作業ファイルの変更を終えたら、[Actions (アクション)] – [Check In (チェックイン)] を選択して作業ファイルをアーカイブにチェックインして戻します。[Check In File (ファイルのチェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。

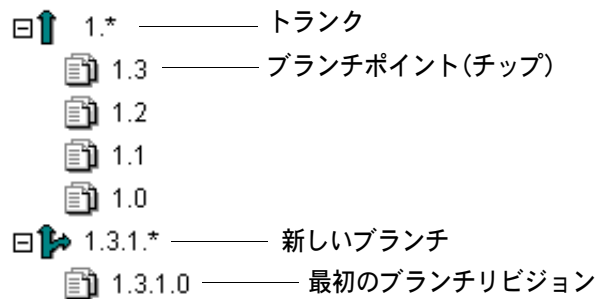


- 5 〈Description (コメント)〉フィールドに、変更の説明を入力します。

- 6 [Advanced (詳細)] タブで、〈Force branch (強制的にブランチさせる)〉チェックボックスを選択します。



- 7 【OK】をクリックします。ブランチアイコン () によって示されるブランチが作成されます。ブランチリビジョンには、ブランチポイントのリビジョン番号の後に「1.*」が割り当てられます。最初のブランチリビジョンには、ブランチポイントのリビジョン番号の後に「1.0」が割り当てられます。



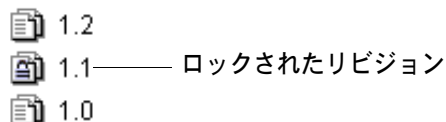
多重ロックリビジョンのチェックイン

使用前の準備

多重ロックされたリビジョンをチェックインするには、プロジェクトまたはプロジェクトデータベースが多重ロックを使用できる設定になっている必要があります。詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』の『ブランチのための多重ロックの使用』を参照してください。

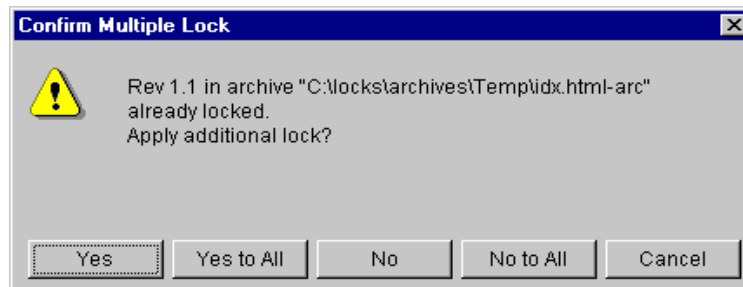
多重ロックが使用できる場合にブランチを作成するには

- 1 リビジョン表示部で、ロックされたリビジョンを選択します。

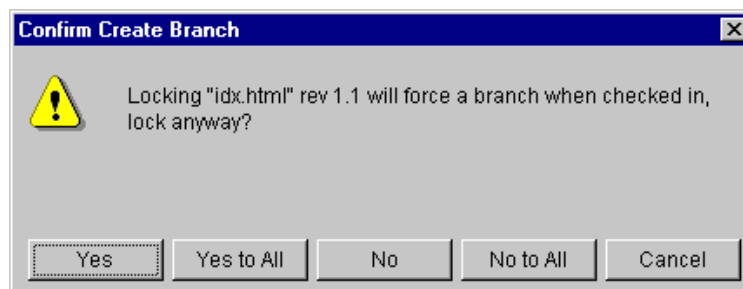


- 2 2つ目のロックを適用するには、[Actions (アクション)] - [Check Out (チェックアウト)] または [Actions (アクション)] - [Lock (ロック)] を選択します。[Check Out File (ファイルのチェックアウト)] または [Lock File (ファイルのロック)] ダイアログボックスが表示されます。

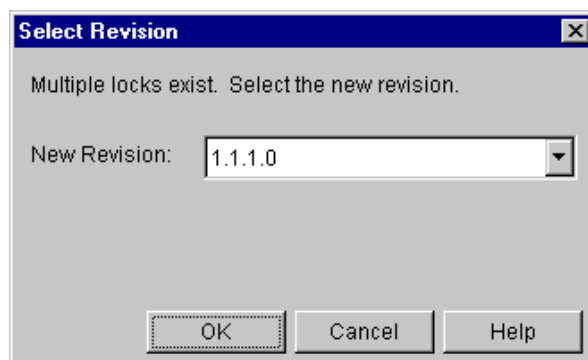
- 3 【OK】をクリックします。リビジョンがすでにロックされていることを警告する多重ロックを確認するダイアログボックスが表示され、追加のロックを適用するかどうか尋ねられます。




- 4 【Yes (はい)】をクリックします。選択したリビジョンをロックするとリビジョンをチェックインするときにブランチが強制されることを警告してブランチの作成を確認するダイアログボックスが表示され、ブランチを作成してチェックアウトまたはロックするかどうか尋ねられます。



- 5 【Yes (はい)】をクリックします。リビジョンがチェックアウトまたはロックされます。
- 6 必要に応じて作業ファイルを変更し、変更を保存します。
- 7 [Actions (アクション)] - [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In File (ファイルのチェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。
- 8 <Description (コメント)> フィールドに変更の説明を入力し、【OK】をクリックします。多重ロックされた作業ファイルをチェックインしようとしているため、[Select Revision (リビジョンの選択)] ダイアログボックスが表示されます。



- 9 <New Revision (新しいリビジョン)> ドロップダウンリストから、作業ファイルをチェックインしたときに新規ブランチを作成するリビジョン番号を選択します。
- 10 【OK】をクリックします。選択したリビジョンからブランチが作成され、リビジョン表示部にブランチアイコン () が表示されます。

自動ブランチの設定

Version Manager では、自動ブランチを設定できます。自動ブランチを使用すると、トランクリビジョンからブランチを自動的に作成することができます。その後、アクションを実行するときは、そのブランチのチップリビジョンで作業します。

自動ブランチを使用しない場合は、チップリビジョン以外のリビジョンをチェックインするか、チップリビジョンのチェックイン時に強制的にブランチするか、または多重ロックされたリビジョンをチェックインすることにより、ブランチを手動で作成する必要があります。

Version Manager に自動ブランチを設定する方法については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』の『自動ブランチ』を参照してください。

シナリオ：開発のメインラインを中断させずにバグを修正する



小川さんは Chess プロジェクトファイルのレビューを終え、チェスボードのバグを修正するために変更する必要があるファイルを見つけました。これらすべてのファイルは、Board サブプロジェクトのチップ（最新）リビジョンに対応しています。小川さんは Board サブプロジェクトを選択し、[Check Out (チェックアウト)] オプションを選択しました。システムのデフォルト設定はそのままにし、【OK】をクリックしました。小川さんは、一日の終わりに、ファイルをバージョン管理にチェックインして戻す必要があります。ただし、Chess 開発のメインラインに変更を組み込む準備はまだできていません。

そのため、小川さんは、これらのファイルをあと数日間編集して完璧に修正してから、Chess 開発のメインラインに組み込みたいと考えています。彼女は、開発の別のブランチを作成しようと思いましたが、彼女がチェックアウトしたリビジョンはチップリビジョンであるため、しばらくの間、別に作業をするには、メインの開発トランクからブランチを強制する必要があります。

小川さんは、[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスに変更の説明を入力します。また、[Advanced (詳細)] タブを選択して〈Force branch (強制的にブランチさせる)〉チェックボックスを選択し、作業ファイルをチェックインしたときに新しい開発ブランチが作成されるようにします。さらに、Chessboard Bug Fix という浮動ラベルをプロジェクトファイルに関連付けます。このラベルにより、リビジョンを容易に識別して作業できるようになります。小川さんが【OK】をクリックすると、作業ファイルがメインの開発トランクのブランチリビジョンとしてチェックインされます。また、これらのファイルに新しいバージョンラベルが関連付けられます。

チェスボードブランチで作業を続けるために、小川さんは〈Default Revision (デフォルトリビジョン)〉フィールドで「Chessboard Bug Fix」バージョンラベルを指定して Board ファイルをチェックアウトします。小川さんがファイルをチェックインするたびに、このバージョンラベルは各ファイルの最新のブランチリビジョンに移動します。

第 16 章

ファイルの比較

ファイルの比較について	214
Windows 版でのカラムマスクの設定	214
相違点の表示	215
相違点の解釈	216

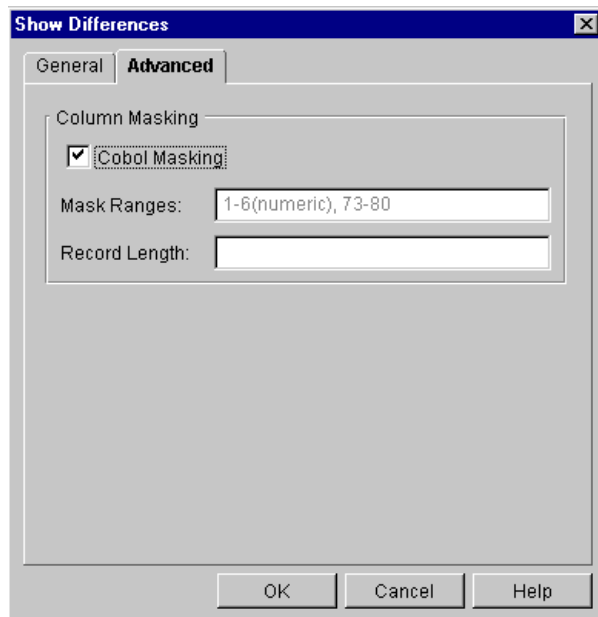
ファイルの比較について

- 並べて比較する Serena PVCS Version Manager では、2 つのテキストファイルを横に並べて、ファイルに行われた追加、削除および変更を比較できます。バイナリファイルは比較できません。
- リビジョンや作業ファイルと比較する [Actions (アクション)] - [Show Differences (相違点の表示)] を選択すると、以下のアイテムを比較できます。
- リビジョンと作業ファイル
 - 同じバージョン管理ファイルのリビジョン
 - 2 つのバージョン管理ファイルのリビジョン
 - 2 つの作業ファイル
- 表示のみ <Show Differences (相違点の表示)> オプションを使用すると、2 つのファイルを簡単に比較できます。ただし、比較ファイルの印刷や保存を行うことはできません。

Windows 版でのカラムマスクの設定

カラムマスクを有効にするには

- 1 [Advanced (詳細)] タブを選択します。



注： [Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスの [Advanced (詳細)] タブで設定された値は、現在のセッションにのみ適用されます。この値は、プロジェクトコンフィグレーションファイルにも、アーカイブファイルにも保管されません。

- 2 COBOL ファイル用のデフォルト COBOL マスク定義を使用する場合は、<Cobol Masking (Cobolマスク)> チェックボックスを選択します。

- 3 〈Mask Ranges (マスク範囲)〉フィールドに、デフォルト値が自動的に表示されます。デフォルトでは、カラムが数値の場合のみ、カラム 73~80 とカラム 1~6 がマスクされます。デフォルト値を使用しない場合は、ここに別の値を入力することができます。
- 4 固定長ファイルのレコード長を入力し、論理行に基づいてデルタが生成されるようにします。可変長ファイルの場合は、このフィールドに値を入力しないでください。無効もしくは不正な出力が行われます。

相違点の表示

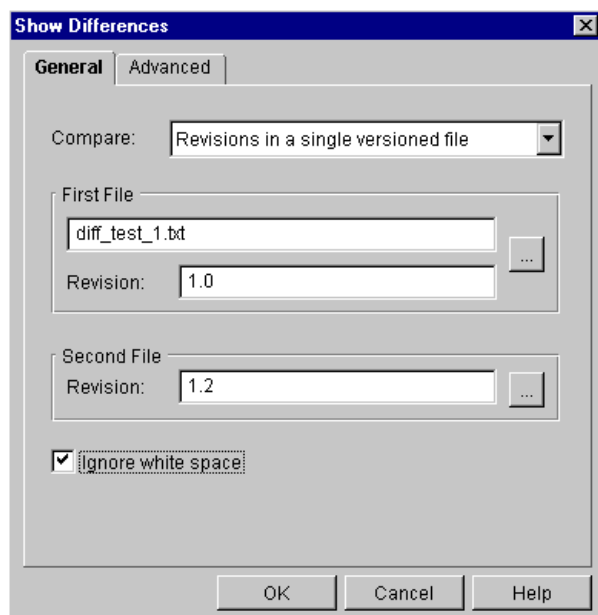
ファイル間の相違点を表示するには

- 1 比較するバージョン管理ファイルまたはリビジョンを選択します。任意のテキストファイルを選択できます。



注：別々のプロジェクト（ただし、同じプロジェクトデータベース内）にあるリビジョンを比較するには、プロジェクトデータベースを選択します。異なるプロジェクトデータベースにあるリビジョンは比較できません。

- 2 [Actions (アクション)] - [Show Differences (相違点の表示)] を選択します。[Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスが表示されます。



注：[Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスの内容は、選択した比較の種類によって異なります。

- 3 〈Compare (比較)〉ドロップダウンリストで、実行する比較の種類を選択します。

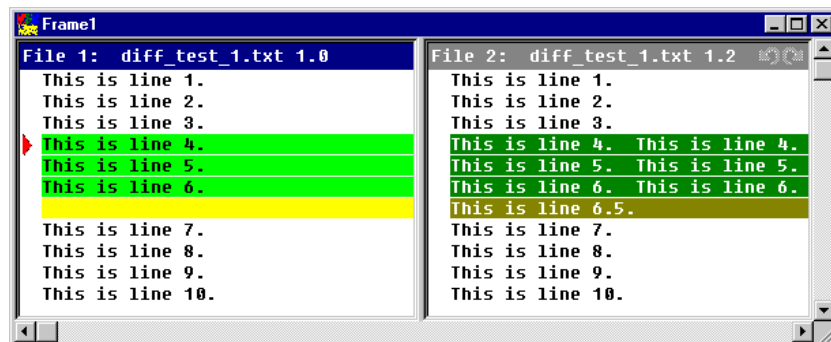
比較する内容	指定する項目
リビジョンと作業ファイル	バージョン管理ファイルとリビジョン番号、および作業ファイル
同じバージョン管理ファイルのリビジョン	バージョン管理ファイルとリビジョン番号、および 2 番目のリビジョン番号
異なるバージョン管理ファイルのリビジョン	2 つのバージョン管理ファイルと 2 つのリビジョン番号
作業ファイル	2 つの作業ファイル

- 4 〈First File (ファイル 1)〉グループのファイルまたはリビジョンを変更する場合は、【Browse (...)】をクリックして別のファイルまたはリビジョンを選択します。



注：バージョンラベル、リビジョン番号、またはプロモーショングループによりリビジョンを選択できます。

- 5 〈Second File (ファイル 2)〉グループで選択したリビジョン（または、作業ファイルを比較する場合はファイル）を変更するには、【Browse (...)】をクリックします。
- 6 空白やタブ、改ページを無視する場合は、〈Ignore white space (空白を無視する)〉チェックボックスを選択します。
- 7 【OK】をクリックします。Merant Merge Tool が起動され、2 つのファイルが別々の表示部に横に並んで表示されます。



- 8 相違点を表示するには、ファイルをスクロールし、色が付いたテキストブロックを比較します。Windows ユーザは、【Next Difference (次の相違行)】ボタン () をクリックして、次の相違点に直接移動することもできます。

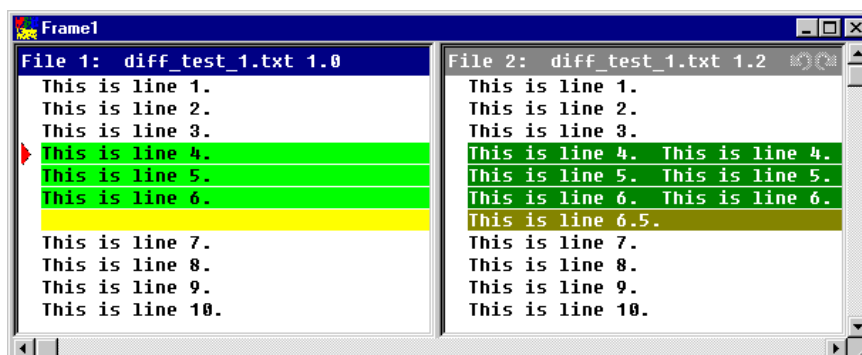
相違点の解釈


相違点の種類 ファイル 1 はベースファイルとして使用されます。ファイル 2 をファイル1と比較します。ファイル間の相違点は、追加行、削除行および変更行に分類されます。


- 「追加行」はファイル 2 で追加されたテキスト行です。これらのテキスト行は、ファイル 1 には存在しません。

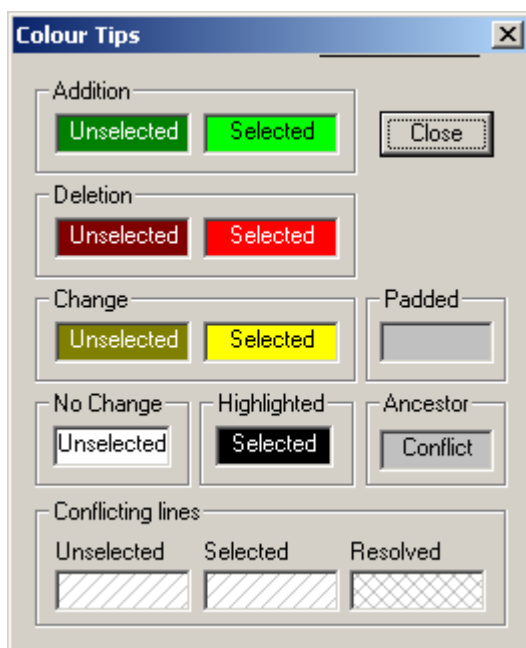
- 「削除行」はファイル 2 で削除されたテキスト行です。これらのテキスト行は、ファイル1には存在します。
- 「変更行」はどちらかのファイルで編集されているテキスト行です。

プレースホルダ プレースホルダは、ファイル間の相違点のタイプの識別に使用される色のブロックです。相違点の各タイプ（追加、削除、および変更）には、選択と非選択をそれぞれ示す2つのプレースホルダ（色）が割り当てられています。



Windows 版ユーザ Windows 版では、プレースホルダの色を変更できます。色を変更するには、Merant Merge Tool の【Configuration（詳細設定）】アイコン  をクリックして、表示されるダイアログボックスの [Colors（表示色）] タブをクリックします。

Windows 版では、色の説明を表示して、それぞれの色が何を表しているのかを見ることができます。色の説明を表示するには、Merant Merge Tool から【Color Tips（色の確認）】() をクリックします。[Color Tips（色の確認）] ダイアログボックスが表示されます。

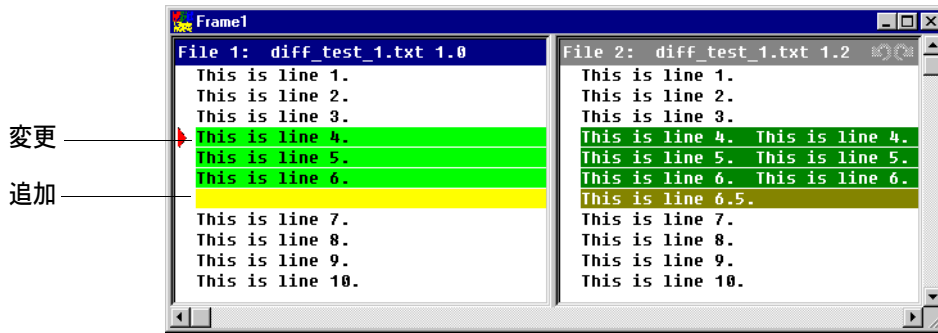


相違点の例

以下の例では、ファイル 1（ベースファイル）として選択するファイルによって 2 つのファイル間の相違点がどのように異なるかを示しています。

例1 この例では、同じバージョン管理ファイルの 2 つのリビジョンを示しています。バージョン 1.0 がファイル 1 (ベースファイル) として、バージョン 1.2 がファイル 2 として選択されています。

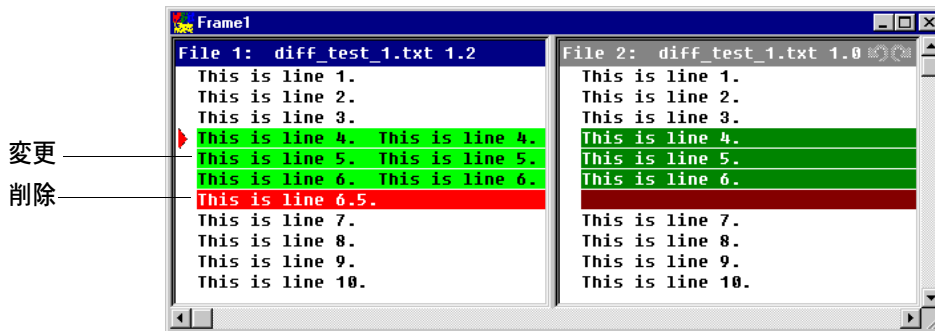
ファイル 1(バージョン 1.0) ファイル 2(バージョン 1.2)



行 4、5、および 6 が変更されており、相違点の 1 ブロックとして強調表示されています。これらの相違点は、変更プレースホルダによって識別されます。行 6.5 は、ファイル 2 に追加されており、相違点の別のブロックとして強調表示されています。これらの相違点は、追加プレースホルダによって識別されます。

例 2 上記と同じファイルを使用して、ファイルの順序を逆にすると、以下の結果が得られます。

ファイル 1(バージョン 1.2) ファイル 2(バージョン 1.0)



行 4、5、および 6 は引き続き相違点として強調表示され、変更プレースホルダによって識別されます。ただし、追加された行 6.5 は、ファイル 2 ではなくファイル 1 (ベースファイル) にあります。この相違点は、削除プレースホルダによって識別されます。

第 17 章

ファイルのマージ

マージについて	220
Windows 版でのカラムマスクの設定	222
Windows または UNIX でのファイルのマージ	222
Windows 版での相違点の解釈	226
UNIX 版での相違点の解釈	229
Windows 版でのファイル間の競合の解決	230
UNIX 版でのファイル間の競合の解決	230
シナリオ：ブランチリビジョンを比較してトランクにマージする	231

マージについて

- マージとは マージとは、共通のベースファイルを持つ 2 つ（または、それ以上）のテキストファイル、またはテキストファイルのリビジョン間の相違点を比較し、それらを受け入れたり、取り除いたりしながら、変更を新規のテキストファイルに統合していくプロセスです。
- バイナリファイルは比較したり、マージしたりはできません。
- ファイルをマージする理由 マージは並行開発の際に便利です。マージによって、開発の別ラインで行われている作業を結合し、メインラインに統合できます。
- マージの種類 Serena PVCS Version Manager では、以下のように、さまざまなマージを実行できます。以下をマージできます。
- リビジョンと作業ファイル
 - 同じバージョン管理ファイル内のリビジョン
 - 異なるバージョン管理ファイルのリビジョン
 - 作業ファイル
- Windows 版ユーザ Windows 版の Version Manager は、N 通り（無制限）のマージを実行できます。Version Manager から選択できるファイルは 3 つ（1 つのベースファイルと 2 つのブランチファイル）のみですが、Merant Merge Tool を起動すると、N 通りのマージを実行できます。N 通りのマージを実行する方法については、Merant Merge Tool オンラインヘルプを参照してください。
- UNIX ユーザ UNIX 版 Version Manager では、2 方向のマージ（ベースファイルとブランチファイルを 1 つずつ）を実行できます。多方向のマージはサポートされていません。

マージの用語と定義

次のリストは、マージに関する用語とその定義です。

用語	定義
ベースまたは元ファイル	ほかのファイルが派生したベースファイル。
ブランチまたは比較ファイル	ベースファイルを変更して得られた結果。
出力またはターゲット	最終マージファイル。
追加行	ブランチファイルに追加されたテキスト行。このテキスト行はベースファイルにはありません。
削除行	ブランチファイルから削除されたテキスト行。このテキスト行はベースファイルにあります。
変更行	ブランチファイルのひとつで修正されたテキスト行。このテキスト行の内容は、ブランチファイルとベースファイルとは異なります。
競合行 (Windows版のみ)	複数のブランチファイルで修正されたテキスト行。このテキスト行の内容は、ブランチファイルとベースファイルとは異なります。



注：UNIX 版では、「変更行」は「競合」とみなされるので、ユーザが解決する必要があります。

マージプロセス

マージは、以下のプロセスからなります。

- 出力（ターゲット）ファイルをチェックインする先のブランチまたはトランクのチップをロックする
- 参照ポイントとしてベースファイル（元ファイル）を選択する
- リビジョンブランチファイル（比較ファイル）を選択する
- 出力（ターゲット）ファイル名を入力する
- 変更を採用または不採用にして、ベースファイルとブランチファイルの競合を解決する
- 出力（ターゲット）ファイルに変更を保存する
- 出力ファイルをチェックインする

ベースファイルの選択

ベースファイルは、基準点として使用するファイルです。これは通常、ブランチが開始されるリビジョン、つまり、ブランチポイントです（通常は、開発のメイントランクから分岐）。

別々のブランチまたはバージョン管理ファイルにあるリビジョンをマージする場合は、選択するベースファイルが、マージする「すべての」リビジョンに共通の元ファイルの中で最新のリビジョンまたはファイルである必要があります。



重要： UNIX 版のみ

UNIX 上で、ブランチのリビジョンとトランクのリビジョンをマージ、もしくは比較する際には、ベースファイルを最新のトランクのリビジョンに設定し、その後に最新のブランチのリビジョンをブランチファイルとして選択する必要があります。

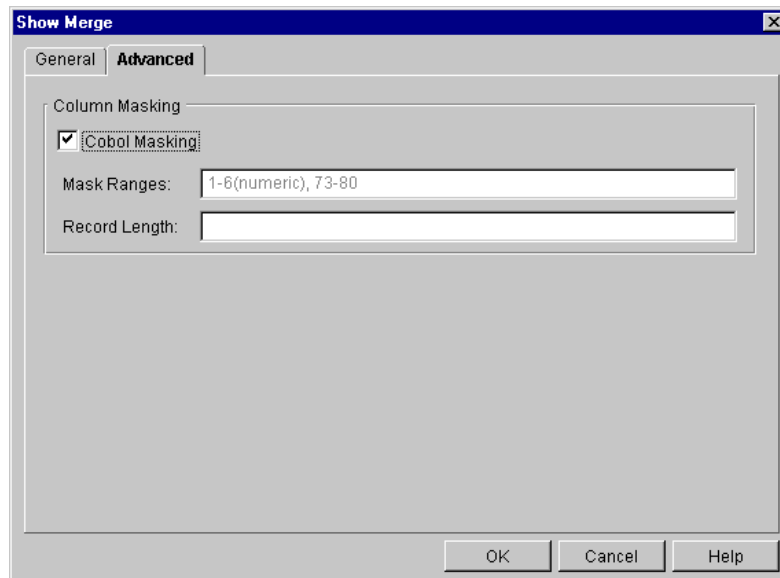
以下の例では、リビジョン 1.2.1.2 とリビジョン 1.4.1.1 とをマージする場合に、リビジョン 1.2 をベースファイルとして使用します。リビジョン 1.1 または 1.0 をベースファイルとして使用することもできますが、マージを行うファイルにもっとも近いリビジョンを選択することをお勧めします。ベースファイルの内容がマージするファイルの内容に近いほど、解決しなければならない競合も減るためです。

- ☐ ↑ 1.*
 - ☐ 1.4
 - ☐ 1.3
 - ☐ 1.2 ————— 推奨するベースファイル
 - ☐ 1.1 ————— 使用できるベースファイル
 - ☐ 1.0 ————— 使用できるベースファイル
- ☐ ↗ 1.4.1.*
 - ☐ 1.4.1.1 ——— ブランチファイル 2
 - ☐ 1.4.1.0
- ☐ ↗ 1.2.1.*
 - ☐ 1.2.1.2 ——— ブランチファイル 1
 - ☐ 1.2.1.1
 - ☐ 1.2.1.0

Windows 版でのカラムマスクの設定

カラムマスクを有効にするには

- 1 [Advanced (詳細)] タブを選択します。



注：[Show Merge (マージの表示)] ダイアログボックスの [Advanced (詳細)] タブで設定された値は、現在のマージセッションにのみ適用されます。この値は、プロジェクトコンフィグレーションファイルにも、アーカイブファイルにも保管されません。

- 2 COBOLファイル用のデフォルトCOBOLマスク定義を使用する場合は、〈Cobol Masking (Cobolマスク)〉チェックボックスを選択します。
- 3 〈Mask Ranges (マスクするカラムの範囲)〉フィールドには、デフォルト値が自動的に表示されます。デフォルトでは、カラムが数値の場合のみ、カラム 73~80 とカラム 1~6 がマスクされます。デフォルト値を使用しない場合は、ここに別の値を入力することができます。
- 4 固定長ファイルのレコード長を入力し、論理行に基づいてデルタが生成されるようにします。可変長ファイルの場合は、このフィールドに値を入力しないでください。無効または不正な結果が出力されます。

Windows または UNIX でのファイルのマージ

ファイルをマージするには

- 1 マージの結果の追加先とするブランチまたはトランクのチップをロックします。
- 2 マージするバージョン管理ファイルまたはリビジョンを選択します。

マージするファイルを選択する場合は、以下を考慮に入れてください。

- ファイルがベースファイルになるか、ブランチファイルになるかは、ファイルを選択する順序によって決まります。最初に選択したファイルがベースファイルになり、2 番目および 3 番目 (Windows 版のみ) に選択したファイルがブランチファイルになります。

- 選択したアイテム（プロジェクト、バージョン管理ファイルまたはリビジョン）によって、表示される初期オプションが異なります。

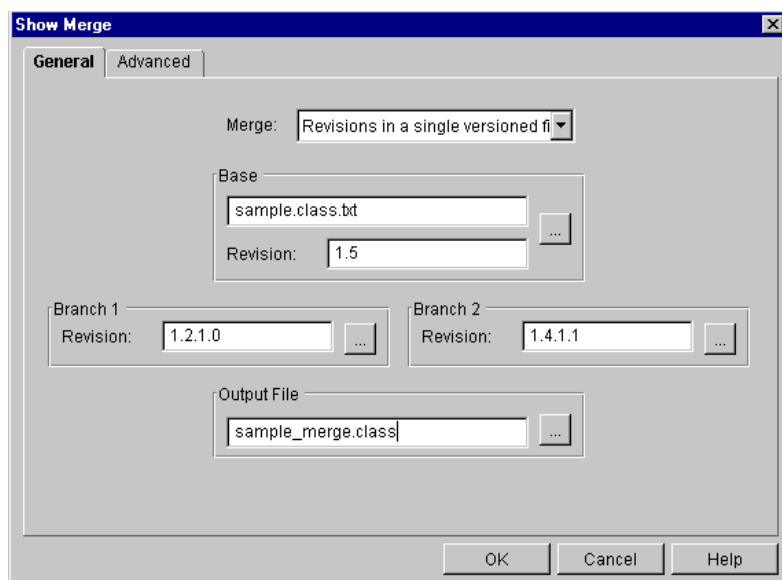


注：[Show Merge (マージを表示)] ダイアログボックスが表示されている場合、このオプションを変更できます。

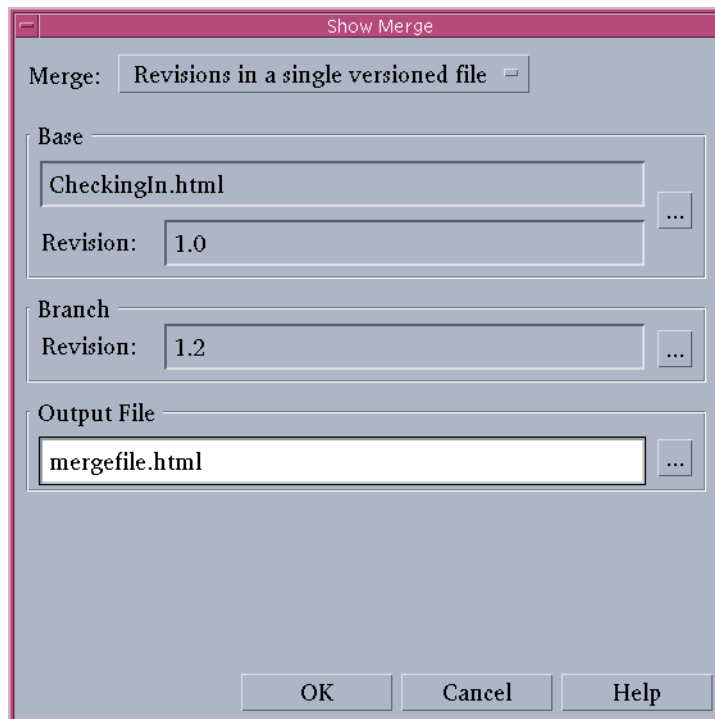
- (UNIX のみ) トランクおよびブランチリビジョンをマージするには、ベースファイルをトランクのチップリビジョンに設定し、ブランチファイルをブランチのチップリビジョンに設定する必要があります。
- 同じプロジェクトデータベース内で、それぞれ異なるプロジェクトにあるリビジョンをマージするには、そのプロジェクトデータベースを選択します。異なるプロジェクトデータベースに配置されているリビジョンはマージできません。
- (Windows 版のみ) 2 つのファイルだけをマージするには、〈Base (ベース)〉および〈Branch 1 (ブランチ1)〉の各フィールドにそれぞれ同じファイルを入力し、2 番目のファイルは〈Branch 2 (ブランチ 2)〉フィールドに入力します。

3 [Actions (アクション)] - [Show Merge (マージの表示)] を選択します。

Windows ダイアログ
ボックス



UNIX ダイアログ
ボックス



注：[Show Merge (マージの表示)] ダイアログボックスの内容は、選択したファイルおよびマージの種類によって異なります。

- 4 〈Merge (マージ)〉ドロップダウンリストで、実行するマージの種類を選択します。

マージの対象	Windows の場合に指定するアイテム	UNIX の場合に指定するアイテム
リビジョンと作業ファイル	ベースファイルとそのリビジョン番号、ブランチリビジョン番号、ブランチ作業ファイル	ベースファイルとそのリビジョン番号、ブランチ作業ファイル
同じバージョン管理ファイルのリビジョン	ベースファイルとそのリビジョン番号、2つのブランチリビジョン番号	ベースファイルとそのリビジョン番号、ブランチリビジョン番号
異なるバージョン管理ファイルのリビジョン	ベースファイルとそのリビジョン番号、2つのブランチファイルとそれらのリビジョン番号	ベースファイルとそのリビジョン番号、ブランチファイルとそのリビジョン番号
作業ファイル	1つのベース作業ファイルと2つの作業ファイル	1つのベース作業ファイルと1つのブランチ作業ファイル

- 5 〈Base (ベース)〉グループのファイルまたはリビジョンを変更する場合は、【Browse (...)] ボタンをクリックして別のファイルまたはリビジョンを選択します。



注：UNIX 版のみ

UNIX 版でトランクとブランチリビジョンをマージするには、ベースファイルをトランクのチップリビジョンに設定する必要があります。

- 6 〈Branch 1 (ブランチ1)〉 (Windows 版) または 〈Branch (ブランチ)〉 (UNIX 版) グループボックスのファイルまたはリビジョンを変更する場合は、【Browse (...)] ボタンをクリックして別のファイルまたはリビジョンを選択します。



注：UNIX 版のみ

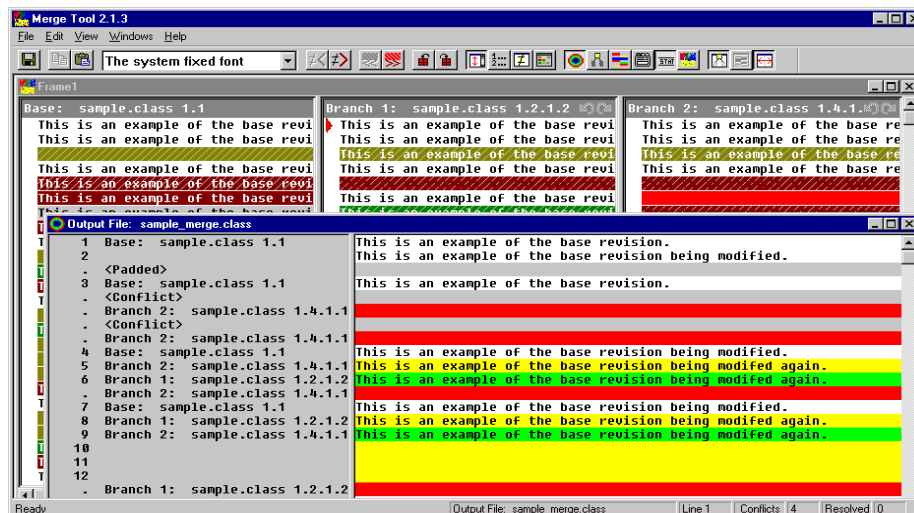
UNIX 版でトランクとブランチリビジョンをマージするには、ベースファイルをトランクのトップリビジョンに設定する必要があります。

- 7 (Windows のみ) 〈Branch 2 (ブランチ 2)〉 グループのリビジョン (または、作業ファイルをマージする場合はファイル) を変更するには、【Browse (...)] ボタンをクリックします。
- 8 〈Output File (出力ファイル)〉 テキストボックスに、出力 (ターゲット) ファイルの名前を入力するか、【Browse (...)] をクリックして既存の作業ファイルを選択します。

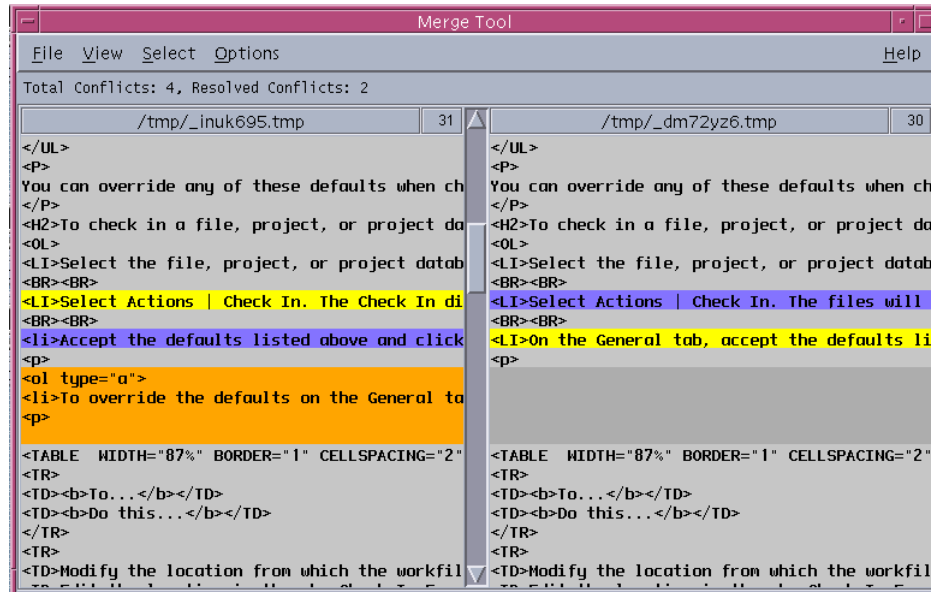


注：出力ファイル名をパスなしで入力した場合は、出力ファイルは Version Manager インストールディレクトリの BIN ディレクトリに作成されます。選択した場所にすでに同じファイル名が存在する場合は、古いファイルは上書きされます。

- 9 【OK】 をクリックします。Windows 版では、ベースファイルとブランチファイルが [Frames (フレーム)] ウィンドウに表示され、マージ結果が [Output File (出力ファイル)] ウィンドウに表示されます。



UNIX では、ベースファイルとブランチファイルが [Merge Tool] ウィンドウに表示されます。



- 10 ベースファイルとブランチファイル間の競合を解決します。競合の解決方法については、次のいずれかを参照してください。
 - 230 ページの『Windows 版でのファイル間の競合の解決』
 - 230 ページの『UNIX 版でのファイル間の競合の解決』
- 11 マージの結果を出力ファイルに保存するには、以下のうち 1 つを実行します。
 - Windows では、[File (ファイル)] - [Save Target (ターゲットの保存)] を選択します。
 - UNIX では、[File (ファイル)] - [Save As (別名保存)] を選択して【OK】をクリックします。



注：出力パスまたはファイル名を再入力する必要はありません。

- 12 出力ファイルを開き、確認します。マージの結果が適切な場合は、手順1で選択したブランチまたはトランクのチップに出力ファイルをチェックインします。

Windows 版での相違点の解釈

相違点の種類

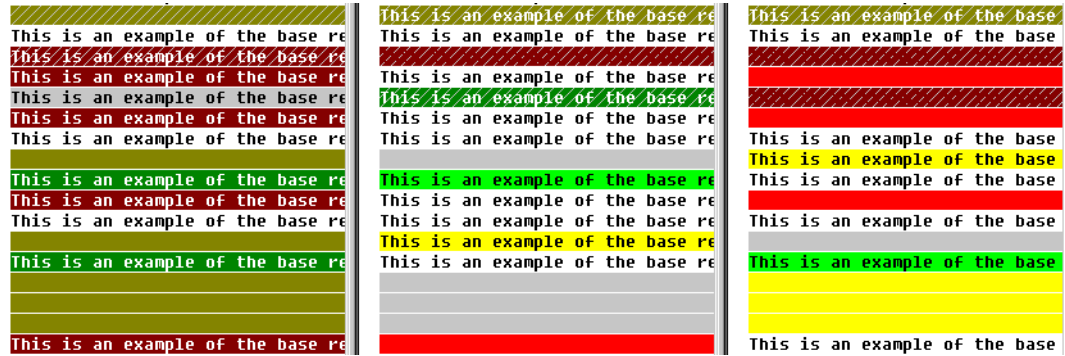
ベースファイルとして選択したファイルは、出力ファイルの土台として使用されます。ブランチ1とブランチ2はベースファイルと照らし合わせて比較されます。ベースファイルとブランチファイルとの間の相違点は、追加行、削除行、変更行のいずれかに分類されます。

- 追加行はブランチファイルに追加されたテキスト行です。このテキスト行はベースファイルにはありません。
- 削除行はブランチファイルから削除されたテキスト行です。このテキスト行はベースファイルにあります。
- 変更行はブランチファイルのひとつで修正されたテキスト行です。このテキスト行の内容は、ブランチファイルとベースファイルとは異なります。


- 競合行は複数のブランチファイルで修正されたテキスト行です。このテキスト行の内容は、ブランチファイルとベースファイルとは異なります。

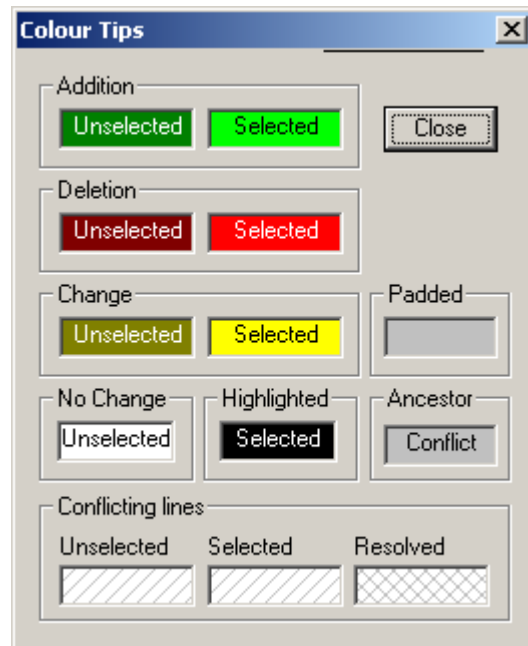
プレースホルダ

プレースホルダは、ファイル間の相違点のタイプの識別に使用される色のブロックです。相違点の各タイプ（追加、削除、および変更）には、選択と非選択をそれぞれ示す 2 つのプレースホルダ（色）が割り当てられています。




色の説明を表示

色の説明を表示して、それぞれの色が何を表しているのかを示すこともできます。色の説明を表示するには、Merant Merge Tool から【Color Tips（色の確認）】() をクリックします。【Color Tips（色の確認）】ダイアログボックスが表示されます。

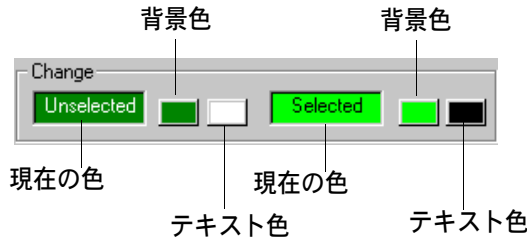


プレースホルダの色の変更

プレースホルダの色を変更するには、次の操作を行います。

- 1 【Configuration（詳細設定）】アイコン  をクリックします。
- 2 【Colors（表示色）】タブを選択します。

- 3 変更する背景色またはテキスト色のボックスをクリックします。

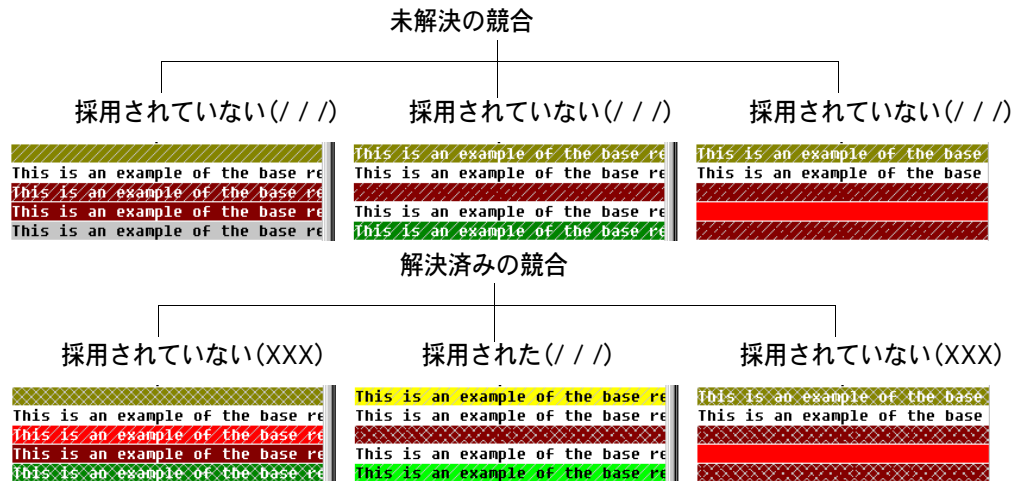


- 4 色のパレットから新しい色を選択して【OK】をクリックします。

競合

複数のブランチファイルの行の内容がベースファイルの行の内容と異なる場合に競合が起こります。

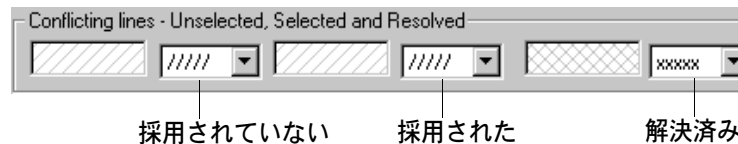
デフォルトでは、競合が起こったテキスト行には右斜線 (//) でシェードがつけられます。競合を解決すると、採用されたテキスト行にはこれらのシェードは残りますが、採用されなかったブロックのシェードは、右斜線から網目 (XXX) に変わります。



競合のシェードの変更

競合のシェードを変更するには、次の操作を行います。

- 1 【Configuration (詳細設定)】アイコン をクリックします。
- 2 [Colors (表示色)] タブを選択します。
- 3 <Conflicting lines - Unselected, Selected and Resolved (競合行 - 採用されていない/採用された/解決済み)> ドロップダウンリストから、シェードパターンを選択します。



UNIX 版での相違点の解釈

相違点の種類 ベースファイルとして選択したファイルは、出力ファイルの土台として使用されます。ブランチファイルはベースファイルと照らし合わせて比較されます。ベースファイルとブランチファイルとの間の相違点は、追加行、削除行、変更行のいずれかに分類されます。

- 追加行はブランチファイルに追加されたテキスト行です。このテキスト行はベースファイルにはありません。
- 削除行はブランチファイルから削除されたテキスト行です。このテキスト行はベースファイルにあります。
- 変更行はブランチファイルで修正されたテキスト行です。このテキスト行の内容は、ブランチファイルとベースファイルとは異なります。



注：UNIX 版では、「変更行」は「競合」とみなされるので、ユーザが解決する必要があります。

プレースホルダ

プレースホルダは、ファイル間の相違点のタイプの識別に使用される色のブロックです。相違点の各タイプ（追加、削除、および変更）には、選択と非選択をそれぞれ示す 2 つのプレースホルダ（色）が割り当てられています。

<pre>

 Select Actions Check In. The Check In di

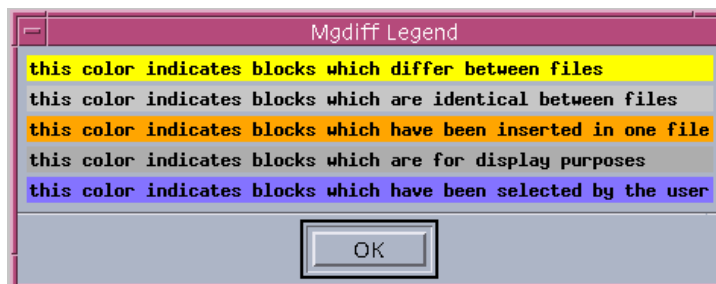
 Accept the defaults listed above and click <p> <ol type="a"> To override the defaults on the General ta <p> <TABLE WIDTH="87%" BORDER="1" CELSPACING="2"></pre>	<pre>

 Select Actions Check In. The files will

 On the General tab, accept the defaults li <p> <TABLE WIDTH="87%" BORDER="1" CELSPACING="2"></pre>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

色の説明を表示

色の説明を表示して、それぞれの色が何を表しているのかを示すこともできます。色の説明を表示するには、Merant Merge Tool から [Help (ヘルプ)] - [Color Legend (色の説明)] を選択します。



プレースホルダの色の変更

プレースホルダの色を変更するには、テキストエディタで Mgdiff Legend ファイルを編集します。このファイルは、Version Manager のインストール時に、/bin/app-defaults ディレクトリに置かれます。


Windows 版でのファイル間の競合の解決

デフォルトでは、Serena Merge Tool はすべての追加行、削除行、および変更行を自動的に出力（ターゲット）ファイルに挿入しますが、競合箇所は挿入しません。リビジョンのマージを正常に終了するには、すべての競合を解決する必要があります。

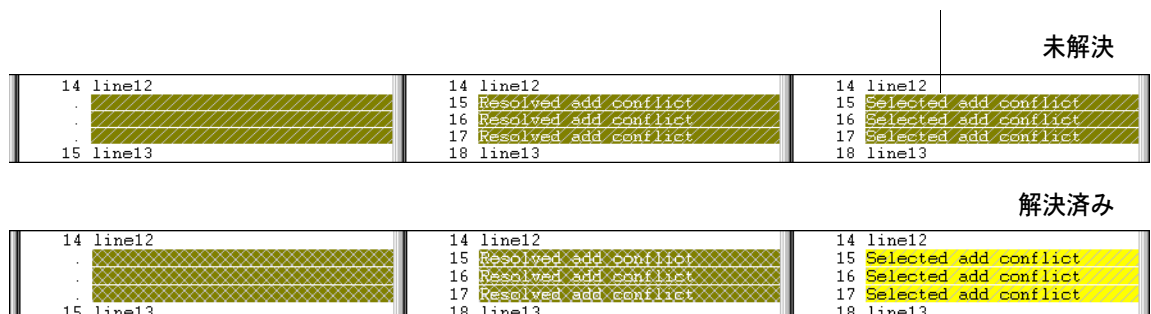
Windows 版では、ベースファイルと複数のブランチファイルとの間でテキスト行が異なっている場合に競合が起こります。どのブロックを採用するかは、Merant Merge Tool では判別できないので、どのテキストブロックを出力ファイルに入れるかをユーザが選択して、競合を解決する必要があります。

注：競合を解決するには、ベースファイルとブランチファイルの相違点を区別しておく必要があります。ベースファイルとブランチファイルとの間の追加行、削除行および変更行を区別する方法については、226 ページの『Windows 版での相違点の解釈』を参照してください。

ベースファイルとブランチファイルとの間の競合を解決するには、次の操作を行います。

- 1 Merant Merge Tool の [Frames (フレーム)] ウィンドウで、【Next Conflict (次の競合)】 () をクリックして競合のある次のブロックに進みます。
- 2 出力（ターゲット）ファイルに表示するテキストの部分部分を右クリックすることによって、競合を解決します。選択した競合行は色が変わり、不採用となったブロックのシェードが解決済みを示すシェードに変わります。

競合ブロックを右クリックで選択する



- 3 競合がすべて解決するまで、手順 1~2 を繰り返します。
- 4 出力（ターゲット）ファイルの内容をチェックします。適切な内容が出力ファイルにマージされているかどうか確認します。
- 5 [File (ファイル)] - [Save Target (ターゲットの保存)] を選択して出力（ターゲット）ファイルを保存します。

UNIX 版でのファイル間の競合の解決

デフォルトでは、Merant Merge Tool はすべての追加行および削除行を自動的に出力（ターゲット）ファイルに挿入しますが、変更行は挿入しません。リビジョンのマージを正常に終了するには、すべての競合（変更行）を解決する必要があります。

UNIX 版では、ブランチファイルでテキスト行が修正された結果、この行の内容がブランチファイルとベースファイルとで異なることになり、競合が起こります。どのブロックを採用するかは、Merant Merge Tool では判別できないので、どのテキストブロックを出力ファイルに入れるかをユーザが選択して、競合を解決する必要があります。



注：

- UNIX 版では、「変更行」は「競合」とみなされるので、ユーザが解決する必要があります。
- 競合を解決するには、ベースファイルとブランチファイルの相違点を区別しておく必要があります。ベースファイルとブランチファイルとの間の追加工、削除行および変更行を区別する方法については、229 ページの『UNIX 版での相違点の解釈』を参照してください。

ベースファイルとブランチファイルとの間の競合を解決するには、次の操作を行います。

- 1 [Merge Tool] ウィンドウで、競合する行をスクロールして表示します。
- 2 出力（ターゲット）ファイルに表示するテキストブロックを採用して、競合を解決します。採用した競合行は色が変わります。

<pre>

 Select Actions Check In. The Check In di

 Accept the defaults listed above and click <p> <ol type="a"> To override the defaults on the General ta <p> <TABLE WIDTH="87%" BORDER="1" CELLSPACING="2"</pre>	<pre>

 Select Actions Check In. The files will

 On the General tab, accept the defaults li <p> <TABLE WIDTH="87%" BORDER="1" CELLSPACING="2"</pre>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- 3 競合がすべて解決するまで、手順 1~2 を繰り返します。
- 4 [File (ファイル)] - [Save As (別名保存)] を選択し、【OK】をクリックして出力ファイルに競合の結果を保存します。出力パスまたはファイル名を入力し直す必要はありません。

シナリオ：ブランチリビジョンを比較してトランクにマージする



小川さんは chessbord ファイルのバグ修正を終え、Chess アプリケーションのメイン開発トランクに変更をマージする準備を整えました。各 chessbord ファイルには新規リビジョンが存在することがわかりました（リビジョン1.7）。彼女がブランチリビジョンで作業をしている間に、別の開発者がファイルを編集したようです。小川さんは、トランクとブランチのチップリビジョンを1つのファイルにマージして、マージしたファイルを最新のリビジョン 1.8 としてトランクに戻すつもりです。

小川さんは Board サブプロジェクトを選択し、[Lock (ロック)] コマンドを選択しました。サブプロジェクトのロックにより、小川さんがブランチ開発での変更をマージしている間に、ほかの開発者による Board ファイルの変更を防ぎます。チェスボードの最初のファイル、board.jpr を選択し、[Show Merge (マージの表示)] コマンドを選びました。そして、以下のオプションを選択しました。

- 〈Merge (マージ)〉ドロップダウンリストで、〈Revisions in a single versioned file (同じバージョン管理ファイルのリビジョン)〉オプションを選択しました。これは、1つのファイル、board.jpr の異なるリビジョン (1.7 と 1.6.1.5) をマージすることを示します。

- 〈Base (ベース)〉グループボックスで、小川さんは【Browse (...)】をクリックして2つのリビジョンの共通のソースに相当するリビジョンを選択しました。ここでは、ベースリビジョンは、小川さんが開発を開始した、リビジョン1.6です。

Version Manager では、このリビジョンをマージプロセスの参照または比較ポイントとして使用します。たとえば、Version Manager は、トランクのチップリビジョンであるリビジョン 1.7 とリビジョン 1.6 を 1 行ずつ比較することによって、追加行、削除行、および変更行を識別します。その後、このプロセスをブランチのチップリビジョン、1.6.1.5 に対しても繰り返します。

- 〈Branch 1 (ブランチ1)〉グループボックスで、【Browse (...)】をクリックしてブランチのチップリビジョン 1.6.1.5 を選択しました。このリビジョンは、小川さんが新しいファイルにマージする1番目のファイルとなります。
- 〈Branch 2 (ブランチ 2)〉グループボックスで、【Browse (...)】をクリックしてトランクのチップリビジョン、1.7 を選択しました。このリビジョンは、小川さんが新しいファイルにマージする 2 番目のファイルとなります。
- Output File (出力ファイル) フィールドに、出力ファイル (ターゲットファイル) として board_merge.exe と入力しました。これは、小川さんが最終的にリビジョン 1.8 としてチェックインするマージファイルとなります。マージした実行ファイルを Version Manager にチェックインする前にテストするため、元のファイルとは別の名前を付けます。ファイルをチェックインする準備が整ったら、名前を board.jpr に変更して Version Manager にチェックインします。

Merant Merge Tool では、ベースファイルとブランチファイルは [Frames (フレーム)] ウィンドウに表示されます。デフォルトでは、Merant Merge Tool は、競合するものを除くすべての追加、削除および変更を自動的にベースファイルにマージし、マージした結果のバージョンを [Output File (出力ファイル)] ウィンドウに表示します。小川さんは、マージした変更を確認し、出力ファイルに保存する前に競合を解決する必要があります。

Version Manager は、トランクとブランチのチップリビジョンの相違点を識別するために、まず、リビジョン 1.6.1.5 をベースと比較します。結果は、[Frames (フレーム)] ウィンドウの〈File 1 (ファイル 1)〉セクションに、追加、削除、変更が色分けされて表示されます。このプロセスがリビジョン1.7に対して繰り返され、[Frames (フレーム)] ウィンドウの〈File 2 (ファイル 2)〉セクションに結果が表示されます。競合していない情報は自動的にターゲットファイルに統合されます。同じ行が両方のファイルで変更されていた場合、その行が競合として色分けされます。小川さんは、マージのプロセスを先に進める前にこれらの競合を解決する必要があります。

競合を解決する前に、小川さんは、ターゲットファイルに自動的に統合された変更について確認することになりました。次に、[View (表示)] - [Show Only Differences (相違点のみを表示)] を選択し、【Next Difference (次の相違行)】および【Previous Difference (前の相違行)】を使用して変更を確認しました。

マージでは、変更を自動的にターゲットファイルに統合したため、変更ブロックはブランチファイルで採用された状態で表示されます。ここでは、小川さんは出力ファイルに表示された変更に異存はなかったため、何も編集しませんでした。もし自動的に統合された内容に異存がある場合は、ブランチファイルで変更されたブロックを選択し、出力ファイルから削除します。これにより、変更ブロックのブランチファイルでの選択が解除され、ターゲットファイルには表示されなくなります。代わりに、ベースファイルの元のラインが選択され、ターゲットファイルに表示されます。

ここで小川さんは、ファイル間の競合を解決して、適切なバージョンを出力ファイルに統合する必要があります。そのためには、[Frames (フレーム)] ウィンドウのファイルの上にある【Next Conflict (次の競合)】ボタンをクリックします。[Frames (フレーム)] ウィンドウがスクロールして最初の競合に移動します。その競合ブロックをダブルクリックすると、[Global Comparison (グローバル比較)] ウィンドウが表示されます。

小川さんは 2 つのバージョンのコード行を比較して、ターゲットファイルに統合する方のバージョンを右クリックしました。採用された競合行は色が変わり、選択されたことを示します。採用されな

かった競合行はシェードパターンが変わり、ほかの競合行が採用されて解決したことを示します。小川さんはこのプロセスを残りの競合行についても繰り返しました。

すべての競合を解決した後、小川さんは、リビジョン 1.8 の候補であるターゲットファイルを保存しました。そして、コードをテストして正常に実行できることを確認しました。ファイル名を board.jpr という元の名前に変更し、その新しいファイルを board.jpr のリビジョン 1.8 としてチェックインしました。ファイルをチェックインした後、リビジョンから Chessboard Bug Fix というバージョンラベルを削除しました。

小川さんは Board サブプロジェクトの各ファイルについてこのマージ作業を繰り返しました。最後のマージファイルをチェックインした後、プロジェクトのロックを解除し、彼女が変更したリビジョンをほかの開発者が使用できるようにしました。

第 18 章

リビジョンのプロモート

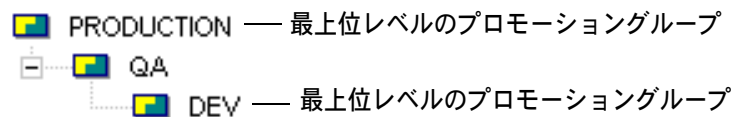
プロモーショングループについて	236
プロモーションのプロセス	237
リビジョンへのプロモーショングループの割り当て	239
リビジョンの次のプロモーショングループへのプロモート	240
プロモーショングループの変更	241
プロモーショングループの削除	242
シナリオ：一連のファイルをプロモートする	243
シナリオ：追加作業のため、リビジョンを Development にデモートする	244

プロモーショングループについて

使用前の準備 プロモーショングループを使って作業をするには、プロジェクトデータベースにプロモーションモデルが設定されている必要があります。「プロモーションモデル」とは、開発サイクルの節目の階層です。節目は、プロモーショングループで表されます。プロモーションモデルの設定方法については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』の『プロモーションモデルの使用』を参照してください。

プロモーショングループとは プロモーショングループは、プロモーションモデル階層内の節目です。プロジェクトデータベースにプロモーションモデルが作成されている場合は、リビジョンが最下位レベルのプロモーショングループに割り当てられます。開発が進んで一定の節目に達すると、権限のあるユーザはリビジョンをプロモーションモデル階層内でプロモートできます。開発は、リビジョンがプロモーションモデル階層の最上位レベルのプロモーショングループに達した時点で終了となります。

この図は、プロモーションモデルの典型的な例です。



プロモーショングループを使用する理由 プロモーショングループは、リビジョンが開発プロセスのさまざまな段階を経ていく過程を追跡するために使用されます。編集することができる唯一のリビジョンであるロックされたリビジョンは、必ず最下位レベルのプロモーショングループに割り当てられ、ソフトウェアの変更が規制されます。また、プロモーショングループを使用すると、プロモーションモデルをさまざまなセキュリティオプションと統合することによって、ソースコードへのアクセスを制御できます。

ソフトウェアを段階的に開発する正式な手順が決まっており、プロジェクトチームのメンバーがそれぞれ明確な個別の役割を持っている場合は、プロモーショングループを使用すると便利です。

論理的な関連付けと物理的な関連付け リビジョンをプロモーショングループに割り当てる場合は、その関連性は物理的なものというより、論理的なものであると考えてください。メインフレームの環境とは異なり、Version Manager では、開発の個々の段階のファイルを物理的に独立した場所に保存する必要はありません。

プロモート権限 通常、プロジェクトリーダーと管理者のみがリビジョンをプロモートする権限を持っています。リビジョンをプロモートするには、管理者によって割り当てられたプロモート権限が必要です。

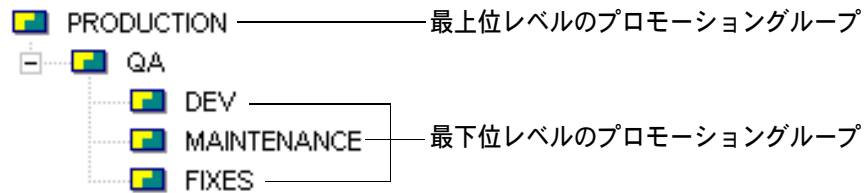
プロモーショングループに割り当てられたリビジョンのチェックアウト

プロモーショングループについて覚えておかななくてはならない重要な規則は、開発作業のために確保されている、最下位レベルのプロモーショングループのリビジョンのみがチェックアウトできるということです。リビジョンがどのプロモーションレベルに達していようと、リビジョンをチェックアウトしてロックする場合は、リビジョンを最下位レベルのプロモーショングループに割り当てる必要があります。

ワークスペース設定を使用して、デフォルトプロモーショングループを定義することができます。アクティブなワークスペースにデフォルトプロモーショングループが定義されていない場合、Version Manager は以下の処理を行います。

- プロモーションモデルに複数のプロモーショングループが定義されている場合は、最下位のプロモーショングループから 1 つを選択する画面が表示されます。

- プロモーションモデル内で最下位レベルのプロモーショングループが 1 つだけ定義されている場合は、それを使用します。

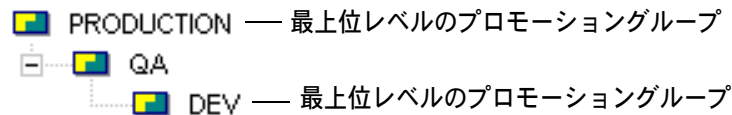


プロモーションモデルに関する詳細な規則については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』の『プロモーショングループの使用』の章を参照してください。

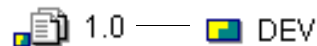
プロモーションのプロセス

以下は、プロモーションのプロセスの例です。

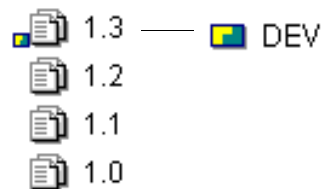
- 1 プロジェクトデータベースのプロモーションモデルが管理者によって作成されます。



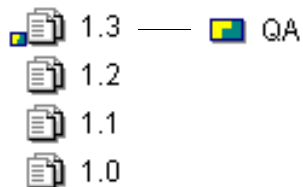
- 2 管理者は、プロジェクト全体に DEV プロモーショングループを割り当てます。以下は、プロジェクト内のファイルのリビジョン 1.0 です。



- 3 開発者がアーカイブからリビジョンをチェックアウトしてチェックインするたびに、複数のリビジョンが作成されます。DEV プロモーショングループは、つねにチップリビジョンに移行します。



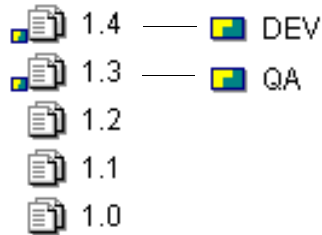
- 4 ファイルがテストできる段階になると、プロジェクトリーダーまたは管理者は、リビジョンを次のプロモーショングループである QA にプロモートします。



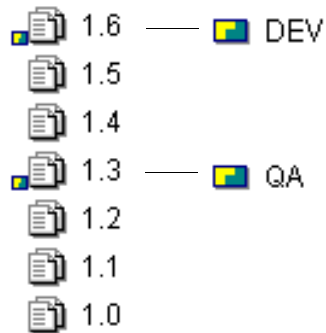
- 5 開発者たちは引き続きこれらのファイルを使って作業をするため、チప్పリビジョンがチェックアウトされ、ロックされます。最下位レベルのプロモーショングループのリビジョンのみがチェックアウト可能であるため、リビジョン 1.3 は現在 QAとDEV の両方に割り当てられています。



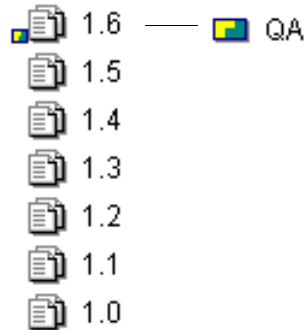
- 6 開発者は変更を完了するとリビジョンをチェックインします。QA プロモーショングループはリビジョン 1.3 にとどまりますが、DEV プロモーショングループは、チప్పリビジョンであるリビジョン 1.4 に移行します。



- 7 開発者が変更を次々とチェックインすると、DEV プロモーショングループはチప్పリビジョンにとどまり、QA プロモーショングループは、リビジョン 1.3 にとどまります。

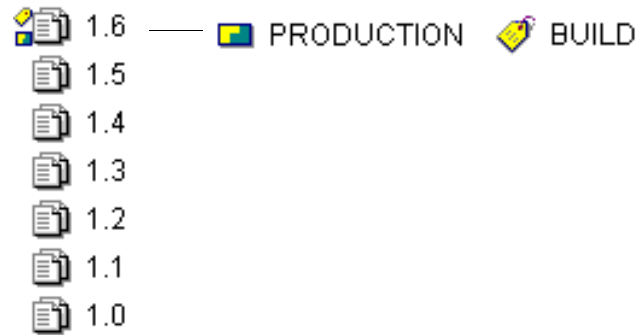


- 8 ファイルは、再度テストされるときに、DEV プロモーショングループから QA プロモーショングループにプロモートされます。しかし、プロモーショングループは、同じバージョン管理ファイルでは 1 つのリビジョンのみに割り当てられるため、QA プロモーショングループはリビジョン 1.3 から削除され、リビジョン 1.6 に割り当てられます。



- 9 QA が完了し、製品用に使用することが決定したため、リビジョンは次のプロモーショングループである PRODUCTION にプロモートされます。

このリビジョンが製品用であることがわかるよう、管理者は PRODUCTION プロモーショングループの割り当てられたリビジョンに固定のバージョンラベル (BUILD など) を割り当てます。

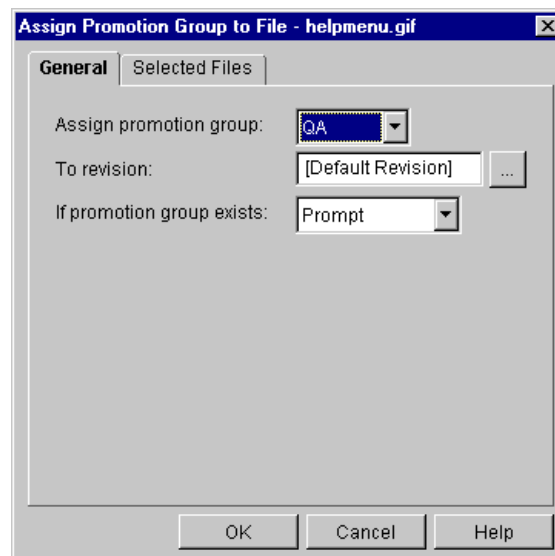


リビジョンへのプロモーショングループの割り当て

リビジョンにプロモーショングループを割り当てるには、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、またはプロジェクトデータベースを選択します。

プロモーショングループを割り当てるには

- 1 プロモートするアイテムを選択します。
- 2 [Action (アクション)] - [Promotion Group (プロモーショングループ)] - [Assign (割り当て)] を選択します。[Assign Promotion Group (プロモーショングループの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Assign promotion group (プロモーショングループ)> リストボックスで、割り当てるプロモーショングループを選択します。
- 4 デフォルトリビジョン以外のリビジョンにプロモーショングループを割り当てるには、<To revision (割り当てるリビジョン)> テキストボックスにリビジョン番号、バージョンラベル、プロモーショングループのいずれかを入力するか、【Browse (...)] をクリックしてリビジョンを選択します。

プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、166 ページの『デフォルトバージョンの定義』を参照してください。

- 5 <If promotion group exists (プロモーショングループが存在する場合)> ドロップダウンリストで、割り当てるプロモーショングループがリビジョンにすでに割り当てられている場合に行う処理を選択します。<Prompt (確認する)> (デフォルト値) を選択すると、プロモーショングループが存在する場合、実行する処理を尋ねるメッセージが表示されます。

その他のオプションには、プロモーショングループが存在するときにプロモーショングループを再度割り当てる <Reassign (再度割り当てる)> や、選択したリビジョンにはプロモーショングループを割り当てない <Don't reassign (再度割り当てない)> があります。

- 6 (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあるバージョン管理ファイルにプロモーショングループを割り当てるには、<Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)> チェックボックスを選択します。
- 7 【OK】をクリックします。

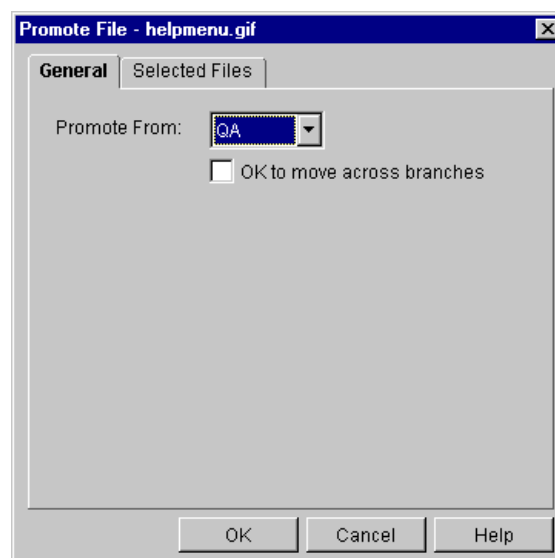
リビジョンの次のプロモーショングループへのプロモート

リビジョンを 1 つのプロモーショングループから次のプロモーショングループにプロモートするには、<Promote (プロモート)> オプションを使用します。こうすることで、プロジェクトデータベースに割り当てられたプロモーションモデル階層が有効に機能します。

リビジョンを上位プロモーショングループにプロモートするには、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、またはプロジェクトデータベースのいずれかを選択します。

リビジョンを次のプロモーショングループにプロモートするには

- 1 プロモートするアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] - [Promotion Group (プロモーショングループ)] - [Promote (プロモート)] を選択します。[Promote (プロモート)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 <Promote From (プロモートするグループ)> リストボックスからプロモートするプロモーショングループを選択します。

- 4 プロモーショングループを異なるブランチに再度割り当てることを可能にするには、〈OK to move across branches (異なるブランチへのプロモートを許可)〉チェックボックスを選択します。このオプションを選択しない場合は、そのプロモーショングループの次の階層にすでに別のブランチのリビジョンが割り当てられていると、プロモーションが失敗します。
- 5 (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあるリビジョンをプロモートするには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- 6 【OK】をクリックします。

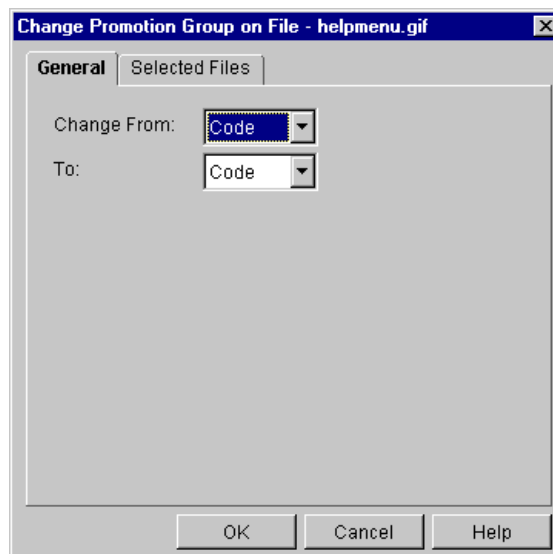
プロモーショングループの変更

リビジョンに割り当てたプロモーショングループが不適切であったり、またはプロモーショングループを同じプロモーションレベル内のほかのプロモーショングループに再度割り当てる場合は、プロモーショングループを変更することができます。プロジェクトデータベースに割り当てられたプロモーションモデルの階層構造を強制的に適用できなくなるため、〈Change (変更)〉オプションを使用してリビジョンをプロモートしないでください。

リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、またはプロジェクトデータベースを選択し、プロモーショングループを変更することができます。

プロモーショングループを変更するには

- 1 変更するプロモーショングループを含むアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] - [Promotion Group (プロモーショングループ)] - [Change (変更)] を選択します。[Change Promotion Group (プロモーショングループの変更)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Change From (現在のグループ)〉 リストボックスから変更元のプロモーショングループを選択します。
- 4 〈To (新しいグループ)〉 ドロップダウンリストから変更先のプロモーショングループを選択します。

- 5 (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあるリビジョンに割り当てられたプロモーショングループを変更するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- 6 【OK】をクリックします。

プロモーショングループの削除

プロモーショングループは、不必要になった時点でリビジョンとの関連付けを削除します。この場合、プロモーションモデルからそのグループが実際に削除されるのではなく、リビジョンとの関連付けが削除されるだけです。

注：リビジョンからプロモーショングループを削除しても、プロモーションモデルがプロモーションデータベースで有効であれば、リビジョンをチェックアウトするたびに、最下位レベルのプロモーショングループが関連付けられます。

プロモーショングループを削除するには、リビジョン、1つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、またはプロジェクトデータベースのいずれかを選択します。

リビジョンからプロモーショングループを削除するには

- 1 削除するプロモーショングループに関連付けられているアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] - [Promotion Group (プロモーショングループ)] - [Remove (削除)] を選択します。[Remove Promotion Group (プロモーショングループの削除)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 〈Promotion Group (プロモーショングループ)〉リストボックスで、リビジョンから削除するプロモーショングループを選択します。
- 4 (プロジェクトおよびプロジェクトデータベースの場合のみ) サブプロジェクトにあるリビジョンに割り当てられたプロモーショングループを削除するには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- 5 【OK】をクリックします。

シナリオ：一連のファイルをプロモートする



品質管理 (QA) チームが Bridge ファイルを検証する段階に入りました。検証を開始する前に、ファイルを QA_Test にプロモートする必要があります。それには、以下の 2 つの理由があります。

- 1 ファイルの開発段階を正確に反映するため。
- 2 品質管理 (QA) チームがファイルを検証できるようにするため。管理者は Development プロモーショングループと QA_Test プロモーショングループにアクセス権を関連付けています。QA のエンジニアは、Development プロモーションレベルに割り当てられているファイル进行操作できず、開発のエンジニアは QA_Test プロモーションレベルに割り当てられているファイル进行操作できません。

QA プロジェクトリーダーの剣持さんは、表示のフィルタを実行し Field Test というバージョンラベルに関連付けられているファイルのみを表示することにしました。ツールバーのファイルフィルタから〈Version Label (バージョンラベル)〉オプションを選択し、Field Test バージョンラベルを選択しました。〈Select All (すべて選択)〉オプションを選択してファイル表示部のすべてのバージョン管理ファイルを選び、〈Promotion Group (プロモーショングループ)〉オプションから〈Promote (プロモート)〉オプションを選択しました。〈Promote From (プロモートするグループ)〉リストボックスから Development を選択して【OK】をクリックしました。Bridge ファイルは、Development プロモーショングループから QA_Test プロモーショングループにプロモートされました。

これで、品質管理 (QA) チームのエンジニアたちは検証を開始できます。開発のエンジニアたちは、QA_Test プロモーションレベルのファイルにはもうアクセスできません。しかし、一般のリリースバージョンで作業ができ、Development プロモーショングループに関連付けられたリビジョンをチェックアウトおよびチェックインできます。たとえば、開発者が Bridge アーカイブに新たに 2 つのリビジョンをチェックインすると、以下のようになります。

- Rev 1.7 Development
- Rev 1.6
- Rev 1.5 QA_Test
- Rev 1.4
- Rev 1.3
- Rev 1.2
- Rev 1.1
- Rev 1.0

QA チームメンバーは、リビジョンのチェックアウトおよびチェックインを行う際に、QA_Test プロモーショングループを参照するため、開発者が加えた新規リビジョンを意識する必要はありません。その後、QA チームはフィールドテストリリースに満足すると、QA_Test プロモーショングループにプロモートしたときと同じ方法で、リビジョンを Release プロモーショングループにプロモートします。リリース担当マネージャは、Field Test Bridge 2/25/99 という名前のバージョンラベルを、Release プロモーショングループに基づいて割り当てることにより、リリースファイルに関連付けました。このラベルは、Bridge アプリケーションのフィールドテストバージョンをビルドするために使用されたリビジョンを表します。

これでリリース担当マネージャは、Release プロモーショングループを基に、アプリケーションをビルドするコンフィギュレーションスクリプトを実行できます。この時点から、チームは、新規リビジョンを作成してそれを Release プロモーショングループに関連付けても、固定のバージョンラベルを使用して Field Test リリースを再ビルドできます。

以下に示すように、プロモーショングループはリビジョンと一時的に関連付けられますが、バージョンラベルはリビジョンと永久に（意図的に削除しないかぎり）関連付けられます。

- Rev 1.9 Release (プロモーショングループ)
- Rev 1.8
- Rev 1.7
- Rev 1.6
- Rev 1.5 Field Test Bridge 02/25/99 (バージョンラベル)
- Rev 1.4
- Rev 1.3
- Rev 1.2
- Rev 1.1
- Rev 1.0

シナリオ：追加作業のため、リビジョンを Development にデモートする



Bridge プロジェクトの開発者の一人である小林さんは、現在は Field Test ソフトウェアの製品ビルドに関連している 2 つのファイルに 2 つのマイナーエラーがあるのに気がきました。修正を行うには、ファイルをもう一度 Development プロモーショングループに割り当て直す必要があります。ファイルが Release プロモーショングループと関連付けられているかぎり、開発チームのメンバーはアクセスできません。

小林さんは 2 つのファイルを選択し、〈Promotion Group (プロモーショングループ)〉から〈Assign (割り当て)〉オプションを選択しました。〈Assign promotion group (プロモーショングループ割り当て)〉リストボックスから Development を選択して【OK】をクリックしました。これで、ファイルをチェックアウトして編集できます。

小林さんは変更を終えると、ファイルをチェックインし、Production プロモーショングループと関連付けました。プロジェクトマネージャは Production プロモーショングループに基づいたアプリケーションを再ビルドできます。新規ビルドには修正した 2 つのバージョン管理ファイルが取り込まれます。

第 19 章

レポートの使用

レポートについて	246
レポートオプションの設定	246
HTML レポート書式のカスタマイズ	248
ジャーナルレポートについて	249
ジャーナルレポートの生成	249
履歴レポートについて	252
履歴レポートの生成	254

レポートについて

レポートの種類 この章では、レポートオプションの設定方法、HTML レポート書式の変更方法、およびデスクトップクライアントを使ったレポートの生成方法について説明します。Serena PVCS Version Manager では、以下のレポートを生成できます。

レポート	内容
ジャーナルレポート	アーカイブを編集するアクションについての情報
履歴レポート (以前のバージョンの「アーカイブレポート」)	アーカイブについての情報—アーカイブ名、作業ファイル名、アーカイブ説明、リビジョン番号、リビジョン履歴、その他
セキュリティレポート	アクセスコントロールデータベースの内容についての情報。詳細は、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

レポートの表示

レポートは HTML ブラウザまたはテキストエディタで表示できます。Windows プラットフォームでレポートを HTML 形式で表示する場合は、デフォルトのブラウザが使用されます。UNIX プラットフォームでレポートを HTML 形式で表示する場合は、使用するブラウザを指定する必要があります。

Version Manager では、フォントの色とサイズ、および背景色をカスタマイズできる HTML テンプレートが用意されています。会社のロゴなどのグラフィックファイルをレポートに追加することもできます。

レポートの制限 大きいレポート（500 ファイル以上）を生成する場合は、レポートをテキストエディタで表示してください。このようなレポートを HTML ブラウザで表示すると、表示に数分かかることがあります。

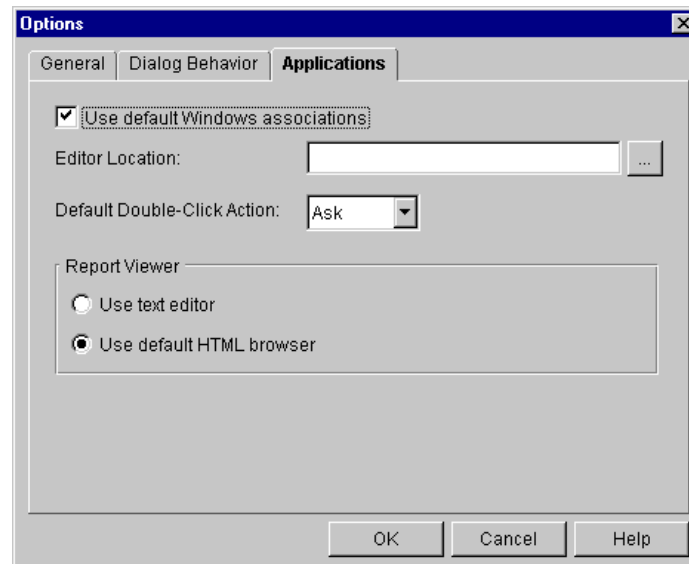
レポートオプションの設定

レポートオプションは、Version Manager を実行しているプラットフォームによって異なります。

Windows 版でレポートオプションを設定するには

- 1 [View (表示)] – [Options (オプション)] を選択します。
- 2 [Applications (アプリケーション)] タブをクリックします。〈Report Viewer (レポート表示ツール)〉グループボックスで以下のどちらかを選択します。
 - テキストエディタ (メモ帳など) でレポートを表示するには、〈Use text editor (テキストエディタを使用)〉を選択します。

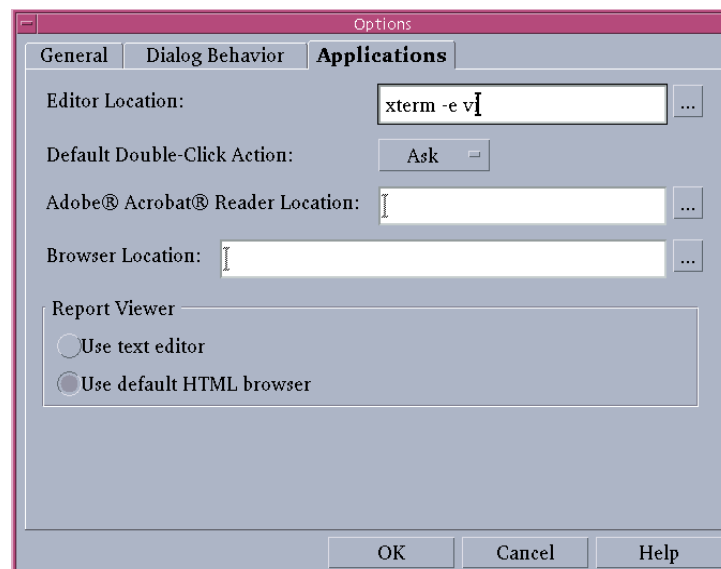
- デフォルトの HTML ブラウザでレポートを表示するには、〈Use default HTML browser (デフォルトの HTML ブラウザを使用)〉を選択します。



UNIX 版でレポートオプションを設定するには

- 1 [View (表示)] - [Options (オプション)] を選択します。[Options (オプション)] ダイアログボックスが開き、[General (全般)] タブが表示されます。
- 2 [Applications (アプリケーション)] タブをクリックします。〈Report Viewer (レポート表示ツール)〉グループボックスで以下のどちらかを選択します。
 - テキストエディタ (vi など) でレポートを表示するには、〈Use text editor (テキストエディタを使用)〉を選択します。
 - デフォルトの HTML ブラウザでレポートを表示するには、〈Use default HTML browser (デフォルトの HTML ブラウザを使用)〉を選択します。

〈Use default HTML browser (デフォルトの HTML ブラウザを使用)〉を選択した場合は、〈Browser Location (ブラウザの場所)〉テキストボックスでブラウザの場所を指定する必要があります。



HTML レポート書式のカスタマイズ

ジャーナルレポートおよび履歴レポートを表示する HTML テンプレートはカスタマイズできます。各レポートタイプに対して、それぞれ 1 つずつのテンプレートがあります (journal.template と history.template)。デフォルトでは、これらのファイルは Version Manager インストール時に以下の場所に置かれます。

- Windows 版 : `drive:\Program Files\Serena\vm\common\pvcsprop\pvcs\vm`
- UNIX 版 : `/usr/serena/vm/common/pvcsprop/pvcs/vm`

これらのデフォルトテンプレートファイルは同じで、その内容は以下のとおりです。

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE><subst data="REPORT_TITLE_PROPERTY"></subst></TITLE>
<META NAME=GENERATOR CONTENT="Version Manager 6.8">
</HEAD>
<BODY BGCOLOR="#FFFFFF" LINK="#0000EE" VLINK="#0000EE" ALINK="#9933EE"
      TEXT="#000000" LEFTMARGIN="8" TOPMARGIN="8" BACKGROUND="/
      vminet_images/Bkgrd.gif">
<TABLE BORDER="0" CELSPACING="0" CELLPADDING="0">
<TR VALIGN="top">
<TD>
<B><FONT SIZE="+2"><subst data="REPORT_TITLE_PROPERTY"></subst></
      FONT></B>
</TD>
</TR>
<TR VALIGN="top">
<TD>
<HR WIDTH="100%" SIZE="2" COLOR="Black" NOSHADE>
</TD>
</TR>
<TR VALIGN="top">
<TD>
<PRE>
<subst data="REPORT_FILE_PROPERTY"></subst>
</PRE>
</TD>
</TR>
<TR VALIGN="top">
<TD>
<HR WIDTH="100%" SIZE="2" COLOR="Black" NOSHADE>
</TD>
</TR>
</TABLE><!--Footnote-->
<P>
</BODY>
</HTML>
```

レポートタイトルを表示するには、テンプレートに以下のタグが必要です。
`<subst data="REPORT_TITLE_PROPERTY"></subst>`

レポートを表示するには、テンプレートに以下のタグが必要です。
`<subst data="REPORT_FILE_PROPERTY"></subst>`

テンプレートファイル内の書式タグは、どれでも変更できます。たとえば、フォントの色とサイズ、背景色などを変更して、レポートをカスタマイズできます。また、書式タグ、テキスト、ほかのページへのリンク、グラフィックファイル（会社のロゴなど）を追加できます。

ジャーナルレポートについて

使用前の準備	ジャーナルレポートは、ジャーナルファイル内の情報に基づきます。ジャーナルファイルには、ユーザがアーカイブに対して実行するアクションのレコードが含まれています。プロジェクトデータベースは、ジャーナルファイルを保持するように設定されている必要があります。設定されていない場合、ジャーナルレポートを作成できません。ジャーナルファイルを保持する方法については、『Serena PVCS Version Manager 管理者ガイド』の『Version Manager の設定』の章を参照してください。
ジャーナルレポートとは	ジャーナルレポートには、バージョンラベルの割り当て、作業ファイルのチェックイン/チェックアウト、プロモーショングループの割り当てなど、アーカイブに施された変更についての情報が表示されます。
ジャーナルレポートを生成する理由	ジャーナルレポートを生成すると、特定のアーカイブからリビジョンがチェックアウトされたときや、バージョンラベルが割り当てられたときなど、アーカイブに対する処理についての特定の情報がすばやく把握できます。
ジャーナルレポートと履歴レポート	ジャーナルレポートの作成前にアーカイブを開く必要はないので（データはすでにジャーナルファイルにあるため）、履歴レポートを作成するより、ジャーナルレポートを使用した方が早く情報を取得できます。作成日、リビジョン情報、アーカイブでのアクセス制限など、アーカイブに対する一般情報を入手する場合は、履歴レポートを作成します。254 ページの『履歴レポートの生成』を参照してください。
ジャーナルレポートオプション	ジャーナルレポートを生成する前に、オプションを選択して、レポートに表示する内容を限定できます。以下の情報を表示するレポートを生成できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 特定の期間に加えられた変更 ■ 特定のアーカイブに加えられた変更 ■ 特定のアクション（コマンド）によるアーカイブアクティビティ ■ 特定のユーザによって行われた変更 ■ 指定したユーザによって現在ロックされているリビジョン

ジャーナルレポートの生成

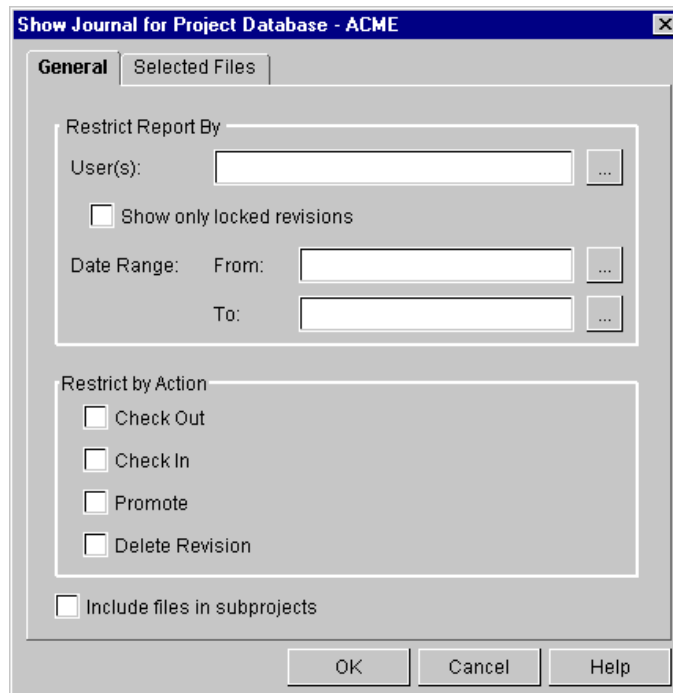
プロジェクトデータベース、プロジェクト、複数のバージョン管理ファイル、および 1 つのバージョン管理ファイルのジャーナルレポートが生成できます。レポートの作成に使用するジャーナルファイルは、選択するアイテムに関連付けられたコンフィグレーションファイルで指定したものです。これが指定されていない場合は、ジャーナルレポートは生成されません。

ジャーナルレポートを生成するには、「ジャーナルの表示」権限が必要です。「ジャーナルの表示」権限については、Version Manager 管理者にお問い合わせください。

ジャーナルレポートを生成するには

- 1 プロジェクトデータベース、プロジェクト、または 1 つ以上のバージョン管理ファイルを選択します。

- 2 [Actions (アクション)] - [Show Journal (ジャーナルの表示)] を選択します。[Show Journal (ジャーナルの表示)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 変更を行ったユーザやロックされたリビジョンに関する情報をすべてレポートに含める場合は、【OK】をクリックします。レポートに表示する内容を一定の内容のみに限定する場合は、以下の設定を行います。

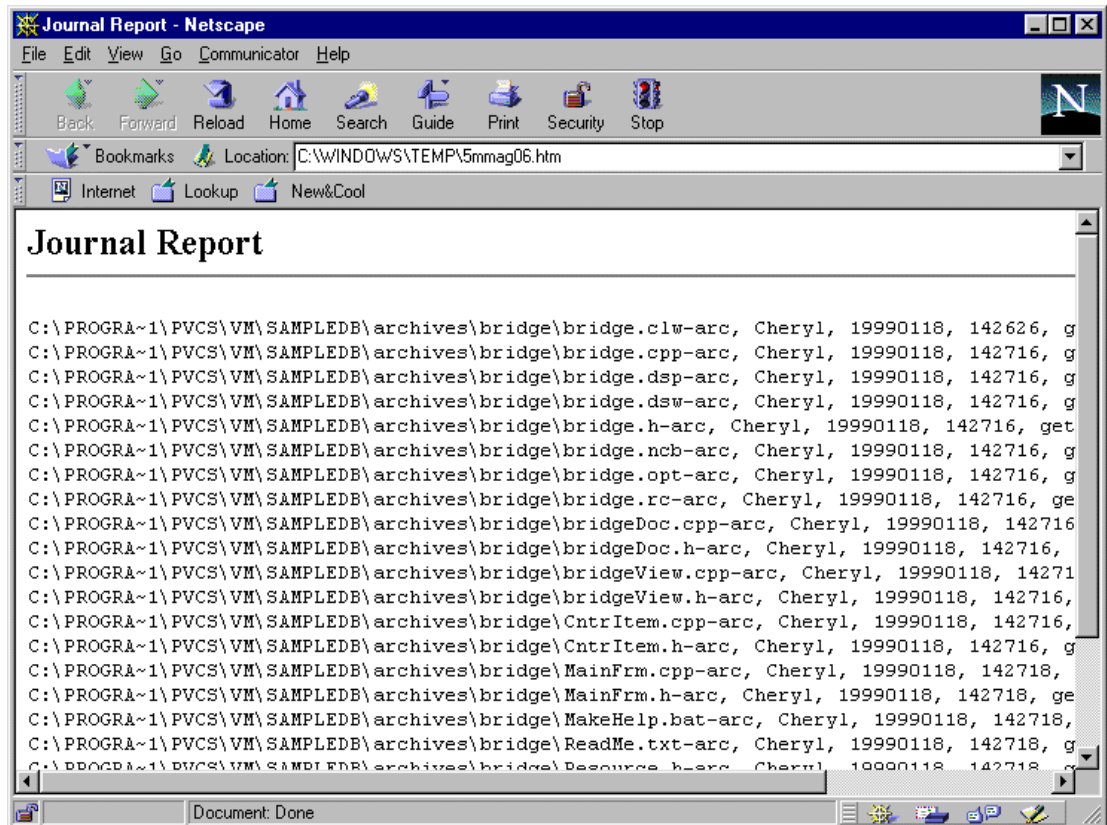
表示するアイテム	操作
特定のユーザによって行われた変更	〈User(s) (ユーザ)〉テキストボックスに指定するユーザ ID を入力します。複数の ID はコンマで区切ります。
現在ロックされているリビジョン	〈Show only locked revisions (ロックされたリビジョンのみを表示)〉チェックボックスを選択します。〈User(s) (ユーザ)〉テキストボックスにユーザ ID を入力したうえで、このチェックボックスを選択した場合は、指定したユーザによって現在ロックされているリビジョンのみがレポートされます。

表示するアイテム	操作
一定の期間に加えられた変更	<p>期間の最初の日を〈Date Range From (開始日)〉フィールドに、最後の日を〈Date Range To (終了日)〉フィールドに入力するか、これらのフィールドの隣の【...】アイコンをクリックして、日付を選択します。日付と時間を、オペレーティングシステムで使用されている表示形式で入力する必要があります。</p> <p>Windows では、[Control Panel (コントロールパネル)] - [Regional and Language Options (地域と言語のオプション)] で、日付と時間のフォーマットを設定します。</p> <p>UNIX では、PVCS_DATE_FORMAT 環境変数および PVCS_TIME_FORMAT 環境変数でフォーマットを定義します。</p> <p>注: UNIX では、PVCS_DATE_FORMAT を MM/dd/yyyy または dd/MM/yyyy (日、月の順に表示する場合) に設定してください。月は大文字で指定し、年は 4 桁で指定します。この形式を使用すると、レポートの出力結果が最適となります。</p> <p>コントロールパネルで設定されておらず、環境変数も設定されていない場合は、mm/dd/yy hh:mm というフォーマットが使用されます。また、大文字の H は、24 時間制の時刻を表します。</p>
リビジョンがチェックアウトされたアーカイブのみ	〈Check Out (チェックアウト)〉チェックボックスを選択します。
リビジョンがチェックインされたアーカイブのみ	〈Check In (チェックイン)〉チェックボックスを選択します。
リビジョンがプロモートされたアーカイブのみ	〈Promote (プロモート)〉チェックボックスを選択します。
リビジョンが削除されたアーカイブのみ	〈Delete Revision (リビジョンの削除)〉チェックボックスを選択します。
サブプロジェクト内のすべてのバージョン管理ファイルを含む、プロジェクト全体に対するレポート	〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。

- 4 【OK】をクリックします。ジャーナルレポートが生成され、表示されます。

ジャーナルレポートの読み方

以下は、ジャーナルレポートの例です。



ジャーナルレポートの各行の書式は以下のとおりです。

archive, user_id, date, time, action, cl_option

ここで、

archive はアーカイブのパスとファイル名です。

user_id はアーカイブに変更を加えたユーザのユーザIDです。

date は変更日です。たとえば、1999年3月31日の場合は、19990331のように、十進数で区切られずに表現されます。

time は変更時間です。たとえば、午後4時55分20秒なら165520のように、十進数で区切られずに表現されます（24時間形式）。

cl_option は、実行されたアクションのコマンドラインオプションです。たとえば、`put -r1.0` はリビジョン 1.0 がチェックインされたことを示します。

履歴レポートについて

使用前の準備 Version Manager 管理者は、ユーザによる履歴レポートの生成を制限できます。履歴レポートを生成する権限を持っていない場合は、Version Manager 管理者にお問い合わせください。

履歴レポートとは 履歴レポートは、アーカイブやリビジョンについての情報を要約したレポートです。履歴レポートの情報を利用すると、開発プロセスを監視したり、アーカイブ履歴を見たり、アーカイブ属性を確認することができます。



注：履歴レポートは、Version Manager の以前のリリースでは、アーカイブレポートと呼ばれていました。

アーカイブ情報とリビジョン情報 履歴レポートには、アーカイブ情報とリビジョン情報を表示できます。アーカイブ情報には、以下のものがあります。

- アーカイブ作成者のユーザ ID
- アーカイブの作成日
- アーカイブ属性
- ロックリビジョン保有者のユーザ ID
- アーカイブと作業ファイルの名前

リビジョン情報には、以下のものがあります。

- リビジョンの説明
- リビジョン履歴

履歴レポートオプション 履歴レポートを生成する前に、オプションを選択して、レポートに含める内容を限定することができます。以下の情報を表示するレポートを生成できます。

- アーカイブに関する情報（リビジョンに関する情報は表示しない）。
- リビジョンに関する情報（アーカイブに関する情報は表示しない）。
- 現在ロックされているリビジョン。
- 指定されたバージョンラベルに対応するリビジョン。
- 指定されたプロモーショングループに関連付けられたリビジョン。
- トランク上の最新のリビジョン。
- チップリビジョンが指定されたリビジョン番号またはバージョンラベルと同一でないアーカイブ。これは、特定のバージョン以降に変更されたアーカイブをすべてリストアップする場合に便利です。

以下のうち 2 つを選択して、レポートの内容をさらに限定できます。

- 日付
- リビジョンの作成者
- リビジョンをロックしているユーザ
- アーカイブの所有者

履歴レポートの生成

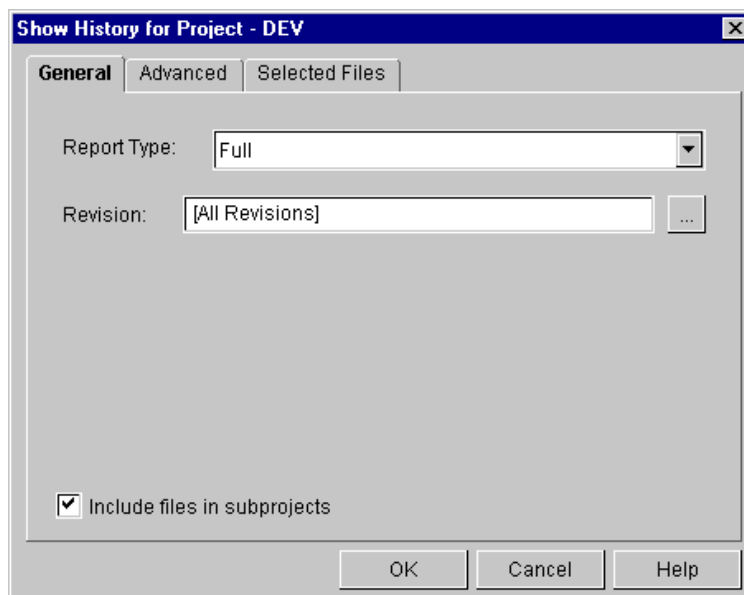
プロジェクトデータベース、プロジェクト、複数のバージョン管理ファイル、1 つのバージョン管理ファイル、および特定のリビジョンの履歴レポートが生成できます。



注：5.3/6.0 プロジェクトの履歴レポートは生成できません。プロジェクトに含まれるアイテムのレポートは生成できますが、プロジェクト自体のレポートは生成できません。

履歴レポートを生成するには

- 1 プロジェクトデータベース、プロジェクト、1 つ以上のバージョン管理ファイル、または特定のリビジョンを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] - [Show History (履歴の表示)] を選択します。[Show History (履歴の表示)] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 [General (全般)] タブの <Report Type (レポートタイプ)> ドロップダウンリストで、レポートの種類を選択します。

レポートの種類	レポートに含まれる内容
すべての情報	全リビジョンまたは選択したリビジョンの包括的な情報 (ファイル、リビジョン、ロック、バージョンラベルなど)。特定のリビジョンを選択するには、<Revision (リビジョン)> テキストボックスにリビジョン番号、バージョンラベルまたはプロモーショングループを入力するか、【Browse (...)] をクリックしてリビジョンを選択します。
ファイル情報のみ	アーカイブ情報のみ (作成日、所有者、ロック、バージョンラベルなど)。このレポートにはリビジョン履歴は含まれません。
リビジョン情報のみ	全リビジョンまたは選択したリビジョンのリビジョン情報のみ。特定のリビジョンを選択するには、<Revision (リビジョン)> フィールドにリビジョン番号を (コンマで区切って) 入力します。

レポートの種類	レポートに含まれる内容
ロックされたリビジョンの情報	選択したバージョン管理ファイル内のロックされたリビジョンのリスト。
バージョンラベルを含むリビジョンの情報	特定のバージョンラベルと一致するリビジョンのリスト。バージョンラベルを選択するには、〈Label (バージョンラベル)〉テキストボックスにバージョンラベルを入力するか、【Browse (...)] をクリックしてラベルを選択します。数字で始まるバージョンラベルを指定するには、円記号 (\) を前に付ける必要があります。たとえば、1.2 や 1abc という値の場合は、\1.2 や \1abc のように入力します。
グループのリビジョン一覧	特定のプロモーショングループと一致するリビジョンのリスト。プロモーショングループを選択するには、〈Group (プロモーショングループ)〉テキストボックスにプロモーショングループを入力するか、【Browse (...)] をクリックしてプロモーショングループを選択します。
最新リビジョン一覧	最新リビジョンのリスト (複数のバージョン管理ファイルが選択されている場合)。
指定リビジョンではないチップの確認	特定のリビジョンを最新リビジョンと比較した情報。リビジョンを指定するには、〈Revision (リビジョン)〉テキストボックスにリビジョン番号、バージョンラベルまたはプロモーショングループを入力するか、【Browse (...)] をクリックしてリビジョンを選択します。バージョンラベルでリビジョンを指定する場合は、数字で始まるバージョンラベルには、先頭に円記号 (\) を付ける必要があります (例: \1.2label)。

- 4 履歴レポートに表示する情報をさらに限定するには、【Advanced (詳細)] タブで、作者、ユーザロック、所有者、期間、またはそれらのうち 2 つを選択します。

- 特定の作成者に基づいて履歴レポートを作成するには、〈Author(s) (作成者)〉フィールドに作成者名を入力するか、【Browse (...)] をクリックして作成者を選択します。複数の作成者を入力する場合は、作成者をコンマ (,) で区切ります。

- ユーザロックを基に履歴レポートを生成するには、〈Locker(s) (ロック)〉テキストボックスにユーザ名を入力するか、【Browse (...)】をクリックしてユーザを選択します。複数のユーザを入力する場合は、ユーザ名をコンマ (,) で区切って入力します。
- 特定の所有者に基づいて履歴レポートを作成するには、〈Owner(s) (所有者)〉フィールドに所有者名を入力するか、【Browse (...)】をクリックして所有者を選択します。複数の所有者を入力する場合は、所有者をコンマ (,) で区切ります。
- 期間の最初の日を〈From (開始日)〉フィールドに、最後の日を〈To (終了日)〉フィールドに入力するか、これらのフィールドの隣の【...】をクリックして、日付を選択します。日付と時間を、オペレーティングシステムで使用されている表示形式で入力する必要があります。Windows では、[Control Panel (コントロールパネル)] - [Regional and Language Options (地域と言語のオプション)] で、日付と時間のフォーマットを設定します。UNIX では、PVCS_DATE_FORMAT環境変数および PVCS_TIME_FORMAT 環境変数でフォーマットを定義します。コントロールパネルで設定されておらず、環境変数も設定されていない場合は、mm/dd/yy hh:mm というフォーマットが使用されます。



注：UNIX では、PVCS_DATE_FORMAT を MM/dd/yyyy または dd/MM/yyyy (日、月の順に表示する場合) に設定することをお勧めします。月は大文字で指定し、年は 4 桁で指定します。この形式を使用すると、レポートの出力結果が最適となります。

- 【OK】をクリックします。

履歴レポートの読み方

以下は履歴レポートの例です。アーカイブ情報とリビジョン情報の両方を含んだ完全な履歴レポートです。点線より上の情報がアーカイブ情報で、点線より下の情報がリビジョン情報です。

Change History	
アーカイブ 情報	<pre> Archive: C:\Program Files\PVCS\VM\SampleDb\archives\bridge\bridge.clw-arc Workfile: bridge.clw Archive created: 18 May 1998 15:37:40 Owner: Admin Last trunk rev: 1.0 Locks: Groups: Development : 1.0 Rev count: 1 Attributes: WRITEPROTECT CHECKLOCK NOEXCLUSIVELOCK NOEXPANDKEYWORDS NOTRANSLATE NOCOMPRESSDELTA NOCOMPRESSWORKIMAGE NOGENERATEDELTA COMMENTPREFIX = " " NEWLINE = "\r\n" Version labels: Description: Sample Project Database - first revision. </pre>
リビジョン 情報	<pre> ----- Rev 1.0 Checked in: 18 May 1998 15:37:40 Last modified: 18 May 1998 15:37:40 Author id: Admin lines deleted/added/moved: 0/0/0 Initial revision. </pre>

索引

数字

5.3/6.0 バージョン管理ファイル、移動 63

A

Adobe Acrobat 10

D

Development Interface、概要 51, 58

I

Issue 管理

 プロバイダの切り替え 150

Issue の関連付け

 チェックアウト 150

 チェックイン 174

 ロック 182

Issue の関連付け、作業ファイルの追加 96

Issue、Serena TrackerLink による関連付け 154, 177, 184

N

N 通りのマージ 220

P

promotion groups

 プロモーションモデルのセットアップ 236

S

SCC プロジェクト、移行 53

SCC プロジェクトの移行 53

Serena、問い合わせ先 10

Serena 製品

 TrackerLink、Issue の関連付け 154, 177, 184

SourceBridge 150

 TrackerLink への切り替え 150

SourceBridge、Issue の関連付け 177, 154, 184

T

TeamTrack 150

TrackerLink

 SourceBridge への切り替え 150

TrackerLink および SourceBridge 間の切り替え 150

TrackerLink、Issue の関連付け 154, 177, 184

U

UNIX、オンラインマニュアルの表示 147

V

Version Manager

 概念 16

 用語 15

Version Manager Development Interfaces 51, 58

あ

アーカイブ

 アーカイブディレクトリの選択 101

 アーカイブのシナリオのインポート 108

 インポート 104

 5.3/6.0 プロジェクトへのインポート 106

 プロジェクトへのインポート 104

 削除 65

 定義 16

 バージョン管理ファイルからの復元 65

アーカイブの削除 65

アイテム

 アイテムの表示と非表示 36

 移動 63

 ドラッグアンドドロップによる移動 64

 メニューバーによる移動 63

 コピー 37

 選択 34

 名前の変更 36

アイテムの選択 34

アイテムの削除 64

アクセスコントロールデータベース、定義 18

アクセスリスト、定義 18

アプリケーションログ、使用 137

アプリケーションログの使用 137

い

異機種環境 14

移動

 アイテム 63

 ドラッグアンドドロップによる移動 64

 メニューバーによる移動 63

 既存のバージョンラベルの移動 194

イベントトリガ、定義 18

インポート

アーカイブ 104

5.3/6.0 プロジェクトへのインポート 106

プロジェクトへのインポート 104

アーカイブのシナリオ 108

お

オープン

バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルート 89

プロジェクトデータベース 82

オンラインドキュメント 10

オンラインヘルプ

GUI 9

アクセス 9, 24

コマンドラインインターフェイス用 9

操作 24

ツールバーの使用方法 24

目次の使用 25

オンラインマニュアル

UNIX でのオンラインマニュアルの表示 147

か

概要

チェックアウト 150

チェックイン 174

バージョンラベル 190

ブランチ 205

プロジェクト 112

プロモーショングループ 236

マージ 220

リビジョン 166

ルートワークスペース 119

レポート 246

ジャーナル 249

履歴 252

ワークスペース 118

管理者、定義 17

き

規則、表記上 9

競合

解決

UNIX 版 230

Windows 版 230

シェードの変更 228

種類 228

く

区切り文字、フィールド 142

クローズ

バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルート 91

プロジェクトデータベース 84

クロスプラットフォーム開発 14

こ

コピー

アイテム 37

コピー可能なアイテム一覧 37

バージョン 5.3/6.0 のプロジェクト

ドラッグアンドドロップによる移動 55

メニューバーによる移動 51

バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルート 91

バージョン 5.3/6.0 フォルダ 48

メニューバーによる移動 48

ドラッグアンドドロップによる移動 50

バージョン管理ファイル 38

ドラッグアンドドロップによる移動 39

メニューバーによる移動 38

プロジェクト 39

ドラッグアンドドロップによる移動 42

メニューバーによる移動 40

プロジェクトデータベース 45

コメント、変更、追加 / 変更 171

コンフィグレーションオプション、定義 18

コンフィグレーションファイル、定義 19

さ

再帰的フィルタ、ファイル 67

作業設定

デフォルトバージョン 118

ブランチバージョン 118

ベースバージョン 118

作業ファイル

比較 215

5.3/6.0 プロジェクトへの追加 99

作業ファイルの格納先の選択 100

チェックイン 175

追加 96

定義 16

プロジェクトへの追加 96

作業ファイルの場所

作業ファイルの場所の決定 123

例 124, 125

設定 136

変更 136

保存 123

作業ファイルの場所の決定 123

削除

サブプロジェクト 64

アイテムの削除

バージョン管理ファイル 64

バージョンラベル 197

プロジェクト 115

リビジョン 64

ワークスペース 131

作成

サブプロジェクト 114

ブランチ 206

プロジェクト 112

ワークスペース 126

サブプロジェクト

- 移動 63
- 削除 64
- 作成 114
- サブプロジェクトへのアクションの実行 140
- 定義 16
- 名前の変更 37
- プロパティの参照 79
- 作業ファイルの場所の設定 136

し

指定、ユーザ設定 135

自動ブランチ 212

シナリオ

- 5.3/6.0 プロジェクトを新フォーマットでオープン 92
- development へのリビジョンのデモート 244
- アーカイブのインポート 108
- 一連のファイルのプロモート 243
- 個人的なワークスペースの定義 134
- バージョンラベルの使用法 198
- 背景情報 29
- ファイルのチェックアウト 156
- ファイルのチェックイン 178
- ファイルのロック 188
- プロジェクトデータベース 85
- プロジェクトの作成 115
- プロジェクトファイルの取得 164
- ユーザシナリオの使用法 28
- ユーザ設定シナリオの指定 148
- リビジョンのブランチ作成 212
- リビジョンをトランクにマージ 231
- ワークスペースのカスタマイズ 133

ジャーナルレポート

- 概要 249
- 読み方 252

出力ファイル 220

取得

- オプション
 - 詳細 163
 - デフォルト 160
 - デフォルトの変更 161
- シナリオ 164
- 取得とチェックアウト 160
- リビジョン 161
- 選択されたファイルの表示 163

使用

- バージョンラベル 189
- レポート 245
- ロック 181
- ワークスペース 117

せ

製品サポート 10

設定

- サブプロジェクトへのアクションの実行 140
- チェックアウト 142
- アプリケーションログ 137

- 作業ファイルの場所 136
- チェックイン 142
- デフォルトエディタ 145
- デフォルトダブルクリック 147
- ユーザ設定シナリオ 148
- ユーザ設定の指定 135
- レポートオプション
 - UNIX 版 247
 - Windows 版 246
- レポート表示ツール 147
- ワークスペース 127
- ワークスペース設定の変更 128
- ワークスペースの継承 120

選択、複数のプロジェクトまたはフォルダ 34

そ

相違点

- 解釈 216
- 表示 215

相違点レポート、「ファイルの比較」を参照 215

操作

- バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルート 87
- プロジェクト 111
- プロジェクトデータベース 81
- リビジョン 165

た

ターゲットファイル、「出力ファイル」を参照 220

ダイアログボックス

- 結果の消去 145
- 表示設定 144

多重ロック 187

タスク

- 管理者 20
- 基本 21
- 詳細
 - 高度なタスクの実行 201
 - ワークフロー 23
- ユーザ 20
- ワークフロー 21

ち

チェックアウト

- Issue の関連付け 150
- オプション
 - 詳細 155
 - 定義 142
 - デフォルト 150
 - デフォルトの変更 152
- 概要 150
- シナリオ 156
- 選択されたファイルの確認 155
- リビジョン 151

チェックイン

- オプション
 - 詳細 177

- 定義 142
- デフォルト 174
- デフォルトの変更 176
- 概要 174
- 作業ファイル 175
- シナリオ 178
- 選択されたファイルの確認 178
- 多重ロック 210
- チップ以外のリビジョン 206
- バージョンラベルの割り当て 178
- ブランチ 206

つ

追加

- 作業ファイル
 - プロジェクトへの作業ファイルの追加 96
 - 5.3/6.0 プロジェクトへの追加 99
 - バージョンラベルの割り当て 99, 103

追加、作業ファイル 96

て

定義

- チェックイン/チェックアウトオプション 142
- ダイアログボックスの表示設定 144

データファイルロケーション、「プロジェクトデータベースのオープン」を参照 83

デフォルト

- 取得オプション 160
- チェックアウトオプション 150
- チェックインオプション 174
- バージョンラベルのデフォルトオプション 192

デフォルトエディタ、設定 145

デフォルトのプロモーショングループ

- 作業設定 118
- 概要 154

デフォルトバージョン 118

- 定義 17, 166
- バージョンラベルの使用 197

デフォルトリビジョン

- バージョンラベルの使用 197
- 定義 166

と

ドキュメント

- UNIX でのドキュメントのオンライン表示 147

な

名前の変更

- アイテム 36
- バージョンラベル 193
- プロジェクト 114
- ワークスペース 130

ね

ネストプロジェクト、「サブプロジェクト」を参照 114

は

バージョン 5.3/6.0 のプロジェクト

- アーカイブのインポート 106
- コピー
 - ドラッグアンドドロップによる移動 55
 - メニューバーによる移動 51
- プロパティの参照 79
- アーカイブディレクトリの選択 101
- コピー 51
- 作業ファイルの格納先の選択 100

バージョン 5.3/6.0 のプロジェクトルート

- シナリオ 92
- プロパティの参照 79
- オープン 89
- クローズ 91
- コピー 91
- 操作 87

バージョン 5.3/6.0 フォルダ

- 移動 63
- コピー 48
 - ドラッグアンドドロップによる移動 50
 - メニューバーによる移動 48

バージョン管理ファイル

- コピー 38
 - ドラッグアンドドロップによる移動 39
 - メニューバーによる移動 38
- 定義 16
- フィルタ 66
- 復元 65

バージョン管理ファイルの復元 65

バージョンラベル

- デフォルトリビジョンの設定 197
- オプション
 - デフォルト 191
 - デフォルトの変更 192
- 概要 190
- 既存のバージョンラベルの移動 194
- 固定または浮動 190
- 再割り当て 194
- 削除 197
- シナリオ 198
- 使用 189
- 多重 190
- 定義 17
- 名前の変更 193
- バージョンラベルのプロパティの変更 195
- フィルタの基準 70, 73, 75, 77
- 不正な文字 190
- プロパティの参照 79
- 割り当て 191
 - 作業ファイルの追加時 99, 103
 - チェックイン中 178

バージョンラベルの再割り当て 194

バージョンラベルの割り当て 191

バージョン管理ファイル

移動 63

比較 215

プロパティの参照 79

作業ファイルの場所の設定 136

削除 64

ひ

比較ファイル、「ブランチファイル」を参照 220

表記上の規則 9

表示

ファイル間の相違点 215

ファイルの再帰的な表示 67

リビジョン 168

レポート 246

HTML ブラウザの使用 147

テキストエディタの使用 147

ふ

ファイル

出力 220

ブランチ 220

ベース 220

ベースファイルの選択 221

ファイルの比較

例 217

概要 215

相違点の解釈 216

相違点の表示 215

フィルタ

2つのバージョンラベルの比較による 73

2つのプロモーショングループの比較による 75

再帰的 67

種類 66

バージョン管理ファイルのフィルタ 66

バージョンラベル 73, 75, 77

バージョンラベルとプロモーショングループの比較による 77

バージョンラベルを使用 70

表示

すべてのファイル 78

ファイルフィルタの使用 66

プロモーショングループ 71

ロックユーザ 68

ワイルドカードファイル名を基準 69

フォルダ

コピー 48

メニューバーによる移動 48

ドラッグアンドドロップによる移動 50

複数のプロジェクトまたはフォルダ

アクセスコントロールデータベースの権限 35

実行可能なアクション 34

作業ファイルの場所 35

プロモーショングループ 35

複数のプロジェクトまたはフォルダの選択

作業ファイルの場所 35

実行可能なアクション 34

プロモーショングループ 35

アクセスコントロールデータベースの権限 35

複数フォルダ、選択 34

複数プロジェクト、選択 34

ブランチ

概要 205

作成 206

自動ブランチの設定 212

シナリオ 212

多重ロックのチェックイン 210

定義 18

バージョン 118

番号付け 205

ファイル 220

ブランチの強制 208

ブランチ番号付け 205

ブランチ、並行開発 205

ブランチを常に作成 208

プレースホルダ

UNIX 版での色の変更 229

Windows 版での色の変更 227

プロジェクト

作業ファイルの追加

5.3/6.0 プロジェクトへの追加 99

コピー

メニューバーによる移動 40

5.3/6.0 のコピー

ドラッグアンドドロップによる移動 55

メニューバーによる移動 51

概要 51

アーカイブのインポート 104

5.3/6.0 へのインポート 106

移動 63

概要 112

コピー 39

ドラッグアンドドロップによる移動 42

作業ファイルの場所の設定 136

作業ファイルの追加

プロジェクトへの作業ファイルの追加 96

削除 115

作成 112

サブプロジェクト 114

サブプロジェクトへのアクションの実行 140

シナリオ 115

操作 111

定義 16

名前の変更 37, 114

ネストプロジェクト 114

プロパティの参照 79

プロジェクトデータベース

オープン 82

概要 82

クローズ 84

コピー 45

作業ファイルの場所の設定 136

シナリオ 85

新規プロジェクトデータベースについて 82

操作 81

- 定義 16
- 名前の変更 37
- プロパティの参照 79
- ログイン 84
- プロジェクトルート
 - 5.3/6.0 のクローズ 91
 - 5.3/6.0 のコピー 91
 - 5.3/6.0 プロジェクトルートのオープン 89
 - シナリオ 92
- プロパティ
 - 参照 79
 - バージョンラベルのプロパティの変更 195
- プロモーショングループ
 - リビジョンのチェックアウト 236
 - 概要 236
 - 権限 236
 - 削除 242
 - シナリオ 243, 244
 - 次のグループへのプロモート 240
 - 定義 17
 - フィルタの基準 71
 - プロパティの参照 79
 - プロモーショングループのリビジョンへの割り当て 239
 - プロモーションプロセス 237
 - 変更 241
- プロモーションモデル
 - 定義 17
- プロモーションモデルの定義
 - 概要 236
 - 設定 236
- 分離文字、フィールド 142

へ

- 並行開発 205
- ベース
 - バージョン 118
 - ファイル 220
- ベースライン
 - 定義 18
 - プロジェクト
 - ドラッグアンドドロップによる移動 43
 - メニューバーによる移動 41
 - プロジェクトデータベース 46
- 変更の説明、追加 / 変更 171

ま

- マージ
 - N 通り 220
 - 概要 220
 - 競合
 - シェードの変更 228
 - 種類 228
 - 競合の解決
 - UNIX 版 230
 - Windows 版 230
 - 結果の解釈

- UNIX 版 229
- Windows 版 226
- 種類 220
- ファイルのマージ
 - Windows 版 222
- プレースホルダ
 - UNIX 版 229
 - UNIX 版での色の変更 229
 - Windows 版 227
 - Windows 版での色の変更 227
- ベースファイルの選択 221
- マージプロセス 221
- 用語と定義 220
- マニュアル、UNIX でのオンラインマニュアルの表示 147

も

- 元ファイル、「ベースファイル」を参照 220

ゆ

- ユーザ、定義 17
- ユーザ設定、指定 135

よ

- 用語
 - プロジェクト 15
 - プロジェクトコンフィグレーション 15

ら

- ラベル
 - 固定 190
 - 浮動 190

り

- リビジョン
 - 概要 166
 - 取得 161
 - 操作 165
 - チェックアウト 151
 - プロモーショングループに割り当てられたリビジョンのチェックアウト 236
 - 定義 16
 - デフォルトリビジョンの定義 166
 - 比較 215
 - 表示 168
 - ランチ 204
 - プロパティの参照 79
 - プロモーショングループへのリビジョンの割り当て 239
 - プロモート 240
 - 編集 169
 - ロック 182
 - ロック解除 185

削除 64
リビジョンの編集 169
リビジョンのロック解除 185
履歴レポート
 概要 253
 読み方 256

る

ルートワークスペース 119

れ

レポート
 オプションの設定
 Windows 版 246
 ジャーナル
 読み方 252
 HTML、カスタマイズ 248
 アーカイブレポート、「履歴レポート」を参照 252
 大きいレポートの表示 147
 オプションの設定
 UNIX 版 247
 概要 246
 ジャーナル
 概要 249
 生成 249
 読み方 252
 種類 246
 使用 245
 制限事項 246
 表示 246
 履歴
 生成 254
 概要 252, 253
 種類 254
 読み方 256
 履歴レポート情報の限定 255
レポートの生成
 ジャーナル 249
 履歴 254

ろ

ロック
 シナリオ 188
 使用 181
 多重 187
 多重ロックのチェックイン 210
 フィルタの基準 68
 リビジョンのロック 182
ロックユーザ
 フィルタの基準 68

わ

ワークスペース
 階層 120

概要 118
作業ファイルの場所の決定 123
削除 131
作成 126
シナリオ 133, 134
使用 117
設定 127
 作業ファイルの場所 129
 デフォルトのプロモーショングループ 130
 デフォルトバージョン 129
 ブランチバージョン 130
 ベースバージョン 129
設定の継承 120
設定の変更 128
定義 17
名前の変更 130
パブリック 119
プライベート 119
ルートワークスペースについて 119
例 121, 122, 123
ワークスペース設定、デフォルトプロモーショングループ 118
ワークフロー、基本的 21
ワイルドカードファイル名
 フィルタの基準 69

